

ISSN 0916-4375

Research

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター

臨床研究業績年報

Vol.37 2017

Institute for Clinical Research
Osaka National Hospital

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究センター

Research
R-CRIONH

＜目次＞

I. 研究業績

診療部門

<総合診療部>	1
<腎臓内科>	3
<糖尿病内科>	7
<血液内科>	11
<呼吸器内科>	12
<脳卒中内科>	13
<感染症内科>	15
<精神科>	29
<消化器内科>	31
<循環器内科>	39
<小児科>	51
<外科 肝胆脾外科・上部消化管外科・下部消化管外科・呼吸器外科・乳腺外科>	52
<形成外科>	95
<整形外科>	97
<脳神経外科>	107
<心臓血管外科>	120
<皮膚科>	122
<泌尿器科>	125
<産科・婦人科>	128
<眼科>	132
<耳鼻咽喉科>	136
<放射線診断科・放射線治療科>	137
<口腔外科>	143
<救命救急センター>	144
<麻酔科>	151
<臨床検査科>	153
<リハビリテーション科>	159
<臨床腫瘍科>	161
<薬剤部>	165
<看護部>	172
<栄養管理部>	175
<がんサポートチーム>	177
<臨床心理室>	181
<メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」>	186
<臨床工学室>	188
<院長室>	192

臨床研究センター

<臨床研究センター>	199
<幹細胞医療研究室>	209
<再生医療研究室>	213
<分子医療研究室>	221
<エイズ先端医療開発室>	222
<HIV感染制御研究室>	242
<臨床疫学研究室>	247
<がん療法研究開発室>	253
<高度医療技術開発室>	287
<医療情報研究室>	293
<災害医療研究室>	295
<臨床研究推進室>	297
<レギュラトリーサイエンス研究室>	301

III. 研究助成一覧	308
-------------	-----

III. 全研究業績の区分分類と業績件数の総括表

診療科全体の研究業績の区分分類と業績件数の総括表	311
臨床研究センター全体の研究業績の区分分類と業績件数の総括表	311
全研究業績の区分分類と業績件数の総括表	311
研究業績の区分基準と記号	312

I. 研究業績

-診療部門-

総合診療部

中島 伸

総合診療科は常勤医師 2名、非常勤医師 3名、ローテートの初期研修医 1~2名に加えて、診療看護師 4~5名からなります。肺炎、尿路感染などの感染症を中心に、頭痛、めまい、発熱、胸痛、腹痛、関節痛、外傷などの診療を行っています。

日常診療で遭遇した興味深い症例、教育的な体験などを中心に学会発表や雑誌への投稿を行っています。

今後は治験や市販後臨床調査にも積極的に参加したいと思っています。

【2017年度 研究業績発表】

A-3

近藤信吾：診療看護師の倫理的感性の特徴「日本 NP 学会誌」1(2) : P42-52、日本 NP 学会、2017 年 12 月

A-6

中島 伸：うまい病状説明のコツ 「レジデントノート」 19(1) : 134- 136、2017

中島 伸：研修医の心得 「レジデントノート」 19(3) : 579- 581、2017

中島 伸：カレイの骨が刺さった！ 「レジデントノート」 19(4) : 737-735、2017

中島 伸：眼科から紹介された視野障害 「レジデントノート」 19(6) : 1113-1115、2017

中島 伸：困ったことと心配なこと 「レジデントノート」 19(7) : 1253- 1255、2017

中島 伸：奇怪な症状 「レジデントノート」 19(9) : 1681-1683、2017

中島 伸：上手なプレゼンテーションのコツ 「レジデントノート」 19(10) : 1849-1851、2017

中島 伸：ヒューリスティックスとは 「レジデントノート」 19(12) : 2195-2197、2017

中島 伸：レセプトチェックの大切さ 「レジデントノート」 19(13) : 2327-2329、2017

中島 伸：研修医がやっちまった！ 「レジデントノート」 19(15) : 2691-2693、2017

中島 伸：「当たり前」 のレベル設定 「レジデントノート」 19(16) : 2859-2861、2017

中島 伸：ここに注意！ 研修医の外来診察 「レジデントノート」 19(18) : 3293-3295、2017

B-2

Nakajima K, Nakagawa S, Tokunaga A, Nakajima S, Uema A, Kinoshita N: Dynamic manpower and task management in the pharmacy department to respond to a varying environment. 6th Resilient Health Care Meeting, Vancouver (Canada), 2017年8月15日

B-4

山口壽美枝、太田裕子、小笠原充幸：後期高齢者救急医療の現状と課題～総合診療科入院症例を振り返る～。第20回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2017年5月28日

B-6

山口壽美枝、森 寛泰：診療看護師が行う二次救急初期対応の現状と課題。日本NP学会中部関西診療看護師（NP）第1回学術集会・総会、愛知、2017年8月5日

竹本雪子、山口壽美枝、森 寛泰、福田貴史、高木知子、小笠原充幸：継続したアプローチで薬剤性電解質異常の診断に至った一例。中部関西診療看護師（NP）研究会 第1回学術集会・総会、名古屋、2017年8月5日

竹本雪子、石田健一郎、木下順弘、下野圭一郎、尾嶋美里、定光大海：診療看護師として関わった間質性肺炎患者の終末期に対する家族の意思決定支援の一経験。第116回近畿救急医学研究会、京都、2017年7月15日

山口壽美枝、森 寛泰、竹本雪子、小笠原充幸：大阪医療センターの二次救急外来の実態調査。日本NP学会 第3回学術集会、千葉、2017年11月25日

B-8

中島 伸：カルテ記載について。独立行政法人国立病院機構近畿グループ医療安全管理係長研修、大阪、2017年10月20日

中島 伸：病院における医療安全。独立行政法人国立病院機構南九州病院医療安全研修、姶良、2018年1月19日

中島 伸：薬をめぐる四方山話～脳卒中症例を中心に～。第8回八尾薬薬連携協議会研修会、大阪、2018年2月17日

中島 伸：医療安全と診療記録。独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター医療安全管理研修会、敦賀、2018年2月8日

腎臓内科

岩谷博次

IgA 腎症はもっとも多い原発性糸球体腎炎である。本疾患は若年者に発症しやすく、また病巣感染との関連が以前より指摘されている。これまでの病巣感染や血尿の機序、また糖鎖などのマーカーの観点から検討してきた経験を踏まえ、日々の臨床では病巣感染を見つけて、可能な限り除去する努力を行っている。またネフローゼ症候群においても、同様に病巣感染との関連が疑われるものがある。これまでに、微小変化型ネフローゼ症候群において、病巣感染巣の外科的治療によりステロイドを使用することなく完全寛解導入に成功した世界初の症例を報告している。その他のネフローゼ症候群でも、病巣感染の除去にて、ステロイドを使用せずに寛解することに成功している。

腎機能が低下した患者さんでは、血管石灰化が起こりやすく、心血管イベントを起こしやすい。つまり、血管石灰化は生命予後という観点からも重要である。そこで、血管石灰化に影響を及ぼす因子を検討している。

敗血症性急性腎障害領域においては、サイトカイン等を除去するのみならず、吸着する性能をもつ膜を用いた血液浄化も行っており、種々のサイトカイン動態を検討してきた。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Minami S, Hamano T, Iwatani H, Mizui M, Kimura Y, Isaka Y: Tolvaptan promotes urinary excretion of sodium and urea: a retrospective cohort study. Clin Exp Nephrol. 2017 Oct 20. [Epub ahead of print]

Hiwa R, Ohmura K, Arase N, Jin H, Hirayasu K, Kohyama M, Suenaga T, Saito F, Terao C, Atsumi T, Iwatani H, Mimori T, Arase H: Myeloperoxidase/HLA class II complexes recognized by autoantibodies in microscopic polyangiitis. Arthritis Rheumatol. 2017 Oct; 69(10):2069-2080. Epub 2017 Aug 25

Yamato M, Minematsu Y : A New Approach: Chronotherapy in Acute Blood Purification for Septic Shock. Journal of Biosciences and Medicines Vol.5: 32-36, 2017 Jul 18

A-2

海本浩一、岩谷博次：「臨床工学テキストくすりと薬理」（海本浩一編）P.83-95、東京電機大学出版局、東京、2017年9月20日

海本浩一、岩谷博次：「臨床工学テキストくすりと薬理」（海本浩一編）P.97-103、東京電機大学出版局、東京、2017年9月20日

海本浩一、岩谷博次：「臨床工学テキストくすりと薬理」（海本浩一編）P.131-140、東京電機大学出版局、東京、2017年9月20日

A-4

岩谷博次: 透析におけるドライウェイトの決め方のコツ「大阪透析研究会会誌」35(2):P179-183、
2017年9月1日

B-3

倭 成史: 敗血症新定義をふまえた敗血症性ショックへの治療戦略。日本医工学治療学会第
33回学術大会、島根、2017年4月9日

倭 成史: 敗血症性ショックに対する急性血液浄化療法：5W1Hの視点から。第28回急性血
液浄化学会、埼玉、2017年9月23日

倭 成史: PMX-DHPかAN69ST-CHDFか？その時、どう考えどう選択する：ブレイクスルー
を探りながら。第38回日本アフェレシス学会学術大会、千葉、2017年10月21日

B-4

小泉信太郎、倭 成史、朝比奈悠太、高折佳央梨、富山陽子、岩谷博次：ステロイド抵抗性
ネフローゼ症候群に対し、LDLアフェレシス（LDL-A）が奏功した1例。第62回日本透析医
学会学術集会・総会、横浜、2017年6月16日

柴田純一、峰松佑輔、倭 成史、岩谷博次、榊 雅之：アフェレシス療法におけるポータブル
レーザー血流計（ポケットLDF）の有用性。第62回日本透析医学会学術集会・総会、横浜、
2017年6月17日

小泉信太郎、岩谷博次、朝比奈悠太、高折佳央梨、富山陽子、倭 成史：入院後の食事療法
が24時間蓄尿に及ぼす影響の検討。第60回日本腎臓学会学術総会、仙台、2017年5月28日

朝比奈悠太、岩谷博次、小泉信太郎、高折佳央梨、富山陽子、上田恭敬、倭 成史：冠動脈
石灰化指数（CACS）及び石灰化容積（CACV）に影響する因子の検討。第60回日本腎臓學
会学術総会、仙台、2017年5月27日

Nakazawa S, Imamura R, Kakuta Y, Abe T, Yamanaka K, Kishikawa H, Nishimura K, Iwatani H, Tajiri M,
Wada Y, Ichimaru N, Takahara S, Nonomura N : The number of O-linked oligosaccharides per heavy chain
of human serum IgA1 is different between IgA nephropathy and IgA deposition. 第105回日本泌尿器科
学会総会、鹿児島、2017年4月21日（総会賞受賞）

B-5

倭 成史：敗血症性ショックに対する急性血液浄化療法～時間薬物治療（chronotherapy）の可
能性について～。第36回日本アフェレシス学会関西地方会、滋賀、2018年2月2日

B-6

東 優希、倭 成史、朝比奈悠太、小泉信太郎、長山郁恵、種田灯子、岩谷博次：食道癌術
後患者で透析導入直後に後期ダンピング症候群が顕在化し、ミグリトル内服が有効である
ことを持続血糖モニター（CGM）で確認した1例。第90回大阪透析研究会、大阪、2018

年3月4日

茂木孝友、小泉信太郎、朝比奈悠太、長山郁恵、倭 成史、井上信正、岩谷博次：発作性夜間血色素尿症（PNH）による溶血発作のため一過性に血液透析を要した一例、第90回大阪透析研究会、大阪、2018年3月4日

氏本大介、倭 成史、朝比奈悠太、小泉信太郎、長山郁恵、竹本雪子、小笠原充幸、岩谷博次：Toxic shock syndromeに対し、AN69ST膜を用いたCHDFが奏功した1例。第90回大阪透析研究会、大阪、2018年3月4日

橋詰奈穂、長山郁恵、光井絵理、李 杏菜、沖田典子、朝比奈悠太、小泉信太郎、倭 成史、岩谷博次：下垂体腺腫術後に偶発的に原発性副甲状腺機能亢進症が発見され、多発性内分泌腫瘍（MEN）1と診断された一例。第219回日本内科学会近畿地方会、大阪、2018年3月3日

小泉信太郎、朝比奈悠太、長山郁恵、倭 成史、岩谷博次：腎生検が困難であるネフローゼ症候群に対する治療経験。OCKD、大阪、2018年2月16日

東 瀬菜、倭 成史、朝比奈悠太、小泉信太郎、岩谷博次：ネフローゼ再燃に対するステロイド治療中、精神疾患の増悪を呈した一例。第47回日本腎臓学会西部学術大会、岡山、2017年10月13日

B-8

岩谷博次：腎臓内科医から診た糖尿病性腎臓病（DKD）。STOP DKD Network Small Discussion 最適な患者紹介と逆紹介とは～、大阪、2018年3月29日

岩谷博次：タンパク尿やCr上昇に如何に対処するか～尿所見の実践的な見方も含めて～。大阪市中央区東医師会・法円坂地域医療フォーラム、大阪、2018年3月17日

岩谷博次：腎臓内科医から診たDiabetic Kidney Disease。STOP Diabetes Network ★ NARA、奈良、2018年3月8日

岩谷博次：お塩と腎臓～今日から始める減塩習慣～。市民公開講座 in 大阪 いきいき腎臓 延ばそう健康寿命！、大阪、2018年3月3日

岩谷博次：CKDにおける脂質管理。第4回医療連携のためのCKD研究会、大阪、2017年11月30日

岩谷博次：Diabetic Kidney Diseaseの病態・治療。Cardiorenal Association Seminar、堺、2017年11月2日

岩谷博次：常染色体優性多発性囊胞腎の診断と治療。第2回城南腎臓病連携セミナー、大阪、2017年10月26日

岩谷博次 : HIV 感染症と腎障害。平成 29 年度 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2017 年 10 月 17 日

岩谷博次 : 尿蛋白出現時や Cr が上昇した時にどうするか? ~ 隨時尿、蓄尿検査の見方など Q&A 形式で一挙公開 ~。CKD 病診連携セミナー、大阪、2017 年 10 月 5 日

岩谷博次 : HIV・エイズ患者での透析治療の現状。HIV 等血液感染予防に関する研修会、京都、2017 年 9 月 2 日

岩谷博次 : 腎疾患と栄養管理。平成 29 年度 NST 専門療法士認定取得研修、大阪、2017 年 6 月 21 日

岩谷博次 : 腎臓内科医からみた糖尿病合併腎障害例の診かた。大阪市鶴見区医師会学術講演会、大阪、2017 年 6 月 20 日

岩谷博次 : 腎臓内科医からみた糖尿病合併腎障害例の診かた、大阪市城東区医師会学術講演会、大阪、2017 年 5 月 16 日

倭 成史 : 敗血症性ショック、AKI における急性血液浄化療法を用いた治療戦略～過去、現在、そして未来への思い～。第 7 回関西 Sepsis 研究会、大阪、2017 年 6 月 30 日

倭 成史 : AKI と CKD の最前線におけるトロンボモジュリン製剤: その投与量大丈夫でつか? 第 87 回関西腎と薬剤研究会、大阪、2017 年 7 月 3 日

倭 成史 : 敗血症性ショックに対する急性血液浄化療法 (5W1H) - その新たな方向性 -。第 10 回関西血液浄化研究会、大阪、2017 年 7 月 16 日

倭 成史 : 敗血症性ショックに対する急性血液浄化療法: 5W1H の視点から。第 4 回集中治療 UP to DATE セミナー、石川、2017 年 11 月 16 日

糖尿病内科

瀧 秀樹

当科は糖尿病の治療ならびに合併症の早期発見に努め、QOL改善に取り組んでいる。

看護部・栄養管理室・薬剤科・臨床検査科・リハビリテーション科・口腔外科と糖尿病チームを組織し、共同で糖尿病教室・糖尿病デーの催しを行い患者への情報提供に取り組んでいる。また看護部とフットケア外来、看護部・栄養管理室と透析予防外来、看護部・栄養管理室と1型糖尿病外来を開設し専門医療を提供している。専修医の教育の一環として学会発表を行っている。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Nishimura M, Kato Y, Tanaka T, Taki H, Tone A, Yamaada K, Suzuki S, Saito M, Ando Y, Hoshiyama Y : Effect of Home Blood Pressure on Inducing Remission/Regression of Microalbuminuria in Patients With Type 2 Diabetes Mellitus. 「American Journal of Hypertension」 30(8) : P830-839、2017年8月

Katakami N, Mita T, Yoshii H, Shiraiwa T, Yasuda T, Okada Y, Umayahar Y, Kaneto H, Osonoi T, Yamamoto T, Kurabayashi N, Maeda K, Yokoyama H, Kosugi K, Ohtoshi K, Hayashi I, Sumitani S, Tsugawa M, Ohashi M, Taki H, Nakamura T, Kawashima S, Sato Y, Watada H, Shimomura I : Rational, Design, and Baseline Characteristics of the Utopia Trial for Preventing Diabetic Atherosclerosis Using SGLT2 Inhibitor: A Prospective, Randomized, Open-Label, Parallel-Group Comparative Study. 「Diabetes Therapy」 8(5) : P999-1013、2017年8月

Murata T, Aoki Y, Kato Y, Tanaka T, Araki R, Kato K, Sakane N, NHO T1DM Research Group : The Percentage of Continuous Subcutaneous Insulin Infusion Usage Among Adult Type 1 Diabetes Mellitus Patients in Japan A Cross-Sectional Study at National Hospital Organization Hospitals. 「Journal of Diabetes Science and Technology」 11(5) : P1055-1056、2017年9月11日

Murata T, Sakane N, Kato K, Tone A, Toyoda M : The Current Intermittent-scanning CGM Device Situation in Japan: Only Adjunctive Use to SMBG is Approved and the Latest Health Insurance Coverage Details. 「Journal of Diabetes Science and Technology」 1932296817749860、2017年12月1日

A-3

光井絵理、加藤 研、安部倉竹紗、種田灯子、廣田和之、矢嶋敬史郎、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨、瀧 秀樹：HIV感染症治療中に1型糖尿病とバセドウ病を発症し免疫再構築症候群と考えられた1例「糖尿病」 60(4):P295-300、2017年4月

A-6

加藤 研：1型糖尿病患者さんへの情報発信「糖尿病ケア2017秋季増刊」P.212-215 メディカ出版株式会社、大阪、2017年9月10日

瀧秀樹：災害と糖尿病 「南医師会会報」69(1) : P.12-13、大阪市中央区南医師会、大阪、2018年3月

B-2

Murata T, Tone A, Koyama R, Kamiuchi K, Narasaki K, Tsuruo M, Watanabe T, Kato K, Sawaki H, Kawashima S, Osawa K, Kimura M, Toyoda M, Sakane N, for the HIGH-QOL study group : THE EFFECT OF HIGH CONCENTRATION INSULIN GLARGINE TO THE QUALITY OF LIFE OF THE PATIENTS WITH TYPE 2 DIABETES MELLITUS: A PRE-POST STUDY (HIGH-QOL STUDY). Advanced Technologies & For Diabetes Treatments2018, Vienna Austria, 2018年2月15日

B-4

関直人、西村英夫、大谷すみれ、西村元伸、宇治原誠、青木雄次、志田幹雄、田中剛史、八幡兼成、瀧秀樹、河田公子、肥田和之、小田賀明、澄井俊彦、吉住秀之、河部庸次郎、菊池秀年：糖尿病腎症進展阻止のための抗血小板薬（シロスタゾール）の有用性に関する多施設共同プラセボ対照二重盲検用量比較試験。第60回日本糖尿病学会年次学術集会、名古屋、2017年5月19日

加藤研、川嶋聰、光井絵理、種田灯子、益田貴史、瀧秀樹：内科で開設した1型糖尿病専門外来の有用性についての検討。第23回小児・思春期糖尿病研究会、東京、2017年5月21日

関直人、西村英夫、大谷すみれ、西村元伸、宇治原誠、青木雄次、志田幹雄、田中剛史、八幡兼成、瀧秀樹、河田公子、肥田和之、小田賀明、澄井俊彦、吉住秀之、河部庸次郎、菊池秀年：糖尿病腎症進展阻止のための抗血小板薬（シロスタゾール）の有用性に関する多施設共同プラセボ対照二重盲検用量比較試験。第71回国立病院総合医学会、高松、2017年11月10日

西村元伸、関直人、米澤一也、石田紀子、田口修一、島田典生、杉山隆夫、宇治原誠、田中剛史、竹内美紀子、瀧秀樹、安東豊、鴻山訓一、河田公子、伊勢田泉、長瀬教夫、齊藤美穂、吉住秀之、河部康次郎、豊永哲至、郡山暢之：糖尿病腎症発症進展阻止のための家庭血圧管理指針の確立（HBP-DN）第8報。第71回国立病院総合医学会、高松、2017年11月10日

B-6

野津翔輝、加藤研、益田貴史、田代拓、種田灯子、光井絵理、石田永、三田英治、瀧秀樹：甲状腺機能低下症治療が肝性脳症再発防止に寄与したと考えられる橋本病の1例。第217回日本内科学会近畿地方会、大阪、2017年9月16日

加藤研、益田貴史、種田灯子、光井絵理、瀧秀樹：糖尿病内科に新設した1型糖尿病専門外来の有用性についての検討。第54回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2017年11月11日

福山雅代、加藤研、山口愛実、田原優美、山吹素直江、神木京子、光井絵理、種田灯子、益田貴史、瀧秀樹：当院の1型糖尿病専門外来「CSII/SAP確認内容シート」活用での看護

の実際。第 54 回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2017 年 11 月 11 日

益田貴史、加藤 研、田矢直大、種田灯子、光井絵理、瀧 秀樹：高血糖高浸透圧症候群で入院後破傷風、膠芽腫を発症した 2 型糖尿病の一例。第 54 回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2017 年 11 月 11 日

中野芳恵、加藤 研、永妻佑季子、谷川 清、福山雅代、山吹素直江、光井絵理、種田灯子、益田貴史、平尾素宏、瀧 秀樹：1 型糖尿病患者へのカーボカウント指導の在り方。第 54 回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2017 年 11 月 11 日

橋詰奈穂、長山郁恵、光井絵理、李 杏菜、沖田典子、朝比奈悠太、小泉信太郎、倭 成史、岩谷博次：下垂体腺腫術後に偶発的に原発性副甲状腺機能亢進症が発見され多発性内分泌腫瘍（MEN）1 と診断された 1 例。第 219 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2018 年 3 月 3 日

B-8

瀧 秀樹：肥満 2 型糖尿病患者の治療。近畿心血管治療ジョイントライブ 2017、京都、2017 年 4 月 21 日

益田貴史、田矢直大、種田灯子、光井絵理、加藤 研、瀧 秀樹：糖尿病ケトアシドーシスで入院後たこつぼ型心筋症を発症した 1 型糖尿病の一例。第 11 回大阪糖尿病臨床カンファレンス、大阪、2017 年 4 月 29 日

加藤 研：最新のインスリン療法について～CGM 検査と SAP 療法の実際～。糖尿病実地医家の会、大阪、2017 年 4 月 12 日

益田貴史、田矢直大、種田灯子、光井絵理、加藤 研、瀧 秀樹：PET-CT が診断に有用であった異所性 ACTH 症候群の 1 例。第 11 回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス、大阪、2017 年 6 月 3 日

加藤 研：CGM で見えてくる問題点。中央区糖尿病カンファレンス、大阪、2017 年 6 月 22 日

光井絵理：糖尿病専門医からみた SGLT2 阻害薬への期待と課題。良質な糖尿病治療を目指して、大阪、2017 年 8 月 26 日

瀧 秀樹：災害と糖尿病。大阪市中央区南医師会学術講演会、大阪、2017 年 9 月 30 日

加藤 研：2018 年に予定されている SAP の進化について。第 8 回糖尿病と脂質代謝を考える会、大阪、2017 年 11 月 29 日

加藤 研：1 型糖尿病診療のポイント 3 つ～心・先進糖尿病治療・チーム医療～。第 6 回大阪 1 型糖尿病塾、大阪、2018 年 1 月 27 日

加藤 研：1型糖尿病とのつきあい方とすすめる治療法～医師歴19年、1型糖尿病歴32年の自己体験から～。第12回滋賀・京都IDDMカンファレンス、京都、2018年2月3日

加藤 研：FreeStyleリブレを有効に実臨床で活かすために～FGMとSAPの利点と欠点を考える～。第11回兵庫インスリンポンプセミナー、神戸、2018年3月1日

瀧 秀樹：災害と糖尿病。大阪市中央東医師会学術講習会、大阪、2018年3月14日

加藤 研：糖尿病治療デバイスを活かした地域連携を考える～当院ですすめる先進糖尿病デバイスの使用例から～。大阪東部糖尿病医療連携の会、大阪、2018年3月15日

瀧 秀樹：当院の地域医療連携への取り組み。大阪東部糖尿病医療連携の会、大阪、2018年3月15日

血液内科

池田弘和

当院血液内科では、血液疾患全般について診療しています。具体的には、赤血球系では再生不良性貧血、溶血性貧血、白血球系では各種白血病、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫、止血・凝固系では特発性血小板減少性紫斑病などです。これらの疾患を適切に診断し、最新のガイドラインに沿いながら、患者さんの意向もふまえて個々のケースに最適な方法を選択し、治療を行います。病棟には無菌室が4床設置され、造血器腫瘍の治療では、急性白血病の寛解導入/地固め療法や悪性リンパ腫の救援療法等に使用可能です。また、年齢、合併症や治療抵抗性により根本的な治療が困難な症例では、QOLを重視した治療法や緩和医療も選択します。臨床的に特異な症例については学会等で報告し、また他施設とも協力して臨床研究を行っています。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Nagai H, Shimomura T, Takeuchi M, Hanada S, Komeno T, Sunami K, Hidaka M, Yano T, Kitano K, Yoshida I, Inoue N, Saito A, Horibe K, Motitani S, Ichihara S, Watanabe T, Sawamura M : Phase II study of intensified rituximab induction and maintenance for low grade B cell lymphoma.
Leuk Lymphoma. 58(12): 2845-2851, 2017年5月16日

呼吸器内科

小河原光正

呼吸器内科は呼吸器悪性腫瘍（肺癌、胸膜中皮腫など）を専門として診療を行っており、呼吸器外科、放射線診断科、放射線治療科、臨床検査科と協同で肺癌の診断及び化学療法を含む集学的治療を行っている。また、気管支鏡診断に力を入れている。最近の分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬の治療についての症例報告を行った。

また、国立病院機構ネットワーク研究等の多施設共同臨床試験へも参加・協力した。

【2017年度 研究業績発表】

B-4

安藤性實、小河原光正、木村 剛、宮本 智、高見康二、井上敦夫、栗山啓子、田中英一、眞能正幸：Nivolumab で縮小効果が得られた肺多型癌の一例。第 58 回日本肺癌学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 15 日

B-6

木村 剛、小河原光正、宮本 智、安藤性實、高見康二、安村かおり、井上敦夫、栗山啓子、森 清、眞能正幸：アファチニブとリバーロキサバンが奏効した肺血栓塞栓症合併肺腺癌の 1 例。第 106 回日本肺癌学会関西支部会、大阪、2017 年 6 月 24 日

久田原郁夫、小河原光正、長谷川裕子：当院における Cancer Board の現状と問題点。第 21 回関西がんチーム医療研究会、大阪、2017 年 9 月 16 日

脳卒中内科

橋川一雄

脳卒中内科は脳神経外科と協力して脳卒中治療の24時間体制を取り、その中で当科は脳梗塞や一過性脳虚血発作などの虚血性脳卒中を担当しています。当科はスタッフ全員が脳卒中専門医であり、その中に脳神経血管内治療専門医、日本神経学会専門医、脳神経超音波の専門医や核医学専門医がいるなど脳卒中診療に特化した内科部門です。

近年、急性期脳梗塞治療の進歩にはめざましいものがあります。2005年10月にrt-PA静注による血栓溶解療法が承認されました。また、2014年末から2015年初頭にかけて複数のランダマイズされた大規模研究によって脳梗塞急性期治療における血管内治療の有効性が証明されました。これを受けて各種のガイドラインでも血管内治療は脳梗塞急性期の標準的治療と認められるようになりました。2017年初めには、当初発症6時間以内とされた血管内治療は症例を選べば発症16時間、あるいは発症24時間以内であれば有効性があることが証明されました。この適応拡大により多くの症例に血管内治療を提供する義務が生じたと言えます。血管内治療は専門性が高い治療であり施行可能な施設は限られています。当院は以前からrt-PA静注療法のみならず脳血管内治療を積極的に行ってきました。このため、今後当院の地域の脳卒中治療の役割が増していくと考えます。

当科は、また脳卒中内科として脳梗塞の1次および2次予防にも努力してきました。人間ドックや脳ドックによって、無症候性頸動脈狭窄症、無症候性脳梗塞（隠れ脳梗塞）や頭蓋内血管に狭窄が見つかることがあります。また、最近ではMRIの撮像法の進歩によって隠れ脳出血（微小脳出血）が見つかることも増えています。これらの病巣は将来の脳卒中や認知症発症を予見させる所見です。当科では、これらの所見を有する患者の精査を行っています。脳MRI/MRA、頸動脈エコー、経食道心エコー、脳血流SPECTや脳血管撮影などを行い脳卒中発症の危険因子を調べ、必要な治療や生活改善の指導を行っています。また、頸動脈狭窄症はその程度に応じて外科治療が必要になることがあります。当科では脳外科と協力して頸動脈ステント留置術を施行しています。

脳梗塞治療は時間との勝負であり、一刻でも早く患者の治療を行うためには、一般住民や救急隊員の啓蒙が重要であると同時に院内での看護部、検査部あるいは放射線部などの協力が必要です。このように脳卒中はチーム医療であり関係部門との緊密な協力が不可欠です。これを実現するために、2016年7月には脳卒中内科、脳神経外科およびリハビリテーション部門を合わせて脳卒中センターを開設いたしました。教育活動として、2016年度には院内向けの講習会である脳卒中セミナーを2回、また院外も含めた脳卒中の初期治療対応の講習会であるISLSを2回開催しました。研究では頸動脈閉塞症の至適治療、病早期からの病型診断、などについて関連学会にて発表してきました。

以上のように当科では急性期脳梗塞治療から慢性期の脳卒中危険因子の精査、治療および研究を行っています。今後は、脳卒中センターとして、脳卒中診療の地域基幹施設となるように努力してまいります。

【2017年度 研究業績発表】

A-2

山本司郎：脳卒中「抗血栓薬クリニカルクエスチョン 100 改訂第2版」幸原伸夫、古川裕、藤堂謙一、金基泰編集、P.12-20、診断と治療社、東京、2017年12月20日

A-3

佐木山裕史、山本司郎、村上泰隆、玄 富翰、永野恵子、橋川一雄：腕頭動脈塞栓と右中大脳動脈塞栓をきたし抗凝固療法で再開通した心原性脳塞栓症の1例 「臨床神経」57(7): P.391-394、2017年7月24日

B-4

山本司郎、池上剛史、玄 富翰、永野恵子、橋川一雄、藤中俊之：頸動脈閉塞を伴う急性期脳梗塞に対する治療方針：頸動脈エコーの役割。第33回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会（JSET 2017）、東京、2017年11月23日

山本司郎、池上剛史、玄 富翰、永野恵子、藤中俊之、橋川一雄：主幹動脈閉塞を合併した急性期脳梗塞に対する初期評価からの病型診断。第43回日本脳卒中学会学術集会、福岡、2018年3月16日

B-8

橋川一雄：脳卒中への初期対応と脳卒中センターへ。脳卒中市民公開講座（日本脳卒中協会大阪支部・よみうり文化センター共催）、松原、2017年11月18日

橋川一雄：脳梗塞前からのおよび脳卒中後からの認知機能障害への診断と治療。脳卒中地域連携クリニカルカンファレンス 2017オータムセッション、富田林、2017年11月16日

橋川一雄：認知症診断における核医学検査の読み方とそのピットフォール。第26回（平成29年度）日本神経学会近畿地区生涯教育講演会、京都、2018年3月11日

橋川一雄：認知症の画像診断～核医学検査を中心に～。第11回中河内認知症研究会、大阪、2018年3月10日

感染症内科

上平朝子

当院は平成 9 年 4 月にエイズ治療の近畿地方ブロック拠点病院に選定され、診療、研究、情報発信、教育研修の 4 つの機能を求められている。当院の HIV 患者数は、毎年 1 年間で 150 名前後の新規患者が受診し、平成 30 年 2 月末現在、当院の HIV 感染症累計患者数は約 3,300 名以上、入院累積患者数は 3,500 名以上となっている。当科では、HIV 感染症に関する多様なニーズに対して、医師、看護師、薬剤師、カウンセラー、情報担当官、ソーシャルワーカーなどでチーム医療を実践している。現在の診療内容は、HIV 感染症が全体の 9 割近くを占めており、その他は免疫疾患、一般感染症（一類、二類を除く）などである。

「主な診療、研究」

日和見感染症に対する治療や予防の進歩と抗 HIV 療法の確立によってエイズによる死亡者数は減少した。当科では、ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、カンジダ症、クリプトコッカス髄膜炎、非結核性抗酸菌症など多彩な病原体による日和見感染症の診療を行っている。抗 HIV 療法では、最新の治療を提供し、9 割以上の患者で治療が奏効している。H29 年度の初回治療レジメンで最も多いのは、昨年度と同様、一日一回のインテグラー阻害薬を含む合剤であった。抗 HIV 療法は、患者の予後を改善し、HIV の流行を抑えることが報告され、全ての人に治療を早期に開始することが推奨されている。また、各種合剤の開発により STR (single tablet regimen) が可能となり、服薬の負担も軽減されるようになっている。しかし、長期間にわたり正確な内服を継続しなければならない抗 HIV 療法の身体的、精神的負担、HIV 非関連悪性腫瘍の増加、糖尿病や心・腎合併症など生活習慣病への対応、長期予後の改善に伴い精神科疾患や長期療養施設の確保など課題も続いている。また、抗 HIV 薬の治療効果や副作用の調査、及び検討、服薬アドヒアランスの向上についての研究、悪性腫瘍や神経疾患、免疫再構築症候群、急性 HIV 感染症などの難治性病態についての臨床研究や症例検討、ウイルス肝炎 (HCV、HBV) と HIV との重複感染についての症例研究などを行い、厚生労働科研などを通じ、多施設との共同研究にも参加している。また、日本エイズ学会や日本感染症学会を始めとした多くの学会における発表や、論文発表を行っている。

「情報発信、教育研修」

HIV 感染症は、病原体も感染経路も予防方法も明らかであるにも関わらず蔓延している。日本では、30~40 歳代の若者を中心に患者が多くみられている。HIV 感染症の早期発見と予防のために、病気についての正しい知識を幅広く提供している。現在、ブロック拠点病院である当院に HIV 感染症患者が集中しているが、中核拠点病院を始めとした各拠点病院と連絡会議や研修会を行い、連携を強化している。HIV 診療のレベルの向上や人材育成を図るために、専門医師養成実地一ヶ月研修（講義・病棟実習）、各種専門職研修など多数の研修会を実施している。また、各種マニュアルや冊子を作成し配布している。HIV エイズ先端医療開発センターのホームページからも、最新の情報発信を行っている (<http://www.onh.go.jp/khac/>)。さらに、HIV 患者の長期療養や一般医療の必要性も高まっており、地域の医療機関や訪問

看護との連携も積極的に行っている。症例相談、針刺し等の職務感染防止への対応、生活療養支援など、さまざまな相談にすみやかに対応できる体制を目指している。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Miyazaki N, Sugiura W, Gatanaga H, Watanabe D, Yamamoto Y, Yokomaku Y, Yoshimura K, Matsushita S, the Japanese HIV-MDR Study Group: High antiretroviral coverage and viral suppression prevalence in Japan: an excellent profile for downstream HIV care spectrum. 「Jpn J Infect Dis.」 70(2):P.158-160、2017年3月24日

Watanabe D, Yamamoto Y, Suzuki S, Ashida M, Matsumoto E, Yukawa S, Hirota K, Ikuma M, Ueji T, Kasai D, Nishida Y, Uehira T, Shirasaka T: Cross-sectional and longitudinal investigation of human herpesvirus 8 seroprevalence in HIV-1-infected individuals in Osaka, Japan. 「J Infect Chemother.」 23(4):P.201-205、2017年4月

Kawado M, Hashimoto S, Oka S, Fukutake K, Higasa S, Yatsuhashi H, Ogane M, Okamoto M, Shirasaka T: Clinical Improvement by Switching to an Integrase Strand Transfer Inhibitor in Hemophiliac Patients with HIV: The Japan Cohort Study of HIV Patients Infected through Blood Products. 「The Open Aids Journal」 11:18-23、2017年4月26日

Itoi-Ochi S, Hayashi M, Yamaoka T, Kobayashi Y, Isei T, Shirasaka T, Katayama I: Occult HIV infection in Japanese rupioid psoriasis. 「J Dermatol.」 44(7):e172-e173、Epub 2017年4月28日

Yagura H, Watanabe D, Kushida H, Tomishima K, Togami H, Hirano A, Takahashi M, Hirota K, Ikuma M, Kasai D, Nishida Y, Yoshino M, Yamazaki K, Uehira T, Shirasaka T : Impact of UGT1A1 gene polymorphisms on plasma dolulegravir trough concentrations and neuropsychiatric adverse events in Japanese individuals infected with HIV-1. 「BMC Infect Dis.」 7(1) : P.622、2017年9月16日

Nakakura I, Ogawa Y, Sakakura K, Imanishi K, Hirota K, Shimatani Y, Uehira T, Nakamori S, Sako R, Doi T, Yamazaki K: IMP-6 Carbapenemase-Producing Enterobacteriaceae Bacteremia Successfully Treated with Amikacin-Meropenem in Two Patients. 「Pharmacotherapy」 37(10):e96-e102、Epub 2017年7月12日

Yukawa S, Watanabe D, Uehira T, Shirasaka T: Clinical benefits of using inulin clearance and cystatin C for determining glomerular filtration rate in HIV-1-infected individuals treated with dolutegravir. 「J Infect Chemother.」 24(3):P.199-205、2018年3月

A-2

西田恭治：保因者ケア「血友病の診療マニュアル」宮川義隆、天野景裕 編集、P.227-233、株式会社医薬ジャーナル社、大阪、2017年10月31日

白阪琢磨：抗HIV薬「治療薬ハンドブック2018」高久史磨監修、P.1378-1402、じほう、東京、

2018年1月

A-3

光井絵理、加藤研、安部倉竹紗、種田灯子、廣田和之、矢嶋敬史郎、渡邊大、上平朝子、白阪琢磨、瀧秀樹：HIV感染症治療中に1型糖尿病とバセドウ病を発症し免疫再構築症候群と考えられた1例「糖尿病」60(4):P.295-300、日本糖尿病学会、2017年4月30日。

池田 超、藤原弘明、桑田聖平、矢野眞紀、田中堅司、細野 晃、辻 亨、森本 実、瀧原 義宏、安原武志、首藤加奈子、吉村 誠、谷 慶彦、白阪琢磨、大川聰子：0-095 全国初 新たな献血推進の啓発拠点献血サポート薬局について「血液事業」40(2):P.426-426、日本血液事業学会、2017年11月21日

西田恭治：血友病診療における消炎鎮痛解熱剤の使い方について教えてください「Frontiers in Haemophilia」天野景裕、酒井道生、野上恵嗣、日笠聰、藤井輝久、松下正編集、5(1)P.27-28、メディカルレビュー社、東京、2018年3月9日

A-4

白阪琢磨：Question HIV serodiscordant couple で挙児希望の相談があった場合にどうすればよいですか「HIV感染症とAIDSの治療」8(1):P.32-42、メディカルレビュー社、2017年6月

上平朝子：10.感染②侵襲性カンジダ症・ニューモシスチス肺炎-陰性化するまで、適切な量・期間で抗菌薬を継続する-「乳がん薬物療法副作用マネジメントプロのコツ」P.295-299、メディカルレビュー社、2017年9月14日

白阪琢磨：2（生涯・専門）職業暴露後対策について～HIVを中心に～「日本臨床内科医会会誌」32(3):P.436-436、日本臨床内科医会、2017年10月

白阪琢磨：Q&A形式 Case Study“CD4の上昇を認めない症例に対して日和見感染症予防をどうしたらよいですか”「HIV感染症とAIDSの治療」8(2):P.24-28、株式会社メディカルレビュー社、2017年11月

白阪琢磨：HIV感染症/エイズ診療の現在～エイズ・ウイルス感染拡大の終焉を視野に入れた治療と予防～「診療と新薬」54(12):P.1139-1172、医事出版社、2017年12月28日

廣田和之：フォトクイズ「HIV感染症とAIDSの治療」8(2):P.42-45、メディカルレビュー社、2017年12月

上平朝子：CREアウトブレイクCRE、1例の背後には複数の保菌例が隠れている「INFECTION CONTROL」27(1):P.37-42、メディカ出版、2018年1月

A-5

渡邊大：ゲンボイヤ[®]配合錠の使用経験「第91回日本感染症学会総会・学術講演会（ランチョンセミナー8）記録集」、2017年7月発行

白阪琢磨：効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究」平成29年度研究報告書、2018年3月31日

白阪琢磨：効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究」総合研究報告書、2018年3月31日

白阪琢磨：HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」平成29年度研究報告書、2018年3月31日

白阪琢磨：HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」総合研究報告書、2018年3月31日

渡邊 大：近畿ブロックのHIV医療体制整備。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」平成29年度研究報告書、P.48-51、2018年3月31日

白阪琢磨：ホームページやスマホを利用した検査施設受検向上に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV検査受検勧奨に関する研究」平成28年度研究報告書、P.97-100、2018年3月31日

上平朝子：大阪における検査システムの構築に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV検査受検勧奨に関する研究」平成29年度研究報告書、P.60-63、2018年3月31日

上平朝子：大阪医療センターにおけるHIV/HCV重複感染凝固異常患者の検討。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者の肝移植に関する研究」平成29度研究報告書、P.11-14、2018年3月31日

白阪琢磨：服薬アドヒアランス向上に関する研究。日本医療研究開発機構感染症実用化研究事業エイズ対策実用化研究事業「服薬アドヒアランス向上に関する研究」総合研究報告書、2018年3月31日

A-6

白阪琢磨：HIV治療「1日1錠」に「朝日新聞」 平成29年5月17日号

西田恭治：知っておきたい血友病保因のこと「ファイン VOL.12」P.2-5、バクスアルタ株式会社、2017年9月

白阪琢磨:2 内科“内科で遭遇しやすい性感染症の診療のポイント”「性の健康 平成29年秋号」
16(3):18-23、公益財団法人性の健康医学財団、2017年10月31日

西田恭治: 血友病および関連の出血性疾患について「Novo Nordisk Haemophilia Fundation アニ
ュアルレポート」P.1-15、Novo Nordisk Haemophilia Fundation、2017年11月

西田恭治: 産婦人科：血友病 「Textbook of Hemophilia 3rd edition」瀧正志 編集、P.29-31、ワ
イリー・パブリッシング・ジャパン株式会社、東京、2017年12月

西田恭治: 女性と von Willebrand 病 「Textbook of Hemophilia 3rd edition」瀧正志 編集、P.32-34、
ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社、東京、2017年12月

西田恭治: 保因者検診とは「血友病保因者支援マニュアル」瀧正志、西田恭治 編集、P.15-16、
バイオベラティブ・ジャパン株式会社、2018年2月

西田恭治: 保因者へのアドバイス「血友病保因者支援マニュアル」瀧正志、西田恭治 編集、
P.21-23、バイオベラティブ・ジャパン株式会社、2018年2月

B-2

Togami H, Yagura H, Hirano A, Takahashi M, Yoshino M, Abe K, Oishi Y, Takematsu S, Kakigoshi S,
Yamamoto Y, Ito T, Yamamoto M, Mizumori Y, Kanei O, Utsumi M, Watanabe D, Yokomaku Y,
Shirasaka T: Correlation between UGT1A1*6 and *28 genotype, and plasma dolutegravir concentrations
in Japanese HIV-1 infected patients. 9th IAS Conference on HIV Science (MOPEB0328), Paris, France,
2017年7月24日

B-3

渡邊 大: Tenofovir Alafenamide based regimen の臨床的有用性（ランチョンセミナー）ゲンボ
イヤ®配合錠の使用経験。第91回日本感染症学会総会・学術講演会、東京、2017年4月6日

白阪琢磨: 産業医学研修会2（生涯・専門）「職業暴露後対策について～HIVを中心～」。第
31回日本臨床内科医学会、大阪、2017年10月8日

渡邊 大: プロテアーゼ阻害剤による抗HIV治療戦略（ランチョンセミナー）。プレジコビ
ックス®配合錠の臨床的役割と使用経験。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017
年11月25日

白阪琢磨:『手引きversion21』のWhat's New?（シンポジウム「治療の手引き」）。第31回日本
エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

照屋勝治、上平朝子、田中 勝、横幕能行：ART era の悪性腫瘍と対応（シンポジウム「治療
の手引き」）。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

B-4

上平朝子、坪倉美由紀、中藏伊知郎、廣田和之、上地隆史、田栗貴博、眞能正幸、中森正二：大阪医療センターにおけるCREアウトブレイクの伝播要因の解析。第91回日本感染症学会総会・学術集会、東京、2017年4月7日

中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫、白阪琢磨：当院におけるエルビテグラビル/コビシスタット/エムトリシタбин/テノホビルアラフエナミド配合錠の初回導入例の使用状況。第27回抗ウイルス療法学会学術集会・総会、熊本、2017年5月20日

廣田和之、西田恭治、矢口愛弓、山本雄大、新井 剛、湯川理己、上地隆史、伊熊素子、笠井大介、渡邊 大、上平朝子、巽 啓司、白阪琢磨：血栓止血子宮全摘術の止血管管理に半減期延長型VIII因子製剤を使用した血友病A保因者の一例。第39回血栓止血学会学術集会、名古屋、2017年6月10日

杉山 文、坂宗和明、田中純子、白阪琢磨：HIV感染症患者の服薬アドヒアラנס関連因子に関する解析。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017年11月1日

白阪琢磨、渡邊 大、山本政弘、金井 修、上平朝子：感染早期患者に対するMVCによる強化療法の効果に関する研究。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月10日

渡邊 大、上平朝子、鈴木佐知子、松本絵梨奈、笠井大介、廣田和之、南 留美、高濱宗一郎、林 公一、澤村守夫、山本政弘、白阪琢磨：高IFN- γ 血症と高IL-6血症を呈するHIV-1感染者の臨床的特徴に関する検討。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月10日

富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、福田利明、佐光留美、廣田和之、上地隆史、上平朝子、白阪琢磨、山崎邦夫：フェニトイイン併用時のドルテグラビルナトリウム血中濃度について検討した一例。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月11日

白阪琢磨、渡邊 大、山本政弘、南 留美、金井 修、上平朝子：HIV感染早期患者に対するMVCを加えた強化療法の効果と安全性に関する研究。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

白阪琢磨、大金美和、岡 慎一、岡本 学、川戸美由紀、橋本修二、日笠 聰、福武勝幸、八橋 弘：血液製剤によるHIV感染者の調査成績 第1報 CD4値、HIV-RNA量と治療の現状と推移。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

川戸美由紀、橋本修二、大金美和、岡 慎一、岡本 学、福武勝幸、日笠 聰、八橋 弘、白阪琢磨：血液製剤によるHIV感染者の調査成績 第2報 生活状況の概要。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、上平朝子、白阪琢磨：当院におけるART施行中の高齢者を

対象とした処方調査。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

水木 薫、安尾利彦、西川歩美、白阪琢磨：HIV陽性者の行動面の障害を伴う問題の心理的背景に関する研究。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

西川歩美、安尾利彦、水木 薫、白阪琢磨：薬害 HIV遺族健診事業に関する研究—利用動機、利用上の困難、利用者による事業への評価、健診後の地元医療機関受診状況に関する検討—。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

新井 剛、渡邊 大、上地隆史、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、永井崇之、宮田順之、吉村幸浩、立川夏夫、上平朝子、白阪琢磨：アドヒアランス良好かつ耐性変異が無いウイルスへの抗HIV療法でも、長期間血中HIV-1-RNA量低下を認めなかつた2例。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

横幕能行、伊藤俊広、山本政広、岡 慎一、豊嶋崇徳、田邊嘉也、渡邊珠代、白阪琢磨、藤井輝久、宇佐美雄司、池田和子、吉野宗宏、本田美和子、葛田衣重、小島賢一、内藤俊夫、安藤稔：拠点病院定期通院者の抗HIV療法によるHIV複製制御の達成度評価-我が国のHIV感染症/エイズ診療体制整備の成果-。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

藤原良次、橋本 謙、山田富秋、種田博之、入江恵子、小川良子、早坂典生、藤原 都、白阪琢磨：血友病由来HIV感染者の心理的支援方法の検討。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

齊藤誠司、村上由佳、飯塚暁子、松井綾香、野村直幸、木梨貴博、坂田達朗、草川 茂、木内 英、前島雅美、渡邊 大：妊婦HIVスクリーニング検査からHIV-2の診断に到つた日本人妊婦例。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

渡邊 大、矢倉裕輝、櫛田宏幸、冨島公介、戸上博昭、平野 淳、高橋昌明、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨：ドルテグラビルの血中濃度とUGT1A1遺伝子多型が、ドルテグラビル投与後の神経精神系有害事象の発生に与える影響についての検討。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

山本雄大、渡邊 大、湯川理己、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院におけるヒトヘルペスウイルス8型関連疾患の現状。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

矢倉裕輝、中内崇夫、冨島公介、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：日本人HIV-1感染症症例におけるテノホビルアラフェナミドを含む1日1回1錠製剤投与時のテノホビル血漿トラフ濃度に関する検討。第31回日本エイズ学会学術集会、東京、2017年11月25日

冨島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡

邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：リトナビル併用ダルナビルからダルナビル・コビシスタッフ配合剤へ変更した症例の臨床検査値および自覚症状の変化。第31回日本エイズ学会学術集会、東京、2017年11月25日

泉 抽岐、佐保美奈子、西口初江、豊島裕子、井田真由美、井内公仁子、熊谷祐子、岡本友子、白阪琢磨：介護保険施設における感染症予防研修：全職員への出前講座企画。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

岡崎玲子、蜂谷敦子、潟永博之、渡邊 大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南 留美、吉田 繁、小島洋子、森 治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、猪狩英俊、寒川 整、石ヶ坪良明、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、林田庸総、岡 慎一、松田昌和、重見 麗、濱野章子、横幕能行、渡邊珠代、藤井輝久、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、岩谷靖雅、吉村和久：国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

岩橋恒太、生島 嗣、藤田彩子、市川誠一、白阪琢磨：MSMを対象とした献血に関する情報伝達方法および意識調査。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

佐保美奈子、安井典子、三澤朋洋、泉 抽岐、西口初江、堀有優美、田中彩水、岸本晶愛、白阪琢磨、古山美穂、山田加奈子、高 知恵：大阪市A地区における介護職のHIV研修の検討。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

近藤真規子、佐野貴子、長島真美、貞升健志、蜂谷敦子、横幕能行、林田庸総、潟永博之、渡邊 大、吉村幸浩、立川夏夫、岩室紳也、井戸田一朗、今井光信、加藤真吾、椎野禎一郎、吉村和久：日本で流行するHIV-1 CRF01_AEと周辺アジア諸国における流行株との関連。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

中蔵伊知郎、坂倉広大、廣田和之、上地隆史、上平朝子、坪倉美由紀、山崎邦夫：IMP-6型カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌の菌種別薬剤感受性の検討。第33回日本環境感染学会総会・学術集会、東京、2018年2月24日

B-5

中山久仁子、守屋章成、千葉 大、菅長麗依、来住知美：あなたの患者さんの旅行は安全ですか～Basic course 1, プライマリ・ケアにおける渡航に伴うリスクマネジメント～。日本プライマリ・ケア連合学会第15回秋季セミナー、大阪、2017年11月12日

B-6

渡邊 大、上平朝子、鈴木佐知子、松本絵梨奈、笠井大介、廣田和之、南 留美、高濱宗一郎、林 公一、澤村守夫、山本政弘、白阪琢磨：高IFN- γ 血症を呈するHIV-1感染者の臨床的特徴に関する検討。第31回近畿エイズ研究会・学術集会、大阪、2017年6月3日

矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、渡邊 大、福田利明、佐光留美、上平朝子、山崎邦夫、白

阪琢磨：UGT1A1 遺伝子多型とドルテグラビル投与時の中枢神経系副作用症状発現の関連。
第2回日本臨床薬理学会近畿地方会、大阪、2017年6月10日

B-7

渡邊 大：HIV 感染症、併発症の最新治療について。北陸ブロック医療等相談会、福井、2017年9月30日。

B-8

西田恭治：血友病のトータルケアと薬剤師のかかわり。血友病トータルケアセミナー、大阪、2017年4月12日

白阪琢磨：概論。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年5月18日

西田恭治：ノボノルディスク血友病財団の紹介。第17回 Haemostasis 研究会、福岡、2017年5月27日

西田恭治：血友病と薬害エイズ。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年6月1日

白阪琢磨：HIV/AIDS 基礎知識～医療と最新の治療について。大阪府エイズ対策事業 平成29年度 HIV/AIDS 基礎研修、大阪、2017年6月2日

白阪琢磨：HIV の最近の話題と最新治療について。大阪中央病院教育研修、大阪、2017年6月8日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生実習、大阪、2017年6月8日

白阪琢磨：HIV の最新治療。厚生科研エイズ対策研究事業 第14回 HIV サポートリーダー養成研修、大阪、2017年6月9日

上地隆史：PCP。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年6月15日

伊熊素子：抗酸菌症。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年6月15日

廣田和之：CMV 感染症。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年6月22日

西田恭治：保因者のケア妊娠・出産。第2回血友病トータルケアウェブセミナー、大阪、2017年6月22日

西田恭治：患者さんから学ぶ血友病診療の盲点。関西血友病シンポジウム、大阪、2017年6月24日

西田恭治：日本と世界の血友病治療の現状と課題～日本の「輸出貿易管理令」と「国際貢献」～。血友病に関するメディア勉強会、東京、2017年6月28日

西田恭治：成人の再教育。第14回血友病看護フォーラム、東京、2017年7月2日

白阪琢磨：HIV陽性者の人権課題～HIV、AIDS等の現状と課題～。大阪府人権総合講座 人権相談員養成コース、大阪、2017年7月6日

白阪琢磨：HIV/AIDSの最新医療状況や一般的な症例について、及び梅毒の基礎知識について。特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター平成29年度総会・講演会、大阪、2017年7月8日

白阪琢磨：HIV医療の現状について。高槻病院院内感染対策研修会、高槻、2017年7月24日

西田恭治：血友病をとりまく世界の潮流と日本の動き。コバールトリイ web カンファレンス、大阪、2017年8月7日

白阪琢磨、下司有加、岡本 学：HIV感染症と看護・介護上の標準予防策の実際。浜寺中央病院職員向けHIV感染症研修、堺、2017年8月9日

西田恭治：取り残された血友病保因者問題－血友病AとB保因者の違い－。第3回西日本血友病B研究会、福岡、2017年8月19日

渡邊 大：HIV/AIDSの基礎知識（HIV感染症・抗体検査・日和見疾患・治療）。平成29年度HIV/AIDS看護師研修初心者コース、大阪、2017年9月4日

西田恭治：HIV/AIDS患者の背景（薬害エイズについて）。平成29年度HIV/AIDS看護師研修初心者コース、大阪、2017年9月4日

白阪琢磨：HIV/エイズの基礎知識と施設での受け入れについて。高齢者等介護施設のためのHIV/エイズ研修会、大阪、2017年9月8日

西田恭治：検査・診断、止血管理の実際、インヒビター出現症例への対応、保因者ケア、ライフステージ・活動性を考慮した治療マネジメント。THE NEXT 2017、大阪、2017年9月9日～9月10日

上平朝子：HIV感染症の基礎知識。平成29年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2016年9月12日

渡邊 大 : HIV 感染症の診断。平成 29 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017 年 9 月 12 日

白阪琢磨 : HIV 感染症の疫学。平成 29 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017 年 9 月 13 日

山本雄大 : KS、症例提示。平成 29 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017 年 9 月 13 日

伊熊素子 : 女性と HIV。平成 29 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017 年 9 月 13 日

上地隆史 : HIV 脳症、PML、呼吸器疾患。平成 29 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017 年 9 月 14 日

廣田和之 : STD (性行為感染症) の診断。平成 29 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017 年 9 月 15 日

西田恭治 : オーバービュー保因者問題とは-日本の現状と課題-。バイエルヘルモフィリアセミナー2017-保因者を考える-、広島、2017 年 9 月 30 日

白阪琢磨 : 疫学と抗 HIV 治療ガイドライン。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 2 日

渡邊 大 : HIV 感染症の診断。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 2 日

渡邊 大、矢倉裕輝 : 初回抗 HIV 療法の実際。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 2 日

西田恭治 : 血友病診療・凝固因子製剤の使い方。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 2 日

上地隆史 : 日和見感染症 (PCP)。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

廣田和之 : 日和見感染症 (CMV)。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

伊熊素子 : 日和見感染症 (抗酸菌症)。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

廣田和之、伊熊素子、上地隆史 : 症例検討 (医師・薬剤師向け)。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

上平朝子：針刺し暴露後対策。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

山本雄大：日和見感染症診療（カンジダ症・KS 他）。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 11 日

渡邊 大：HIV 急性感染。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 11 日

西田恭治：血友病診療の実際。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 11 日

上平朝子：免疫再構築症候群（IRIS）。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 12 日

来住知美：女性と性感染症。HIV 検査に関わるスタッフ研修会 ChotCAST なんば、大阪、2017 年 10 月 14 日

渡邊 大：抗 HIV 療法の副作用と薬剤耐性。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 19 日

上地隆史：結核の診断・治療・感染対策。院内定期講演会、大阪、2017 年 10 月 19 日

白阪琢磨：基調講演。大阪中之島ロータリークラブ創立 25 周年記念式典、大阪、2017 年 10 月 21 日

上地隆史：日和見感染症診療（HIV 脳症、PML、クリプトコッカス症）。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 24 日

廣田和之：STD（性行為感染症）の診療。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 25 日

白阪琢磨：HIV の最新治療。厚生科研エイズ対策研究事業 第 15 回 HIV サポートリーダー養成研修、大阪、2017 年 10 月 27 日

西田恭治：取り残された血友病保因者問題～明日からの取り組みにむけて～。第 12 回北陸ヘモフィリアセミナー、金沢、2017 年 10 月 28 日

白阪琢磨：HIV/AIDS の基礎知識（疾患・治療・職務感染時の対応）。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業主催訪問看護師研修会、大分、2017 年 10 月 28 日

上平朝子：HIV 針刺し暴露後予防。平成 29 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017 年 11 月 2 日

渡邊 大 : HIV/AIDS の基礎知識 (HIV 感染症・抗体検査・日和見疾患・治療)。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2017 年 11 月 6 日

白阪琢磨 : 現代的健康課題についてーHIV/エイズや性感染症についてー。大阪府平成 29 年度新規採用養護教諭研修 (第 10 回)、大阪、2017 年 11 月 16 日

白阪琢磨 : HIV/AIDS の現状と支援。大阪府立大学 公衆衛生看護学 I、大阪、2017 年 11 月 28 日

白阪琢磨 : HIV 感染症・治療。大阪赤十字看護専門学校 講義、大阪、2017 年 12 月 6 日

来住知美 : ココロとカラダの健康教室。性感染症予防のための出前授業、和泉市、2017 年 12 月 15 日

上地隆史 : 日和見疾患の病態と治療 (ニューモシスチス肺炎 サイトメガロウイルス網膜炎 HIV 脳症)。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2018 年 1 月 15 日

廣田和之 : 性感染症の基礎知識。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2018 年 1 月 15 日

伊熊素子 : HIV 陽性妊婦の治療と支援。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2018 年 1 月 15 日

白阪琢磨 : HIV 感染症で期待される病診連携と課題～一般診療所における対応～。大阪府医師会「平成 29 年度 HIV 地域医療連携研修会」、大阪、2018 年 1 月 31 日

上平朝子 : 大阪医療センターでの CRE アウトブレイクの経験。大阪市立総合医療センター、大阪、2018 年 2 月 2 日

廣田和之 : ニューモシスティス肺炎の治療中に治療困難となった症例集。関西 HIV 臨床カンファレンス 若手医師のための診療スキルアップセミナー、大阪、2018 年 2 月 3 日

白阪琢磨 : 日本におけるエイズ患者の実態。滋慶医療経営管理研究センター平成 29 年度新入職者導入教育プログラム、大阪、2018 年 2 月 21 日

白阪琢磨 : 日本におけるエイズ患者の実態。大阪保健福祉専門学校 講義、大阪、2018 年 3 月 12 日

西田恭治、変わるか?保因者を含めた軽・中等症血友病患者の止血管理。近畿 Hemophilia Seminar、大阪、2018 年 3 月 17 日

廣田和之 : 現在の血友病治療。関西 HIV 臨床カンファレンス 看護部会主催講演会、大阪、2018 年 3 月 24 日

B-9

白阪琢磨：性感染症について。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2017年4月29日放送

白阪琢磨：HIV 検査促進の啓発活動について。NHK ラジオ第1「ごごラジ」、東京、2017年9月21日、（再放送）12月2日

白阪琢磨：明日へのことば「エイズ治療最前線の30年」。NHK 関西発ラジオ深夜便)、NHK ラジオ第1、2017年11月11日

白阪琢磨：性感染症について①。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2017年11月11日

白阪琢磨：性感染症について②。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2017年11月18日

白阪琢磨：性感染症について③。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2017年11月25日

精神科

廣常秀人

当科は、コンサルテーションリエゾン精神医学・医療に重点を置いており、同領域における研究が中心となっている。救命救急センター搬送例、周産期メンタルヘルス、虐待に関する研究、緩和ケア（がんサポートチーム参照）に関する研究を主としている。また、なのはなチーム活動を通じ、職員の産業精神保健的介入も研究のテーマである。各医員の専門領域に関わる臨床研究についても各員の努力で研究を続けている。

【2017年度 研究業績発表】

A-2

疇地道代（菅野康夫、安斎俊久監修）：抑うつ「他職種カンファレンスで考える心不全緩和ケア」：p.60-66、南山堂、2017年4月1日

A-6

疇地道代：なのはな便り「全職員対象研修会レポート」大阪医療センター院内報法円坂だより138号、pp.4-5、2017年6月

渡辺五郎、疇地道代：平成29年（医ろ）第64号入院又は通院処遇申立事件の決定書、2017年10月

渡辺五郎、疇地道代：平成29年（医ろ）第89号退院許可申立事件の決定書、2017年12月

疇地道代：心臓移植適応検討申請精神科意見書55件、2017年

B-3

疇地道代、太田裕子、廣常秀人、山路國弘：救急医療においてソーシャルワーカーに期待すること～精神科医の立場から～。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月11日

B-4

疇地道代、山路國弘、廣常秀人：大阪医療センター救命救急センターにおける、養育期にある自殺未遂者の背景調査。第30回日本総合病院精神医学会学術総会、富山、2017年11月17日

B-6

疇地道代、小野田峻：（司会）虐待関連。第14回法と小児医療研究会、三重、2018年1月21日

B-7

疇地道代：（精神保健審判員）平成29年（医ろ）第64号入院又は通院処遇申立事件審判、大阪、2017年10月3日

疋地道代：(協議員) 心神喪失者等医療觀察法関係研究協議会、大阪、2018年2月16日

B-8

疋地道代：医療従事者のメンタルヘルス。平成29年度大阪医療センター新採用臨床研修医オリエンテーション、大阪、2017年4月12日

廣常秀人：(司会) ストレスチェックから1年半—その現状と、課題そして対応—生活充実度も含めて— (演者：大阪樟蔭女子大学心理学科名誉教授 夏目誠)、安全衛生研修、大阪、2017年5月16日

疋地道代：対人関係がうまくいかない職員に対して。公益財団法人大阪府看護協会市東支部教育講演、大阪、2017年5月30日

疋地道代：成人の人格・行動の障害、心理的発達障害。大阪医療センター看護学校講義、大阪、2017年10月13日

山路國弘：神経症状障害、ストレス関連障害、身体表現性障害。大阪医療センター看護学校講義、大阪、2017年10月20日

山路國弘：生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群。大阪医療センター看護学校講義、大阪、2017年11月24日

疋地道代：精神遅滞、小児期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害。大阪医療センター看護学校講義、大阪、2017年12月8日

B-9

疋地道代：総合診療医ドクターG「意識がない」原稿監修、NHK総合、2017年5月10日（再放送5月13日）

消化器内科

石田 永

消化器内科・肝臓内科は、①肝炎・肝癌診療、②内視鏡治療、③消化器癌に対する化学療法を診療の3つの柱にしています。論文発表や学会発表も、この3つの柱を中心に活動しています。

C型肝炎およびB型肝炎に対する抗ウイルス療法ですが、その診療患者数が日本でも常にトップクラスにランクされ、国内のみならず海外の学会・学術誌に情報発信しています。C型肝炎治療はインターフェロンフリーの時代に入り、100%に近いウイルス排除率が得られていますが、心機能への影響や腎機能低下例での選択が課題になっており、この点を検討しています。当科のB型肝炎に対する抗ウイルス剤（特に核酸アナログ）治療も国内で高い評価を受けている領域です。核酸アナログの治療成績は、国立病院機構ネットワーク共同研究の主任研究者としてとりまとめています。肝癌においては治療困難なラジオ波焼灼術症例にも対応し、また若手医師の技術指導にも熱心に取り組んでいます。

内視鏡治療では、早期胃癌に対する粘膜下層剥離術（ESD）に力を入れ、診療レベルの向上をはかってきました。そして適応拡大病変の検討や安全性の評価を発表しています。特に抗凝固剤、抗血小板薬が投与されている症例の検討を国内外に発信しています。

消化器癌に対する化学療法は今や最も活発に論文発表や学会発表を行っている領域です。特に胆道系悪性腫瘍、膵臓癌は増加傾向にあり、今後も先進医療を行っていきます。また、新規薬剤の開発に伴い胃癌・大腸癌の化学療法も日々進歩しており、エビデンスに基づいた診療を行うとともに、その成績の検討に取り組んでいます。

上記の他にも、臨床的に稀な症例や貴重な経験症例の報告をしています。特に症例報告は専修医・研修医の初めての学会発表の場として、消化器内科をあげて指導に力を入れています。今後も、診療・教育とともに臨床研究の成果を国内外に発信していきたいと思います。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Sakakibara Y, Nakazuru S, Kodama Y, Mita E : Acute pancreatitis caused by cytomegalovirus-associated duodenal papillitis. 「Ann Gastroenterol」 31(1) : P122, 2018年1月

Akasaka T, Tonai Y, Hamada K, Takeuchi Y, Uedo N, Ishihara R, Iishi H : Dive to the Underwater World: A Water Immersion Technique for Endoscopic Submucosal Dissection of Gastric Neoplasms. 「Am J Gastroenterol」 112(7) : P985, 2017年7月

Hamada K, Ishihara R, Yamasaki Y, Hanaoka N, Yamamoto S, Arao M, Suzuki S, Iwatsubo T, Kato M, Tonai Y, Shichijo S, Matsuura N, Nakahira H, Kanesaka T, Akasaka T, Takeuchi Y, Higashino K, Uedo N, Iishi H, Kanayama N, Hirata T, Kawaguchi Y, Konishi K, Teshima T : Efficacy and Safety of Endoscopic Resection Followed by Chemoradiotherapy for Superficial Esophageal Squamous Cell Carcinoma: A Retrospective Study. 「Clin Transl Gastroenterol」 8(8) : e110. 2017年8月3日

Yamasaki Y, Uedo N, Takeuchi Y, Higashino K, Hanaoka N, Akasaka T, Kato M, Hamada K, Tonai Y, Matsuura N, Kanesaka T, Arao M, Suzuki S, Iwatubo T, Shichijo S, Nakahira H, Ishihara R, Iishi H : Underwater endoscopic mucosal resection for superficial nonampullary duodenal adenomas. 「Endoscopy」 50(2) : P154-158, 2018 年 2 月

Hamada K, Takeuchi Y, Ishikawa H, Ezoe Y, Arao M, Suzuki S, Iwatubo T, Kato M, Tonai Y, Shichijo S, Yamasaki Y, Matsuura N, Nakahira H, Kanesaka T, Yamamoto S, Akasaka T, Hanaoka N, Higashino K, Uedo N, Ishihara R, Okada H, Iishi H : Safety of cold snare polypectomy for duodenal adenomas in familial adenomatous polyposis: a prospective exploratory study. 「Endoscopy」 2018 年 1 月 19 日

Yamasaki Y, Takeuchi Y, Uedo N, Kanesaka T, Kato M, Hamada K, Tonai Y, Matsuura N, Akasaka T, Hanaoka N, Higashino K, Ishihara R, Okada H, Iishi H : Efficacy of traction-assisted colorectal endoscopic submucosal dissection using a clip-and-thread technique: A prospective randomized study. 「Dig Endosc」 2018 年 2 月 9 日

Akasaka T, Takeuchi Y, Ishida H, Mita E : A novel gel immersion technique using a bipolar needle-knife in endoscopic submucosal dissection for superficial gastrointestinal neoplasms. 「Ann Gastroenterol」 31(2) : P247, 2018 年 3-4 月

Tonai Y, Ishihara R, Yamasaki Y, Arao M, Iwatubo T, Kato M, Suzuki S, Hamada K, Shichijo S, Matsuura N, Kanesaka T, Nakahira H, Yamamoto S, Akasaka T, Hanaoka N, Takeuchi Y, Higashino K, Uedo N, Tomita Y, Iishi H : Impact of electrosurgical unit mode on post esophageal endoscopic submucosal dissection stricture in an in vivo porcine model. 「Endosc Int Open」 6(3) : E376-E381, 2018 年 3 月

Hamada K, Takeuchi Y, Kubo C, Tomita Y, Omori M, Uedo N, Ishihara R, Yamasaki Y, Yamamoto S, Akasaka T, Hanaoka N, Higashino K, Okada H, Iishi H : Sporadic Minute Pharyngeal Xanthomas Detected Incidentally During Esophagogastroduodenoscopy: A Case Series. 「Head Neck Pathol」 2018 年 3 月 19 日

Tsujii Y, Hayashi Y, Kawai N, Yamada T, Yamamoto K, Hayashi S, Yoshii S, Nagai K, Inoue T, Nishida T, Iijima H, Mita E, Inoue A, Takehara T : Risk of perforation in balloon dilation associated with steroid injection for preventing esophageal stricture after endoscopic submucosal dissection. 「Endosc Int Open」 5(7) : E573-E579, 2017 年 6 月 23 日

Yoshio T, Tomida H, Iwasaki R, Horiuchi Y, Omae M, Ishiyama A, Hirasawa T, Yamamoto Y, Tsuchida T, Fujisaki J, Yamada T, Mita E, Ninomiya T, Michitaka K, Igarashi M : Effect of direct oral anticoagulants on the risk of delayed bleeding after gastric endoscopic submucosal dissection. 「Dig Endosc」 29(6):686-694, 2017 年 9 月

Morishita N, Hiramatsu N, Oze T, Urabe A, Tahata Y, Yamada R, Yakushijin T, Hosui A, Iio S, Yamada A, Hagiwara H, Mita E, Yamada Y, Ito T, Inada M, Katayama K, Yabuuchi I, Imai Y, Hikita H, Sakamori R, Yoshida Y, Tatsumi T, Hayashi N, Takehara T : Ultra-deep sequencing analysis of resistance-associated variants during retreatment with simeprevir-based triple therapy after failure of telaprevir-based triple

therapy in patients with genotype 1 hepatitis C virus infection. 「Hepatol Res」 47(8):773-782, 2017 年 7 月

Hirao M, Yamada T, Michida T, Nishikawa K, Hamakawa T, Mita E, Mano M, Sekimoto M : Peritoneal Seeding after Gastric Perforation during Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Cancer. 「Dig Surg」 2017 年 11 月 8 日

A-2

中水流正一、三田英治：肝機能障害・高ビリルビン血症一起因薬物の早期中止を－「乳がん薬物療法副作用マネジメントプロのコツ」増田慎三編集、P.178-181、メディカルビュー社、東京、2017 年 9 月 14 日

A-3

赤坂智史、竹内洋司、上堂文也：大腸ポリープに対する underwater EMR のコツと実際「日本消化器内視鏡学会雑誌」60(2) : P174-179、2018 年

B-1

Sakane S, Hikita H, Tanaka S, Shirai K, Mizutani N, Myojin Y, Shiode Y, Nozaki Y, Saito Y, Nakabori T, Kodama T, Sakamori R, Tatsumi T, Takehara T: Autophagic changes of both adipose tissues and the liver induced by high fat diet feeding contribute to hepatic lipid accumulation. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases, Washington DC, 2017 年 10 月 23 日

B-2

Shoji A, Hasegawa H, Fujii Y, Kato S, Kiyota R, Shinkai K, Tashiro T, Ishihara A, Iwasaki T, Tanaka T, Akasaka T, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Hirao M, Mita E : Efficacy and prognostic factor analysis in second-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer. American Society of Clinical Oncology 2018, San Francisco, 2018 年 1 月 18 日

Hasegawa H, Mitani S, Wakatsuki T, Hara H, Takahari D, Chin K, Hirao M, Kadowaki S, Muro K : Systemic chemotherapy for gastric cancer with early recurrence after adjuvant S-1 monotherapy: a multicenter retrospective study. American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2018, San Francisco, 2018 年 1 月 18 日

Kato S, Yamada T, Fujii Y, Shoji A, Kiyota R, Shinkai K, Tashiro T, Ishihara A, Iwasaki T, Tanaka S, Hasegawa H, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Mita E : *Helicobacter pylori* infection status in human immunodeficiency virus-positive patients. United European Gastroenterology 2017, Barcelona, 2017 年 10 月 30 日

Shiode Y, Hikita H, Tanaka S, Sakane S, Nozaki Y, Kai Y, Nakabori T, Saito Y, Sakamori R, Tatsumi T, Takehara T: HCV-infected hepatocytes inhibit autophagic flux and suppress HCV replication through up-regulation of Rubicon expression. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases, Washington DC, 2017 年 10 月 21 日

Nozaki Y, Hikita H, Tanaka S, Sakane S, Murai K, Shiode Y, Kai Y, Makino Y, Nakabori T, Saito Y, Kodama T, Sakamori R, Tatsumi T, Takehara T: Continuous hepatocyte apoptosis accelerates diethylnitrosamine-induced liver tumor development. The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases, Washington DC, 2017年10月23日

Kiyota R, Yamada T, Kato S, Shoji A, Shinkai K, Tashiro T, Nakagawa K, Ishihara A, Iwasaki T, Nishio K, Hasegawa H, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Uehira T, Mita E: Utility of Immunostaining in the Diagnosis of Gastrointestinal Kaposi's Sarcoma Related to Acquired Immunodeficiency Syndrome: A Retrospective Study. DDW 2017, Chicago, 2017年5月7日

B-3

石田 永、石原朗雄、三田英治：HIV 感染を伴うC型慢性肝炎に対するインターフェロンフリーゲンの成績について。第53回日本肝臓学会総会、広島、2017年6月8日

長谷川裕子、平尾素宏、三田英治：Management of chemotherapy in elderly patients with metastatic gastric cancer. 第59回日本消化器病学会大会、福岡、2017年10月12日

赤坂智史、竹内洋司、石原 立：バイポーラナイフを用いた浸水下食道ESDの実施可能性。第93回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017年5月13日

榎原祐子、山田拓哉、三田英治：HIV感染者にみられる消化管感染症。第93回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017年5月11日

榎原祐子、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、田代 拓、清田良介、新海数馬、岩崎哲也、石原朗雄、田中聰司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：当院における上部消化管出血に対する緊急内視鏡検査の現状。第14回日本消化管学会総会学術集会、東京、2018年2月9日

齋藤義修、疋田隼人、甲斐優吾、野崎泰俊、牧野祐紀、中堀 輔、田中聰司、小玉尚宏、阪森亮太郎、巽 智秀、竹原徹郎：NAFLDの病態における肝細胞DNaseIIの役割。第103回日本消化器病学会総会、東京、2017年4月22日

野崎泰俊、疋田隼人、田中聰司、明神悠太、坂根貞嗣、塩出悠登、村井一裕、甲斐優吾、牧野祐紀、中堀 輔、齋藤義修、小玉尚宏、阪森亮太郎、巽 智秀、竹原徹郎：持続的肝細胞アポトーシスは、DEN誘発性腫瘍形成を促進させる。第53回日本肝臓学会総会、広島、2017年6月8日

坂根貞嗣、疋田隼人、田中聰司、明神悠太、塩出悠登、野崎泰俊、齋藤義修、中堀 輔、小玉尚宏、阪森亮太郎、巽 智秀、竹原徹郎：肝臓と脂肪組織のオートファジーによる肝脂肪蓄積制御、第53回日本肝臓学会総会、広島、2017年6月9日

野崎泰俊、疋田隼人、田中聰司、明神悠太、牧野祐紀、齋藤義修、小玉尚宏、阪森亮太郎、巽 智秀、竹原徹郎：持続的肝細胞アポトーシスはDEN誘発性肝発癌を促進させる。第76

回日本癌学会学術総会、横浜、2017年9月30日

B-4

新海数馬、榎原祐子、加藤聖也、庄司絢香、清田良介、田代 拓、中川健太郎、石原朗雄、岩崎哲也、西尾公美子、長谷川裕子、山田拓哉、中水流正一、石田 永、三田英治：当院における大腸ステント留置術の成績。第93回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017年5月12日

新海数馬、石田 永、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、清田良介、田代 拓、石原朗雄、岩崎哲也、田中聰司、長谷川裕子、赤坂智史、榎原祐子、中水流正一、三田英治：当院におけるエンテカビル治療中のHBs抗原価の推移。第21回日本肝臓学会大会、福岡、2017年10月13日

庄司絢香、長谷川裕子、加藤聖也、清田良介、新海数馬、田代 拓、中川健太郎、石原朗雄、岩崎哲也、西尾公美子、榎原祐子、山田拓哉、中水流正一、石田 永、平尾素宏、三田英治：当院における高齢者切除不能胃癌に対する化学療法の検討。第59回日本消化器病学会大会、福岡、2017年10月14日

庄司絢香、榎原祐子、中川健太郎、加藤聖也、清田良介、新海数馬、田代 拓、石原朗雄、岩崎哲也、西尾公美子、長谷川裕子、山田拓哉、中水流正一、石田 永、三田英治：虚血性大腸炎の発症部位別にみた背景疾患と臨床経過の検討。第93回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017年5月13日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、西尾公美子、榎原祐子、山田拓哉、中水流正一、石田 永、平尾素宏、三田英治：転移を有する切除不能大腸癌の予後とその予後に影響を与える因子についての検討。第15回日本臨床腫瘍学会、神戸、2017年7月29日

Wakatsuki T, Mitani S, Hara H, Takahari D, Chin K, Hasegawa H, Hirao M, Kadokami S, Muro K : Chemotherapy for gastric cancer with early recurrence after adjuvant S-1 monotherapy: a multicenter retrospective study. 第15回日本臨床腫瘍学会、神戸、2017年7月27日

赤坂智史、荒尾真道、鈴木 翔、岩坪太郎、七條智聖、中平博子、加藤 穂、濱田健太、東内雄亮、山崎泰史、松浦倫子、金坂 順、山本幸子、鼻岡 昇、竹内洋司、東野晃治、上堂文也、石原 立、飯石浩康：当院における広基性大腸ポリープに対するUnderwater EMRの治療成績。第93回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017年5月11日

田代 拓、山田拓哉、加藤聖也、庄司絢香、新海数馬、清田良介、中川健太郎、岩崎哲也、石原朗雄、長谷川裕子、西尾公美子、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：肝硬変を合併した血友病患者に対する内視鏡的食道胃静脈瘤治療の検討。第93回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017年5月11日

加藤聖也、山田拓哉、藤井祥史、庄司絢香、清田良介、新海数馬、田代 拓、中川健太郎、石原朗雄、岩崎哲也、田中聰司、赤坂智史、西尾公美子、長谷川裕子、榎原祐子、中水流正

二、石田 永、三田英治：当院における HIV 感染者の *H.pylori* 感染に関する検討。第 93 回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017 年 5 月 12 日

清田良介、山田拓哉、庄司綱香、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、中川健太郎、岩崎哲也、石原朗雄、西尾公美子、長谷川裕子、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：HIV 感染者に発症した消化管カポジ肉腫に対する内視鏡的診断と病理組織診断の検討。第 93 回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017 年 5 月 12 日

中川健太郎、山田拓哉、庄司綱香、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、清田良介、岩崎哲也、石原朗雄、西尾公美子、長谷川裕子、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：HIV 感染者に認めた食道潰瘍についての検討。第 93 回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017 年 5 月 12 日

榎原祐子、藤井祥史、庄司綱香、加藤聖也、田代 拓、清田良介、新海数馬、岩崎哲也、石原朗雄、田中聰司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：閉塞性大腸癌に対する Bridge to Surgery としての大腸ステントの有用性の検討。第 59 回日本消化器病学会大会、福岡、2017 年 10 月 13 日

B-5

石原朗雄、田中聰司、石田 永、三田英治：HIV/HBV 重複感染者に対する TDF 含有 ART における反応不良例の解析。第 107 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2017 年 9 月 23 日

清田良介、石原朗雄、加藤聖也、庄司綱香、田代 拓、新海数馬、中川健太郎、岩崎哲也、長谷川祐子、西尾公美子、山田拓哉、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：胆管障害予防のため ENBD tube から冷却水還流下にラジオ波焼灼術を施行した一例。第 53 回日本肝癌研究会、東京、2017 年 7 月 6 日

藤井祥史、石原朗雄、加藤聖也、庄司綱香、清田良介、田代 拓、新海数馬、岩崎哲也、田中聰司、長谷川祐子、赤坂智史、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：ソラフェニブ投与中に重篤な間質性肺炎をきたし死亡した一例。第 42 回日本肝臓学会西部会、福岡、2017 年 11 月 30 日

庄司綱香、長谷川裕子、石田 永、三田英治：高齢者切除不能胃癌に対するシスプラチン併用療法と予後について。第 107 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2017 年 9 月 6 日

岩崎哲也、中水流正一、石田 永、三田英治：胆管炎を合併した悪性腫瘍術後再建腸管症例に対するダブルバルーン内視鏡を用いた ERCP の有用性に関する検討。第 107 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2017 年 9 月 23 日

谷田将志、田中聰司、新海数馬、石原朗雄、長谷川裕子、赤坂智史、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：ステロイド投与が奏効した IgA 血管炎に伴う多発十二指腸潰瘍の一例。第 217 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2017 年 9 月 16 日

河本泰治、田中聰司、石原朗雄、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、清田良介、新海数馬、田代拓、岩崎哲也、長谷川裕子、赤坂智史、榎原祐子、中水流正一、石田永、三田英治：Gilbert症候群に遺伝性球状赤血球症が合併し著明な間接型優位の高ビリルビン血症を呈した一例。第42回日本肝臓学会西部会、福岡、2017年11月30日

三田英治、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、清田良介、新海数馬、田代拓、岩崎哲也、石原朗雄、長谷川裕子、赤坂智史、田中聰司、榎原祐子、中水流正一、石田永：HIV感染合併 Genotype 3型 C型肝炎に対する Sofosbuvir・Ribavirin 併用 24週治療の成績。第42回日本肝臓学会西部会、福岡、2017年11月30日

B-6

東優希、岩崎哲也、加藤聖也、庄司絢香、清田良介、新海数馬、田代拓、中川健太郎、石原朗雄、西尾公美子、長谷川裕子、榎原祐子、山田拓哉、中水流正一、石田永、三田英治：1型 von Willebrand 病（vWD）に合併した上部空腸 angiodysplasia からの出血に対し、止血処置した1例。第98回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、神戸、2017年6月17日

岩崎哲也、山田拓哉、加藤聖也、庄司絢香、清田良介、新海数馬、田代拓、中川健太郎、石原朗雄、西尾公美子、長谷川裕子、榎原祐子、中水流正一、石田永、三田英治：術後再建腸管症例の肝内結石に対し経口胆道鏡（Spyglass DS）を用いて効率的に採石し得た一例。第98回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、神戸、2017年6月17日

榎原祐子、山田拓哉、清田良介、庄司絢香、加藤聖也、新海数馬、田代拓、中川健太郎、石原朗雄、岩崎哲也、長谷川裕子、西尾公美子、山田拓哉、中水流正一、石田永、三田英治：当院における胃 MALT リンパ腫の内視鏡診断と治療。第23回日本ヘリコバクター学会、函館、2017年7月1日

宮崎哲郎、榎原祐子、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、新海数馬、清田良介、田代拓、石原朗雄、岩崎哲也、田中聰司、赤坂智史、中水流正一、石田永、三田英治：クローン病に併発した IgA 血管炎の1例。第107回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2017年9月23日

B-8

石田永：難治性肝胆疾患の診断について。難病指定研修、大阪、2017年9月30日

石田永：B型肝炎の病態と最新の薬物療法。大阪市中央区東医師会学術講演会、大阪、2017年10月11日

石田永：B型肝炎治療の最近の話題。大阪消化器懇話会、大阪、2017年12月8日

石原朗雄：肥満と脂肪肝。第58回おおさか健康セミナー、大阪、2017年1月28日

榎原祐子：施設における UC 診療－特に Bio 導入の適応とタイミングについて。総合消化器内科医にとっての UC 診療を考える会、大阪、2017年7月13日

榎原祐子：潰瘍性大腸炎の診療と治療について。Expart Pharmacist Seminar、大阪、2017年10月18日

榎原祐子：大阪医療センターにおけるIBD治療。東成区医師会生涯教育講演会、大阪、2017年11月15日

榎原祐子：最近増えている炎症性腸疾患について。鶴見区医師会学術講演会、大阪、2018年2月27日

榎原祐子：IBDと鑑別を要する感染性腸炎について。法円坂GIカンファレンス、大阪、2018年3月22日

三田英治：GT3に対する治療について。第5回Japan HIV and Hepatitis Study Group研究会、東京、2017年7月2日

庄司絢香、田中聰司、石田永、三田英治：当院におけるDAA治療の現況。国立病院機構ネットワーク研究〔肝疾患〕班会議、長崎、2017年7月7日

三田英治：B型肝炎～あなたのB型肝炎、わたしたちが制御します～。平成29年度日本肝臓学会近畿地区市民公開講座『肝臓病は治る時代へ—最新の治療をあなたに！—』、吹田、2017年7月30日

三田英治：HIV感染症と肝炎。HIV研修会、大阪、2017年10月4日

三田英治：HIV感染症に合併する肝炎の診断と治療。大阪府医師会 平成29年度HIV医療講習会、大阪、2017年11月1日

三田英治：C型肝炎の征圧とB型肝炎の制御。難病医療相談会、神戸、2017年12月17日

三田英治：HIV感染者のウイルス肝炎治療。LUMIPULSE Forum 2018、大阪、2018年2月10日

三田英治：C型肝炎の制圧とB型肝炎の制御。大阪市中央区東医師会・法円坂地域医療フォーラム、大阪、2018年3月17日

三田英治：B型肝炎の最新治療とこれからの展望について。B型肝炎治療に関する医療講演&訴訟に関する個別相談、大阪、2018年3月18日

循環器内科

上田恭敬

エビデンスに基づいて治療方針が決まる現在において、よりよい治療方針を考えるために臨床研究が非常に重要である。まずは後ろ向き研究によって日々の臨床経験の中から仮説を導きだし、前向き試験によって検証することになる。後ろ向き研究をおこなうためには、日常診療において研究標的とする疾患を多く治療して、解析に耐えるデータベースをもつことが不可欠である。まずは、急性心不全、急性冠症候群、院外心停止、心房細動についての良質なデータベースを作ることを目標としている。そのためには一貫した治療方針に従って日々の診療をおこない、十分な検査結果や診察結果、問診結果などをカルテに残すことが重要である。その一環として、心臓カテーテル検査においては、各種血管内画像診断（IVUS, OCT, 血管内視鏡, spectroscopyなど）による病変評価を積極的におこない、新しく登場する診断技術は積極的に取り入れている。さらに、従来から存在する心エコーや冠動脈 CT も積極的に活用することで、現時点で可能な最先端の診断・治療の実践を目指している。日々のカンファレンスにおける徹底的な病態・治療方針の検討、データベースとして利用可能なカルテの改良などに取り組んでいる。

現在、急性心不全および急性冠症候群について、病態解明、発症機序解明と新しい診断法・治療法・予防法の開発を第一の目標としている。急性心不全については心エコーを中心とした研究を、急性冠症候群については血管内視鏡および T-TAS による血液血栓形成能を中心とした研究を進めている。また、大動脈における動脈硬化が大動脈疾患や脳梗塞のみならず、腎障害や ASO さらには認知症の原因となる可能性が示唆されており、大動脈内視鏡を用いた研究も始めている。

さらに、より大きな臨床試験によるエビデンスの確立や、発見した内容の臨床応用を目指して、大阪大学循環器内科関連病院を中心とした共同研究や、日本循環器学会を中心とした活動への展開も進めている。具体的には、大阪大学循環器内科関連病院による HFpEF の共同研究や、日本循環器学会による STOP MI キャンペーンを進めている。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Sugihara R, Ueda Y, Nishimoto Y, Takahashi K, Nakano T, Higuchi Y, Kashiwase K, Hirata A, Takeda Y, Yasumura Y : Angioplasty of the Occluded Persistent Sciatic Artery Using the Retrograde Approach from Superficial Femoral Artery. 「Ann Vasc Surg」 2017 Jul;42:299.e1-299.e5. 2017年 5月 9日

Yokoi K, Hara M, Ueda Y, Sumitsuji S, Awata M, Youssef K Salah, Kabata D, Shintani A, Sakata Y : Ideal Guiding Catheter Position During Bilaterally Engaged Percutaneous Coronary Intervention 「Am J Cardiol.」 2017;119:1518-1524, 2017年 5月 15日

Ueda Y, Hiro T, Hirayama A, Komatsu S, Matsuoka H, Takayama T, Ishihara M, Hayashi T, Saito S, Kodama K : Effect of Ezetimibe on Stabilization and Regression of Intracoronary Plaque -The ZIPANGU Study- 「Circ J」 2017 Oct 25;81(11):1611-1619. 2017年 6月 8日

Nakamura M, Ijima R, Ako J, Shinke T, Okada H, Ito Y, Ando K, Anzai H, Tanaka H, Ueda Y, Takiuchi S, Nishida Y, Ohira H, Kawaguchi K, Kadotani M, Niinuma H, Omiya K, Morita T, Zen K, Yasaka Y, Inoue K, Ishiwata S, Ochiai M, Hamasaki T, Yokoi H; NIPPON Investigators.: Dual Antiplatelet Therapy for 6 Versus 18 Months After Biodegradable Polymer Drug-Eluting Stent Implantation 「JACC Cardiovasc Interv.」 2017;10(12):1189-1198, 2017年6月26日

Yokoi K, Hara M, Ueda Y, Yamamoto K, Ota K, Kabata D, Kitamura T, Sakata Y, Shintani A : Epidemiological and outcome data in Japanese patients with deep vein thrombosis with and without malignancy 「Heart Vessels」 2017 Dec;32(12):1469-1477, 2017年7月24日

Nishimoto Y, Ueda Y, Sugihara R, Murakami A, Ueno K, Takeda Y, Hirata A, Kashiwase K, Higuchi Y, Yasumura Y : Comparison of angiographic findings among second-generation drug-eluting stents. 「J Cardiol.」 2017 ;70(3):297-302, 2017年11月28日

Sakaguchi T, Watanabe M, Kawasaki C, Kuroda I, Abe H, Date M, Ueda Y, Yasumura Y, Koretsune Y : A novel scoring system to predict delirium and its relationship with the clinical course in patients with acute decompensated heart failure. 「J Cardiol」 2017 Dec 26. pii: S0914-5087(17)30341-6. doi: 10.1016/j.jcc.2017.11.011, 2017年12月26日

Kawakami R, Hao H, Imanaka T, Shibuya M, Ueda Y, Tsujimoto M, Ishibashi-Ueda H, Hirota S : Initial pathological responses of second-generation everolimus-eluting stents implantation in Japanese coronary arteries: Comparison with first-generation sirolimus-eluting stents 「J Cardiol.」 2017 Dec 23. pii: S0914-5087(17)30339-8. doi: 10.1016/j.jcc.2017.11.009, 2017年12月23日

Okada M, Kashiwase K, Hirata A, Takeda Y, Amiya R, Ueda Y, Higuchi Y, Yasumura Y : Clinical influence and predictors of pacing-induced mechanical asynchrony in patients with normal cardiac function with ventricular lead placed on non-apical position: analysis based on intrinsic conduction disturbance 「International Heart Journal」 in press.

Kuroda K, Shinke T, Otake H, Kinutani H, Iijima R, Ako J, Okada H, Ito Y, Ando K, Anzai H, Tanaka H, Ueda Y, Takiuchi S, Nishida Y, Ohira H, Kawaguchi K, Kadotani M, Niinuma H, Omiya K, Morita T, Zen K, Yasaka Y, Inoue K, Ishiwata S, Ochiai M, Hamasaki T, Urasawa K, Kataoka T, Yoshiyama M, Fujii K, Inoue T, Kawata M, Yokoi H, Nakamura M; NIPPON investigators : Vascular response to biolimus A-9 eluting stent in patients with shorter and prolonged dual antiplatelet therapy: optical coherence tomography sub-study of the NIPPON trial. 「Heart Vessels.」 2018 Feb 20. doi: 10.1007/s00380-018-1131-7. 2018年2月20日

Okada M, Hirata A, Kashiwase K, Takeda Y, Nemoto T, Matsuo K, Ueno K, Nishimoto Y, Sugihara R, Murakami A, Ueda Y, Yasumura Y : Fibrillatory pattern of dissociated venous activity after pulmonary vein isolation: Novel characteristics for remnant foci of a trigger ectopy for atrial fibrillation. 「J Cardiol.」 2017 Jun;69(6):859-867, 2017年6月20日

Ueda Y : New Strategy to Prevent Acute MI in Japan 「Journal of Cardiology & Cardiovascular Therapy」
2017; 5(2): 555-656. 2017年5月3日

A-3

西田博毅、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、安村かおり、依藤弘紀、井手本明子、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏：短腸症候群・人工透析に合併したセレン・アルギニン低下により左室機能低下を認めた一例「日本内科学会雑誌」
106巻4号 828-833、日本内科学会、2017年4月10日

安村かおり：マラソン中に急性冠症候群を発症し、心肺停止となった一例「心臓」
2017;49(1):73-78. 日本医学出版、2018年1月17日

A-4

上田恭敬：急性冠症候群を発症するリスクをFFRで評価できるか「ジャーナル四天王」665、
CareNet.com、2017年4月13日

上田恭敬：血管内視鏡の現状と展望「循環器内科」2017; 81 (6): 567-570、科学評論社、2017
年6月1日

上田恭敬：CCUの立場からみた特定集中医療制度「Heart View」2017; 21:37-40、メディカルビュー
ー社、2017年9月9日

上田恭敬：NSTE-ACS症例に対するPCI施行の適切なタイミングは？「ジャーナル四天王」737、
CareNet.com、2017年9月27日

上田恭敬：血小板機能検査に基づく抗血小板療法の調節は意味がない？「ジャーナル四天王」
751、CareNet.com、2017年10月24日

上田恭敬：まだBMSを使う必要があるか？「ジャーナル四天王」769、CareNet.com、2017年
11月27日

上田恭敬：新しいDESはXienceを超えるか？「ジャーナル四天王」787、CareNet.com、2017
年12月27日

廣 高史、小松 誠、藤井洋之、高山忠輝、上田恭敬、樋口義治、阿部七郎、木村茂樹、角
田恒和、佐藤 明、松岡 宏、川上秀生、池田善彦、朝倉正紀、林 宏光、由谷親夫、齋藤
穎、平山篤志、児玉和久：血流維持型大動脈内視鏡診断標準化指針（NPO法人日本血管映像
化研究機構 血流維持型大動脈内視鏡診断標準化委員会編 2017年版）「心臓血管内視鏡」2018
4: 1-11、心臓血管内視鏡学会、2018年1月18日

上田恭敬：特定集中治療室管理料に対する日本循環器学会等の取り組み「ICUとCCU」
2017;41:S67-70、医学図書出版、2018年3月8日

B-1

Ueda Y: HOW TO PREDICT THE LONG-TERM OUTCOME OF NEW STENTS? The 22nd World Congress on Heart Disease, Vancouver, Canada, 2017年7月15日

安部晴彦: Interactive Echo Case Studies with the Experts (II): Diagnose It If You Can. 11th Echo Hong Kong, Hong Kong, 2017年11月26日

上田恭敬: 脂質低下療法による心血管イベント抑制の最前線。Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT) 2017, 神戸、2017年10月26日

B-2

Shinouchi K, Iida Y, Toriyama C, Nishida H, Yasumura K, Yorifuji H, Kato T, Idemoto A, Mishima T, Yokoi K, Abe H, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Impact of preexisting chronic total occlusions of the coronary artery on the outcome of out-of-hospital sudden cardiac arrest patients with acute coronary syndrome, ESC Congress 2017 - European Society of Cardiology, Barcelona, Spain, 2017年8月27日

Yokoi K: An Educational Case of Coronary Rupture. Hong Kong Society of Transcatheter Endo-cardiovascular Therapeutics, Hong Kong, 2017年5月13日

Mishima T: A Case of Mediastinal Hematoma due to injury of Left Atrial Roof Vein. "The 10th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session2017 (APHR2017)", 横浜, 2017年9月16日

Nishida H, Abe H, Yokoi K, Idemoto A, Nakamura M, Iida Y, Toriyama C, Ozaki T, Yasumura K, kato T, Shinouchi K, Mishima T, Date M, Koretsune Y: Mitral Annular Calcification Detected by Transthoracic Echocardiography is a More Robust Marker of Coronary artery Calcification than That Detected by Multidetector Computed Tomography. American Heart association, California, America, 2017年11月14日

Idemoto A, Abe H, Nakamura M, Iida Y, Toriyama C, Ozaki T, Yasumura K, Nishida H, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Incremental Value of Systemic Extracellular Water Volume Assessment by Bioelectrical Impedance Analysis and Echocardiography in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. ACC2018, Orlando, America, 2018年3月10日

B-3

上田恭敬: Public Education による新しい心筋梗塞予防法～STOP MI キャンペーン～。第82回日本循環器学会学術集会、大阪、2018年3月23日

上田恭敬: CCUにおける心室細動と監視の重要性。第65回日本心臓病学会、大阪、2017年9月30日

上田恭敬: 血管内視鏡から見た冠動脈内血栓性イベントの発症機序と冠動脈ステントの予後

予測。第31回日本心臓血管内視鏡学会、郡山、2017年10月7日

上田恭敬：冠動脈疾患の現状と課題。第58回日本脈管学会総会、名古屋、2017年10月20日

土井松幸、武居哲洋、坂本哲也、森崎 浩、上田恭敬、讚井將満、八木橋智子、笹渕裕介、林田賢史、志馬伸朗：社会保険対策委員会の活動報告。第45回日本集中治療医学会学術集会、千葉、2018年2月22日

是恒之宏：GARFIELD-AF - 国際レジストリーから見たアジア、日本の特徴 - 。第82回日本循環器学会学術集会、大阪、2018年3月24日

B-4

篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、三嶋 剛、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：慢性完全閉塞病変が急性冠症候群による心停止患者の予後に与える影響。第65回日本心臓病学会、大阪、2017年9月29日

加藤大志、三嶋 剛、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、西田博毅、安村かおり、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：生体弁による三尖弁置換術後患者に経静脈的に右室リード挿入し両心室ペーシングを行った一例。第65回日本心臓病学会、大阪、2017年9月29日

西田博毅、安部晴彦、横井研介、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：冠動脈石灰化の予測における僧帽弁輪および大動脈弁石灰化評価の有用性。第65回日本心臓病学会、大阪、2017年9月30日

Yasumura K, Abe H, Nakamura M, Nishida H, Kato T, Idemoto A, Shinouchi K, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y : Prognostic Impact of Mitral Annular Plane Systolic Excursion and Systolic Blood Pressure Ratio in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 第82回日本循環器学会学術集会、大阪、2018年3月24日

Abe H, Idemoto A, Nishida H, Yasumura K, Kato T, Nakamura M, Toriyama C, Iida Y, Ozaki T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y : Caveat of Echocardiographic Assessment of Moderate to Severe Aortic Stenosis: Comparison with Cardiac Catheterization. 第82回日本循環器学会学術集会、大阪、2018年3月24日

鳥山智恵子、安部晴彦、北林克清、西田博毅、加藤大志、井手本明子、伊達基郎、上田恭敬、榎 雅之、是恒之宏：左房に発生した原発性内膜肉腫の一例 A case of primary Intimal sarcoma of the left atrium. 第90回日本超音波医学会、栃木、2017年5月26日

朝比奈悠太、岩谷博次、小泉信太郎、長山郁恵、上田恭敬、倭 成史：下肢の血管石灰化容積（VCV）に影響する因子の検討。第61回日本腎臓学会学術総会、新潟、2017年6月8日

西本裕二、上田恭敬、平田明生、樋口義治、安村良男：第二世代薬剤溶出性ステントの血管内視鏡による比較。第 26 回日本心血管インターベンション治療学会、京都、2017 年 7 月 7 日

西田博毅、安部晴彦、横井研介、井手本明子、飯田吉則、鳥山智恵子、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏：経胸壁心エコーと心臓 CT による僧帽弁輪石灰化の不一致と冠動脈石灰化の重症度との関係。日本心エコー図学会第 28 回学術集会、名古屋、2017 年 4 月 22 日

井手本明子、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、安村かおり、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏：下大静脈の長軸断面および短軸断面での測定指標と右房圧予測に関する検討。日本心エコー図学会第 28 回学術集会、名古屋、2017 年 4 月 23 日

井手本明子、安部晴彦、篠内和也、伊達基郎、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、横井研介、上田恭敬、是恒之宏：静脈血栓塞栓症へのリバーロキサバン単独療法の下肢エコーと D ダイマーによる効果予測。JSUM 2017 日本超音波医学会第 90 回学術集会、宇都宮、2017 年 5 月 26 日

西本裕二、上田恭敬、平田明生、樋口義治、安村良男：第二世代薬剤溶出性ステントの血管内視鏡による比較。第 26 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2017、京都、2017 年 7 月 7 日

Kato T, Mishima T, Iida Y, Toriyama C, Nishida H, Yorifuji H, Yasumura K, Idemoto A, Shinouchi K, Yokoi K, Abe H, Date M, Uematsu M, Koretsune H, Ueda Y : Right Ventricular Endocardial Lead Implantation through Bioprosthetic Tricuspid Valve for Cardiac Resynchronization Therapy. 第 64 回日本不整脈心電学会、横浜、2017 年 9 月 16 日

是恒之宏、池田隆徳、上妻 謙、平野照之、来田信人、茶珍元彦：日本人非弁膜症性心房細動患者におけるワルファリンからアピキサバンへの切り替え後の患者満足度の改善について。第 65 回日本心臓病学会、大阪、2017 年 10 月 1 日

飯田吉則、安部晴彦、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：繰り返す心囊液貯留にアスピリンが著効した 1 例。第 65 回日本心臓病学会、大阪、2017 年 10 月 1 日

Idemoto A, Abe H, Yasumura K, Nishida H, Kato T, Shinouchi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Good Predictor of Right Atrial Pressure in the Inferior Vena Cava Parameters by 2-Dimensional Echocardiography. 第 21 回日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 13 日

Iida Y, Abe H, Yasumura K, Shinouchi K, Mishima T, Yokoi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Improvement of diuretic resistance by correction of anemia by blood transfusion in a patient with congestive heart failure. 第 21 回日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 13 日

Yasumura K, Abe H, Kato T, Iida Y, Mishima T, Yokoi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y:
Nutritional Assessment Indices in Heart Failure with and without Reduced Exercise Tolerance. 第 21 回日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 13 日

Kato T, Abe H, Yasumura K, Iida Y, Mishima T, Yokoi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y:
Addition of a Thiazide Diuretic May Have Beneficial Effects on Exercise Capacity in a Case of Hypertension. 第 21 回日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 14 日

石田健一郎、木下順弘、小島将裕、田中太助、家城洋平、中倉晴香、田尻昌士、峰松佑輔、上田恭敬、定光大海：病院到着時 VF 症例において良好な神経学的転帰が期待できる因子の検討。第 45 回日本集中治療医学会学術集会、千葉、2018 年 2 月 23 日

彦惣俊吾、砂真一郎、小島貴行、中谷大作、土肥智晴、世良英子、中本 敬、山田貴久、安村良男、上松正朗、樋口義治、藤 久和、坂田泰史：A Large Scale Multicenter Prospective Observational Study to Clarify Complexity of Heart Failure with Preserved Ejection Fraction (HFpEF) -PURSUIT-HFpEF Study-. 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日

渡邊英一、安藤献児、山崎文郎、後藤利彦、浅井 徹、榎原雅樹、廣岡慶治、佐藤俊明、笠井篤信、上田希彦、菅井義尚、山川 健、徳永 育、上田恭敬、山本克人、田中数彦、平松茂樹、荒川友晴：At Home Study: Safety and Efficacy of the Management of Pacemaker Patients via Home Monitoring versus Conventional In-Office Follow-ups. 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日

石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畠 陽介、上松正朗、真野敏昭：急性心筋梗塞に対するプラチナクロムエベロリムス溶出性ステント留置後亜急性期の血栓性の検討。第 37 回心筋梗塞研究会、東京、2017 年 7 月 1 日

朝比奈悠太、岩谷博次、小泉信太郎、高折佳央梨、富山陽子、上田恭敬、倭 成史：冠動脈石灰化指数 (CACS) 及び石灰化容積 (CACV) に影響する因子の検討。第 60 回日本腎臓学会学術集会、仙台、2017 年 5 月 26 日

B-5

栗田政樹：PCI 施行患者に対する薬物療法 最近の動向。第 26 回吹田臨床カンファレンス、豊中、2018 年 2 月 10 日

上田恭敬：冠動脈イベントの発生メカニズムと PCI 治療における抗血小板療法。第 30 回日本心血管インターベンション治療学会 近畿地方会、大阪、2018 年 2 月 10 日

B-6

安村かおり、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、西田博毅、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基朗、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：腹部大動

脈壁在血栓から下肢動脈塞栓をきたした担癌患者の一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

西田博毅、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘樹、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正郎、是恒之宏：比較的速い狭窄の進行を認めた重症大動脈弁狭窄症の一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

安部晴彦、安村かおり、加藤大志、井手本明子、西田博毅、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：大動脈弁狭窄症における心肺運動負荷試験の有用性。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

横井研介、鳥山智恵子、飯田吉則、依藤弘紀、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬：冠動脈 2 枝閉塞病変を有する下壁誘導の ST 上昇型急性心筋梗塞症例で責任病変同定に心臓 MRI が役に立った症例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、井手本明子、三嶋 剛、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性冠症候群による心停止患者の動脈血 pH と予後との関連。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

三嶋 剛、鳥山智恵子、飯田吉則、依藤弘紀、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：心房細動アブレーション中に左房天蓋静脈損傷による縦隔血腫を生じた一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

加藤大志、三嶋 剛、鳥山智恵子、飯田吉則、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：生体弁による三尖弁置換術後患者に経静脈的に右室リード挿入し両心室ペーシングを行った一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

飯田吉則、三嶋 剛、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：心室性期外収縮 2 段脈による失神を認める β 遮断薬が著効した一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

井手本明子、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、安村かおり、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：救急外来受診時に D ダイマー上昇を認めなかった急性大動脈解離の一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

尾崎立尚、安部晴彦、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、伊達基郎、上田恭敬：大血管内ステントグラフト内挿術後にうつ血性心不全をきたした1例。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

篠内和也：DES留置1年後の観察で可動性血栓を認めた一例。第8回近畿血管内視鏡研究会、大阪、2017年9月16日

尾崎立尚、三嶋 剛、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、安村かおり、西田博毅、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：長期の心不全管理にてポリファーマシーに陥った一例。第217回日本内科学会近畿地方会、大阪、2017年9月16日

井手本明子、安部晴彦、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：Dダイマー上昇の原因精査に下肢血管エコーが有用であった一例。第44回日本超音波医学会関西地方会、大阪、2017年9月23日

横井研介、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、安村かおり、西田博毅、加藤大志、井出本明子、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬：6FrシステムでのDioサポート下Rotablatorの経験。第29回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会(CVIT)、京都、2017年10月14日

横井研介、中村雅之、飯田吉則、鳥山千恵子、尾崎立尚、安村かおり、西田博毅、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬：右冠動脈近位部にできた血腫が、遠位部に留置されたステントを超えて遠位部に進展した症例。第29回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会(CVIT)、京都、2017年10月14日

鳥山智恵子、安部晴彦、中村雅之、飯田吉則、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、井手本明子、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏：末期担癌患者の静脈血栓塞栓症に対してリバロキサバン強化療法が有効であった一症例。第124回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年11月25日

安村かおり：心不全患者の運動耐容能低下有無における各種栄養指標の検討。第2回心不全非薬物療法カンファレンス、大阪、2017年12月1日

西田博毅、安部晴彦、井手本明子、安村かおり、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正明、是恒之宏：経胸壁心エコーは心臓CTより鋭敏に僧帽弁石灰化を検出し冠動脈石灰化の重症度を予測する。関西心エコリサーチクラブ、神戸、2017年12月16日

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井出本明子、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：慢性完全閉塞病変が急性冠症候群による心停止患者の予後に与える影響。第30回日本心血管

インターベンション治療学会 近畿地方会、豊中、2018年2月10日

篠内和也：冠危険因子の管理された患者の大動脈にプラーク破綻を認めた一例。第9回近畿血管内視鏡研究会、大阪、2018年2月24日

中村雅之：血管内視鏡により第2世代DESのストラットに沿ってneoatherosclerosisの進行が認められた一例。第9回近畿血管内視鏡研究会、大阪、2018年2月24日

三嶋 剛：心房細動アブレーション中に左房天蓋静脈損傷による縦隔血腫を生じた一例。第4回OSAKA EP CLUB、大阪、2017年6月8日

B-8

三嶋 剛：心房細動のアブレーションの温故知新。Meet the Heart Rhythm Expert、大阪、2018年3月2日

三嶋 剛：Brugada心電図で紹介された一例。ICD適応を考える会、大阪、2018年3月8日

三嶋 剛：心房細動マネジメント up to date～抗凝固療法とカテーテルアブレーションの話題を中心に。東医師会「4月学術講習会」、大阪、2017年4月26日

上田恭敬：積極的コレステロール低下療法によるPCI後のイベント予防～Beyond Statin～。第10回さいたまアテローム血栓症研究会、大宮、2017年4月18日

上田恭敬：心筋梗塞。第59回おおさか健康セミナー、大阪、2017年6月3日

三嶋 �剛：心房細動。第59回おおさか健康セミナー、大阪、2017年6月3日

安部晴彦：心不全。第59回おおさか健康セミナー、大阪、2017年6月3日

安部晴彦：担癌患者VTEに対するDOAC使用症例の検討。OSAKA VTE Expert Meeting 2017、大阪、2017年7月21日

伊達基郎：冠動脈・末梢動脈のカテーテル治療再狭窄は克服できたのか？大阪市中央区南医師会学術講演会、大阪、2017年7月22日

上田恭敬：急性心筋梗塞予防における血液血栓源性への介入の可能性。大阪心筋梗塞研究会、大阪、2017年8月29日

横井研介：循環器疾患における不飽和脂肪酸の意義。高齢者Clinical Seminar、吹田、2017年8月31日

安部晴彦：心不全の病態と治療のエビデンス。第15回 中央区開業医病診連携の会、大阪、2017年9月14日

上田恭敬："私流の使い方～PCSK9阻害薬「プラルエント」。<http://www.carenet.com/>
<https://e-mr.sanofi.co.jp/> プラルエントページ：<https://e-mr.sanofi.co.jp/products/praluent/>、大阪、
2017年10月1日

是恒之宏：NVAF患者におけるDOACの重要性。MASTER CLASS in OSAKA、大阪、2017年
10月20日

西田博毅：透析患者に対するアミノ酸補充の可能性。第2回城南腎臓病連携セミナー、大阪、
2017年10月26日

上田恭敬：PRASFIT-ACS and clinical practice of ACS treatment in Japan. Korea-Japan Joint RTD for
ACS、神戸、2017年10月27日

上田恭敬：脂質低下療法と心血管イベント残余リスクへのアプローチ。KOWA WEB
CONFERENCE、大阪、2017年11月14日

上田恭敬：脂質低下療法による心血管イベント抑制の最前線。Zetia Treat to Target Meeting in 南
大阪、堺、2017年11月17日

栗田政樹：薬剤溶出性ステント留置部分を血管内視鏡でみる。姫路脂質異常症懇話会、姫路、
2017年11月9日

鳥山智恵子：フロリネフ導入により急性憎悪を来たしたMRHE合併心不全の症例からの考察。
循環器若手集談会、大阪、2017年11月24日

中村雅之：右冠動脈の血栓性閉塞病変に対する待機的ステント留置術後に再度血栓閉塞を來
し心肺停止となった一例。第35回国立大阪医療センター循環器病談話会、大阪、2018年1
月20日

鳥山智恵子：末期担癌患者者の静脈血栓塞栓症に対してリバーロキサバン強化療法が有効で
あった一例。第35回国立大阪医療センター循環器病談話会、大阪、2018年1月20日

篠内和也：非典型的症状の原因が冠動脈疾患であった二症例。第35回国立大阪医療センター
循環器病談話会、大阪、2018年1月20日

栗田政樹：PCI施行患者に対する薬物療法 最近の動向。第35回国立大阪医療センター循環器
病談話会、大阪、2018年1月20日

上田恭敬：冠動脈疾患患者における脂質低下療法と抗血小板療法の意義。平成29年度11月
例会北摂地域薬剤師交流研修会、高槻、2018年1月13日

安部晴彦、井手本明子、加藤大志、飯田吉則、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：

低強度臥位エルゴ負荷により機能性憎帽弁逆流が経度から重度へ増悪した心不全の一例。第
122回 UGG 談話会、大阪、2018年2月10日

篠内和也：当センターでの積極的脂質低下療法の取り組み。なにわのみや脂質治療連携フォ
ーラム、大阪、2018年2月22日

小児科

寺田志津子

小児科では、以下の疾患に重点的に取り組んでいる。

新生児医療：合併症をもつ母親から出生した新生児、健康新生児ならびに病的新生児、後期早産児、HIV 母子感染予防。

高度小児専門医療：骨系統疾患、発育・発達障害、血液、がん、消化器、内分泌、リウマチ疾患、アレルギー、神経、児童虐待、感染症（HIV 感染症を含む）。

成人化した小児難病治療：小児難病患者の内科専門外来への円滑なバトンタッチ。

臨床研究として、日本小児白血病リンパ腫研究グループ（JPLSG）の参加施設として白血病・悪性リンパ腫の、主に長期フォローアップの研究に参加している。また、HIV 感染妊婦の全国疫学調査研究事業に参加している。

外科

(肝胆膵外科・上部消化管外科・下部消化管外科・呼吸器外科・乳腺外科)

関本貢嗣

外科は、外科治療およびがん治療における標準治療の確立と先進医療の開発をめざして、以下の方針に基づいて臨床および研究を行ってきました。

- 1) 専門性および先進性の高い医療
- 2) 医療の質の向上とチーム医療の推進
- 3) 標準治療の確立と臨床共同研究の推進
- 4) 各種がんに対する集学的治療の推進
- 5) 外科手術の改善と向上
- 6) 周術期管理の改善と向上

毎年、多くの学会発表、論文発表、司会および講演を行っています。若手医師も積極的に研究発表と論文発表を行ってくれました。熱心に若手指導を行ってくれたスタッフ各位の努力のおかげです。今後もより一層皆で精進していこうと思います。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Ishii H, Yamashita N, Ueno M, Ohkawa S, Saito A M, Sekimoto M: A randomised controlled trial of gemcitabine hydrochloride plus S-1 combination therapy versus gemcitabine hydrochloride therapy alone in pancreatic cancer patients aged ≥ 75 years: a study protocol for an openlabel randomised feasibility study.
「BMJ Open Gastro 2018」5(1)、2018年2月11日

Ikeda M, Shimizu S, Sato T, Morimoto M, Kojima Y, Inaba Y, Hagihara A, Kudo M, Nakamori S, Kaneko S, Sugimoto R, Tahara T, Ohmura T, Yasui K, Sato K, Ishii H, Furuse J, Okusaka T : Reply to the Letter to the editor 'Sorafenib plus hepatic arterial infusion chemotherapy with cisplatin versus Sorafenib for advanced hepatocellular carcinoma: randomized phase II trial' by Fornaro et al. 「Annals of Oncology」28(4) : P903-904、2017年4月1日

Yamaue H, Shimizu A, Hagiwara Y, Sho M, Yanagimoto H, Nakamori S, Ueno H, Ishii H, Kitano M, Sugimori K, Maguchi H, Ohkawa S, Imaoka H, Hashimoto D, Ueda K, Nebiki H, Nagakawa T, Isayama H, Yokota I, Ohashi Y, Shirasaka T : Multicenter, randomized, open-label Phase II study comparing S-1 alternate-day oral therapy with the standard daily regimen as a first-line treatment in patients with unresectable advanced pancreatic cancer. 「Cancer Chemotherapy and Pharmacology」79(4)、P813-823、2017年4月

Hirata Y, Kobayashi T, Nishiumi S, Yamanaka K, Nakagawa T, Fujigaki S, Iemoto T, Kobayashi M, Okusaka T, Nakamori S, Shimahara M, Ueno T, Tsuchida A, Sata N, Ioka T, Yasunami Y, Kosuge T,

Kaneda T, Kato T, Yagihara K, Fujita S, Yamada T, Honda K, Azuma T, Yoshida M : Identification of highly sensitive biomarkers that can aid the early detection of pancreatic cancer using GC/MS/MS-based targeted metabolomics. 「Clinica Chimica Acta」 468 : P98-104、2017年5月

Okusaka T, Miyakawa H, Fujii H, Nakamori S, Satoh T, Hamamoto Y, Ito T, Maguchi H, Matsumoto S, Ueno H, Ioka T, Boku N, Egawa S, Hatori T, Furuse J, Mizumoto K, Ohkawa S, Yamaguchi T, Yamao K, Funakoshi A, Chen JS, Cheng AL, Sato A, Ohashi Y, Tanaka M: GEST group; Updated results from GEST study: a randomized, three-arm phase III study for advanced pancreatic cancer. 「Journal of Cancer Research and Clinical Oncology」 143(6) : P1053-1059、2017年6月

Hijioka S, Hosoda W, Matsuo K, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Nakamori S, Ishii H, Kodama Y, Morizane C, Okusaka T, Yanagimoto H, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Yane K, Maguchi H, Tsuchiya Y, Komoto I, Tanaka H, Tsuji A, Hashigo S, Kawaguchi Y, Mine T, Kanno A, Murohisa G, Miyabe K, Takagi T, Matayoshi N, Yoshida T, Hara K, Imamura M, Furuse J, Yatabe Y, Mizuno N : Rb Loss and KRAS Mutation Are Predictors of the Response to Platinum-Based Chemotherapy in Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm with Grade 3: A Japanese Multicenter Pancreatic NEN-G3 Study. 「Clinical Cancer Research」 23(16) : P4625-4632、2017年8月15日

Nishimukai A, Inoue N, Kira A, Takeda M, Morimoto K, Araki K, Kitajima K, Watanabe T, Hirota S, Katagiri T, Nakamori S, Akazawa K, Miyoshi Y : Tumor size and proliferative marker geminin rather than Ki67 expression levels significantly associated with maximum uptake of 18Fdeoxyglucose levels on positron emission tomography for breast cancers. 「PLOS ONE」 12(9)、2017年9月8日

Nakakura I, Ogawa Y, Sakakura K, Imanishi K, Hirota K, Shimatani Y, Uehira T, Nakamori S, Sako R, Doi T, Yamazaki K : IMP-6 Carbapenemase-Producing Enterobacteriaceae Bacteremia Successfully Treated with Amikacin-Meropenem in Two Patients. 「Pharmacotherapy」 37(10) : P96-102、2017年10月

Hagiwara Y, Ohashi Y, Uesaka K, Boku N, Fukutomi A, Okamura Y, Konishi M, Matsumoto I, Kaneoka Y, Shimizu Y, Nakamori S, Sakamoto H, Morinaga S, Kainuma O, Imai K, Sata N, Hishinuma S, Ojima H, Yamaguchi R, Hirano S, Sudo T; JASPAC 01 Study Group. : Health-related quality of life of adjuvant chemotherapy with S-1 versus gemcitabine for resected pancreatic cancer: Results from a randomised phase III trial (JASPAC 01). 「European Journal of Cancer」 93 : P79-88、2018年2月22日

Nakazawa Y, Taniyama Y, Sanada F, Morishita R, Nakamori S, Morimoto K, Yeung KT, Yang J : Periostin blockade overcomes chemoresistance via restricting the expansion of mesenchymal tumor subpopulations in breast cancer. 「Scientific Reports」 8 : P4013、2018年3月5日

Moon JH, Fujiwara Y, Hirao M, Imamura H, Fuitani K, Fujita J, Tamura S, Takiguchi S, Yano M, Doki Y : Randomized Controlled Trial of Adjuvant Chemotherapy with Fluoropyrimidines Versus Surgery-alone for Gastric Cancer. 「Anticancer Res」 37 (6) : P3061 - 3067、2017年6月

Hirao M, Yamada T, Michida T, Nishikawa K, Hamakawa T, Mita E, Mano M, Sekimoto M : Peritoneal

Seeding after Gastric Perforation during Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Cancer. 「Dig Surg(E-Pub)」 2017年8月

Yamamoto K, Nagatsuma Y, Fukuda Y, Hirao M, Nishikawa K, Miyamoto A, Ikeda M, Nakamori S, Sekimoto M, Fujitani K, Tsujinaka T : Effectiveness of a preoperative exercise and nutritional support program for elderly sarcopenic patients with gastric cancer. 「Gastric Cancer」 20 : P913 - 918、2017年

Shichino T, Hirao M, Haga Y : Inter-rater reliability of American Society of Anesthesiologists physical status rating for emergency gastrointesinal surgery. 「Acute Med Surg.」 4 (2) : P161-165、2017年4月

Yokoyama A, Katada C, Yokoyama T, Yano T, Kaneko K, Oda I, Shimizu Y, Doyama H, Koike T, Takizawa K, Hirao M, Okda H, Yoshii T, Konishi K, Yamanouchi T, Tsuda T, Omori T, Konayashi N, Suzuki H, Tanabe S, Hori K, Nakayama N, Kawakubo H, Ishikawa H, Muto M : Alcohol abstinence and risk assessment for second esophageal cancer in Japanese men after mucosectomy for early esophageal cancer. 「PLoS One.」 12 (4) : e0175182、2017年4月6日

Shiraishi O, Yamasaki M, Makino T, Motoori M, Miyata H, Shinkai M, Kimura Y, Hirao M, Fujitani K, Tamura S, Kobayashi K, Yano M, Doki Y, Yasuda T : Feasibility of Preoperative Chemotherapy with Docetaxel, Cisplatin, and 5-Fluorouracil versus Adriamycin, Cisplatin, and 5-Fluorouracil for Resectable Advanced Esophageal Cancer. 「Oncology」 92 (2) : P101 - 108、2017年

Mizushima T, Fukunaga M, Sueda T, Ikeda M, Kato T, Kim HM, Kudo T, Murata K, Nishimura J, Hata T, Matsuda C, Yamamoto H, Doki Y, Mori M : Phase I/II study of bi-weekly XELIRI plus bevacizumab treatment in patients with metastatic colorectal cancer resistant to oxaliplatin-based first-line chemotherapy. 「Cancer Chemotherapy and Pharmacology」 2017年5月

Miyake Y, Nishimura J, Kato T, Ikeda M, Tsujie M, Hata T, Takemasa I, Mizushima T, Yamamoto H, Sekimoto M, Nezu R, Doki Y, Mori M : Phase III trial comparing UFT + PSK to UFT + LV in stage IIIB, III colorectal cancer (MCSGO-CCTG). 「Surgery Today」 2017年6月

Satake H, Yasui H, Kotake T, Okita Y, Hatachi Y, Kotaka M, Kato T, Tsuji A : First-line chemotherapy with capecitabine/oxaliplatin for advanced gastric cancer: A phase I study. 「Molecular and Clinical Oncology」 2017年7月

L J, Xu R, Xu J, Denda T, Ikejiri K, Shen L, Toh Y, Shimada K, Kato T, Sakai K, Yamamoto M, Mishima H, Wang J, Baba H: Phase II study of S-1 plus leucovorin in patients with metastatic colorectal cancer: Regimen of 1 week on, 1 week off. 「Cancer Science」 2017年8月

Hamaguchi T, Shimada Y, Mizusawa J, Kinugasa Y, Kanemitsu Y, Ohue M, Fujii S, Takiguchi N, Yatsuoka T, Takii Y, Ojima H, Masuko H, Kubo Y, Mishima H, Yamaguchi T, Bando H, Sato T, Kato T, Nakamura K, Fukuda H, Moriya Y : Capecitabine versus S-1 as adjuvant chemotherapy for patients with stage III colorectal cancer (JCOG0910): an open-label, non-inferiority, randomised, phase 3, multicentre

trial. 「The Lancet Gastroenterology & Hepatology」 2017年 10月

Xu RH, Muro K, Morita S, Iwasa S, Han SW, Wang W, Kotaka M, Nakamura M, Ahn JB, Deng YH, Kato T, Cho SH, Ba Y, Masuoka H, Lee KW, Zhang T, Yamada Y, Sakamoto J, Park YS, Kim TW : Modified XELIRI (capecitabine plus irinotecan) versus FOLFIRI (leucovorin, fluorouracil, and irinotecan), both either with or without bevacizumab, as second-line therapy for metastatic colorectal cancer (AXEPT): a multicentre, open-label, randomised, non-inferiority, phase 3 trial. 「Lancet Oncol (E-pub)」 2018 年 3 月 16 日

Oki E, Kato T, Bando H, Yoshino T, Muro K, Taniguchi H, Kagawa Y, Yamazaki K, Yamaguchi T, Tsuji A, Iwamoto S, Nakayama G, Emi Y, Touyama T, Nakamura M, Kotaka M, Sakisaka H, Yamanaka T, Kanazawa A : A Multicenter Clinical Phase II Study of FOLFOXIRI Plus Bevacizumab as First-line Therapy in Patients With Metastatic Colorectal Cancer: QUATTRO Study. 「Clin Colorectal Cancer (E-pub)」 2018 年 2 月 9 日

Iwata H, Im S-A, Masuda N, Im Y-H, Inoue K, Rai Y, Nakamura Ri, Kim JH, Hoffman JT, Zhang K, Giorgetti C, Iyer S, Schnell PT, Bartlett CH, Ro J : PALOMA-3: Phase 3 Trial of Fulvestrant With or Without Palbociclib in Premenopausal and Postmenopausal Women With Hormone Receptor-Positive, HER2-Negative Metastatic Breast Cancer That Progressed on Prior Endocrine Therapy―Safety and Efficacy in Asian Patients. 「J Global Oncology」 3(4) : P.289-303、2017 年 4 月 1 日

Bell R, Brown J, Parmar M, Toi M, Suter T, Steger GG, Pivot X, Mackey J, Jackisch C, Dent R, Hall P, Xu N, Morales L, Provencher L, Hegg R, Vanlemmehens L, Kirsch A, Schneeweiss A, Masuda N, Overkamp F, Cameron D : Final efficacy and updated safety results of the randomized phase III BEATRICE trial evaluating adjuvant bevacizumab-containing therapy in triple-negative early breast cancer. 「Ann Oncol」 28(4) : P.754-760、2017 年 4 月 1 日

Masuda N, Takahashi M, Nakagami K, Okumura Y, Nakayama T, Sato N, Kanatani K, Tajima K, Kashiwaba M : First-line bevacizumab plus paclitaxel in Japanese patients with HER2-negative metastatic breast cancer: subgroup results from the randomized Phase III MERDiAN trial. 「Jpn J Clin Oncol」 47(5) : P.385-392、2017 年 5 月 1 日

Yoden E, Nose T, Otani Y, Asahi S, Tsukiyama I, Dokiya T, Saeki T, Fukuda I, Sekine H, Shikama N, Kumazaki Y, Takahashi T, Yoshida K, Kotsuma T, Masuda N, Nakashima K, Matsumura T, Nakagawa S, Tachiiri S, Moriguchi Y, Itami J, Oguchi M : Uncertainty of cosmetic evaluation after accelerated partial breast irradiation: interim analysis of a Japanese prospective multi-institutional feasibility study. 「Jpn J Radiol」 35(7) : P.381-388、2017 年 5 月 4 日

Tamura K, Inoue K, Masuda N, Takao S, Kashiwaba M, Tokuda Y, Iwata H, Yamamoto N, Aogi K, Saeki T, Nakayama T, Sato N, Toyama T, Ishida T, Arioka H, Saito M, Ohno S, Yamauchi H, Yamada K, Watanabe J, Ishiguro H, Fujiwara Y : Randomized phase II study of nab-paclitaxel as first-line chemotherapy in patients with HER2-negative metastatic breast cancer. 「Cancer Sci.」 108(5) : P.987-994、2017 年 5 月

Baselga J, Im SA, Iwata H, Cortés J, De Laurentiis M, Jiang Z, Arteaga CL, Jonat W, Clemons M, Ito Y, Awada A, Chia S, Jagiello-Grusfeld A, Pistilli B, Tseng LM, Hurvitz S, Masuda N, Takahashi M, Vuylsteke P, Hachemi S, Dharan B, Di Tomaso E, Urban P, Massacesi C, Campone M. : Buparlisib plus fulvestrant versus placebo plus fulvestrant in postmenopausal, hormone receptor-positive, HER2-negative, advanced breast cancer (BELLE-2): a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. 「Lancet oncology」 18(7) : P.904-916、2017年5月30日

Mori K, Takeda M, Kodama Y, Kiyokawa H, Yasojima H, Mizutani M, Ohtani Y, Morikawa N, Masuda N, Mano M : Tumor thickness and histological features as predictors of invasive foci within preoperatively diagnosed ductal carcinoma in situ. 「Hum Pathol」 64 : P.145-155、2017年6月

Kawaguchi H, Masuda N, Nakayama T, Aoki K, Anan K, Ito Y, Ohtani S, sato N, Saji S Tokunaga E, Nakamura S, Hasegawa Y, Hattori M, Fuzisawa T, Morita S, Yamaguchi M, Yamashita T, Yamamoto Y, Ohno S, Toi M : Outcomes of fulvestrant therapy among Japanese women with advanced breast cancer: a retrospective multicenter cohort study(JBCRG-C06:safari). 「Breast Cancer Res Treat」 163(3) : P.545-554、2017年6月

Robson M, Im SA, Senkus E, Xu B, Domchek SM, Masuda N, Delaloge S, Li W, Tung N, Armstrong A, Wu W, Goessl C, Runswick S, Conte P : Olaparib for Metastatic Breast Cancer in Patients with a Germline BRCA Mutation. 「n engl j med nejm.org」 377(6) : P.523-533、2017年6月

Masuda N, Lee SJ, Ohtani S, Im YH, Lee ES, Yokota I, Kuroi K, Im SA, Park BW, Kim SB, Yanagita Y, Ohno S, Takao S, Aogi K, Iwata H, Jeong J, Kim A, Park KH, Sasano H, Ohashi Y, Toi M : Adjuvant Capecitabine for Breast Cancer after Preoperative Chemotherapy. 「N Engl J Med.」 376(22) : P.2147-2159、2017年6月1日

Yamamura J, Masuda N, Yamamoto D, Tsuyuki S, Yamaguchi M, Tanaka S, Tsurutani J, Tokunaga S, Yoshidome K, Mizutani M, Aono T, Ooe A, Tanino H, Matsunami N, Yasojima H, Nakayama T, Nishida Y : Gemcitabine and Vinorelbine Combination Chemotherapy in Taxane-Pretreated Patients with Metastatic Breast Cancer: A Phase II Study of the Kinki Multidisciplinary Breast Oncology Group (KMBOG) 1015. 「Chemotherapy」 62(5) : P.307-313、2017年6月13日

Watanabe J, Ito Y, Saeki T, Masuda N, Takano T, Takao S, Nakagami K, Tsugawa K, Nakagawa S, Kanatani K, Nakayama T : Safety Evaluation of Trastuzumab Emtansine in Japanese Patients with HER2-Positive Advanced Breast Cancer. 「in vivo」 31(3) : P.493-500、2017年6月

Toi M, Masuda N, Ohashi Y : Adjuvant Capecitabine for Breast Cancer. 「N Engl J Med」 337(8) : P.791-792、2017年8月24日

Loibl S, Turner NC, Ro J, Cristofanilli M, Iwata H, Im S-A, Masuda N, Loi S, André F, Harbeck N, Verma S, Folkerd E, Theall KP, Hoffman J, Zhang K, Bartlett CH, Dowsett M : Palbociclib Combined With Fulvestrant in Premenopausal Women With Advanced Breast Cancer and Prior Progression on Endocrine

Therapy: PALOMA-3 Results. 「The Oncologist」 22(9) : P.1028-1038、 2017年9月

Sledge GW Jr, Toi M, Neven P, Sohn J, Inoue K, Pivot X, Burdaeva O, Okera M, Masuda N, Kaufman PA, Koh H, Grischke EM, Frenzel M, Lin Y, Barriga S, Smith IC, Bourayou N, Llombart-Cussac A : MONARCH 2: Abemaciclib in Combination With Fulvestrant in Women With HR+/HER2- Advanced Breast Cancer Who Had Progressed While Receiving Endocrine Therapy. 「J Clin Oncol」 35(25) : P.2875-2884、 2017年9月1日

Ogiya R, Niikura N, Kumaki N, Yasojima H, Iwasa T, Kanbayashi C, Oshitanai R, Tsuneizumi M, Watanabe K, Matsui A, Fujisawa T, Saji S, Masuda N, Tokuda Y and Iwata H : Comparison of immune microenvironments between primary tumors and brain metastases in patients with breast cancer. 「Oncotarget」 8(61) : P.103671-103681、 2017年10月27日

Toi M, Masuda N and Soo-Jung Lee : Capecitabine for primary breast cancer. 「Oncotarget」 8(67) : 110739-110740、 2017年11月6日

Sugie T, Suzuki E, Yamauchi A, Yamagami K, Masuda N, Gondo N, Sumi E, Ikeda T, Tada H, Uozumi R, Kanao S, Tanaka Y, Hamazaki Y, Minato N, Toi M : Combined effects of neoadjuvant letrozole and zoledronic acid on gdT cells in postmenopausal women with early-stage breast cancer. 「The Breast」 5(38) : P.114-119、 2018年1月

Nakayama T, Sagara Y, Takashima T, Matsunami N, Masuda N, Miyoshi Y, Taguchi T, Aono T, Ito T, Kagimura T, Noguchi S : Randomized phase II study of anastrozole plus tegafur-uracil as neoadjuvant therapy for ER-positive breast cancer in postmenopausal Japanese women (Neo-ACET BC). 「Cancer Chemother Pharmacol」 81(4) : P.755-762、 2018年2月21日

Masuda N, Nishimura R, Takahashi M, Inoue K, Ohno S, Iwata H, Mori Y, Hashigaki S, Muramatsu Y, Nagasawa T, Umeyama Y, Toi M : Palbociclib in combination with letrozole as first-line treatment for advanced breast cancer: A Japanese phase II study. 「Cancer Sci.」 109(3) : 803-813、 2018年3月

Shitara K, Takashima A, Fujitani K, Hara H, Nakayama N, Hironaka S, Nishikawa K, Makari Y, Amagai K, Ueda S, Yoshida K, Shimodaira H, Nishina T, Tsuda M, Kurokawa Y, Tamura T, Sasaki Y, Morita S, Koizumi W : Nab-paclitaxel versus solvent-based paclitaxel in patients with previously treated advanced gastric cancer(ABSOLUTE):an open-label, randomised, non-inferiority, phase 3 trial. 「Lancet Gastroenterol Hepatol」 2 (4) : P277 - 287、 2017年4月

Nishikawa K, Yamada Y, Ishido K, Gotoh M, Bando H, Sugimoto N, Nishina T, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Hamada C, Hyodo I : Impact of progression type on overall survival in patients with advanced gastric cancer based on randomized phase III study of S-1 plus oxaliplatin versus S-1 plus cisplatin . 「Gastric Cancer」 20 (4) : P640 - 645、 2017年4月

Aoyama T, Nishikawa K, Fujitani K, Tanabe K, Ito S, Matsui T, Miki A, Nemoto H, Sakamaki K,

Fukunaga T, Kimura Y, Hirabayashi N, Yoshikawa T : Early results of a randomized two-by-two factorial phase II trial comparing neoadjuvant chemotherapy with two and four courses of cisplatin/S-1 and docetaxel/cisplatin/S-1 as neoadjuvant chemotherapy for locally advanced gastric cancer. 「Ann Oncol」 28 (8) : P1876 - 1881、2017年5月9日

Miura Y, Sukawa Y, Hironaka S, Mori M, Nishikawa K, Tokunaga S, Okuda H, Sakamoto T, Taku K, Nishikawa K, Moriwaki T, Negoro Y, Kimura Y, Uchino K, Shinozaki K, Shinozaki H, Musha N, Yoshiyama H, Tsuda T, Miyata Y, Sugimoto N, Shirakawa T, Ito M, Yonesaka K, Yoshimura K, Boku N, Noshio K, Takano T, Hyodo I : Five-weekly S-1 plus cisplatin with trastuzumab in HER2-positive gastric cancer: a phase II trial and biomarker study (WJOG7212G) . 「Gastric Cancer」 21 (1) : P84 - 95、2017年5月11日

Tanaka H, Kanda M, Morita S, Taguri M, Nishikawa K, Shimada M, Muguruma K, Koeda K, Takahashi M, Nakamori M, Konno H, Tsuji A, Hosoya Y, Shirasaka T, Yamamitsu S, Sowa M, Kitajima M, Okajima M, Kobayashi M, Sakamoto J, Saji S, Hirakawa K : Randomized phase II study of daily and alternate-day administration of S-1 for advanced gastric cancer (JFMC43-1003). 「Int J Clin Oncol」 22 (6) : P1052 - 1059、2017年6月30日

Kimura Y, Fujii M, Masuishi T, Nishikawa K, Kunisaki C, Matsusaka S, Segawa Y, Nakamura M, Sasaki K, Nagao N, Hatachi Y, Yuasa Y, Asami S, Takeuchi M, Furukawa H, Nakajima T : Multicenter phase II study of trastuzumab plus S-1 alone in elderly patients with HER2-positive advanced gastric cancer (JACCRO GC-06). 「Gastric Cancer」 2017年9月21日

Nishikawa K, Koizumi W, Tsuburaya A, Yamanaka T, Morita S, Fujitani K, Akamaru Y, Shimada K, Hosaka H, Nakayama N, Tsujinaka T, Sakamoto J : Meta-analysis of patient-level data on biweekly irinotecan plus cisplatin versus irinotecan alone as second-line treatment for advanced gastric cancer with the TCOG GI-0801 BIRIP and ECRIN TRICS RCTs: protocol paper. 「Ann. Cancer Res. Ther.」 25 (2) : P48 - 51、2017年

Das K, Taguri M, Immura H, Sugimoto N, Nishikawa K, Yoshida K, Tan P, Tsuburaya A: Genomic predictors of chemotherapy efficacy in advanced or recurrent gastric cancer in the GC0301/TOP002 phase III clinical trial. 「Cancer Lett.(Epub)」 412: P208 - 215、2017年10月20日

Aoyama T, Nishikawa K(equally contributed), Oba M, Yoshikawa T, Matsuda C, Munemoto Y, Takiguchi N, Tanabe K, Nagata N, Imano M, Oshiro M, Fukushima R, Kataoka M, Morita S, Tsuburaya A, Mishima H, Kono T, Sakamoto J : Meta-analysis of Patient-level Data on Therapeutic Effects of TJ-14(Hangeshashinto) for Gastroenterological Cancer Chemotherapy-induced Severe Oral Mucositis with the HAGESHA-G and HAGESHA-Cs:protocol paper. 「Ann. Cancer Res. Ther」 25 (2) :P 92 - 94、2017年

Nishikawa K, Tsuburaya A, Yoshikawa T, Takahashi M, Tanabe K, Yamaguchi K, Yoshino S, Namikawa T, Aoyama T, Rino Y, Kawada J, Tsuji A, Taira K, Kimura Y, Kodera Y, Hirashima Y, Yabusaki H, Hirabayashi N, Fujitani K, Miyashita Y, Morita S, Sakamoto J : A phase II trial of capecitabine plus

cisplatin (XP) for patients with advanced gastric cancer with early relapse after S-1 adjuvant therapy:
XParTS-I trial. 「Gastric Cancer(On line)」 2018年 2月 19日

Takeyama H, Misushima T, Uemura M, Haraguchi N, Nishimura J, Hata T, Matsuda C, Takemasa I, Ikenaga M, Murata K, Yamamoto H, Doki Y, Mori M : Adipose-Derived Stem Cells Ameliorate Experimental Murine Colitis via TSP-1-Dependent Activation of Latent TGF- β . 「Dig Dis Sci」 62 (8) : P1963 - 1974、2017年 8月

Uemura M, Ikeda M, Kawai K, Nishimura J, Takemasa I, Mizushima T, Yamamoto H, Sekimoto M, Doki Y, Mori M: Laparoscopic surgery using a Gigli wire saw for locally recurrent rectal cancer with concomitant intraperitoneal sacrectomy. 「Asian J Endosc Surg」 11 (1) : P83 - 86、2018年 2月

Pak J, Ikeda M, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Miyamoto A, Miyazaki M, Hirao M, Nakamori S, Sekimoto M : Risk factors for bleeding in patients receiving fondaparinux after colorectal cancer surgery. 「J Anus Rectum Colon」 1 (4) : P131 - 135、2017年

Kobayashi Y, Maeda S, Hama N, Miyamoto A, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Hirao M, Kato T, Sekimoto M, Mori K, Mano M, Nakamori S: Successful conversion surgery for unresectable pancreatic cancer with peritoneal metastases after neoadjuvant albumin-bound paclitaxel and gemcitabine chemotherapy:case report and literature review. 「Int Cancer Conference J(Online)」 2017年 11月 21日

A-1

増田慎三 : 乳がんと発生の進み方「新 乳がんおはなし」 P.1-21、シスマックス株式会社学術本部、兵庫、2017年

増田慎三 : CDK4/6 阻害薬【Palbociclib】+ホルモン療法—骨髄抑制に留意しながら、長期使用を目標に上手に減量を—「乳がん薬物療法 副作用マネジメント」増田慎三、P.101-104 メジカルビュー社、東京、2017年 9月 13日

増田慎三 : 「乳がん薬物療法 副作用マネジメント」、増田慎三、P.1-423、メジカルビュー社、東京、2017年 9月 13日

水谷麻紀子 : Fulvestrant 安全に注射するための体医と注射部位に注意「乳がん薬物療法 副作用マネジメント」増田慎三、P.112-114、メジカルビュー社、東京、2017年 9月 13日

八十島宏行 : Docetaxel+Carboplatin+Trastuzumab(TCbH)療法 初回投与時の infusion reaction に注意「乳がん薬物療法 副作用マネジメント」増田慎三、P.43-46、メジカルビュー社、東京、2017年 9月 13日

大谷陽子 : Trastuzumab 単剤・Trastuzumab+Pertuzumab 療法、薬物療法との併用療法—Infusion reaction、心毒性に注意—「乳がん薬物療法 副作用マネジメント」増田慎三、P.43-46、メジカルビュー社、東京、2017年 9月 13日

森川希実：抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（中枢性尿崩症と SIADH）「乳がん薬物療法副作用マネジメント」増田慎三、P.278-282、メディカルビュー社、東京、2017年9月13日

A-2

関本貢嗣：解説2：医療者の立場から「年報 医事法学32」P152-155、(株)日本評論社、東京、2017年8月

平尾素宏：食道・胃「消化器外科：主要疾患の手術と術後ケア」1(1)：P65-109、メディカ出版、2018年1月13日

A-3

宮本敦史、上平朝子、坪倉美由紀、廣田和之、上地隆史、中藏伊知郎、関本貢嗣、中森正二：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌によるアウトブレイクの経験「日本外科感染症学会雑誌」14(3)：P173-178、メディカ出版、2017年6月

宮本敦史、濱直樹、前田栄、植村守、浜川卓也、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：遠位胆管癌切除後の腹膜転移再発に対し再発巣切除により長期生存が得られた1例「癌と化学療法」44(12)：P.1620-1621、2017年11月

増田慎三：乳癌の薬物療法と支持療法 乳癌の化学療法 早期乳癌「乳癌学－最新の診断と治療－早期乳癌」75(3)：P.358-366、日本臨牀、2017年4月20日

増田慎三：新規薬剤4. 新しい標的6) CDK4/6阻害剤「腫瘍内科」19(6)：P.704-710、科学評論社、2017年6月28日

西村理恵子、増田慎三、山城勝重、村田有也、松井 哲、森 清、高橋蔵人、青儀健二郎、伊東正博、前田茂人、倉岡和矢、尾崎慎治、市原 周、佐藤康幸、田口健一、徳永えり子、鈴木博義、渡辺隆紀：乳癌転移巣細胞診検体受容体検査の日常運用に関する他施設共同研究：ホルマリン固定細胞検体のアルギン酸ナトリウム法セルブロックによる標本作製の提案「乳癌の臨床」P.249-257、(株)篠原出版新社、2017年7月7日

笠井宏委、坂東裕子、青儀健二郎、大野真司、増田慎三：乳癌カレントトピックスアンケート調査からみる医師主導治験の課題と展望「CANCER BOARD of the BREAST」3(2)：P.52-54、メディカルデュー社、2017年8月

増田慎三：Neo-Entrance 試験 JBCRG-22；UMIN000023162「CANCER BOARD of the BREAST」3(2)：P.64-65、メディカルデュー社、2017年8月

山本和義、永妻佑季子、福田泰也、西川和宏、平尾素宏、鳥山明子、中原千尋、宮本敦史、中森正二、関本貢嗣、藤谷和正、辻仲利政：サルコペニアを有する高齢胃癌患者に対する新しい取組み～「術前栄養＋エクササイズプログラム」の概要「外科と代謝・栄養」51(4)：P.175-、2017年8月

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、山本 慧、藤原綾子、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、中森正二、関本貢嗣：高度冠動脈狭窄を伴う根治切除不能出血性胃癌に対し IABP挿入術に胃切除術を行った1例「癌と化学療法」44(12)：P.2017 - 2019、癌と化学療法社、2017年11月

朴 正勝、山本和義、西川和宏、平尾素宏、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：Imatinib mesylate治療中に腫瘍形成を来し、感染コントロール目的に切除した腹膜播種を伴う巨大胃 gastrointestinal stromal tumorの1例「日本消化器外科学会雑誌」50(12)：P.350 - 356、2017年5月

山口 歩、三宅正和、吉龍澄子、植村 守、池田正孝、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：皮膚浸潤を伴う肛門管癌に放射線化学療法後直腸切断術および会陰再建を施行した1例「癌と化学療法」44(12)：P.1988-1990、癌と化学療法、2017年11月

山田真美、宮崎道彦、田中玲子、池田正孝、三宅正和、植村 守、中森正二、関本貢嗣：直腸固定術で治癒した直腸重積を伴う Mucosal Prolapse Syndrome (MPS) の1例「日本大腸肛門病会誌」(70)：P172 - 176、2017年

A-4

増田慎三：最新治療戦略 新しい局面を迎えた乳がん治療～これからの化学療法の役割「CLINICIAN」662(65)：P.46-57、エーザイ株式会社、東京、2018年1月

坂東裕子、笠井宏委、青儀健二郎、大谷彰一郎、津川浩一郎、森岡由香、山口ひとみ、吉波哲大、橋本郁子、相馬道郎、戸井雅和、増田慎三、大野真司：医師主導治験の実施体制整備状況と課題について：乳癌診療施設に対するアンケート調査 (JBCRG Q-06) 「乳癌の臨床」32(6)：P477-483、株篠原出版新社、2018年1月4日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、関本貢嗣：直腸癌局所再発に対する手術「手術」72(4)：P649 - 657、2018年3月

大谷陽子、増田慎三：特集 乳がん薬物治療－明日の臨床を見据えて 2.乳がん薬物治療－臨床現場での実践のために 6)術前・術後補助化学療法－適応をどう見極め、どう行うか「臨床腫瘍プラクティス」13(2)：P.125-130、ヴァンメディカル社、2017年5月10日

A-6

関本貢嗣：ライバルが認める「がん手術の達人」58人「週刊文春」59(31)：P48-51、文藝春秋、東京、2017年8月

関本貢嗣：大腸がんの名医「手術実績で探す名医のいる病院2018」P108、株医療新聞社、東京、2017年11月

増田慎三：ホルモン受容体陽性進行乳癌患者を対象に Fulvestrant を Anastrozole と比較する無

作為化第Ⅲ相試験「JBCS2017 第25回日本乳癌学会学術総会 記録集」エーザイ株式会社、2017年10月

増田慎三：国際共同二重盲検第Ⅲ相ランダム化比較試験 MERiDiAN 試験 日本人解析
「AVASTIN DATA for Japanese Patients」 P.1-5、中外製薬株式会社、2017年12月

B-1

Robson M E, Im S-A, Senkus E, Xu B, Domchek S M, Masuda N, Delaloge S, Li W, Tung N M., Armstrong A, Wu W, Goessl CD : OlympiAD: Phase III trial of olaparib monotherapy versus chemotherapy for patients(pts) with HER2-negative metastatic breast cancer (mBC) and a germline BRCA. American Society of Clinical Oncology (ASCO), Chicago, 2017年6月4日

Sledge GW Jr, Toi M, Neven P, Sohn J, Inoue K, Pivot X, Burdaeva O, Okera M, Masuda N, Kaufman PA, Koh H, Grischke EM, Frenzel M, Lin Y, Barriga S, Smith IC, Bourayou N, Llombart-Cussac A : MONARCH 2: Abemaciclib in Combination With Fulvestrant in Women With HR+/HER2- Advanced Breast Cancer Who Had Progressed While Receiving Endocrine Therapy. American Society of Clinical Oncology (ASCO), Chicago, 2017年6月4日

Nick C.Turner, R-S.Finn, A-A.Joy, S.Verma, N.Harbeck, S.Moulder, Masuda N, Y-H Im, K.Zhang, S.Kim, W.Sun, P.Schnell, C.H Bartlett, D.Slamon : Palbociclib in combination with endocrine therapy in treatment-naive and previously treated elderly women with HR+ HER2- advanced breast cancer: a pooled analysis from randomized phase 2 and 3 studies. 2017 Baylor College of Medicine Metastatic Breast Cancer Conference, Houston, 2017年10月12・13日

Hattori M, Tamura K, Mukai H, Miyoshi Y, Masuda N, Suzuki E, Ishiguro H, Ohtani S, Hara F, Shimamoto T, Yamamoto K, Ding Y, Aktan G, Karantza V, Iwata H : Phase 2 study of pembrolizumab for metastatic triple-negative breast cancer (mTNBC): Japanese subgroup results of KEYNOTE 086. ESMO Asia 2017 Congress, Singapore, 2017年11月17日

Im S-A, Masuda N, Im Y-H, Inoue K, Kim S-B, Redfern A, Lombard J, Lu D, Puyana K, Theall E G Gauthier Mukai H, Ro J : Efficacy and safety of palbociclib plus endocrine therapy in women with hormone receptor-positive (HR+)/human epidermal growth factor receptor 2-negative (HER2-) advanced breast cancer (ABC) in the Asia-Pacific region: Data from PALOMA-2 and -3. ESMO Asia 2017 Congress, Singapore, 2017年11月17日

Toi M, Huang C, Im Y-H, Iwata H, Sohn J H, Wang H-C, Masuda N, Lin Y, Sakaguchi S, Bourayou N, Llombart A, Sledge G : MONARCH 2: Abemaciclib in combination with fulvestrant in Asian women with HR+/HER2- advanced breast cancer who progressed on endocrine therapy. ESMO Asia 2017 Congress, Singapore, 2017年11月17日

Uemura M, Miyake M, Ikeda M, Mizushima T, Mori M, Sekimoto M: Laparoscopic surgery for locally recurrent rectal cancer. ESCP2017, Berlin, Germany, 2017年9月21日

B-2

Ueno M, Ioka T, Ueno H, Joon Oh Park, Heung-Moon Chang, Sasahira N, Kanai M, Ik-Joo Chung, Ikeda M, Nakamori S, Mizuno N, Omuro Y, Yamaguchi T, Hara H, Sugimori K, Furuse J, Takeuchi M, Okusaka T, Boku N, Hyodo I : TAS-118 (S-1 plus leucovorin) versus S-1 in gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer: A randomized, open-label, phase III trial (GRAPE trial). ASCO2017, Chicago, 2017年6月3日

Mizuno N, Fukutomi A, Mizusawa J, Katayama H, Nakamura S, Ito Y, Hiraoka N, Ioka T, Ueno M, Ikeda M, Sugimori K, Shimizu K, Okusaka T, Ozaka M, Yanagimoto H, Nakamori S, Azuma T, Hosokawa A, Ishii H, Furuse J, and Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group (HBPOG) of Japan Clinical Oncology Group (JCOG), Japan" : Effect of inflammatory and nutritional (IN) status on induction chemotherapy (CT) followed by chemoradiotherapy (CRT) for locally advanced pancreatic cancer (LAPC): An exploratory subgroup analysis of JCOG1106. ASCO2017, Chicago, 2017年6月3日

Takahashi S, Ohno I, Ikeda M, Konishi M, Kobayashi T, Akimoto T, Kojima M, Morinaga S, Ku Y, Shimizu Y, Nakamori S, Hishinuma S, Takakura N, Kainuma O, Hirano S, Otsubo T, Nagino M, Kimura W, Yamashita Y, Uesaka K : Phase II trial of neoadjuvant S-1 and concurrent radiotherapy for borderline resectable pancreatic cancer: Interim results of JASPAC05. ASCO2017, Chicago, 2017年6月3日

Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Katayama H, Ueno M, Ikeda M, Ozaka M, Sugimori K, Fukutomi A, Hara H, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Yukisawa S, Ishii H, Furuse J, Japan Clinical Oncology Group (JCOG); National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan : Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 combination therapy versus gemcitabine plus cisplatin combination therapy in advanced biliary tract cancer: A Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1113, FUGA-BT), ASCO GI 2018, San Francisco, 2018年1月19日

Katada C, Yokoyama T, Yano T, Oda I, Shimizu Y, Tanabe S, Doyama H, Koike T, Takizawa K, Hirao M, Okada H, Yoshii T, Konishi K, Yamanouchi T, Tsuda T, Omori T, Konayashi N, Ishikawa H, Yokoyama A, Muto M: Risk factors for the development of dysplastic squamous epithelium in the esophagus. 25th UEG WEEK, Barcelona, Spain, 2017年10月28日

Nakashima Y, Kojima T, Hara H, Kato K, Kajiwara T, Hironaka S, Nakatsumi H, Kato T, Moriwaki T, Naruge D, Esaki T, Izawa N, Kadowaki S, Tamura T, Miki I, Sudo T, Nomura S, Shitara K, Ohtsu A, Yoshino T: The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan, SCRUM-Japan GI-screen:Efficient identification of cancer genome alterations in advanced esophageal cancer. ASCO Annual Meeting 2017, Chicago, 2017年6月3日

Kadowaki S, Shitara K, Yuki S, Hironaka S, Kato T, Hara H, Kajiwara T, Izawa N, Iwasa S, Moriwaki T, Naruge D, Esaki T, Saeki H, Kudo T, Cho H, Tamura T, Ebi H, Nomura S, Ohtsu A, Yoshino T : The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan, SCRUM-Japan, GI-screen:Efficient identification of cancer genome alterations in advanced gastric cancer. ASCO Annual Meeting 2017, Chicago, 2017年6月3日

Hashida H, Satake H, Tanioka H, Miyake Y, Yoshioka S, Watanabe T, Matsuura M, Kyogoku T, Inukai M, Kotake T, Okita Y, Hatachi Y, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Kaihara S, Tsuji A : Hepatectomy followed by adjuvant chemotherapy with capecitabine plus oxaliplatin for three months for colorectal cancer liver metastases:A multicenter phase 2 study. ASCO Annual Meeting 2017, Chicago, 2017年6月3日

Kato T, Yoshino T, Muro K, Yamazaki K, Yamaguchi T, Oki E, Iwamoto S, Tsuji A, Nakayama G, Emi Y, Touyama T, Nakamura M, Kotaka M, Bando H, Kagawa Y, Taniguchi H, Yamanaka T, Kanazawa A : A phase II study of FOLFOXIRI with bevacizumab in untreated metastatic colorectal cancer patients:A UGT1A1 genotype and safety results(QUATTRO study). ESMO World Congress on Gastrointestinal Cancer 2017 | World GI, Barcelona, Spain, 2017年6月27日

Kotaka M, Satake H, Yasui H, Hatachi Y, Ogata T, Okita Y, Kato T, Tsuji A : Triplet plus molecular-targeted drug for chemotherapy-naive metastatic colorectal cancer:Multicenter-analysis. ESMO World Congress on Gastrointestinal Cancer 2017 | World GI, Barcelona, Spain, 2017年6月27日

Matsuura N, Tomita N, Inomata M, Murata K, Hayashi S, Miyake Y, Igarashi S, Itabashi M, Kato T, Noura S, Furuhata T, Ozawa H, Takemasa I, Yasui M, Takeyama H, Okamura O, Yamamoto H : Clinical impact of molecular positive lymph node status in colorectal cancer. ESMO2017 Congress, Madrid, Spain, 2017年9月9日

Yuki S, Kato T, Taniguchi H, Hamaguchi T, Akagi K, Denda T, Mizukami T, Oki E, Yamada T, Shiozawa M, Kudo T, Tamura T, Esaki T, Naruge D, Kajiwara T, Nomura S, Fujii S, Shitara K, Ohtsu A, Yoshino T : The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan, SCRUM-Japan GI-screen:Efficient identification of Cancer Genome Alterations in Advanced Colorectal cancer. ESMO2017 Congress, Madrid, Spain, 2017年9月9日

Bando H, Kato T, Yoshino T, Muro K, Yamazaki K, Yamaguchi T, Oki E, Iwamoto S, Tsuji A, Nakayama G, Emi Y, Touyama T, Nakamura M, Kotaka M, Kagawa Y, Taniguchi H, Sakisaka H, Yamanaka T, Kanazawa A : Primary Efficacy Results and Clinical Impact of UGT1A1 genotype on Safety from a Phase II Study of FOLFOXIRI plus bevacizumab in Patients with Metastatic Colorectal Cancer:The QUATTRO Study. ESMO2017 Congress, Madrid, Spain, 2017年9月9日

Nakamura Y, Okamoto W, Sawada K, Komatsu Y, Kato K, Taniguchi H, Kato T, Nishina T, Esaki T, Nomura H, Fukutani M, Fukui M, Hasegawa H, Yonemura M, Fuse N, Sato A, Fujii S, Ohtsu A, Yoshino T : TRIUMPH Study: A multicenter phase II study to evaluate efficacy and safety of combination therapy with trastuzumab and pertuzumab in patients with HER2-positive metastatic colorectal cancer(EPOC1602). ESMO2017 Congress, Madrid, Spain, 2017年9月9日

Kudo T, Kato T, Kagawa Y, Murata K, Ohta H, Noura S, Hasegawa J, Tamagawa H, Ohta K, Ikenaga M, Miyazaki S, Komori T, Nishimura J, Hata T, Matsuda C, Satoh T, Mizushima T, Yamamoto H, Doki Y, Mori M : Phase II dose titration study of regorafenib for patients with unresectable metastatic colorectal

cancer who are progressed after standard chemotherapy. ESMO2017 Congress, Madrid, Spain, 2017年9月9日

Yamamoto N, Muro K, Ishii H, Kato T, Tsushima T, Takenoyama M, Oizumi S, Kawakami T, Doi T : Anti-CC-chemokine receptor (CCR4)antibody mogamulizumab (Moga) and nivolumab (Nivo) combination phase I study in patients with advanced or metastatic solidtumors. ESMO2017 Congress, Madrid, Spain, 2017年9月10日

Naruge D, Morizane C, Ueno M, Takahashi H, Kawamoto Y, Sudo K, Shimizu S, Nakajima T.E, Itoh S, Ishii H, Kato T, Kudo T, Izumi M, Sudo T, Nomura S, Kuwata T, Fujii S, Shitara K, Ohtsu A, Yoshino T : The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan SCRUM-Japan GI-SCREEN:Efficient identification of Cancer Genome Alterations in Advanced Pancreatic Cancer. ESMO2017 Congress, Madrid, Spain, 2017年9月10日

Hamaguchi T, Shimada Y, Mizusawa J, Sato T, Kato T, Takahashi K, Sugihara K, Saida Y, Ike H, Masaki T, Shiozawa M, Sugita A, Nishimura J, Munakata Y, Ikeda S, Nakamura K, Fukuda H : Randomized phase III study of adjuvant chemotherapy with S-1 versus capecitabine in patients with stage III colorectal cancer: Updated results of Japan Clinical Oncology Group study (JCOG0910). ESMO2017 Congress, Madrid, Spain, 2017年9月11日

Yoshino T, Yamanaka T, Kotaka M, Manaka D, Eto T, Hasegawa J, Takagane A, Nakamura M, Kato T, Munemoto Y, Nakamura F, Bando H, Taniguchi H, Gamoh M, Shiozawa M, Sakamoto J, Saji S, Mizushima T, Ohtsu A, Mori M : Efficacy of 3 versus 6 months of oxaliplatin-based adjuvant chemotherapy for Stage III colon cancer (CC):Results from phase III ACHIEVE trial as part of the International Duration Evaluation of Adjuvant therapy (IDEA) Collaboration. ESMO2017 Congress, Madrid, Spain, 2017年9月11日

Sagawa T, Satake H, Fujikawa K, Hatachi Y, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Tsuji A: Phase Ib study of ramucirumab and irinotecan for metastatic gastric cancer previously treated with fluoropyrimidine with/without platina and taxane. ASCO GI 2018, San Francisco, USA, 2018年1月18日

Kato T, Yoshino T, Yamanaka T, Kotaka M, Manaka D, Eto T, Hasegawa J, Takagane A, Nakamura M, Munemoto Y, Nakamura F, Bando H, Taniguchi H, Gamoh M, Shiozawa M, Saji S, Maehara Y, Mizushima T, Ohtsu A, Mori M : Age,gender and performance status effects on efficacy of 3 versus 6 months of adjuvant oxaliplatin and fluoropyrimidine chemotherapy for stage IIIcolon cancer: Phase III ACHIEVE trial as part of the IDEA collaboration. ASCO GI 2018, San Francisco, USA, 2018年1月20日

Shitara K, Yamanaka T, Denda T, Tsuji Y, Shinozaki K, Komatsu Y, Kobayashi Y, Furuse J, Okuda H, Asayama M, Akiyoshi K, Kagawa Y, Kato T, Oki E, Ando T, Ohashi Y, Yoshino T :Reverce:Randomized phase II study of regorafenib by cetuximab versus the reverse sequence for metastatic colorectal cancer patients previously treated with fluoropyrimidine,oxaliplatin, and irinotecan. ASCO GI 2018, San Francisco, USA, 2018年1月20日

Kudo T, Kato T, Kagawa Y, Sakai D, Satoh T, Doki Y, Mori M : Phase II dose titration study of regorafenib for patients with unresectable metastatic colorectal cancer that progressed after standard chemotherapy. ASCO GI 2018, San Francisco, USA, 2018年1月20日

Kagawa Y, Murata K, Naito A, Kawai K, Takeda Y, Takeno A, Masuzawa T, Ohmura Y, Katsura Y, Murakami K, Sakamoto T, Mori R, Nose Y, Toya K, Yukawa Y, Takase K, Kato T: Laparoscopic resection followed by decompression with a drainage tube for obstructive colorectal cancer. ASCO GI 2018, San Francisco, USA, 2018年1月20日

Nakamura M, Munemoto Y, Takahashi M, Kotaka M, Kuroda H, Kato T, Minagasa N, Noura S, Fukunaga M, Kuramochi H, Touyama T, Takahashi T, Akagi Y, Satake H, Kurosawa S, Miura T, Mishima H, Sakamoto J, Oba K, Nagata N : SAPPHIRE: A randomized phase II study of mFOLFOX6+ panitumumab after 6 cycles of frontine mFOLFOX6+panitumumab in patients with colorectal cancer. ASCO GI 2018, San Francisco, USA, 2018年1月20日

Maeda H, Nagata N, Nagasawa T, Oba K, Mishima H, Kato T, Yoshida K, Muro K, Sakamoto J : Trial in progress:A phase II study of second-line FOLFIRI plus panitumumab after first-line FOLFOX plus panitumumab for RAS wild-type colorectal cancer with evaluation of circulating tumor DNA. ASCO GI 2018, San Francisco, USA, 2018年1月20日

Satake H, Hashida H, Tanioka H, Miyake Y, Yoshioka S, Watanabe T, Matsuura M, Kyogoku T, Inukai M, Kotake T, Okita Y, Hatachi Y, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Kaihara S, Tsuji A : Survival results of hepatectomy followed by adjuvant chemotherapy with three months of capecitabine plus oxaliplatin for colorectal cancer liver metastases: Amulticenter phase II study. ASCO GI 2018, San Francisco, USA, 2018年1月20日

Shien T, Nakamura K, Shibata T, Kinoshita T, Aogi K, Fujisawa T, Masuda N, Inoue K, Fukuda H, Iwata H : A randomized controlled trial comparing primary tumour resection plus systemic therapy with systemic therapy alone in metastatic breast cancer (PRIM-BC): Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1017. American Society of Clinical Oncology(ASCO), Chicago, 2017年6月4日

Narui K, Yamashita T, Kitada M, Kawaguchi H, Hattori M, Yoshinami T, Matsunami N, Yanagihara K, Kawasoe T, Nagashima T, Bando H, Yano H, Hasegawa Y, Nakamura R, Kashiwaba M, Masuda N, Morita S, Ohno S, Toi M : Eribulin in combination with pertuzumab plus trastuzumab for HER2-positive advanced or recurrent breast cancer (JBCRG-M03). American Society of Clinical Oncology(ASCO), Chicago, 2017年6月4日

Cristofanilli M, DeMichele A, Giorgetti C, Slamon D J, Im S-A, Masuda N, Verma S, Loi S, Colleoni M, Theall K P, Huang X, Bartlett C H, Turner N C : Predictors of prolonged benefit from palbociclib (PAL) plus fulvestrant (F) in womenwith endocrine-resistant hormone receptor-positive/human epidermal growth factorreceptor 2-negative (HR+/HER2-) advanced breast cancer (ABC) in PALOMA-3, American Society of Clinical Oncology(ASCO), Chicago, 2017年6月4日

Ogiya R, Niikura N, Kumaki N, Yasojima H, Iwasa T, Kanbayashi C, Oshitanai R, Tsuneizumi M, Watanabe K, Matsui A, Fujisawa T, Saji S, Tokuda Y, Masuda N, Iwata H : Immune microenvironment in brain metastases of breast cancer. American Society of Clinical Oncology(ASCO), Chicago, 2017年6月4日

Masuda N, Ohtani S, Takano T, Inoue K, Suzuki E, Nakamura R, Bando H, Ito Y, Ishida K, Yamanaka T, Kuroi K, Yasojima H, Kasai H, Takasuka T, Sakurai T, Kataoka T.R, Morita S, Ohno S, Toi M : Neoadjuvant therapy with trastuzumab emtansine and pertuzumab in patients with HER2-positive primary breast cancer (A randomized,phase 2 study; JBCRG-20), European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Delaloge S, Conte P F, Im S-A, Senkus-Konefska E, Xu B, Domchek S.M, Masuda N, Li W, Tung N, Armstrong A, Wu W, Goessl C, Runswick S, Robson M : OlympiAD: Further efficacy outcomes in patients with HER2-negative metastatic breast cancer and a germline BRCA mutation receiving olaparib monotherapy vs standard single-agent chemotherapy treatment of physician's choice, European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Aogi K, Yonemori K, Takahashi M, Masuda N, Naito Y, Shimizu S, Nakamura R, Yamamoto H, Hamada A, Michimae H, Tamura K, Sukigara T, Nagasaka R, Fujiwara Y : Efficacy and safety of olaparib combined with eribulin in patients with advanced or metastatic triple negative breast cancer (TNBC) previously treated with anthracyclines and taxanes: The final analysis of a Japanese phase I/II trial, European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Shimomura A, Yonemori K, Masuda N, Aogi K, Takahashi M, Naito Y, Shimizu S, Nakamura R, Hamada A, Michimae H, Hashimoto J, Yamamoto H, Shimizu C, Tamura K, Fujiwara Y Gene : alteration in triple negative breast cancer patients in a phase I/II study of combination therapy with eribulin and olaparib, European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Robson M, Ruddy K J, Im S-A, Senkus-Konefska E, Xu B, Domchek S M, Masuda N, Delaloge S, Li W, Tung N, Armstrong A, Wu W, Goessl C, Degboe A, Conte P F : OlympiAD: Health-related quality of life (HRQoL) in patients with HER2-negative metastatic breast cancer (mBC) and a germline BRCA mutation (gBRCAm) receiving olaparib monotherapy vs standard single-agent chemotherapy treatment of physician's choice (TPC), European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Kawaguchi H, Aogi K, Masuda N, Nakayama T, Ito Y, Ohtani S, Sato N, Takano T, Saji S, Tokunaga E, Hasegawa Y, Hattori M, Fujisawa T, Morita S, Yamashita H, Yamashita T, Yamamoto Y, Yotsumoto D, Toi M, Ohno S : Factors associated with prolonged time to treatment failure with fulvestrant 500 mg in patients with postmenopausal estrogen receptor-positive advanced/metastatic breast cancer (JBCRG-C06; Safari): A subgroup analysis, European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Shimomura A, Niikura N, Fukatsu Y, Sawaki M, Ogiya R, Yasojima H, Fujisawa T, Yamamoto M, Tsuneizumi M, Kitani A, Watanabe J, Matsui A, Takahashi Y, Takashima S, Shien T, Tamura K, Saji S,

Masuda N, Tokuda Y, Iwata H : Durable complete response in HER2-positive breast cancer: A multicenter retrospective analysis, European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017 年 9 月 8 日

Iwata H, Masuda N, Kim S-B, Inoue K, Rai Y, Fujita T, Shen Z-Z, Chiu JW, Ohtani S, Takahashi M, Yamamoto N, Miyaki T, Sun Q, Yen-Shen L, Xu B, Yap YS, Bustam AZ, Lee JR, Zhang B, Bryce R, Chan A : Neratinib in the extended adjuvant treatment of patients from Asia with early-stage HER2+ breast cancer after trastuzumab-based therapy: Exploratory analyses from the phase III ExteNET trial, SABCS 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Tada H, Miyashita M, Gonda K, Watanabe M, Suzuki A, Watanabe G, Harada N, Sato A, Hamanaka Y, Masuda N, Toi M, Ohno S, Bando H, Ishiguro H, Inoue K, Yamamoto N, Kuroi K, Ohuchi N, Ishida T : New quantitative diagnostic method by fluorescence nanoparticle for HER2 positive breast cancer treated with neoadjuvant lapatinib and trastuzumab: The Neo LaTH study (JBCRG-16TR), SABCS 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Imoto S, Saito Oba M, Masuda N, Nagashima T, Wada N, Takashima T, Kitada M, Kawada M, Hayashida T, Taguchi T, Aihara T, Miura D, Toh U, Yoshida M, Sugae S, Yoneyama K, Matsumoto H, Jinno H, Sakamoto J : Observational study of axilla treatment for breast cancer patients with 1 to 3 positive micrometastases or macrometastases in sentinel lymph nodes, SABCS 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Yamaguchi M, Nakayama T, Yoshinami T, Ikeda M, Iwamoto M, Komoike Y, Takashima T, Tsurutani J, Yoshidome K, Yamada T, Morita S, Masuda N : A randomized phase II study of maintenance hormone therapy with or without capecitabine after induction therapy with bevacizumab plus paclitaxel in hormone receptor positive and HER2 negative metastatic breast cancer (KBCSG-TR1214), SABCS 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Shimomura A, Masuda N, Tamura K, Yasojima H, Sawaki M, Nishimura Y, Saji S, Iwata H : A phase 1 study of KHK2375 (entinostat) as monotherapy and in combination with exemestane in Japanese patients with hormone receptor-positive, HER2-negative, advanced or recurrent breast cancer. SABCS 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Iwata H, Masuda N, Fujisawa T, Toyama T, Ohtani S, Yamamoto Y, Kashiwaba M, Taira N, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamaguchi T, Ohashi Y : NEOS: A randomized, open label, phase 3 trial of adjuvant chemotherapy for postmenopausal breast cancer patients who responded to neoadjuvant letrozole: First report of long-term outcome and prognostic value of response to neoadjuvant endocrine therapy, SABCS 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Masuda N, Sato N, Morimoto T, Ueno T, Kanbayashi C, Kaneko K, Yasojima H, Saji S, Sasano H, Morita S, Ohno S, Toi M : Tailored neoadjuvant endocrine and chemo-endocrine therapy for postmenopausal patients with estrogen receptor-positive human epidermal growth factor receptor 2-negative primary breast cancer, SABCS 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Yamamoto Y, Iwata H, Masuda N, Fujisawa T, Toyama T, Kashiwaba M, Ohtani S, Taira N, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamaguchi T, Sakamaki K, Chao C, McCullough D, Sugiyama N, Ohashi Y : TransNEOS: Validation of the oncotype DX recurrence score (RS) testing core needle biopsy samples from NEOS as predictor of clinical response to neoadjuvant endocrine therapy for postmenopausal estrogen receptor positive (ER+), HER2 negative (HER2-) breast cancer patients. SABCs 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Campone M, Im S-A, Iwata H, Clemons M, Ito Y, Awada A, Chia S, Jagiełło-Grusfeld A, Pistilli B, Tseng L-M, Hurvitz S, Masuda N, Cortés J, De Laurentiis M, Arteaga CL, Jiang Z, Jonat W, Sellami D, El-Hashimy M, Le Mouhaër S, Sankaran B, Bourdeau L, Baselga J : Buparlisib (BUP) or placebo (PBO) plus fulvestrant (FUL) in postmenopausal patients (pts) with hormone receptor-positive (HR+), human epidermal growth factor receptor 2-negative (HER2-) advanced breast cancer (ABC): Overall survival (OS) results from BELLE-2, a randomized, phase III study. SABCs 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Kawaguchi H, Yamashita T, Masuda N, Kitada M, Narui K, Hattori M, Yoshinami T, Matsunami N, Yanagihara K, Kawasoe T, Nagashima T, Bando H, Yano H, Hasegawa Y, Nakamura R, Kashiwaba M, Morita S, Ohno S, Toi M : Phase II study of eribulin in combination with pertuzumab plus trastuzumab for human epidermal growth factor receptor 2 (HER2)-positive advanced or metastatic breast cancer. SABCs 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Domchek SM, Robson M, Im S-A, Senkus E, Xu B, Masuda N, Delaloge S, Li W, Armstrong A, Conte P, Bannister W, Goessl C, Runswick S, Goel S, Tung N : Tolerability of olaparib monotherapy versus chemotherapy in patients with HER2-negative metastatic breast cancer and a germline BRCA mutation: OlympiAD. SABCs 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Im S-A, Xu B, Li W, Robson M, Ouyang Q, Yeh D-C, Iwata H, Park Y-H, Sohn JH, Tseng L-M, Goessl C, Wu W, Runswick S, Masuda N : Olaparib monotherapy versus chemotherapy for patients with HER2-negative metastatic breast cancer and a germline BRCA mutation: Asian subgroup analysis from the phase III OlympiAD trial. SABCs 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Nishikawa K, Yoshino S, Morita S, Takahashi T, Sakata K, Nagao J, Nemoto H, Murakami N, Hasegawa H, Shimizu R, Yoshikawa T, Osanai H, Imano M, Naitoh H, Tanaka A, Sakamoto J, Saji S, Oka M : Safety and efficacy of S-1 treatment in elderly patients with advanced or recurrent gastric cancer: a subgroup analysis from the phase III JFMC36-0701 trial. ESMO 2017 Congress, Madrid, Spain, 2017 年 9 月 9 日

Nishikawa K, Murotani K, Fujitani K, Inagaki H, Akamaru Y, Tokunaga S, Takagi M, Tamura S, Sugimoto N, Shigematsu T, Yoshikawa T, Ishiguro T, Nakamura M, Miyashita Y, Morita S, Tsuburaya A, Sakamoto J, Tsujinaka T: Survival of second -line irinotecan-based chemotherapy in early relapse patients with gastric cancer after adjuvant chemotherapy: Exploratory subgroup analysis of TRICS trial. ASCO GI 2018, San Francisco, USA, 2018 年 1 月 18 日

Uemura M, Miyake M, Miyazaki M, Ikeda M, Hamakawa T, Maeda S, Hama N, Nishikawa K, Miyamoto A, Hirao M, Takahashi H, Haraguchi N, Nishimura J, Hata T, Mizushima T, Yamamoto H, Mori M, Nakamori S, Sekimoto M: Laparoscopic surgery for locally recurrent rectal cancer with concomitant sacrectomy. 25th International congress of the EAES, Frankfult, 2017年6月15日

Hamakawa T, Nishikawa K, Hirao M, Yamaguchi A, Maeda S, Uemura M, Miyake M, Hama N, Miyamoto A, Kato T, Nakamori S, Sekimoto M: A case of unclassified/undifferentiated round cell sarcoma in the stomach diagnosed by excisional biopsy of the rigional lymph node metastasis. Asian Clinical Oncology Society 2018, Chiang Mai, Thailand, 2018年2月23日

Fujiwara A, Shintani Y, Funaki S, Kawamura T, Kanzaki R, Fukui E, Minami M, Okumura M: Effects of Pirfenidone Targeting EMT and Tumor-Stroma Interaction as Novel Treatment for Non-Small Cell Lung Cancer (ID8983). 18th World Conference on Lung Cancer, Yokohama, 2017年10月16日

Kobayashi N, Nishikawa K, Hamakawa T, Hirao M, Yamamoto K, Kobayashi Y, Kitakaze M, Maeda S, Uemura M, Miyake M, Hama N, Miyamoto A, Kato T, Nakamori S, Sekimoto M: Survival Results of Stage IV Gastric Cancer Patients Treated with Conversion Surgery. Asian Clinical Oncology Society 2018, Chiang Mai, Thailand, 2018年2月23日

B-3

関本貢嗣：腹腔鏡下手術でのS状結腸切除について考える。第6回大阪21世紀外科勉強会、大阪、2017年6月9日

関本貢嗣：直腸癌に対する側方リンパ節郭清。第72回日本消化器外科学会総会、石川、2017年7月22日

関本貢嗣：直腸癌局所再発の治療戦略。第55回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017年10月22日

関本貢嗣：骨盤多臓器合併切除時のトラブルシューティング。第79回日本臨床外科学会、東京、2017年11月23日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、池田正孝、宮本敦史、濱直樹、植村守、三宅正和、中森正二、関本貢嗣：胃癌原発巣の穿孔・出血にたいする oncologic emergency surgery の現状—当院過去5年間の外科手術症例からー。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月21日

宮本敦史、前田栄、上平朝子、坪倉美由紀、廣田和之、上地隆史、中蔵伊知郎、関本貢嗣、中森正二：カルバペネム耐性腸内細菌科最近の大規模アウトブレイクを経験して。第30回日本外科感染症学会学術集会、東京、2017年11月30日

増田慎三：新時代を迎えた乳癌術前化学療法。第25回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017年7月14日

西村令喜、増田慎三、高橋將人、井上賢一、大野真司、岩田広治、森 優子、橋垣 学、長澤崇、梅山佳子、戸井雅和：ER 陽性 HER2 陰性閉経後進行・再発乳癌患者における palbociclib と letrozole 併用の国内第 II 相試験成績。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

増田慎三、井本 滋、雷 哲明、三好康雄、神垣俊二、岩瀬弘敬、徳永えり子、高橋三奈、吉田雅行、加々良尚文、John FR Robertson、Matthew J Ellis、Zhimin Shao、今井正彦、Lynda Grinsted、Mehdi Fazal、野口眞三郎：ホルモン受容体陽性進行乳癌患者を対象に Fulvestrant を Anastrozole と比較する無作為化第 III 相試験。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

北條 隆、増田慎三、岩本高行、青儀健二郎、阿南敬生、飯島耕太郎、石田孝宣、河合賢朗、坂谷貴司、新倉直樹、増岡秀次、宮田裕章、隈丸 拓、小島康幸、相良安昭、林 直輝、吉田正行、徳田 裕、中村清吾、津田 均：ER 陽性 HER2 陰性原発乳癌に対するアンスラサイクリンにタキサンを追加した術後化学療法の有用性の検討。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

旭 修司、築山 巍、鹿間直人、佐伯俊昭、松村泰成、中川志乃、立入誠司、森口喜生、吉田 謙、吉妻理之、増田慎三、余田栄作、中島一毅、大谷侑輝、能勢隆之、小口正彦：組織内照射による加速乳房部分照射（APBI）多施設共同試験の臨床結果（60 ヶ月）。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

津田 萌、石黒 洋、鳥口尚子、増田慎三、坂東裕子、大神正宏、本間真人、森田智視、戸井雅和：ラパチニブ服用タイミングと皮膚毒性の関係：JBCRG-16/Neo-LaTH からのコホート研究。第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017 年 7 月 27 日

高野利実、増田慎三：HER2 陽性進行・再発乳癌治療の現在と未来。第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017 年 7 月 27 日

岩田広治、増田慎三、雷 哲明、藤田崇史、高橋将人、味八木寿子、佐藤信昭、Bo Zhang、渡邊純一郎、井上賢一：HER2 陽性術後トラスツズマブ治療後のネラチニブの有効性—ExerNET study 中間解析における日本人サブセット。第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017 年 7 月 29 日

青儀健二郎、渡邊健一、渡邊隆紀、松井 哲、佐藤康幸、増田慎三、山下芳典、大塚眞哉、徳永えり子、阿南節子：NHO ネットワーク共同研究による多施設共同 Hazardous Drugs (HD) 曝露実態調査から見た本邦の現状。第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017 年 7 月 29 日

増田慎三：閉経前 ER 陽性治療における Best Strategy を探る。第 14 回日本乳癌学会中国四国地方ランチョンセミナー、岡山、2017 年 9 月 16 日

森本 隆、佐藤信昭、増田慎三、上野貴之、神林智寿子、金子耕司、八十島宏行、佐藤友威、新宮聖士、田邊 匡、尾崎慎治、笹野公伸、森田智視、大野真司、戸井雅和：閉経後 HR 乳癌患者に対するレスポンスガイド下術前内分泌療法 (JBCRG-11CPA)。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 20 日

増田慎三：Living longer, Living better を目指した転移乳癌治療のエビデンス創出～HER2 陽性乳癌～。第 55 回日本癌治療学会学術集会 学術セミナー、横浜、2017 年 10 月 21 日

向井博文、清水千佳子、増田慎三、大谷彰一郎、大野真司、高橋將人、山本 豊、西村令喜、佐藤信昭、大住省三、岩田広治、森 優子、橋垣 学、Dongrui R. Lu、戸井雅和：未治療 ER+ 進行乳癌患者における palbociclib 第 3 相試験 (PALOMA-2) ～日本人 subgroup 解析～。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 21 日

増田慎三、井上賢一、中村力也、雷 哲明、向井博文、大野真司、原 文堅、森 優子、橋垣 学、村松泰明、長澤 崇、梅山佳子、Huang Xin、岩田広治：既治療ホルモン陽性進行乳癌における palbociclib 第 3 相試験 (PALOMA-3) ～日本人サブ解析～。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 21 日

北田正博、山下年成、川口英俊、成井一隆、服部正也、吉波哲大、松並展輝、柳原一広、長谷川善枝、中村力也、増田慎三、森田智視、大野真司、戸井雅和：HER2 陽性転移性乳癌に対する trastuzumab, pertuzumab, eribulin 併用療法 (JBCRG-M03)。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 21 日

藤澤知巳、川口英俊、増田慎三、中山貴寛、青儀健二郎、伊藤良則、大谷彰一郎、佐治重衛、長谷川善枝、服部正也、山下年成、山本 豊、森田智視、戸井雅和、大野真司：閉経後進行再発乳癌におけるフルベストラントの長期 TTF に関する検討：Safari 試験。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 21 日

永山愛子、松井 哲、村田有也、増田慎三、森 清、高橋將人、山城勝重、青儀健二郎、前田茂人、伊東正博、尾崎真治、佐藤康幸、徳永えり子、渡辺隆紀、西村理恵子：セルブロッカを用いた乳癌転移巣細胞診検体の受容体検査の臨床的検討。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 21 日

増田慎三：ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。第 15 回日本乳癌学会 近畿地方会、京都、2017 年 12 月 16 日

三宅正和、植村 守、池田正孝、加藤健志、前田 栄、浜川卓也、西川和宏、濱 直樹、宮本敦史、平尾素宏、宮崎道彦、中森正二、関本貢嗣：大腸手術における縫合不全に対する腹腔鏡下手術。第 54 回日本腹部救急医学会総会、東京、2018 年 3 月 9 日

植村 守、三宅正和、池田正孝、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、水島恒和、中森正二、森 正樹、関本貢嗣：直腸癌局所再発手術における重症合併症との闘い。第 79 回日本臨床外科学会総会、東京、2017 年 11 月 24 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、水島恒和、山本浩文、森 正樹、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡で攻める直腸癌局所再発手術。第30回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017年12月7日

新倉直樹、扇屋りん、熊木伸枝、八十島宏行、岩朝 勤、神林智寿子、大下内理紗、常泉道子、渡邊健一、松井 哲、藤澤知巳、佐治重衡、徳田 裕、増田慎三、岩田広治：乳癌における原発腫瘍と脳転移腫瘍の免疫微小環境の変化。第25回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017年7月14日

八十島宏行、増田慎三、森川希実、大谷陽子、水谷麻紀子、井上敦夫、栗山啓子、森 清、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣：HER2陽性およびTriple negative乳癌における、術前化学療法後MRI画像評価にみる非切除手術への可能性。第25回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017年7月14日

八十島宏行、青儀健二郎、渡邊健一、渡邊隆紀、松井 哲、佐藤康幸、増田慎三、山下芳典、大塚眞哉、徳永えり子、阿南節子、山口聖恵：本邦の Hazardous Drugs (HD) 曝露の実態～多施設共同 HD 曝露実態調査の解析（第2報）。第55回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017年10月22日

大谷陽子、増田慎三、八十島宏行、水谷麻紀子、森川希実、森 清、眞能正幸、中森正二：術前化学療法前センチネルリンパ節生検の成績。第25回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017年7月14日

長田陽子、大谷陽子、森川希実、八十島宏行、水谷麻紀子、眞能正幸、森 清、増田慎三：同時性-両側原発性乳腺アポクリン癌の1例。第15回日本乳癌学会近畿地方会、京都、2017年12月16日

山本 慧、山本和義、浜川卓也、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、大宮英泰、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：消化器疾患術後創離開に対する局所陰圧閉鎖療法時の栄養管理の効果の検討。日本外科代謝栄養学会第54回学術集会、新潟、2017年7月7日

B-4

高見康二、大宮英泰、浜川卓也、前田 栄、三宅正和、西川和宏、濱 直樹、宮本敦史、池田正孝、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：HIV感染患者に発症した原発性肺癌に対して手術を行った7例の臨床的検討。第117回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017年4月29日

高見康二、大宮英泰：左房浸潤伴う右肺門部肺癌に対し左房クランプと上葉肺静脈抹梢クランプで左房合併中下葉切除を施行した1例。第34回日本呼吸器外科学会総会、福岡、2017年5月19日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、高見康二、池田正孝、宮本敦史、大宮英泰、増田慎三、濱直樹、八十島宏行、水谷麻紀子、三宅正和、植村 守、前田 栄、大谷陽子、中森正二、関本貢嗣：高齢者食道癌の外科治療成績。第 117 回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017 年 4 月 27 日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、山田拓哉、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣：高齢者食道癌にたいする外科治療の現状。第 71 回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017 年 6 月 15 日

白石 治、山崎 誠、本告正明、宮田博志、牧野知紀、木村 豊、平尾素宏、矢野雅彦、土岐祐一郎、安田卓司：切除可能進行食道癌に対する術前 DCF vs. ACF 療法多施設ランダム化比較第Ⅱ相試験。第 71 回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017 年 6 月 15 日

堅田親利、横山徹爾、矢野友規、小田一郎、清水勇一、土山寿志、小池智幸、滝沢耕平、平尾素宏、武藤 学：早期食道癌に対する内視鏡切除後に発生する異時性多臓器重複癌の検討。第 71 回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017 年 6 月 15 日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、長谷川裕子、宮本敦史、加藤健志、濱直樹、三宅正和、植村 守、前田 栄、中森正二、関本貢嗣：当院での胃癌腹膜播種による腹水に対する CART の現状。第 90 回日本胃癌学会総会、横浜、2018 年 3 月 8 日

池田正孝、関本貢嗣、植村 守、三宅正和、前田 栄、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二：直腸癌局所再発に対する低侵襲手術。第 117 回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017 年 4 月 27 日

加藤健志、賀川義規、内藤 敦、森 良太、野瀬陽平、大根田康雄、石田 智、桑原隆一、秋山泰樹、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、稻留遵一、大村仁昭、竹野 淳、柄川千代美、武田 裕、田村茂行：右側結腸癌における single port surgery (SPS) の導入から標準化。第 117 回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017 年 4 月 27 日

森 良太、賀川義規、野瀬陽平、大根田康雄、石田 智、秋山泰樹、桑原隆一、阪本卓也、内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、中塚伸一、武田 裕、加藤健志、田村茂行：多発性内分泌腫瘍症 2 型に発生した直腸癌に対して腹腔鏡下切除術を施行した 1 例。第 39 回日本癌局所療法研究会、京都、2017 年 6 月 23 日

内藤 敦、加藤健志、賀川義規、野瀬陽平、森 良太、大根田康雄、石田 智、桑原隆一、秋山泰樹、阪本卓也、村上剛平、稻留遵一、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、柄川千代美、武田 裕、田村茂行：Capecitabine + Bevacizumab の維持療法にて完全奏功に至った再発大腸癌の 1 例。第 39 回日本癌局所療法研究会、京都、2017 年 6 月 23 日

阪本卓也、武田 裕、大村仁昭、桂 宜輝、森 良太、野瀬陽平、大根田康雄、石田 智、桑原隆一、秋山泰樹、村上剛平、内藤 敦、賀川義規、竹野 淳、柄川千代美、加藤健志、田村茂行：転移・再発膵癌に対する FOLFIRINOX 療法の治療成績。第 39 回日本癌局所療法研究会、京都、2017 年 6 月 23 日

大村仁昭、武田 裕、吉龍正雄、桂 宜輝、阪本卓也、溝口祐規、白川 岳、森 良太、野瀬陽平、大根田康雄、石田 智、桑原隆一、秋山泰樹、村上剛平、内藤 敦、賀川義規、竹野 淳、加藤健志、田村茂行：腹腔動脈起始部圧迫症候群に弓状動脈切離及び脾動脈バイパスを行いTACE可能だった一例。第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017年6月23日

桂 宜輝、武田 裕、大村仁昭、阪本卓也、秋山泰樹、桑原隆一、石田 智、大根田康雄、野瀬陽平、森 良太、村上剛平、内藤 敦、賀川義規、竹野 淳、加藤健志、田村茂行：超高齢者肝細胞癌に対する肝切除術と手術部位感染（SSI）の検討。第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017年6月23日

村上剛平、田村茂行、竹野 淳、野瀬陽平、森 良太、大根田康雄、石田 智、桑原隆一、秋山泰樹、阪本卓也、稻留遵一、内藤 敦、桂 宜輝、大村仁昭、賀川義規、柄川千代美、武田 裕、加藤健志：食道癌の術前化学療法施行中に褐色細胞腫を診断し異時切除により根治し得た1例。第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017年6月23日

桑原隆一、賀川義規、野瀬陽平、森 良太、大根田康雄、石田 智、秋山泰樹、阪本卓也、内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、加藤健志、田村茂行：緩和的Cmab単剤投与でPS改善し mFOLFOX+Cmab が開始できた切除不能進行大腸癌の1例。第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017年6月23日

野瀬陽平、賀川義規、森 良太、大根田康雄、石田 智、桑原隆一、秋山泰樹、阪本卓也、内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、中塚伸一、武田 裕、加藤健志、田村茂行：Pagetoid spread を伴う肛門腺癌に対し腹腔鏡下直腸切断術を施行した1例。第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017年6月23日

賀川義規、加藤健志、内藤 敦、野瀬陽平、森 良太、大根田康雄、石田 智、桑原隆一、秋山泰樹、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、田村茂行：大腸癌イレウスに対してイレウス管を用いた減圧後の腹腔鏡手術の検討。第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017年6月23日

武田 裕、桂 宜輝、大村仁昭、阪本卓也、中平 伸、秋山泰樹、桑原隆一、石田 智、大根田康雄、野瀬陽平、森 良太、村上剛平、内藤 敦、賀川義規、竹野 淳、加藤健志、田村茂行、村田幸平：腹腔鏡下に脾切除した脾神経内分泌腫瘍症例の検討。第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017年6月23日

賀川義規、内藤 敦、河合賢二、高瀬洪生、遠矢圭介、湯川芳朗、野瀬陽平、森 良太、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、益澤 徹、竹野 淳、武田 裕、加藤健志、村田幸平：免疫チェックポイント阻害剤の治療予測バイオマーカーとしてのMSI検査と診療体制の確立。第87回大腸癌研究会、四日市、2017年7月7日

内藤 敦、賀川義規、河合賢二、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、益澤 徹、竹野 淳、武田 裕、太田高志、山口真二郎、加藤健志、村田幸平：当院での閉塞性大腸癌に

に対する治療方針。第 87 回大腸癌研究会、四日市、2017 年 7 月 7 日

武田 裕、大村仁昭、桂 宜輝、阪本卓也、中平 伸、河合賢二、内藤 敦、賀川義規、村上剛平、益澤 徹、竹野 淳、加藤健志、田村茂行、村田幸平：大腸癌肝転移に対する腹腔鏡下肝切除の成績。第 87 回大腸癌研究会、四日市、2017 年 7 月 7 日

加藤健志、賀川義規、内藤 敦、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、田村茂行：教育を考慮した横行結腸癌に対する術式の標準化。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 20 日

竹野 淳、田村茂行、村上剛平、阪本卓也、内藤 敦、桂 宜輝、大村仁昭、賀川義規、武田 裕、加藤健志：切除不能進行胃癌に対する化学療法後、根治切除対象症例の治療成績。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 20 日

賀川義規、加藤健志、内藤 敦、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、田村茂行：経肛門または経鼻イレウス管による減圧後の閉塞性大腸癌に対する待機的腹腔鏡手術。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 20 日

阪本卓也、武田 裕、大村仁昭、桂 宜輝、村上剛平、内藤 敦、賀川義規、竹野 淳、加藤健志、田村茂行：当院の肝胆膵領域悪性腫瘍手術における手術部位感染 (SSI) の検討。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 21 日

森 良太、賀川義規、加藤健志、内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、田村茂行：血液透析導入患者における緊急手術症例に関する検討。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 21 日

今村宏輝、賀川義規、加藤健志、内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、田村茂行：呼吸器障害合併大腸癌に対して硬膜外併用脊椎麻酔で根治切除を施行した 4 例。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 21 日

野瀬陽平、賀川義規、加藤健志、内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、田村茂行：当院における結腸癌術後切開創 SSI リスク因子の検討。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 21 日

湯川芳郎、賀川義規、加藤健志、内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、田村茂行：当院における直腸 NET 症例の検討。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 21 日

桑原隆一、賀川義規、内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、田村茂行、加藤健志：早期創傷治癒を目指した人工肛門閉鎖術後の局所陰圧閉鎖療法。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 22 日

大村仁昭、武田 裕、桂 宜輝、阪本卓也、村上剛平、内藤 敦、賀川義規、竹野 淳、加

藤健志、田村茂行：当院における大腸癌肝転移に対する腹腔鏡下肝切除術の安全性と成績。
第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 22 日

桂 宜輝、武田 裕、大村仁昭、阪本卓也、内藤 敦、村上剛平、賀川義規、竹野 淳、加藤健志、田村茂行：当院の安全性を意識した腹腔鏡肝切除術の工夫。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 22 日

武田 裕、大村仁昭、桂 宜輝、阪本卓也、村上剛平、内藤 敦、賀川義規、竹野 淳、加藤健志、田村茂行：腹腔鏡下脾頭十二指腸切除の手技と結果。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 22 日

石田 智、田村茂行、内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、賀川義規、竹野 淳、武田 裕、加藤健志：下部消化管穿孔手術症例に対するリコンビナント・トロンボモジュリンの使用経験。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 22 日

賀川義規、内藤 敦、河合賢二、桂 宜輝、大村仁昭、益澤 徹、竹野 淳、武田 裕、加藤健志、村田幸平：TANKO 手術による中結腸動静脈根部への頭側アプローチ。第 17 回 Needlescopy Surgery Meeting、大分、2017 年 8 月 4 日

加藤健志、賀川義規、内藤 敦、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、田村茂行：導入から外来で実施した切除不能進行再発大腸癌に対する FOLFOXIRI + Bevacizumab (Bmab) 療法。第 25 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2017)、福岡、2017 年 10 月 14 日

賀川義則、加藤健志、内藤 敦、野瀬陽平、森 良太、阪本卓也、桑原隆一、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、田村茂行：人工肛門閉鎖術後の局所陰圧閉鎖療法を用いた早期開腹プログラム。第 25 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2017)、福岡、2017 年 10 月 13 日

桂 宜輝、武田 裕、大村仁昭、阪本卓也、内藤 敦、村上剛平、賀川義則、竹野 淳、加藤健志、田村茂行：内視鏡的摘出が困難な胃手術後の胆管結石に対する腹腔鏡下胆管結石摘出術の検討。第 25 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2017)、福岡、2017 年 10 月 13 日

阪本卓也、武田 裕、大村仁昭、桂 宜輝、村上剛平、内藤 敦、賀川義則、竹野 淳、加藤健志、田村茂行：当院における腹腔鏡下肝切除術の治療成績と術式の定型化について。第 25 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2017)、福岡、2017 年 10 月 13 日

大村仁昭、武田 裕、桂 宜輝、阪本卓也、中平 伸、内藤 敦、村上剛平、賀川義則、竹野 淳、加藤健志、田村茂行：転移性肝癌に対する腹腔鏡下肝切除術の検討。第 25 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2017)、福岡、2017 年 10 月 13 日

遠矢圭介、賀川義則、野瀬陽平、森 良太、大根田康雄、石田 智、桑原隆一、秋山泰樹、内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、加藤健志、田村茂行：ハ

ルトマン手術後のストーマ孔を利用した単孔式ストーマ閉鎖術。第25回日本消化器関連学会
週間（JDDW2017）、福岡、2017年10月13日

三重堯文、山口真二郎、山岡 祥、須永紘史、芦田宗宏、福本賢二、前田篤史、水本 墨、
有本雄貴、太田高志、戸田万生良、糸瀬一陽、伊藤善基、内藤 敦、賀川義則、加藤健志、
萩原秀紀、林 紀夫：当院における大腸 Interval cancer の検討。第25回日本消化器関連学会週
間（JDDW2017）、福岡、2017年10月13日

森 良太、賀川義則、湯川芳朗、遠矢圭介、高瀬洪生、野瀬陽平、大根田康雄、石田 智、
桑原隆一、秋山泰樹、阪本卓也、村上剛平、内藤 敦、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武
田 裕、加藤健志、田村茂行：当院における上腸間膜動脈閉塞症の10例の検討。第25回日
本消化器関連学会週間（JDDW2017）、福岡、2017年10月14日

野瀬陽平、賀川義則、木村 慶、森 良太、大根田康雄、石田 智、桑原隆一、秋山泰樹、
阪本卓也、内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、加藤健志、田
村茂行：結腸癌術前4%グルコン酸クロルヘキシジン石鹼によるシャワー浴のタイミングが
SSI発症に及ぼす影響。第25回日本消化器関連学会週間（JDDW2017）、福岡、2017年10
月14日

桑原隆一、賀川義則、野瀬陽平、森 良太、大根田康雄、石田 智、秋山泰樹、阪本卓也、
内藤 敦、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、竹野 淳、武田 裕、加藤健志、田村茂行：当
院における血液透析導入患者における緊急腸管切除手術症例に関する検討。第25回日本消化
器関連学会週間（JDDW2017）、福岡、2017年10月14日

村上剛平、田村茂行、竹野 淳、阪本卓也、内藤 敦、桂 宜輝、大村仁昭、賀川義則、武
田 裕、加藤健志：胃全摘症例における経腸栄養チューブ留置の工夫とその効果についての
検討。第25回日本消化器関連学会週間（JDDW2017）、福岡、2017年10月14日

竹野 淳、山口真二郎、田村茂行、村上剛平、阪本卓也、内藤 敦、桂 宜輝、大村仁昭、
賀川義規、武田 裕、加藤健志、萩原秀紀：胃癌に対するESD非治癒切除症例への対応。第
25回日本消化器関連学会週間（JDDW2017）、福岡、2017年10月14日

阪本卓也、武田 裕、大村仁昭、桂 宜輝、河合賢二、内藤 敦、村上剛平、賀川義規、益
澤 徹、竹野 淳、加藤健志、田村茂行、村田幸平：大腸癌肝転移症例における腹腔鏡下肝
切除術の検討。第55回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017年10月20日

桂 宜輝、武田 裕、大村仁昭、阪本卓也、河合賢二、内藤 敦、村上剛平、賀川義規、益
澤 徹、竹野 淳、加藤健志、田村茂行、村田幸平：当院の高齢者に対する腹腔鏡下肝切除
術の治療成績。第55回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017年10月20日

武田 裕、桂 宜輝、大村仁昭、阪本卓也、中平 伸、河合賢二、村上剛平、内藤 敦、賀
川義規、益澤 徹、竹野 淳、加藤健志、田村茂行、村田幸平：Short and middle term outcomes
after laparoscopic versus open liver resection for hepatocellular carcinoma : A single institution experience.

第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 20 日

大村仁昭、武田 裕、桂 宜輝、阪本卓也、河合賢二、稻留遵一、内藤 敦、村上剛平、賀川義規、益澤 徹、竹野 淳、柄川千代美、加藤健志、田村茂行、村田幸平：当院の転移・再発膵癌に対する FOLFIRINOX 療法と GEM+nabPTx 療法の経験。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 20 日

吉野孝之、山中竹春、小高雅人、間中 大、江頭徹哉、長谷川順一、高金明典、中村将人、加藤健志、宗本義則、佐治重豊、前原善彦、水島恒和、大津 敦、森 正樹：結腸がん術後補助化学療法の最新知見とその臨床的解釈。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 21 日

山崎健太郎、吉野孝之、室 圭、加藤健志、沖 英次、辻 晃仁、江見泰徳、向坂英樹、坂東英明、谷口浩也、賀川義規、山中竹春、金澤旭宣：切除不能大腸癌に対する FOLFOXIRI + bevacizumab 療法の第Ⅱ相試験（QUATTRO study）。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 22 日

金 浩敏、福永 睦、水島恒和、池田正孝、加藤健志、工藤敏啓、村田幸平、井出義人、向坂英樹、西村潤一、畠 泰司、松田 宙、根津理一郎、土岐祐一郎、森 正樹：Oxaliplatin 既治療の進行大腸癌に対する XELIRI+Bevacizumab 療法の検討-phase I / II 試験。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 22 日

古畑智久、山本浩文、能浦真吾、猪俣雅史、加藤健志、三宅泰裕、村田幸平、五十嵐誠治、板橋道朗、林 成興、竹政伊知朗、富田尚裕、松浦成昭：OSNATM 法による大腸癌リンパ節転移診断の臨床的意義：11 施設による前向き研究。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 22 日

内藤 敦、賀川義則、河合賢二、高瀬洪生、遠矢圭介、湯川芳朗、野瀬陽平、森 良太、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、益澤 徹、竹野 淳、武田 裕、加藤健志、村田幸平：ハルトマン手術後の単孔式人口肛門閉鎖術。第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017 年 11 月 10 日

賀川義則、内藤 敦、河合賢二、高瀬洪生、遠矢圭介、湯川芳朗、野瀬陽平、森 良太、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、益澤 徹、竹野 淳、太田高志、山口真二郎、武田 裕、加藤健志、村田幸平：閉塞性大腸癌に対してイレウス管を用いた減圧後の腹腔鏡手術の検討。第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017 年 11 月 10 日

河合賢二、賀川義則、内藤 敦、高瀬洪生、遠矢圭介、湯川芳朗、野瀬陽平、森 良太、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、益澤 徹、竹野 淳、武田 裕、加藤健志、村田幸平：当院における虫垂腫瘍手術症例の検討。第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017 年 11 月 10 日

加藤健志、植村 守、三宅正和、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮

崎道彦、池田正孝、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：横行結腸癌に対する Reduced port surgery(RPS)の標準化と教育。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017 年 12 月 7 日

大村仁昭、武田 裕、中平 伸、桂 宜輝、阪本卓也、河合賢二、村上剛平、内藤 敦、賀川義則、益澤 徹、竹野 淳、加藤健志、田村茂行、村田幸平：悪性腫瘍に対する腹腔鏡下脾切除の切除限界～当院における治療成績から～。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017 年 12 月 8 日

桂 宜輝、武田 裕、中平 伸、大村仁昭、阪本卓也、河合賢二、村上剛平、内藤 敦、賀川義則、益澤 徹、竹野 淳、加藤健志、田村茂行、村田幸平：当院の腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術の治療成績。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017 年 12 月 8 日

村田幸平、賀川義則、内藤 敦、河合賢二、武田 裕、竹野 淳、益澤 徹、大村仁昭、桂 宜輝、村上剛平、阪本卓也、加藤健志：後腹膜経路を用いた腹腔鏡下永久人工肛門増設。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、大阪、2017 年 12 月 8 日

阪本卓也、武田 裕、大村仁昭、桂 宜輝、河合賢二、村上剛平、内藤 敦、賀川義則、益澤 徹、竹野 淳、加藤健志、田村茂行、村田幸平：腫瘍の局在からみた肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除術。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、東京、2017 年 12 月 9 日

武田 裕、大村仁昭、桂 宜輝、阪本卓也、中平 伸、森 良太、野瀬陽平、河合賢二、内藤 敦、村上剛平、賀川義則、益澤 徹、竹野 淳、加藤健志、田村茂行、村田幸平：腹腔鏡下脾切除での Pitfall とその対処。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、徳島、2017 年 12 月 9 日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、池田正孝、三宅正和、植村 守、中森正二、関本貢嗣：多発痔瘻の検討。第 71 回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017 年 11 月 10 日

大宮英泰、高見康二、関本貢嗣、中森正二、平尾素宏、池田正孝、宮崎道彦、宮本敦史、増田慎三、西川和宏、濱 直樹、三宅正和、植村 守、水谷麻紀子、八十島宏行、前田 栄、大谷陽子、浜川卓也、栗山啓子、眞能正幸：臨床病期 I 期右側非小細胞肺癌における縦隔リンパ節郭清に関する到達法別検討。第 117 回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017 年 4 月 27 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：サルコペニアが脾頭十二指腸切除の術後経過に及ぼす影響に関する検討。第 117 回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017 年 4 月 29 日

Miyamoto A, Hama N, Maeda S, Hamakawa T, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Ikeda M, Hirao M, Sekimoto M, Nakamori S : Impact of visceral obesity and sarcopenia on pancreaticoduodenectomy. 第 29 回日本肝胆膵外科学会学術集会、横浜、2017 年 6 月 10 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池

田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：遠位胆管癌切除後の腹膜転移再発に対し再発巣切除により長期生存が得られた1例。第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017年6月23日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：胆道再建後の拳上空腸閉塞に対する拳上空腸消化管バイパスに関する検討。第42回日本外科系連合学会学術集会、徳島、2017年6月29日

宮本敦史、村上弘大、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：術前治療が膵癌根治切除例の術後経過に及ぼす影響に関する検討。第48回日本膵臓学会大会、京都、2017年7月14日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：遠位胆管癌の再発形式、予後からみた再発巣切除に関する検討。第53回日本胆道学会学術集会、山形、2017年9月28日

宮本敦史、村上弘大、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：早期術後合併症からみた膵癌切除例における術前治療の影響。第25回日本消化器関連学会週間（JDDW2017）、福岡、2017年10月12日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：超高齢者に対する膵頭十二指腸切除の短期成績に関する検討。第79回日本臨床外科学会総会、東京、2017年11月25日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：膵頭十二指腸切除例におけるサルコペニアと術後感染症合併症との関連に関する検討。第30回日本外科感染症学会総会学術集会、東京、2017年11月30日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：完全鏡視下に3回の肝切除を施行した肝細胞癌の1例。第30回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017年12月8日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：胆膵領域癌切除後の拳上空腸閉塞に対する外科的治療に関する検討。第54回日本腹部救急医学会総会、東京、2017年3月9日

西川和宏、今村博司、川端良平、松山仁、川瀬朋乃、岡田一幸、下川敏雄、坂井大介、黒川幸典、佐藤太郎、古河洋：高齢者進行胃癌に対するS-1/DTX療法のphase II試験(OGSG0902)の生存成績。第117回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017年4月27日

西川和宏、今村博司、松山仁、福井淳一、川田純司、川瀬朋乃、黒川幸典、坂井大介、下川敏雄、佐藤太郎：胃癌術後S-1補助化学療法患者に対するエレンタールの有用性に関する

第Ⅱ相臨床試験（OGSG1108）。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月22日

西川和宏、遠藤俊治、藤谷和正、川田純司、大森 健、高橋 剛、平尾素宏、浜川卓也、朴正勝、村上弘大、市原もも子、宮崎道彦、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：CY1進行胃癌の治療成績：胃切除の意義はあるか？第25回日本消化器関連学会週間（JDDW2017）、福岡、2017年10月13日

西川和宏、設樂紘平、高島淳生、藤谷和正、今村博司、河内保之、松本繁巳、篠崎勝則、國崎主税、山崎 繁、小泉和三郎：進行再発胃癌2次治療における nab-PTX と PTXとの第3相比較試験。第55回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017年10月22日

Nishikawa K, Fujitani K, Endo S, Kawada J, Hirao M, Hamakawa T, Hasegawa H, Maeda S, Uemura M, Miyake M, Hama N, Miyamoto A, Kato T, Nakamori S, Sekimoto M : Is gasstrectomy for CY1 gastric cancer truly essential? 第90回日本胃癌学会総会、横浜、2018年3月9日

三宅正和、植村 守、池田正孝、宮崎道彦、前田 栄、浜川卓也、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における予防的側方郭清の適応とその治療成績。第117回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017年4月28日

三宅正和、植村 守、宮崎道彦、加藤健志、関本貢嗣：当院における早期大腸癌に対する治療戦略。第87回大腸癌研究会、四日市、2017年7月7日

三宅正和、植村 守、池田正孝、加藤健志、宮崎道彦、関本貢嗣：直腸癌骨盤内局所再発後的小腸間膜内リンパ節転移の4例。第72回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017年11月11日

三宅正和、植村 守、池田正孝、加藤健志、前田 栄、浜川卓也、西川和宏、濱 直樹、宮本敦史、平尾素宏、宮崎道彦、中森正二、関本貢嗣：骨盤内臓全摘術後の骨盤内充填に関する検討。第79回日本臨床外科学会総会、東京、2017年11月25日

植村 守、三宅正和、池田正孝、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、森 正樹、中森正二、関本貢嗣：局所進行直腸癌/直腸癌局所再発に対する術前放射線化学療法。第117回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017年4月29日

植村 守、三宅正和、宮崎道彦、池田正孝、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：仙骨合併切除を要する直腸癌局所再発手術に対する腹腔鏡下手術。第71回手術手技研究会、名古屋、2017年5月26日

植村 守、三宅正和、池田正孝、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：進行下部直腸癌・直腸癌局所再発に対する側方リンパ節郭清術。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月20日

植村 守、三宅正和、池田正孝、河合賢二、高橋秀和、原口直紹、西村潤一、畠 泰司、松田 宙、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、森 正樹、中森正二、関本貢嗣：直腸癌局所再発症例に対するギグリ線鋸を用いた腹腔鏡下仙骨合併切除術。第 25 回日本消化器関連学会週間（JDDW2017）・福岡、2017 年 10 月 13 日（優秀演題）

植村 守、三宅正和、池田正孝、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、森 正樹、中森正二、関本貢嗣：直腸癌局所再発症例に対する腹腔鏡下手術の取り組み。第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017 年 11 月 10 日

水谷麻紀子、増田慎三、八十島宏行、大谷陽子、森川希実、苅田真子：HER2 陽性転移・再発乳癌に対する一次治療薬としてカドサイラの可能性。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、中森正二：化学療法の奏功により切除が行われた切除不能膵癌の検討。第 71 回手術手技研究会、名古屋、2017 年 5 月 26 日

前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、中森正二：膵癌術後における残膵切除例 6 例の検討。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 21 日

前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、中森正二：化学療法の奏功により切除が行われた遠隔転移を認める切除不能膵癌の検討。第 26 回日本がん転移学会学術集会・総会、大阪、2017 年 7 月 28 日

前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、平尾素宏、加藤健志、関本貢嗣、中森正二：術前治療後切除膵癌の治療成績の検討。第 12 回膵癌術前治療研究会、広島、2017 年 10 月 28 日

前田 栄、宮本敦史、濱 直樹、小林雄太、北風雅敏、山口 歩、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、加藤健志、関本貢嗣、中森正二：HIV 患者に対する胆囊摘出術。第 30 回日本外科感染症学会総会学術集会、東京、2017 年 11 月 30 日

前田 栄、宮本敦史、濱 直樹、山本 慧、山口 歩、小林雄太、小林 登、北風雅敏、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、加藤健志、関本貢嗣、中森正二：腹腔鏡下肝切除を施行した血友病の 2 例。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017 年 12 月 9 日

浜川卓也、平尾素宏、西川和宏、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：透析患者に発生した食道原発悪性黒色腫の 1 切除例。第 71 回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017 年 6 月 15 日

浜川卓也、平尾素宏、西川和宏、山本慧、前田栄、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：高度冠動脈狭窄を伴う根治切除不能出血性胃癌に対し IABP挿入下に胃切除術を行った1例。第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017年6月23日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡下胃切除術における硬膜外麻酔挿入高からみた術後疼痛評価。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月22日

浜川卓也、平尾素宏、西川和宏、前田栄、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡下に切除を行った食道癌根治的化学放射線療法後の腹部リンパ節転移の1例。第26回日本がん転移学会学術集会・総会、大阪、2017年7月27日

浜川卓也：幽門部早期胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術（左副肝動脈温存D1+郭清）。平成29年度内視鏡外科分科会総会ビデオコンテスト、大阪、2017年10月18日（最優秀賞：胃）

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田栄、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：早期胃癌に対する噴門側胃切除術・食道残胃吻合の治療成績の検討。第79回日本臨床外科学会総会、東京、2017年11月23日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田栄、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡下胃切除術予防的D2郭清の治療成績。第30回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017年12月8日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、山口歩、前田栄、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：所属リンパ節生検で診断した胃未分化円形細胞肉腫の1例。第90回日本胃癌学会総会、横浜、2018年3月9日

藤原綾子、新谷康、舟木壮一郎、川村知裕、神崎隆、南正人、奥村明之進：癌間質線維芽細胞(CAF)と肺癌上皮細胞の相互作用を標的としたpirfenidoneの抗腫瘍薬としての可能性。第34回日本呼吸器外科学会総会、福岡、2017年5月18日

村上弘大、濱直樹、前田栄、宮本敦史、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、大宮英泰、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、高見康二、関本貢嗣、中森正二：減量手術を行うことができた十二指腸原発神経内分泌腫瘍多発肝転移の1例。第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017年6月23日

村上弘大、宮本敦史、前田栄、濱直樹、三宅正和、西川和宏、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：膵癌に対する術前治療と切除後膵液漏に関する検討。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月22日

市原もも子、池田正孝、植村 守、三宅正和、宮崎道彦、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：側方郭清の適応と意義および術前化学放射線療法の効果についての検討。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月20日

森川希実、増田慎三、水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、田中希世、眞能正幸、森 清、関本貢嗣、中森正二：ホルモン陽性 HER2陰性進行再発乳癌患者における血清 HER2 蛋白測定と抗 HER2 治療の可能性。第25回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017年7月14日

垣内万依、庄野裕志、森川希実、大谷陽子、八十島宏行、水谷麻紀子、増田慎三：エリブリンメシル酸塩の治療継続に及ぼす腎機能の影響。第25回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017年7月14日

北風雅敏、前田 栄、宮本敦史、濱 直樹、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：肝切除を施行した血友病 A の 1 例。近畿外科病態研究会、大阪、2017年9月16日

北風雅敏、植村 守、三宅正和、池田正孝、加藤健志、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：直腸癌局所再発に対して仙骨合併切除術を行った症例における術後疼痛管理の検討。第72回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017年11月11日

北風雅敏、前田 栄、宮本敦史、三宅正和、濱 直樹、西川和宏、加藤健志、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における HIV 感染症患者に対する鼠径ヘルニア手術の検討。第30回日本外科感染症学会総会学術集会、東京、2017年11月30日

北風雅敏、植村 守、三宅正和、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：直腸癌によるフルニエ壊疽の 1 例。第54回日本腹部救急医学会総会、東京、2018年3月8日

小林 登、平尾素宏、浜川卓也、西川和宏、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：当院における食道癌術後胃管潰瘍の後方視的検討。第71回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017年6月15日

小林 登、植村 守、三宅正和、加藤健志、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：直腸癌術後局所再発に対する仙骨合併切除例の骨盤内感染の検討。第79回日本臨床外科学会総会、東京、2017年11月25日

小林 登、浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、中森正二、関本貢嗣：イレウス管留置時に診断された胃癌に対して二期的に腹腔鏡下にイレウス解除術および胃切除を施行した一例。第30回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017年12月7日

小林 登、西川和宏、浜川卓也、平尾素宏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：HIV陽性血友病患者の発症した胃癌に対し胃切除を施行した一例。第90回日本胃癌学会総会、横浜、2017年3月8日

小林雄太、平尾素宏、浜川卓也、西川和宏、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、中森正二、関本貢嗣：Killian-Jamieson憩室の1切除例。第71回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017年6月16日

小林雄太、前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、森 清、眞能正幸、中森正二：術前化学療法により切除が可能となった多発腹膜播種を伴う膵癌の1例。第48回日本膵臓学会大会、京都、2017年7月15日

小林雄太、三宅正和、植村 守、池田正孝、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における閉塞性大腸癌に対する大腸ステントを用いた治療戦略。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月20日

小林雄太、前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、森 清、眞能正幸、中森正二：Cemcitabine・nab-paclitaxel併用術前化学療法により切除が可能となった多発腹膜播種を伴う膵癌の1例。第26回日本がん転移学会学術集会・総会、大阪、2017年7月28日

小林雄太、三宅正和、植村 守、加藤健志、宮崎道彦、池田正孝、関本貢嗣：当院におけるSM浸潤癌の予後因子に関する検討。第72回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017年11月10日

小林雄太、平尾素宏、赤坂智史、浜川卓也、西川和宏、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、加藤聖也、三田英治、関本貢嗣：喉頭癌術後の吻合部狭窄により経口内視鏡が困難な胃癌術後の早期食道癌に対して経残胃的に逆行性ESDを施行した1例。第79回日本臨床外科学会総会、東京、2017年11月24日

小林雄太、植村 守、三宅正和、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：局所陰圧閉鎖療法を用いて腹会陰式直腸切斷術後の会陰創管理を行った1例。第30回日本外科感染症学会総会学術集会、東京、2017年11月30日

山本 慧、平尾素宏、山田拓哉、浜川卓也、西川和宏、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：当院における胃管癌に対する内視鏡的切除及び外科的切除症例の検討。第71回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017年6月15日

山本 慧、三宅正和、植村 守、宮崎道彦、加藤健志、関本貢嗣、池田正孝：肝転移のない肝門部リンパ節転移を伴ったSM浸潤上行結腸癌の一例。第72回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017年11月11日

山本 慧、三宅正和、浜川卓也、前田 栄、植村 守、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：瘤への流入血管のクリッピングのみで治療し得た脾動脈瘤の一例。第30回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017年12月9日

下山 遼、植村 守、三宅正和、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における腹腔鏡下直腸固定術～Multiple portからReduced portへ～。第17回Needlesscopic Surgery Meeting、大分、2017年8月4日

山口 歩、三宅正和、浜川卓也、前田 栄、植村 守、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：皮膚浸潤を伴う肛門管癌に放射線化学療法後、直腸切斷術および会陰再建を施行した一例。第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017年6月23日

山口 歩、植村 守、三宅正和、宮崎道彦、池田正孝、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における直腸脱手術に対するReduced Port Surgeryの取り組み。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月22日

山口 歩、植村 守、三宅正和、宮崎道彦、加藤健志、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における直腸脱手術に対するReduced Port Surgeryの取り組み。第17回Needlesscopic Surgery Meeting、大分、2017年8月4日

山口 歩、濱 直樹、前田 栄、宮本敦史、中森正二：完全内臓逆位症を伴う胆囊炎に対し、腹腔鏡下胆囊摘出術を施行した1例。第53回日本胆道学会学術集会、山形、2017年9月28日

山口 歩、前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、植村 守、三宅正和、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：肝アニサキス症の1切除例。第30回日本外科感染症学会総会学術集会、東京、2017年11月29日

山口 歩、濱 直樹、前田 栄、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：腹腔鏡下胆囊摘出術を施行した、完全内臓逆位症を伴う胆囊炎の1例。第30回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017年12月9日

山口 歩、三宅正和、植村 守、加藤健志、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：狭窄型虚血性腸炎にて、イレウスを発症し2度の手術を要した1例。第54回日本腹部救急医学会総会、東京、2018年3月9日

加藤伸弥、三宅正和、植村 守、加藤健志、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：腸重積を併発した進行直腸癌を腹腔鏡下に切除した一例。第54回日本腹部救急医学会総会、東京、2018年3月9日

萩 美里、大谷陽子、森 清、水谷麻紀子、八十島宏行、森川希美、井上敦夫、中森正二、関本貢嗣、眞能正幸、増田慎三：Triple negative 乳癌（TNBC）に対する術前化学療法の現状と課題。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 20 日

萩 美里、三宅正和、北風雅敏、植村 守、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：急性虫垂炎を契機に判明した虫垂癌の一例。第 54 回日本腹部救急医学会総会、東京、2018 年 3 月 8 日

四方文子、鈴木久美、増田慎三、木村光誠、藤岡大也、寺沢理沙、水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、岩本充彦：内分泌療法を受けている若年乳がん患者の体験する困難と医療者へのニーズ。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

B-5

関本貢嗣：直腸癌局所再発に対する外科治療。第 71 回手術手技研究会、名古屋、2017 年 5 月 27 日

関本貢嗣：痛みのない手術、傷のない手術。第 211 回金蘭会セミナー、大阪、2017 年 9 月 15 日

関本貢嗣：痛みのない手術、創のない手術。東淀川病診連携フォーラム、大阪、2017 年 12 月 9 日

関本貢嗣：進化する大腸がん治療。大腸がんシンポジウム、大阪、2018 年 3 月 10 日

中森正二：conversion surgery の最近の話題-化学療法を中心に-。第 17 回阪神膵臓外科研究会、大阪、2018 年 2 月 23 日

増田慎三：閉経後 ER 陽性進行再発乳癌治療の新展開。SEM 大阪、大阪、2017 年 4 月 22 日

増田慎三：乳癌領域における若手医師の教育プログラム。第二回乳癌 Educational セミナー、東京、2017 年 5 月 21 日

増田慎三：進行再発 HER2 陽性乳癌に対するベストストラテジーを考える。中讃地区乳癌 Expert Meeting、香川、2017 年 5 月 23 日

増田慎三：ファイザーが主催する会議に出席し、専門的知見に基づいて乳癌薬物療法に対する専門的知識の供与を行い乳癌治療の均てん化を図る。Advisory Board Meeting for Beast Cancer、東京、2017 年 5 月 26 日

増田慎三：進行再発 HER2 陽性乳癌～1st ライン治療を考える～。The Apex ACADEMY OF HALAVEN @Chicago, Chicago, 2017 年 6 月 4 日

増田慎三：米国腫瘍学会で発表された乳がん治療の最新情報についての意見・討議。Breast Cancer Treatment Strategy Advisory Board Meeting、大阪、2017年6月26日

増田慎三：ホルモン受容体陽性乳がん治療について助言。Lilly Breast Cancer Medical Advisory Board Meeting、大阪、2017年7月7日

増田慎三：St. Gallen BCC2017からみた、今後の閉経前内分泌療法の展望。第25回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017年7月13日

増田慎三：HER2陰性進行再発乳癌に対するベストストラテジーを考える。South Osaka Breast Cancer symposium、大阪、2017年7月20日

増田慎三：HER2陽性進行・再発乳癌治療に関する情報提供。第15回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017年7月27日

増田慎三：HER2陰性乳癌に関する治療戦略と最新の情報 HER2陰性進行・再発乳癌におけるアバスチン+パクリタキセル療法。Chugai Onco-Line on Best Cancer、東京、2017年8月3日

増田慎三：HER2陰性進行再発乳癌に対するベストストラテジーを考える。第18回乳癌最新情報カンファレンススポーツサードセミナー、京都、2017年8月4日

増田慎三：閉経前ER陽性乳癌治療におけるBest Strategyを探る。第18回乳癌最新情報カンファレンス、京都、2017年8月4日

増田慎三：乳癌診療～今、そしてこれから～。CIMIC社内研修会、東京、2017年8月31日

増田慎三：十分な局所性治療及び術前補助化学療法又は術後補助化学療法を終了した高リスク生殖細胞系BRCA1/2変異陽性HER2陰性原発乳癌患者に対する術後補助療法としてのオラパリブの有効性と安全性を評価する無作為二重盲検並行群間比較プラセボ対照多施設共同第III相試験。2nd OlympiA Local Investigators' Meeting、東京、2017年9月2日

増田慎三：最新の乳がん周術期化学療法。Breast Cancer Round Table Meeting in Kobe、神戸、2017年9月15日

増田慎三：医薬品費用対効果評価の施行的導入の対象品目に係る科学的観点と倫理的・社会的観点の議論。カドサイラに係る費用対効果評価専門組織における役割派遣、東京、2017年9月20日

増田慎三：進行再発HER2陽性乳癌に対するベストストラテジーを考える。第4回乳癌勉強会、名古屋、2017年9月23日

増田慎三：進行再発HER2陽性乳癌に対するベストストラテジーを考える。Chugai Breast Cancer Seminar in Sendai、仙台、2017年10月6日

増田慎三 : ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。乳がん分子標的治療セミナー、東京、2017年10月14日

増田慎三 : 乳がん最前線新しい治療ができるまで～治験・臨床試験とは。乳がん最前線新しい治療ができるまで～治験・臨床試験とは、大阪、2017年10月15日

増田慎三 : HER2 乳癌に関する治療戦略と最新の情報提供。石川県乳癌 Expert Meeting、石川、2017年10月27日

増田慎三 : HER2 陽性進行再発乳癌治療の現状と展望。東葛乳がん Expert Meeting、千葉、2017年11月10日

増田慎三 : 第3部パネルディスカッション「ER 陽性 HER2 陰性のABC 患者における治療アルゴリズムを考える」。Pfizer Oncology Symposium Breast Cancer 2017、東京、2017年11月11日

増田慎三 : 乳癌領域の臨床試験 実施状況レビュー。大阪地区 治験 Boost-up Meeting、大阪、2017年11月30日

増田慎三 : BRCA 検査、PARP 阻害剤を中心とした TNBC umnet needs に関する討論。SABCS2017 アストラゼネカ Advisory Board Meeting、サンアントニオ、2017年12月8日

増田慎三 : 新局面を迎える HER2 陰性進行再発乳癌治療、Breast Cancer Treatment Forum、大阪、2017年12月21日

増田慎三 : 原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジー。New Year Conference Breast Cancer、埼玉、2018年1月11日

増田慎三 : ホルモン受容体陽性乳癌の治療について助言。Lilly Medical Breast Cancer Consultant Meeting、東京、2018年1月19日

増田慎三 : HER2 陽性進行再発乳癌治療の現状と展望。乳癌 Expert Meeting in 千葉、千葉、2018年1月25日

増田慎三 : 我が国における HER2 陰性乳がんの周術期化学療法～享受と独創～。乳癌学術講演会 2018、東京、2018年2月24日

増田慎三 : ER 陽性進行再発乳癌の治療戦略。第28回鳥取県乳腺疾患研究会、鳥取、2018年3月3日

増田慎三 : HER2 陽性進行再発乳癌の治療戦略～ベストストラテジーを考える～。Chugai Breast Cancer Symposium in Shizuoka 2018、静岡、2018年3月10日

植村 守：ハーモニック一本で攻める下部直腸癌手術。第30回日本内視鏡外科学会総会ブースセミナー、京都、2017年12月8日

植村 守：腹腔鏡下直腸癌手術。第3回みんなで学ぼう腹腔鏡下直腸癌手術、大阪、2018年1月17日

植村 守：世界に発信する究極の低侵襲手術で挑む大腸癌手術～腹腔鏡手術の既成概念を打ち破る～。鶴見区医師会学術講演会、大阪、2018年3月30日

八十島宏行：Osaka Breast Cancer School。第13回Osaka Breast Cancer School、大阪、2017年5月19日

大谷陽子：最新の医学的知見の普及。第21回K B C E C学術講演会、大阪、2018年2月16日

B-6

池田正孝、植村 守、三宅正和、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：骨盤内臓器合併切除を必要とする初発直腸S状結腸癌症例の検討。第71回手術手技研究会、名古屋、2017年5月26日

加藤健志：大腸がんにおける個別化医療。胃がん・大腸がん市民公開講座、神戸、2017年5月28日

加藤健志：大腸癌に対する周術期化学療法。第39回日本癌局所療法研究会 最新医学セミナー3、京都、2017年6月23日

加藤健志：切除不能進行・再発大腸癌二次治療における新たな治療戦略。第55回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017年10月21日

加藤健志：大腸がんに対する術後補助化学療法 POST IDEA。東京大腸手術手技研究会 第31学術集会、東京、2017年10月27日

加藤健志：進行再発大腸癌治療の最前線～手術と化学療法～。第30回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017年12月8日

山田真美、宮崎道彦、田中玲子、池田正孝、三宅正和、植村 守、中森正二、関本貢嗣：急性壊死性筋膜炎の検討。第109回近畿肛門疾患懇談会、大阪、2017年6月17日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、池田正孝、三宅正和、植村 守、中森正二、関本貢嗣：臀部慢性膿皮症の検討。第60回東海肛門疾患懇談会、名古屋、2017年7月29日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、池田正孝、三宅正和、植村 守、中森正二、関本貢嗣：肛

門術後の疼痛対策。第69回中四国肛門疾患懇談会、広島、2017年10月21日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、池田正孝、三宅正和、植村 守、中森正二、関本貢嗣：器質的/機能的狭窄に対するSSG法。第61回東海肛門疾患懇談会、名古屋、2017年11月4日

西川和宏：胃癌二次化学療法－臨床試験の軌跡－。Consultation meeting for Advanced Gastric Cancer、大阪、2017年5月30日

西川和宏：進行胃癌化学療法－実臨床に活用する高齢化に備えたエビデンス。Taiho Web Lecture for Gastric Cancer、大阪、2017年7月4日

西川和宏：臨床試験とエビデンスから考える胃癌二次化学療法。第24回鹿児島消化器癌研究会、鹿児島、2017年9月28日

西川和宏：周術期XELOX療法のマネジメント－外科医の立場から－。第55回日本癌治療学会学術集会学術セミナー41、横浜、2017年10月22日

西川和宏：臨床試験とエビデンスから考える胃癌二次化学療法。北九州消化器癌フォーラム2017、小倉、2017年10月27日

西川和宏：胃癌術後補助化学療法早期再発例に対する治療戦略を考える。なにわ胃癌カンファレンス、大阪、2017年11月9日

西川和宏：エビデンスから考える胃癌二次化学療法以降の治療戦略。第5回Oncology Lecture in SAKATA、酒田、2017年12月4日

西川和宏：日本での進行胃癌に対するラムシルマブの使用経験（1）。Lilly GI Cancer Forum in Taiwan（1）、台湾、2018年3月3日

西川和宏：日本での胃癌患者に対しての栄養サポートについて。Lilly GI Cancer Forum in Taiwan（2）、台湾、2018年3月4日

三宅正和：下部緊急手術。第35回専門医を目指す消化器外科セミナー、大阪、2017年8月25日

植村 守：腹腔鏡下下部直腸癌手術。4th Lap Colorectal Advanced Seminar、東京、2017年4月15日

植村 守：腹腔鏡下側方リンパ節郭清。第2回みんなで学ぼう腹腔鏡下直腸癌手術、大阪、2017年7月26日

植村 守：腹腔鏡下大腸癌手術のいろは 技術認定取得に向けて。Colorectal Cancer Seminar、大阪、2018年3月16日

藤原綾子、新谷 康、舟木壮一郎、川村知裕、神崎 隆、福井絵里子、奥村明之進：肺癌における抗線維化薬 pirenafenone による上皮間葉移行（EMT）および癌間質線維芽細胞（CAF）と肺癌上皮細胞の相互作用に対する抑制効果の検討。第 20 回間質性肺炎細胞分子病態研究会、東京、2017 年 8 月 19 日

藤原綾子、新谷 康、松村晃秀、大瀬尚子、竹内幸康、徳永俊照、岡見次郎、東山聖彦、坂巻 靖、兒玉 憲、高見康二、大和寛幸、門田嘉久、岩崎輝夫、横内秀起、西岡清訓、澤端章好、井上田匡美、奥村明之進：胸膜播種・悪性胸水を伴う肺癌に対する原発巣切除の意義。第 6 回大阪呼吸器外科セミナー、大阪、2018 年 3 月 3 日

小林雄太：脾頭十二指腸切除後の腹腔内出血に対して外科的治療により救命し得た 2 例。大阪 ACS セミナー、大阪、2017 年 8 月 2 日

下山 遼、植村 守、浜川卓也、前田 栄、三宅正和、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：鼠径リンパ節郭清後の難治性リンパ瘻に対して VAC 療法が奏功した 1 例。第 617 回大阪外科集談会、大阪、2017 年 5 月 20 日

B-7

増田慎三：標準療法および最新の乳がん治療に関する説明、アベマシクリブ臨床試験成績の紹介。IY3-MC-JPCF 試験 Investigators Meeting、東京、2017 年 9 月 30 日

増田慎三：イブランスの上手な使い方。Pfizer Breast Cancer Summit 2017 in Osaka、大阪、2017 年 11 月 24 日

増田慎三：ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。イブランス発売記念講演、沖縄、2017 年 12 月 1 日

増田慎三：ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。第 33 回兵庫県病院薬剤師のためのオンコロジーセミナー、神戸、2017 年 12 月 14 日

増田慎三：ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。イブランス発売記念講演 in Aichi、名古屋、2018 年 1 月 26 日

増田慎三：ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。イブランス発売記念講演会、神奈川、2018 年 2 月 15 日

B-8

中森正二：脾癌診療 Up to Date。生野区医師会学術講演会、大阪、2017 年 11 月 15 日

平尾素宏：食道・胃。消化器外科 主要疾患の手術と術後ケア、広島、2018 年 1 月 13 日

平尾素宏：食道・胃。消化器外科 主要疾患の手術と術後ケア、東京、2018 年 2 月 17 日

平尾素宏：食道・胃。消化器外科 主要疾患の手術と術後ケア、大阪、2018年3月3日

B-9

増田慎三：PALOMA-2 試験結果レビュー。進行再発乳癌における治療ストラテジーに関する講演、東京、2017年7月22日

形成外科

吉龍澄子

1999年7月に大阪医療センター皮膚科内に形成外科の常勤医1名が赴任してスタートし、2000年4月1日より診療科として形成外科を標榜しました。2007年4月より外科の中で診療を行ってきましたが、2009年7月より形成外科は外科から独立した診療科となりました。

当院は形成外科学会の教育認定施設に認定され、形成外科専門医取得のための卒後教育にも当っています。当科は、自科で行う診療および複数の科とのチーム医療における再建外科を2本の柱として行ってきました。院内での腫瘍外科手術の増加に伴い、チーム医療における再建外科としての比率がやや高くなっています。

自科としての診療では、主に顔面、頭頸部の皮膚悪性腫瘍、眼瞼形成術、皮膚腫瘍、ケロイド、瘢痕拘縮などの皮膚外科手術を扱っています。顔面の腫瘍の中でも特に眼瞼の腫瘍は、腫瘍の治療という点からだけでなく、眼瞼の機能、および整容的にも満足のいく治療を行うのが重要と考えて治療方針を決め、術式も工夫を行っています。眼瞼癌について放射線科、眼科の協力のもとに、手術だけでなく照射療法なども選択肢に入れて、十分な説明の上、患者様の希望も考慮して治療方針を決定しています。また眼球近くの悪性新生物でも、できるだけぎりぎりまで眼球温存するよう努めています。腫瘍以外では、眼瞼下垂や睫毛内反症、眼瞼外反などの眼瞼の変形や機能障害について、眼瞼形成手術をほぼ毎週数例以上行っています。特に眼瞼下垂の手術では整容面にも配慮した手術を行っています。

顔面の皮膚癌について、四肢の腫瘍や乳癌でおこなわれているセンチネルリンパ節検査の導入を試み、その皮膚癌に適したリンパ節郭清を行う方針を探っています。当科では皮膚腫瘍はできるだけ整容的にそして侵襲を少なく治療するために、植皮方法や皮弁の切開線の工夫を行ってきました。また完全切除をする前に、腫瘍切除後に一旦人工真皮（インテグラ）で被覆し、病理標本で完全切除を確認後に再建しています。その他、治療困難な真性のケロイドに対して、切除後の放射線照射療法を含む治療に取り組んでいます。当科は、全国で唯一ケロイドに対して組織内照射を行っていますので、症例や部位に応じて、切除後放射線外照射あるいは組織内照射を使い分けて治療しています。ケロイドの他にも術後の創部の瘢痕拘縮の修正術も行っています。

もう1つの診療の柱として当科では、院内の外科系各科の癌の切除後の再建に取りこんできました。頭頸部再建、乳癌再建が主なものですが、その他、四肢、体幹の再建も増加しています。頭頸部再建症例は形成外科開設以来200例を超え、大部分がマイクロサーボリーヤによる遊離皮弁の症例です。外科、耳鼻科、口腔外科、形成外科、放射線科、脳外科などによるチーム医療体制が良好なため、安定した再建成績を維持できており、そのため現在まで再建皮弁の壊死などの大きな合併症は1例も起こっていません。特に下顎再建では、顔面神経下頸縁枝麻痺による術後の口唇の変形予防のための手術（筋膜移植）も行っています。

乳房再建は、主に自家組織の皮弁による再建を行ってきました。2013年4月よりシリコンインプラントによる乳房再建も保険適応が一部の形で認められたため、人工乳房による再建を再度スタートしました。現在ではシリコンインプラントによる再建術の方が自家組織による再建術よりも少し多くなっています。今後も悪性腫瘍、顔面の形成、再建外科、皮膚外科を中心に診療する方針です。

【2017年度 研究業績発表】

B-4

吉龍澄子、大谷直也：当科における遊離腓骨皮弁における下顎再建時の工夫。第60回日本形成外科学会総会・学術集会、大阪、2017年4月12-14日

B-6

白石万紀子、吉龍澄子、上田孝文、角永茂樹：悪性軟部腫瘍切除後的人工真皮を使用した二期的植皮について。第117回関西形成外科学会学術集会、和歌山、2017年11月26日

B-8

吉龍澄子：乳房外 Paget 病。第60回日本形成外科学会総会・学術集会、第14回皮膚腫瘍外科分野指導医教育セミナー、大阪、2017年4月13日

整形外科

上田孝文

整形外科は運動器疾患全般を扱う診療科であり、頸部・体幹から四肢・手足先端に至るまでその守備範囲は広い。さらに人口の高齢化に伴い、運動器疾患有する患者数の増加とともに、骨粗鬆症などQOLに影響を及ぼす疾患有する機会も多い。これら広範囲に亘る運動器疾患有のうち、当科では、1) 関節外科（主として股関節・膝関節）、2) 脊椎外科、3) 骨・軟部腫瘍、4) 小児整形・足の外科の4つの領域を中心に、高度専門医療を担っているが、骨折など一般運動器外傷についても可能な範囲で、当院総合救急部や地域医療連携室を通じて近隣の整形外科病院・診療所とも連携しながら診療体制を整えている。

専門領域のうち、骨・軟部悪性腫瘍（肉腫）に対しては大阪大学整形外科腫瘍グループの基幹施設として、専門病理医との密接な連携による正確な病理組織診断を行い、術前・術後の全身補助化学療法、放射線療法、腫瘍広範切除術および各種患肢再建術を組合せた集学的治療体系を駆使することにより、生命予後の改善を図ると共に良好な術後患肢機能の再建に取組んでいる。さらには、“希少がん”としての“肉腫”に対する新規治療薬開発のための臨床試験（治験）を全国多施設共同で積極的に行っている。小児整形・足の外科の分野では、骨形成不全症、先天性股関節脱臼や先天性内反足、ペルテス病、大腿骨頭すべり症、先天性二分脊椎に伴う足部変形など幅広い小児運動器疾患有して高度の専門的治療を提供するとともに、成人の様々な足部変形（ポリオ後遺症や骨折後変形治癒など）に対しても、創外固定法を駆使した外科的変形矯正術を行っている。また我が国の急速な人口高齢化に伴い、患者数が増加している関節外科の分野においては、術前CT画像データに基づく術中ナビゲーションを用いたより精度の高い人工股関節全置換術を導入・推進するとともに、術後の早期社会復帰を目指した最小侵襲手技（MIS）による全人工膝関節置換術やより低侵襲な片側型人工膝関節置換術も積極的に行っている。さらに脊椎外科分野においても、種々の脊椎変性疾患のみならず化膿性脊椎炎、転移性脊椎腫瘍などに対し、前方・後方からの脊髓・神経根除圧に加え、各種脊椎インストルメンテーションによる固定手術も積極的に併用し、早期離床・スムーズな社会復帰を図れるよう高度専門治療を行っている。

これら高度な運動器専門診療レベルを維持し、今後さらに発展させるべく、治療成績を解析し学会発表や論文報告を積極的に行っていくとともに、整形外科専門医を目指す若手スタッフ・レジデントの一般整形外科診療を含む教育や手術トレーニング、医学部学生に対するクリニカルクラークシップも重視していくことにより、臨床診療・研究・教育においてバランスの取れた運動器疾患有するレベルの高い専門診療を心掛けている。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Yamada S, Imura Y, Nakai T, Nakai S, Yasuda N, Kaneko K, Outani H, Takenaka S, Hamada K, Myoui A, Araki N, Ueda T, Itoh K, Yoshikawa H, Naka N: Therapeutic potential of TAS-115 via c-MET and PDGFR α signal inhibition for synovial sarcoma. BMC Cancer 17(1): 334(1-14), 2017年5月16日

Tsuda Y, Ogura K, Hakozaki M, Kikuta K, Ae K, Tsuchiya H, Iwata S, Ueda T, Kawano H, Kawai A: Mesenchymal chondrosarcoma: a Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG) study on 57 patients. J Surg Oncol 115(6): 760-767, 2017 年 5 月 16 日

Takahashi M, Takahashi S, Araki N, Sugiura H, Ueda T, Yonemoto T, Morioka H, Hiraga H, Hiruma T, Kunisada T, Matsumine A, Shimura M, Kawai A: Efficacy of trabectedin in patients with advanced translocation-related sarcomas: Pooled analysis of two phase II studies. Oncologist 22(1): 1-10, 2017 年 5 月 18 日

Kawai A, Yonemori K, Takahashi S, Araki N, Ueda T: Systemic therapy for soft tissue sarcoma: proposal for the optimal use of pazopanib, trabectedin, and eribulin. Adv Ther 2017 Jul; 34(7): 1556-1571, 2017 年 5 月 25 日

Outani H, Imura Y, Tanaka T, Takenaka S, Oshima K, Hamada K, Kakunaga S, Joyama S, Naka N, Kudawara I, Ueda T, Araki N, Yoshikawa H: Clinical outcomes of patients with epithelioid sarcomas: impact and management of nodal metastasis. Int J Clin Oncol 2017 Aug 10. (Epub ahead of print), 2017 年 8 月 10 日

Aono H, Ishii K, Tobimatsu H, Nagamoto Y, Takenaka S, Furuya M, Horii C, Iwasaki M: Temporary short-segment pedicle screw fixation for thoracolumbar burst fractures: comparative study with or without vertebroplasty. Spine J. 17(8): P. 1113-1119, 2017 年 8 月 17 日

Nakai T, Imura Y, Tamiya H, Yamada S, Nakai S, Yasuda N, Kaneko K, Outani H, Takenaka S, Hamada K, Myoui A, Araki N, Ueda T, Itoh K, Yoshikawa H, Naka N: Trabectedin is a promising antitumor agent potentially inducing melanocyte differentiation for clear cell sarcoma. Cancer Med 6(9): 2121-2130, 2017 年 9 月 16 日

Konishi E, Nakashima Y, Mano M, Tomita Y, Kubo T, Araki N, Morii E, Yoshikawa H, Haga H, Toguchida J, Ueda T, Osawa M, Hoshi M, Inoue T, Aono M, Yanagisawa A: Chondroblastoma of extra-craniofacial bones: Clinicopathological analyses of 103 cases. Pathol Int 67(10): 495-502, 2017 年 10 月 16 日

Furuya M, Kikuta J, Fujimori S, Seno S, Maeda H, Shirasaki M, Uenaka M, Mizuno H, Iwamoto Y, Morimoto A, Hashimoto K, Ito T, Isogai Y, Kashii M, Kaito T, Ohba S, Chung UI, Lichtler AC, Kikuchi K, Matsuda H, Yoshikawa H, Ishii M: Direct cell-cell contact between mature osteoblasts and osteoclasts dynamically controls their functions in vivo. Nat Commun 19(9): P.300, 2018 年 1 月 19 日

Ogura K, Susa M, Morioka H, Matsumine A, Ishii T, Hamada K, Ueda T, Kawai A: Reconstruction using a constrained-type hip tumor prosthesis after resection of malignant periacetabular tumors: A study by the Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG). J Surg Oncol 2018 Feb 23. (Epub ahead of print), 2018 年 2 月 23 日

Aono H, Takenaka S, Nagamoto Y, Tobimatsu H, Yamashita T, Furuya M, Iwasaki M: Fusion rate and

clinical outcomes in two-level posterior lumbar interbody fusion. World Neurosurg. 112(3): P. e473-478,
2018年3月30日

A-2

久田原郁夫: 脊髄圧迫症状「乳がん薬物療法副作用マネージメント プロのコツ」P.334-337、
増田慎三編集、メジカルビュー社、2017年9月13日

A-3

竹中 聰、中 紀文、濱田健一郎、中井 翔、高木啓至、王谷英達、伊村慶紀、名井 陽、
上田孝文、荒木信人、吉川秀樹：大腿骨近位部転移性骨腫瘍に対する腫瘍用人工骨頭置換術
後の機能的予後調査：術後患肢機能に関与する因子は何か？「臨床整形外科」52(6) : P.513 -
518、2017年6月16日

清水孝典、黒田泰生、三木秀宣：血友病性股関節症に対するTHAの短期成績「Hip Joint」43(2) :
P.866-868、2017年8月16日

松岡由希子、北野元裕、上田孝文：中足骨短縮症の一例的延長術後に皮膚障害を呈した一例
「近畿小児整形外科」30 : P. 22-24、2018年1月25日

森本彬人、菊田順一、古家雅之、石井 優：特集 生体骨イメージング最前線～新しい創薬
に向けて～ Therapy 生体骨イメージングによる骨形成促進薬の作用解析「Clinical calc」28(2) :
P.243-248、2018年2月27日

B-2

Miyamoto T: Metal ionic analysis before and after TKA using Cobalt-Chrome and Oxidized-Zirconium
femoral component. 22nd North American Hip and Knee Symposium, Scottsdale, 2017年4月17日

Iwata S, Kobayashi E, Yonemoto T, Araki N, Kunisada T, Hiraga H, Akiyama T, Kakunaga S, Shinoda Y,
Ueda T: Risk factors of symptomatic venous thromboembolism in sarcoma patients: A Japanese
prospective multicenter study. 19th International Society of Limb Salvage (ISOLS) 2017 General Meeting,
Kanazawa, 2017年5月10日

Ogura K, Fujiwara T, Jeon DG, Cho WH, Hiraga H, Ishii T, Yonemoto T, Kamoda H, Ozaki T, Kozawa E,
Nishida Y, Morioka H, Hiruma T, Kakunaga S, Ueda T, Araki N, Naka N, Tsuda Y, Kawano H, Kawai A:
Nomograms predicting distant metastases and overall survival after neoadjuvant chemotherapy and
surgery for patients with non-metastatic osteosarcoma: A multi-institutional study. 19th International
Society of Limb Salvage (ISOLS) 2017 General Meeting, Kanazawa, 2017年5月10日

Kakunaga S, Matsuoka Y, Kudawara I, Ueda T: Denosumab combined with sunitinib in patient with
metastasis of humerus from renal cell carcinoma. 19th International Society of Limb Salvage (ISOLS)
2017 General Meeting, Kanazawa, 2017年5月10日

Mori T, Nakayama R, Endo M, Kobayashi E, Kawai A, Ueda T, Morioka H: Forty-eight cases of

leiomyosarcoma of bone in Japan: A multicenter study from the Japanese Musculoskeletal Oncology Group. 19th International Society of Limb Salvage (ISOLS) 2017 General Meeting, Kanazawa, 2017年5月10日

Furuya M, Nagamoto Y, Aono H: Surgical outcomes of posterior lumbar interbody fusion in patients over 80 years of age. 44th Annual Meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine, Athens, 2017年5月18日

Aono H, Ishii K, Tobimatsu H, Nagamoto Y, Takenaka S, Furuya M, Horii C, Yamashita T, Iwasaki M: Temporary short-segment pedicle screw fixation for thoracolumbar burst fractures -comparative study with or without vertebroplasty. 44th Annual Meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine, Athens, 2017年5月18日

Miyamoto T: Constrained TKA implant for complexed primary case. TKA Advanced Bioskill Course, Bangkok, 2017年7月17日

Miyamoto T: Revision TKA principle. TKA Advanced Bioskill Course, Bangkok, 2017年7月17日

Aono H, Ishii K, Takenaka S, Nagamoto Y, Furuya M, Yamashita T, Iwasaki M: Risk factors for kyphotic recurrence after short-segment temporary fixation for thoracolumbar burst fractures. EuroSpine 2017, Dublin, 2017年10月11日

Yamashita T, Okuda S, Matsumoto T, Maeno T, Sugiura T, Iwasaki M, Furuya M, Aono H: Postoperative Decrease in Intervertebral Lordosis and Disc Space Distraction Induce Neurological Complications Following Posterior Lumbar Interbody Fusion as Revision Surgery. EuroSpine 2017, Dublin, 2017年10月11日

Outani H, Nakai S, Nakai T, Takenaka S, Hamada K, Myoui A, Yoshikawa H, Imura Y, Tanaka T, Oshima K, Araki N, Kakunaga S, Kudawara I, Ueda T: Clinical outcome and management of nodal metastasis in the patients with epithelioid sarcoma. 22th Connective Tissue Oncology Society (CTOS) 2017 Annual Meeting, Maui, 2017年11月8日

Imura Y, Outani H, Tanaka T, Oshima K, Araki N, Takenaka S, Hamada K, Naka N, Myoui A, Yoshikawa H, Kakunaga S, Kudawara I, Ueda T: Clinical outcome of osteosarcoma in patients older than 40 years of age. 22th Connective Tissue Oncology Society (CTOS) 2017 Annual Meeting, Maui, 2017年11月8日

Tanaka T, Naka N, Imura Y, Kakunaga S, Nakai S, Hamada K, Aoki Y, Yoshikawa H: The reasons of poor prognosis in patients with pelvic osteosarcoma. 22th Connective Tissue Oncology Society (CTOS) 2017 Annual Meeting, Maui, 2017年11月8日

Ueda T, Kakunaga S, Matsuoka Y, Kudawara I: Denosumab combined with sunitinib in patient with bone metastasis of humerus from renal cell carcinoma. 38th SICOT Orthopaedic World Congress, Cape Town, 2017年11月30日

Miyamoto T: Complexed primary TKA principle. TKA Advanced Bioskill Course, Bangkok, 2018年3月23日

Miyamoto T: 3D pre-op planning for revision TKA. TKA Advanced Bioskill Course, Bangkok, 2018年3月23日

B-3

川井 章、上田孝文、東 尚弘：骨・軟部腫瘍の集学的治療 all Japan での取り組み。第90回日本整形外科学会学術総会、仙台、2017年5月19日

上田孝文：軟部肉腫の集学的治療：臨床の立場から 新規薬剤・トラベクテジン。第15回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017年7月27日

上田孝文：悪性軟部腫瘍に対する新規薬物療法の開発。第129回中部日本整形外科災害外科学会学術集会、富山、2017年10月6日

B-4

古家雅之、青野博之、長本行隆、山下智也、上田孝文：80歳以上の超高齢者に対するPLIFの成績不良因子の検討－術後2年以上経過症例の調査－。第46回日本脊椎脊髄病学会、札幌、2017年4月13日

古家雅之、青野博之、長本行隆、山下智也、上田孝文：A more than 5-Year Follow-up of temporary short-segment fixation without augmentation for thoracolumbar burst fractures. 第46回日本脊椎脊髄病学会、札幌、2017年4月14日

青野博之、石井桂輔、飛松秀和、長本行隆、武中章太、古家雅之、高橋総一郎、堀井千秋、岩崎幹季：Risk factor for kyphotic recurrence after short-segment temporary fixation for thoracolumbar burst fracture. 第46回日本脊椎脊髄病学会、札幌、2017年4月14日

山下智也、古家雅之、青野博之、奥田真也、松本富哉、杉浦 剛、前野考史、岩崎幹季：L4/5 PLIF後上位隣接椎間障害に対するL3/4 PLIFの治療成績。第46回日本脊椎脊髄病学会、札幌、2017年4月14日

岩本圭史、河本恵介、宮本隆司、上田孝文：片側の腸骨筋に囊胞性病変が先行し診断に難渋したリウマチ性多発筋痛症の1例。第61回日本リウマチ学会総会・学術集会、福岡、2017年4月20日

岩本圭史、宮本隆司：内側型変形性膝関節症に対する Bi-Cruciate Stabilized TKA の短期成績。第9回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、札幌、2017年6月23日

北野元裕、松岡由希子、上田孝文：成人期に足部変形が増悪し、足関節固定手術を要した二分脊椎症の2例。第34回日本二分脊椎研究会、名古屋、2017年7月8日

角永茂樹、伊村慶紀、王谷英達、田中太晶、竹中 聰、大島和也、濱田健一郎、中 紀文、名井 陽、久田原郁夫、荒木信人、上田孝文、青木康彰、吉川秀樹：延長型腫瘍用人工関節の治療成績。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 13 日

竹中 聰、角永茂樹、伊村慶紀、濱田健一郎、中 紀文、中井 翔、大島和也、王谷英達、田中太晶、上田孝文、久田原郁夫、名井 陽、荒木信人、吉川秀樹：骨盤骨肉腫の予後を改善するために：四肢骨肉腫との比較。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 13 日

荒木信人、大島和也、王谷英達、田中太晶、伊村慶紀、中 紀文、濱田健一郎、竹中 聰、上田孝文、久田原郁夫、角永茂樹、青木康彰、倉都滋之、吉川秀樹：悪性骨腫瘍の患肢温存術長期経過後合併症とその対策。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

濱田健一郎、中 紀文、伊村慶紀、王谷英達、田中太晶、竹中 聰、大島和也、角永茂樹、城山 晋、荒木信人、久田原郁夫、上田孝文、吉川秀樹：神経線維腫症 1 型に発症した悪性末梢神経鞘腫瘍に対する治療成績。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

竹中 聰、濱田健一郎、中 紀文、荒木信人、上田孝文、玉井宣行、名井 陽、吉川秀樹：術中放射線照射処理骨の osteoarticular graft などのようなときには使用すべきか。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

中井隆彰、伊村慶紀、中井 翔、安田直弘、山田修太郎、金子恵子、王谷英達、竹中 聰、濱田健一郎、名井 陽、荒木信人、上田孝文、伊藤和幸、吉川秀樹、中 紀文：淡明細胞肉腫に対する trabectedin (Yondelis; Et-743) の抗腫瘍効果。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

中井 翔、中井隆彰、安田直弘、山田修太郎、金子恵子、竹中 聰、濱田健一郎、名井 陽、荒木信人、上田孝文、伊藤和幸、吉川秀樹、中 紀文：淡明細胞肉腫に対する eribulin mesilate の抗腫瘍効果。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

王谷英達、立岩大輔、岩佐沙弥、伊村慶紀、田中太晶、大島和也、荒木信人、濱田健一郎、竹中 聰、中 紀文、名井 陽、吉川秀樹、角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：骨巨細胞腫の治療成績。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

古家雅之、長本行隆、角永茂樹、青野博之、上田孝文：ゾレドロン酸静注療法が著効した症候性腰椎椎体血管腫の 1 例。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

北野元裕、松岡由希子、上田孝文：骨盤骨肉腫に対して広範切除、hio transposition 法を行い、約 6 cm の脚長差を生じた 1 例。第 23 回日本運動器再建・イリザロフ法研究会、金沢、2017

年9月9日

島田俊樹、山田修太郎、平松久仁彦、立石耕介、上田孝文、三岡智規：小児の足趾溶骨性病変に対してラングルハンス細胞組織球症を疑った2例。第129回中部日本整形外科災害外科学会学術集会、富山、2017年10月7日

中原一郎、黒田泰生、三木秀宣：当科における深部静脈血栓症スクリーニングの取り組み。第44回日本股関節学会、東京、2017年10月20日

黒田泰生、中原一郎、三木秀宣：Tapered Wedge型ステムを使用したステム前捻調整。第44回日本股関節学会、東京、2017年10月20日

古家雅之、菊田順一、瀬尾茂人、前田拓樹、柏井将文、海渡貴司、菊地和也、松田秀雄、吉川秀樹、石井 優：二光子励起生体イメージングを用いた破骨細胞・骨芽細胞コミュニケーションの解明。第32回日本整形外科学会基礎学術集会、宜野湾、2017年10月27日

青野博之、古家雅之、山下智也、飛松秀和：胸腰椎破裂骨折に対するshort-segment fixationにおける椎体矯正の限界受傷からの日数で整復に差があるか？第52回日本脊髄障害医学会、千葉、2017年11月16日

古家雅之、山下智也、飛松秀和、青野博之：胸腰椎破裂骨折に対する椎体形成を併用しないtemporary short-segment fixationの長期成績。第52回日本脊髄障害医学会、千葉、2017年11月17日

古市拓也、山下智也、古家雅之、青野博之：脊髄損傷の者の社会復帰を目指して。第52回日本脊髄障害医学会、千葉、2017年11月17日

松岡由希子、北野元裕、上田孝文：中足骨短縮症の一二期的延長術後に皮膚障害を呈した一例。第42回日本足の外科学会、名古屋、2017年11月10日

文 勝徹、松岡由希子、北野元裕、上田孝文：二分脊椎による踵足変形に対して腱移行術とinverse Lambrinudi 3関節固定術を行った1例。第42回日本足の外科学会、名古屋、2017年11月10日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：下腿後面の悪性軟部腫瘍に対して術前化学療法・放射線治療を施行した治療経験。第1回日本サルコーマ治療研究学会学術集会、東京、2018年2月23日

若松 透、角永茂樹、竹中 聰、伊村慶紀、堀由美子、中 紀文、上田孝文、吉川秀樹：骨外性骨肉腫に対するイホマイド+ドキソルビシン併用化学療法の有用性の検討。第1回日本サルコーマ治療研究学会学術集会、東京、2018年2月23日

宮本隆司、川島邦彦、岩本圭史、上田孝文：Cementless Oxford UKAの短期成績。第48回日本

人工関節学会、東京、2018年2月24日

岩本圭史、宮本隆司、川島邦彦、上田孝文：内側型変形性膝関節症に対する Journey II BCS と LEGION の術後短期成績の比較。第48回日本人工関節学会、東京、2018年2月24日

富田哲也、中根邦雄、山崎隆治、岩本圭史、清友大惟、菅本一臣：TKA 後の基本的 ADL 動作を科学する-正座の生体内動態解析-。第48回日本人工関節学会、東京、2018年2月24日

川島邦彦、岩本圭史、宮本隆司、上田孝文：人工膝関節置換術術後疼痛における先取り鎮痛の効果。第48回日本人工関節学会、東京、2018年2月24日

黒田泰生、中原一郎、三木秀宣：当院におけるhighly-porous acetabular componentの短期成績。第48回日本人工関節学会、東京、2018年2月24日

B-5

北野元裕：新生児・乳幼児健診からの受診で診断に至る小児整形外科疾患。第10回豊能小児科医会研究会（特別講演）、大阪、2017年5月13日

宮本隆司：Journey II TKA のデザインコンセプト。JOURNEY II Master Class 2017、福岡、2017年6月10日

宮本隆司：Journey II 安全に容易に迅速に行うために。JOURNEY II BCS TKA mini seminar in Tokyo、東京、2017年6月17日

宮本隆司：Indications - Antero-medial Osteoarthritis. Oxford Partial Knee Instructional Course, 東京, 2017年8月26日

宮本隆司：Cementless Oxford - Surgical Techniques. Oxford Partial Knee Master Course, 東京, 2017年8月27日

上田孝文：国立病院機構大阪医療センターにおける病診連携の現状とリハビリテーションを含む骨軟部腫瘍分野の診療内容の紹介。第4回整形外科診療 FACE TO FACE の会（特別講演）、大阪、2017年10月18日

宮本隆司：国立病院機構大阪医療センターにおける病診連携の現状とリハビリテーションを含む膝関節外科分野の診療内容の紹介。第4回整形外科診療 FACE TO FACE の会（特別講演）、大阪、2017年10月18日

角永茂樹：骨肉腫治療：この20年の進歩とトピックス。第18回近畿骨軟部腫瘍談話会、大阪、2017年10月20日

上田孝文：骨・軟部腫瘍診療の要点と最近のトピックス。第39回奈良県骨・関節研究会（特別講演）、奈良、2017年10月21日

中原一郎：医療機器開発出口戦略のキーポイント。第15回千葉大学医工学シンポジウム、千葉、2017年11月10日

B-6

中原一郎、黒田泰生、三木秀宣：反復脱臼で再置換を施行した症例の検討。第43回関西股関節研究会、大阪、2017年4月22日

岩本圭史、宮本隆司、川島邦彦：当院における人工膝関節周囲骨折の治療経験。第39回阪大関連施設TKA勉強会、大阪、2017年5月30日

松岡由希子、北野元裕、上田孝文：中足骨短縮症の一期的延長術後に皮膚障害を呈した一例。第60回近畿小児整形外科懇話会、大阪、2017年7月22日

久田原郁夫：がんの特性。平成29年度がん看護研究会、大阪、2017年7月29日

久田原郁夫：胸椎腫瘍。第88回関西SKR研究会、大阪、2017年8月31日

久田原郁夫、小河原光正、長谷川裕子：当院におけるCancer Boardの現状と問題点。第9回関西がんチーム医療研究会、大阪、2017年9月16日

川島邦彦、黒田泰生、角永茂樹、三木秀宣、上田孝文：高齢者の人工股関節再置換術後に生じたステム周囲骨折および遅発性感染に対して人工大腿骨全置換術を行った1例。第53回大阪整形外科症例検討会、大阪、2017年10月28日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：下腿軟部腫瘍の1例。第148回関西骨軟部腫瘍研究会、大阪、2017年11月25日

久田原郁夫：緩和ケア概論。第10回がんに携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪、2017年12月2日

久田原郁夫：がん疼痛の評価と治療。第10回がんに携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪、2017年12月2日

文勝徹、北野元裕、上田孝文：足根管症候群を生じた踵骨載距突起骨折偽関節の1例。第56回大阪骨折研究会、大阪、2017年12月9日

黒田泰生、中原一郎、三木秀宣：予想以上に難渋したpelvic discontinuity症例。第44回関西股関節研究会、大阪、2017年12月16日

池田将吾、黒田泰生、中原一郎、三木秀宣：骨内異物除去+THA後にステム周囲骨折を来た症例。第1回関西股関節研究会、大阪、2018年1月12日

久田原郁夫：イホスファミド投与後にSIADHを発症した軟部肉腫症例。第149回関西骨軟部腫瘍研究会、大阪、2018年2月3日

古市拓也、角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：右大腿骨骨腫瘍の1例。第149回関西骨軟部腫瘍研究会、大阪、2018年2月3日

岩本圭史、宮本隆司、川島邦彦：当院における人工膝関節周囲骨折の治療経験。第2回東京大学大阪大学人工膝関節合同研究会、東京、2018年2月23日

上田孝文、勝徹、北野元裕、松岡由希子、上田孝文：踵骨載距突起骨折偽関節の1例。第31回近畿足の外科症例検討会、大阪、2018年3月3日

B-8

三木秀宣：当科における人工股関節手術。のぞみ会講演会、大阪、2017年6月3日

三木秀宣：人工股関節手術 Q&A 診断、保存療法、手術の適応。よみうり市民講座、大阪、2017年11月18日

脳神経外科

藤中俊之

脳神経外科では主に脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷などを対象疾患としています。脳血管障害に対しては、脳卒中内科と協力して脳卒中センターとして24時間体制で対応しています。急性期脳卒中患者に対しては、病態に応じて、開頭手術や脳血管内治療などの適切な治療を速やかに行い、発症からできるだけ早期にリハビリテーションを開始するとともに、地域連携パスを利用して後方病院でのスムーズな治療の継続を図っています。また、未破裂脳動脈瘤や慢性期脳血管障害に対しても十分な検討とインフォームドコンセントを行ったうえで積極的に治療を行っています。脳血管内治療に関しては、日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医が在籍しており、高度な治療、最新のデバイスを用いた治療が可能となっています。実施医や実施施設が限定されている脳動脈瘤に対するフローダイバーターステント(Pipeline)や脳動静脈奇形に対する液体塞栓物質(Onyx)を用いた治療も数多く行っています。新規血管内治療機器の治験や市販後調査、多施設共同研究にも積極的に参加しています。

脳腫瘍については、術前に詳細な画像評価を行い、術中はナビゲーションシステムや脳波・筋電図等によるモニタリングを駆使し安全・確実な手術を行っています。なかでも、中枢神経原発腫瘍の代表である神経膠腫に対しては、術中ナビゲーションやモニタリングに加え、5-アミノレブリン酸による蛍光反応ガイド下に手術を行うことで、機能温存を図りながら最大限の摘出を行うように努めています。特に機能的に重要な部位に発生した腫瘍においては、言語や高次機能を損なうことなく安全に手術を行うため麻酔科、リハビリテーション科の協力のもと覚醒下手術も行っています。また、化学療法、分子標的薬、放射線治療の進歩により癌種ごとの治療方針が必要となっている転移性脳腫瘍や、希少がんである神経膠腫や悪性リンパ腫などに対して、疾患ごとに遺伝子診断など先進的な手法も用いて最適な治療方法を検討し集学的な治療を行っています。頭部外傷については救命救急センターと連携し重症頭部外傷にも対応しています。個々の外傷患者の背景や病態は様々ですが、それぞれに最善と考えられる治療方針をとるように検討を行っています。

研修医、レジデント教育にも力を入れています。毎週の症例検討会のほかに救急医との合同症例検討会、抄読会などを行っています。また、顕微鏡手術については手術室外でもトレーニングが行えるよう、実体顕微鏡を購入しシリコンモデルや鶏肉を用いた卓上での組織剥離・血管吻合の練習を奨励しています。当科は日本脳神経外科学会、日本脳神経血管内治療学会の研修施設に認定されており日本脳神経外科学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医の育成にも注力しています。学会発表についても活発に行っており、順次、論文化して国内外の医学雑誌に発表しています。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Lavine SD, Cockcroft K, Hoh B, Bambakidis N, Khalessi AA, Woo H1, Riina H, Siddiqui A, Hirsch JA, Chong W, Rice H, Wenderoth J, Mitchell P, Coulthard A, Singh TJ, Phatouros C, Khangure M, Klurfan P, Ter Brugge K, Iancu D, Gunnarsson T, Jansen O, Muto M, Szikora I, Pierot L, Brouwer P, Gralla J,

Renowden S, Andersson T, Fiehler J, Turjman F, White P, Januel AC, Spelle L, Kulcsar Z, Chapot R, Biondi A, Dima S, Taschner C, Szajner M, Krajina A, Sakai N, Matsumaru Y, Yoshimura S, Ezura M, Fujinaka T, Iihara K, Ishii A, Higashi T, Hirohata M, Hyodo A, Ito Y, Kawanishi M, Kiyosue H, Kobayashi E, Kobayashi S, Kuwayama N, Matsumoto Y, Miyachi S, Murayama Y, Nagata I, Nakahara I, Nemoto S, Niimi Y, Oishi H, Satomi J, Satow T, Sugi K, Tanaka M, Terada T, Yamagami H, Diaz O, Lylyk P, Jayaraman MV, Patsalides A, Gandhi CD, Lee SK, Abruzzo T, Albani B, Ansari SA, Arthur AS, Baxter BW, Bulsara KR, Chen M, Delgado Almandoz JE, Fraser JF, Heck DV, Hetts SW, Hussain MS, Klucznik RP, Leslie-Mawzi TM, Mack WJ, McTaggart RA, Meyers PM, Mocco J, Prestigiacomo CJ, Pride GL, Rasmussen PA, Starke RM, Sunenshine PJ, Tarr RW, Frei DF, Ribo M, Nogueira RG, Zaidat OO, Jovin T, Linfante I, Yavagal D, Liebeskind D, Novakovic R, Pongpech S, Rodesch G, Soderman M, Taylor A, Krings T, Orbach D, Picard L, Suh DC, Zhang HQ: Training guidelines for endovascular stroke intervention: an international multi-society consensus document. 「Neuroradiology」 2017 Aug;59(8):829. doi: 10.1007/s00234-017-1861-8.

Negishi Y, Miya F, Hattori A, Johmura Y, Nakagawa M, Ando N, Hori I, Togawa T, Aoyama K, Ohashi K, Fukumura S, Mizuno S, Umemura A, Kishimoto Y, Okamoto N, Kato M, Tsunoda T, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K, Nakanishi M, Saitoh S: A combination of genetic and biochemical analyses for the diagnosis of PI3K-AKT-mTOR pathway-associated megalencephaly. 「BMC Med Genet」 18(1): 4, 10pages、2017年1月

Pajtler KW, Mack SC, Ramaswamy V, Smith CA, Witt H, Smith A, Hansford JR, von Hoff K, Wright KD, Hwang E, Frappaz D, Kanemura Y, Massimino M, Faure-Conter C, Modena P, Tabori U, Warren KE, Holland EC, Ichimura K, Giangaspero F, Castel D, von Deimling A, Kool M, Dirks PB, Grundy RG, Foreman NK, Gajjar A, Korshunov A, Finlay J, Gilbertson RJ, Ellison DW, Aldape KD, Merchant TE, Bouffet E, Pfister SM, Taylor MD: The current consensus on the clinical management of intracranial ependymoma and its distinct molecular variants. 「Acta Neuropathol」 133(1): 5-12、2017年1月

Hamada N, Negishi Y, Mizuno M, Miya F, Hattori A, Okamoto N, Kato M, Tsunoda T, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K, Tabata H, Saitoh S, Nagata KI: Role of a heterotrimeric G-protein, Gi2, in the corticogenesis: Possible involvement in periventricular nodular heterotopia and intellectual disability. 「J Neurochem」 140(1): 82-95、2017年1月

Fukushima S, Yamashita S, Kobayashi H, Takami H, Fukuoka K, Nakamura T, Yamasaki K, Matsushita Y, Nakamura H, Totoki Y, Kato M, Suzuki T, Mishima K, Yanagisawa T, Mukasa A, Saito N, Kanamori M, Kumabe T, Tominaga T, Nagane M, Iuchi T, Yoshimoto K, Mizoguchi M, Tamura K, Sakai K, Sugiyama K, Nakada M, Yokogami K, Takeshima H, Kanemura Y, Matsuda M, Matsumura A, Kurozumi K, Ueki K, Nonaka M, Asai A, Kawahara N, Hirose Y, Takayama T, Nakazato Y, Narita Y, Shibata T, Matsutani M, Ushijima T, Nishikawa R, Ichimura K; Intracranial Germ Cell Tumor Genome Analysis Consortium (The iGCTConsortium): Genome-wide methylation profiles in primary intracranial germ cell tumors indicate a primordial germ cell origin for germinomas. 「Acta Neuropathol」 133(3): 445-462、2017年3月

Tsuyuguchi N, Terakawa Y, Uda T, Nakajo K, Kanemura Y: Diagnosis of Brain Tumors Using Amino Acid Transport PET Imaging with 18F-fluciclovine: A Comparative Study with L-methyl-11C-methionine

PET Imaging. 「Asia Ocean J Nucl Med Biol」 5(2):85-94, 2017年5月

Tateno H, Hiemori K, Hirayasu K, Sougawa N, Fukuda M, Warashina M, Amano M, Funakoshi T, Sadamura Y, Miyagawa S, Saito A, Sawa Y, Shofuda T, Sumida M, Kanemura Y, Nakamura M, Okano H, Onuma Y, Ito Y, Asashima M, Hirabayashi J: Development of a practical sandwich assay to detect human pluripotent stem cells using cell culture media. 「Regenerative Therapy」 6:1-8, 2017年6月

Hori I, Otomo T, Nakashima M, Miya F, Negishi Y, Shiraishi H, Nonoda Y, Magara S, Tohyama J, Okamoto N, Kumagai T, Shimoda K, Yukitake Y, Kajikawa D, Morio T, Hattori A, Nakagawa M, Ando N, Nishino I, Kato M, Tsunoda T, Saitsu H, Kanemura Y, Yamasaki M, Kosaki K, Matsumoto N, Yoshimori T, Saitoh S: Defects in autophagosome-lysosome fusion underlie Vici syndrome, a neurodevelopmental disorder with multisystem involvement. 「Sci Rep」 7(1):3552, 2017年6月

Okamoto N, Miya F, Tsunoda T, Kato M, Saitoh S, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K: Novel MCA/ID syndrome with ASH1L mutation. 「Am J Med Genet A」 173(6):1644-1648, 2017年6月

Kanemura Y, Sumida M, Okita Y, Yoshioka E, Yamamoto A, Kanematsu D, Handa Y, Fukusumi H, Inazawa Y, Takada A, Nonaka M, Nakajima S, Mori K, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Moriuchi S, Yamasaki M: Systemic Intravenous Adoptive Transfer of Autologous Lymphokine-activated $\alpha\beta$ T-Cells Improves Temozolomide-induced Lymphopenia in Patients with Glioma. 「Anticancer Res」 37(7):3921-3932, 2017年7月

Bamba Y, Kanemura Y, Okano H, Yamasaki M: Visualization of migration of human cortical neurons generated from induced pluripotent stem cells. 「J Neurosci Methods」 289:57-63, 2017年9月

Kato K, Miya F, Hori I, Ieda D, Ohashi K, Negishi Y, Hattori A, Okamoto N, Kato M, Tsunoda T, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K, Saitoh S: A novel missense mutation in the HECT domain of NEDD4L identified in a girl with periventricular nodular heterotopia, polymicrogyria and cleft palate. 「J Hum Genet」 62(9):861-863, 2017年9月

Kijima N, Kanemura Y: Mouse Models of Glioblastoma. 「Glioblastoma [Internet]」 Edited by De Vleeschouwer S, Chapter 7:131-139, Codon Publications, Brisbane, AU, 2017年9月

Okamoto N, Miya F, Hatsukawa Y, Suzuki Y, Kawato K, Yamamoto Y, Tsunoda T, Kato M, Saitoh S, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K: Siblings with optic neuropathy and RTN4IP1 mutation. 「J Hum Genet」 62(10):927-929, 2017年10月

Okamoto N, Tsuchiya Y, Miya F, Tsunoda T, Yamashita K, Boroevich KA, Kato M, Saitoh S, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K, Kitagawa D: A novel genetic syndrome with STARD9 mutation and abnormal spindle morphology. 「Am J Med Genet A」 173(10):2690-2696, 2017年10月

Iwata R, Maruyama M, Ito T, Nakano Y, Kanemura Y, Koike T, Oe S, Yoshimura K, Nonaka M, Nomura S, Sugimoto T, Yamada H, Asai A: Establishment of a tumor sphere cell line from a metastatic brain

neuroendocrine tumor. 「Med Mol Morphol」 50(4):211-219, 2017年12月

Bamba Y, Nonaka M, Sasaki N, Shofuda T, Kanematsu D, Suemizu H, Higuchi Y, Pooh RK, Kanemura Y, Okano H, Yamasaki M: Generation of induced pluripotent stem cells and neural stem progenitor cells from newborn with spina bifida aperta. 「Asian Spine J」 11(6):870-879, 2017年12月

Ueki M, Maeda M, Sugiyama T, Kohmoto R, Kojima S, Ikeda T, Harada A, Kanemura Y, Miya F, Tsunoda T, Yamasaki M: A case of Dandy-Walker malformation complicated by Axenfeld-Rieger syndrome. 「Int J Ophthalmol Eye Res」 S1:02:001:1-3, 2017年12月

Achiha T, Arita H, Kagawa N, Murase T, Ikeda JI, Morii E, Kanemura Y, Fujimoto, Y, Kishima H: Enchondromatosis-associated oligodendrogloma: case report and literature review. 「Brain Tumor Pathol」 35(1):36-40, 2018年1月

Fukusumi H, Handa Y, Shofuda T, Kanemura Y: Small-scale screening of anticancer drugs acting specifically on neural stem/progenitor cells derived from human induced pluripotent stem cells using a time-course cytotoxicity test. 「Peer J」 6:e4187, 2018年1月

Abe K, Katsuno H, Toriyama M, Baba K, Mori T, Hakoshima T, Kanemura Y, Watanabe R, Inagaki N: Grip and slip of L1-CAM on adhesive substrates direct growth cone haptotaxis. 「Proc Natl Acad Sci U S A」 115(11):2764-2769, 2018年3月

Garzia L‡, Kijima N‡, Morrissey AS‡, De Antonellis P, Guerreiro-Stucklin A, Holgado BL, Wu X, Wang X, Parsons M, Zayne K, Manno A, Kuzan-Fischer C, Nor C, Donovan LK, Liu J, Qin L, Garancher A, Liu KW, Mansouri S, Luu B, Thompson YY, Ramaswamy V, Peacock J, Farooq H, Skowron P, Shih DJH, Li A, Ensan S, Robbins CS, Cybulsky M, Mitra S, Ma Y, Moore R, Mungall A, Cho YJ, Weiss WA, Chan JA, Hawkins CE, Massimino M, Jabado N, Zapotocky M, Sumerauer D, Bouffet E, Dirks P, Tabori U, Sorensen PHB, Brastianos PK, Aldape K, Jones SJM, Marra MA, Woodgett JR, Wechsler-Reya RJ, Fults DW, Taylor MD. (‡: equal contribution) : A Hematogenous Route for Medulloblastoma Leptomeningeal Metastases. 「Cell」 172(5):1050-1062, 2018

Hayashi N, Takahashi H, Hasegawa Y, Higuchi F, Takahashi M, Makino K, Takagaki M, Akimoto J, Okuda T, Okita Y, Mitsuya K, Hirashima Y, Narita Y, Nakasu Y, Committee of Brain Tumor Registry of Japan Supported by the Japan Neurosurgical Society: A nationwide multi-institutional retrospective study to identify prognostic factors and develop a graded prognostic assessment system for patients with brain metastases from uterine corpus and cervical cancer. 「BMC Cancer」 2017 Jun 2;17(1):397.

Okita Y, Masuda N, Mizutani M, Kodama Y, Mori K, Mano M, Nakagawa T, Nakajima S, Fujinaka T: Widespread subdural metastasis from breast cancer progressing rapidly with cerebral herniation: A case report. 「Mol Clin Oncol」 2017 Jun;6(6):960-962.

A-2

藤中俊之、吉峰俊樹：くも膜下出血（SAH）の病態と診断「必携脳卒中ハンドブック 改訂第

3版」p326-335、高嶋修太郎、伊藤義彰編集、診断と治療社、東京、2017年9月1日

藤中俊之：脳動脈瘤塞栓術の知行合一 前交通動脈瘤「脳動脈瘤に対する血管内治療 知行合一」p192-203、大石英則編集、メジカルビュー社、東京、2017年12月1日

福角勇人、金村米博：ES細胞「再生医療とリハビリテーション」再生医療とリハビリテーション研究会編、P.7-18、株式会社三輪書店、東京、2018年3月

A-3

木嶋教行、山田修平、中川智義、三浦慎平、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：頭蓋形成術時的人工頭蓋骨選択の自験例「日本整容脳神経外科研究会誌」2017

館哲郎、近江翼、松永秀典、他：Mycoplasma感染後に悪性症候群と急性散在性脳脊髄炎（ADEM）を合併した1例「大阪急総医誌」40(1)：P41～44, 2018

A-4

藤中俊之：内頸動脈狭窄症に対するステント留置術の適応と治療成績「Current Therapy」Vol.35 No.4 p68-73, 2017

木下学、金村米博、成田善孝：Radiomicsによる大規模臨床データを利用した脳腫瘍の画像分子診断の試み「INNNERVISION」32(9):38-40, 2017年8月

金村米博、岡野栄之：脳梗塞「Clinical Neuroscience」36:299-303, 2018年3月

沖田典子：エビデンスに基づく膠芽腫の治療と課題「脳神経外科ジャーナル」vol.27 no.2, p91-98, 2018

A-6

中島伸：うまい病状説明のコツ「レジデントノート」19(1)：134-136、2017

中島伸：研修医の心得「レジデントノート」19(3)：579-581、2017

中島伸：カレイの骨が刺さった！「レジデントノート」19(4)：737-735、2017

中島伸：眼科から紹介された視野障害「レジデントノート」19(6)：1113-1115、2017

中島伸：困ったことと心配なこと「レジデントノート」19(7)：1253-1255、2017

中島伸：奇怪な症状「レジデントノート」19(9)：1681-1683、2017

中島伸：上手なプレゼンテーションのコツ「レジデントノート」19(10)：1849-1851、2017

中島伸：ヒューリスティックスとは「レジデントノート」19(12)：2195-2197、2017

中島 伸：レセプトチェックの大切さ「レジデントノート」19(13) : 2327-2329、2017

中島 伸：研修医がやっちまった！「レジデントノート」19(15) : 2691-2693、2017

中島 伸：「当たり前」のレベル設定「レジデントノート」19(16) : 2859-2861、2017

中島 伸：ここに注意！研修医の外来診察「レジデントノート」19(18) : 3293-3295、2017

B-1

藤中俊之：LVIS ステント の有用性と使用経験。日韓 LVIS 技術交流会、ソウル、2017年 7月 20 日

Fujinaka T: Endovascular treatment with Neuroform Atlas Stent System for intracranial aneurysms. Atlas Roadshow in Korea (Special lecture), Daegu, Korea, 2018年 2月 22 日

B-2

Nakajima K, Nakagawa S, Tokunaga A, Nakajima S, Uema A, Kinoshita N: Dynamic manpower and task management in the pharmacy department to respond to a varying environment. 6th Resilient Health Care Meeting, Vancouver (Canada), 2017年 8月 15 日

Fukusumi H, Handa Y, Shofuda T, Kanemura Y: IDENTIFICATION OF DRUGS ACTING SPECIFICALLY ON NEURAL STEM/PROGENITOR CELLS DERIVED FROM HUMAN INDUCED PLURIPOTENT STEM CELLS BY USING A TIME-COURSE CYTOTOXICITY TEST. ISSCR 2017 Annual Meeting, Boston, MA, USA, 2017年 6月 16 日

Okamoto N, Miya F, Tsunoda T, Kato M, Saitoh S, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K: A novel genetic syndrome with RAB11B mutation. ASHG 2017 Annual Meeting, Orlando, FL, USA, 2017年 10月 20 日

Kinoshita M, Arita H, Takahashi M, Narita Y, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Okita Y, Nonaka M, Moriuchi S, Fukai J, Izumoto S, Ishibashi K, Kodama Y, Mori K, Ichimura K, Kanemura Y: Radionomic analysis of WHO grade 2 and 3 gliomas with genetic subgroup prediction. 22nd Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, San Francisco, California, USA, 2017年 11月 17 日

Mori K, Shofuda T, Okita Y, Arita H, Kinoshita M, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Tomogane Y, Fukai J, Ishibashi K, Nishida N, Taki T, Nonaka M, Izumoto S, Moriuchi S, Nakajima Y, Hashimoto N, Kodama Y, Hirose T, Kanemura Y: Glioblastoma treatment of Bevacizumab era in Kansai region, Japan. 22nd Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, San Francisco, California, USA, 2017年 11月 18 日

Kijima N, Kanematsu D, Shofuda T, Yoshioka E, Handa Y, Moriuchi S, Nonaka M, Okita Y, Tsuyuguchi N, Fukai J, Higuchi Y, Suemizu H, Kanemura Y: Characterization of patient-derived tumor spheres and

xenografts for glioblastoma. 22nd Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, San Francisco, California, USA, 2017年 11月 18日

Kanemura Y, Sumida M, Okita Y, Yoshioka E, Yamamoto A, Kanematsu D, Handa Y, Fukusumi H, Nozaki Y, Takada A, Nonaka M, Nakajima S, Mori K, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Moriuchi S, Yamasaki M: Adoptive immunotherapy using lymphokine-activated $\alpha\beta$ T-cells improves Temozolomide-induced lymphopenia in patients with glioma. 22nd Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, San Francisco, California, USA, 2017年 11月 19日

Kanemura Y, Sumida M, Okita Y, Yoshioka E, Yamamoto A, Kanematsu D, Handa Y, Fukusumi H, Nozaki Y, Takada A, Nonaka M, Nakajima S, Mori K, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Moriuchi S: Adoptive immunotherapy using lymphokine-activated alpha beta T-cells improves Temozolomide-induced lymphopenia in patients with glioma. AACR Immunobiology of Primary and Metastatic CNS Cancer, San Diego, USA, 2018年 2月 13日

B-3

藤中俊之 : Axium PRIME の適合症例と使用のコツ。日本脳神経外科学会 第76回学術総会（アフタヌーンセミナー）、名古屋、2017年 10月 13日

藤中俊之 : 大型脳動脈瘤に対する Pipeline Flex を用いた血管内治療成績。第33回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（プレナリーシンポジウム）、東京、2017年 11月 24日

藤中俊之 : Neuroform Atlas の特徴を生かした脳動脈瘤塞栓術、第33回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（ランチョンセミナー）、東京、2017年 11月 24日

藤中俊之 : この症例のターニングポイント。第33回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（アフタヌーンセミナー）、東京、2017年 11月 23日

藤中俊之 : PIPELINETM FLEX フローダイバーターシステムの基礎と有効性、安全性そして難症例への対応。第33回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（ランチョンセミナー）、東京、2017年 11月 25日

藤中俊之 : Flow Diverter を用いた脳動脈治療。第33回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（教育講演）、東京、2017年 11月 23日

Kanemura Y, Shofuda T, Yoshioka E, Ichimura K, Yamasaki M, Shibui S, Arai H, Sasaki A, Sakamoto H, Nishikawa R: Molecular classification and clinical characteristics of medulloblastomas in Japan. 第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年 5月 20日

Arita H, Yamasaki K, Mukasa A, Kanemura Y, Nagane M, Ueki K, Nishikawa R, Komori T, Narita Y, Ichimura K: TERT promoter status refines the prognostication of IDH wt gliomas. 第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年 5月 20日

Ichimura K, Komori T, Nakano Y, Arita H, Yamasaki K, Yoshioka T, Hirato J, Kanemura Y, Sakamoto H, Nishikawa R: Current status of molecular classification for central nervous system tumors in Japan. 第 35 回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017 年 5 月 20 日

金村米博: 小児脳腫瘍の遺伝子診断と治療法選択への応用。第 45 回日本小児脳神経外科学会、神戸、2017 年 6 月 3 日

Kanemura Y, Okita Y, Moriuchi S, Nonaka M, Mori K, Nakajima S, Sumida M, Yoshioka E, Yamamoto A, Handa Y, Kanematsu D, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Yamasaki M: Adoptive immunotherapy using lymphokine-activated alpha beta T-cells improves Temozolomide-induced lymphopenia in patients with glioma. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 76 回学術総会、名古屋、2017 年 10 月 12 日

木下 学、有田英之、佐々木貴浩、藤田浩二、高橋雅道、成田善孝、金村米博、貴島晴彦：大規模脳腫瘍画像データの網羅的な解析を目指した Radiomics 解析の開発。一般社団法人日本脳神経外科学会第 76 回学術総会、名古屋、2017 年 10 月 12 日

金村米博、正札智子、埜中正博、沖田典子、宇田武弘、露口尚弘、石橋謙一、有田英之、香川尚己、橋本直哉、木下 学、深井順也、西田南海子、友金祐介、森 鑑二、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク：小児脳腫瘍のクリニカルシークエンス。一般社団法人日本脳神経外科学会第 76 回学術総会、名古屋、2017 年 10 月 13 日

中野嘉子、平戸純子、山崎夏維、福岡講平、北原麻衣、金村米博、信澤純人、坂本博昭、西川 亮、原 純一、義岡孝子、市村幸一：小児グリオーマ、上衣腫、胚細胞腫の遺伝子解析－JCCG 中央診断より－。第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017 年 11 月 26 日

木下 学、福間良平、柳澤琢史、篠崎隆志、貴島晴彦、高橋雅道、成田善孝、有田英之、藤本康倫、寺川雄三、露口尚弘、深井順也、沖田典子、高垣匡寿、石橋謙一、児玉良典、埜中正博、森内秀祐、泉本修一、中島義和、森 鑑二、正札智子、市村幸一、金村米博：国内大規模画像コホートを用いた人工知能による GradeII-III 神経膠種の画像分子診断。第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017 年 11 月 26 日

金村米博：in vitro 創薬・毒性試験に使用可能なヒト iPS 細胞由来神経系細胞の開発。日本薬理学会第 138 年会、金沢、2018 年 3 月 26 日

沖田典子：エビデンスに基づく膠芽腫の治療と課題。第 37 回日本脳神経外科コンgres 総会、横浜、2017 年 5 月 12 日

B-4

藤中俊之、木嶋教行、沖田典子、寺田栄作、三浦慎平、中川僚太、館 哲郎、金村米博、中島 伸：大型脳動脈瘤に対する Flow diverter を用いた血管内治療。第 47 回日本脳卒中の外科学会学術集会、福岡、2018 年 3 月 16 日

香川尚己、阿知波孝宗、横田千里、有田英之、藤本康倫、貴島晴彦、森井英一、金村米博、

中里洋一、吉峰俊樹：母と子に発症した神経膠芽腫の病理組織像と分子遺伝学的検討。第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年5月19日

阿知波孝宗、有田英之、横田千里、福屋章悟、香川尚己、村瀬剛、池田純一郎、森井英一、金村米博、藤本康倫：多発性内軟骨腫（Ollier病）に合併した乏突起膠腫の一例。第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年5月19日

上松右二、深井順也、金村米博、藤田浩二、中尾直之：分子情報を含め診断した幼児小脳astrocytomaの1例。第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年5月20日

深井順也、佐々木貴浩、金村米博、森 鑑二、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、上松右二、中尾直之：高齢者神経膠腫の分子マーカーと予後、治療選択：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークに登録された142例の解析。第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年5月20日

横井摂理、堤真紀子、宮 冬樹、宮田昌史、加藤光広、岡本伸彦、角田達彦、山崎麻美、金村米博、小崎健次郎、齋藤伸治、倉橋浩樹：Novel compound heterozygous variants in PLK4 cause microcephaly and chorioretinopathy. 第59回日本小児脳神経学会学術集会、大阪、2017年6月15日

藤中俊之、木嶋教行、沖田典子、中川智義、三浦慎平、中川僚太、館 哲郎、中村 元、金村米博、中島 伸：大型脳動脈瘤に対するFlow diverterを用いた血管内治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

春山裕典、赤木洋二郎、吉本幸司、空閑太亮、秦 暉宏、古賀友紀、大賀 正、金村米博、西川 亮、坂本博昭、市村幸一、飯原弘二：髄芽腫のsubgroup分類とMRI所見、臨床的特徴についての検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

三浦慎平、木嶋教行、中川智義、中川僚太、館 哲郎、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：中大脳動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

中川智義、山田修平、藤中俊之、館 哲郎、中川僚太、三浦慎平、木嶋教行、沖田典子、金村米博、中島 伸：血管内治療後に再治療を要した脳動脈瘤18例の検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

中川僚太、中川智義、木嶋教行、館 哲郎、三浦慎平、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：脳動脈瘤に対する血管内治療3ヶ月後に脳実質内に多発造影病変を認め、異物性肉芽腫が疑われた1例。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

木嶋教行、中川智義、三浦慎平、中川僚太、館 哲郎、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤

中俊之：重症くも膜下出血患者の治療戦略とその転帰。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

館 哲郎、木嶋教行、中川智義、三浦慎平、中川僚太、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：外傷性中硬膜動静脈瘻の2例。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月13日

沖田典子、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、眞能正幸、木下 学、埜中正博、中島 伸、金村米博、藤中俊之：神経膠腫の非造影病変での定位的評価による methionine PET と MGMT プロモーターメチル化率の相関性について。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月13日

深井順也、佐々木貴浩、金村米博、森 鑑二、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、廣瀬隆則、藤田浩二、上松右二、中尾直之：高齢者神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークに登録された142例の後方視的解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月14日

上松右二、深井順也、金村米博、西林宏起、藤田浩二、中尾直之：当科におけるグリオーマ Integrated diagnosis の現状。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月14日

福角勇人、正札智子、中村雅也、岡野栄之、金村米博：臨床試験に使用するヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞作製法の開発。第4回再生医療とリハビリテーション研究会、吹田、2017年11月18日

木嶋教行、兼松大介、正札智子、吉岡絵麻、半田有佳子、森内秀祐、埜中正博、沖田典子、露口尚弘、深井順也、樋口裕一郎、末水洋志、金村米博：グリオーマ初代培養確立株の特徴とその in vivo での形態の特徴についての検討。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月26日

沖田典子、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、眞能正幸、木下 学、埜中正博、中島 伸、金村米博、藤中俊之：神経膠腫の非造影病変での定位的評価による MET-PET と MGMT メチル化率の相関性。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月27日

露口尚弘、寺川雄三、宇田武弘、木下 学、有田英之、金村米博：glioma の遺伝子変異と Methionine-PET の相関性について。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月27日

佐々木貴浩、木下 学、藤田浩二、有田英之、宇田武弘、露口尚弘、林 宣秀、深井順也、上松右二、森 鑑二、沖田典子、埜中正博、森内秀祐、中尾直之、金村米博：MGMT プロモーター領域のメチル化予測を目指した膠芽腫の Radiomics 解析。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月27日

有田英之、木下 学、川口 淳、児玉良典、高橋雅道、寺川雄三、沖田典子、高垣匡寿、深井順也、石橋謙一、露口尚弘、森内秀祐、泉本修一、中島義和、藤田浩二、埜中正博、藤本康倫、森 鑑二、正札智子、成田善孝、市村幸一、金村米博：Lower Grade Glioma の Radiogenomic 解析。第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017 年 11 月 27 日

森 鑑二、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、沖田典子、有田英之、木下 学、宇田武弘、友金祐介、深井順也、石橋謙一、西田南海子、瀧 琢有、埜中正博、泉本修一、中島義和、森内秀祐、露口尚弘、寺川雄三、橋本直哉、児玉良典、廣瀬隆則、金村米博：関西中枢神経系腫瘍分子診断ネットワークにおけるベバシズマブ時代の膠芽腫治療。第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017 年 11 月 27 日

梅原 徹、有田英之、金村米博、香川尚己、藤本康倫、貴島晴彦：Grade II-III 神経膠腫再発／悪性転化に対するベバシズマブの治療成績の検討。第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017 年 11 月 27 日

深井順也、佐々木貴浩、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、廣瀬隆則、沖田典子、友金祐介、木下 学、泉本修一、有田英之、森内秀祐、露口尚弘、寺川雄三、宇田武弘、中島義和、西田南海子、埜中正博、石橋謙一、藤田浩二、上松右二、中尾直之、森 鑑二、金村米博：高齢者神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析。第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017 年 11 月 27 日

福角勇人、正札智子、隅田美穂、野崎佑衣、山本篤世、半田有佳子、兼松大介、吉岡絵麻、高田 愛、中村雅也、岡野栄之、金村米博：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞における残留 iPS 細胞の高感度検出法の開発。第 17 回日本再生医療学会総会、横浜、2018 年 3 月 21 日

木嶋教行、山田修平、中川智義、三浦慎平、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：頭蓋形成術時的人工骨選択の自験例。第 10 回日本整容脳神経外科学会学術集会、甲府、2017 年 4 月 15 日

木嶋教行、Livia Garzia, A Sorana Morrissy, Michael D Taylor：髓芽腫の新たな播種機構としての血行性転移の可能性。第 76 回日本癌学会学術総会、横浜、2017 年 9 月 30 日

木嶋教行、三浦慎平、中川智義、中川僚太、館 哲郎、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：中大脑動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績。第 33 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、東京、2017 年 11 月 25 日

木嶋教行、寺田栄作、三浦慎平、中川僚太、館 哲郎、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：高齢者くも膜下出血患者の治療戦略とその転帰。第 47 回日本脳卒中の外科学会学術集会、福岡、2018 年 3 月 16 日

館 哲郎、寺田栄作、三浦慎平、中川僚太、木嶋教行、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：椎骨動静脈瘻の 2 例。第 43 回日本脳卒中学会学術総会、福岡、2018 年 3 月 15 日

寺田栄作、三浦慎平、中川僚太、館 哲郎、木嶋教行、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：FLOW DIVERTER を用いて再治療を行った血管内治療後再発大型内頸動脈瘤の 5 症例。第 43 回脳卒中学会学術総会、福岡、2018 年 3 月 17 日

B-5

藤中俊之：Stent Assist Technique を用いた動脈瘤塞栓術。第 16 回岡山脳血管内治療研究会（アフタヌーンセミナー）、岡山、2017 年 4 月 22 日

藤中俊之：LVIS ステントの有用性と使用のコツ。脳血管内治療ブラッシュアップセミナー（ランチョンセミナー）、神戸、2017 年 7 月 9 日

藤中俊之：小切開による頸動脈直接穿刺のポイント。脳血管内治療ブラッシュアップセミナー、神戸、2017 年 7 月 9 日

金村米博：脳腫瘍の分子遺伝学。第 76 回日本病理学会近畿支部学術集会、高槻、2018 年 2 月 4 日

B-6

森 鑑二、沖田典子、有田英之、木下 学、宇田武弘、友金祐介、深井順也、石橋謙一、西田南海子、瀧 琢有、塙中正博、泉本修一、中島義和、児玉良典、橋本直哉、金村米博：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークの活動報告。Neurosurgery Kinki 2017 Spring Meeting 第 73 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 第 75 回近畿脊髄外科学研究会 合同開催、豊中、2017 年 4 月 8 日

三浦慎平、木嶋教行、沖田典子、藤森なぎさ、小澤健太郎、中川智義、中川僚太、館 哲郎、金村米博、中島 伸、藤中俊之：頭蓋内へ遠隔転移した乳房外パジェット病の一例。第 74 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2017 年 9 月 2 日

藤田祐也、尾崎友彦、金村米博、木下 学：右傍側脳室に発生した papillary glioneuronal tumor の 1 例。第 74 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2017 年 9 月 2 日

館 哲郎、木嶋教行、中川智義、三浦慎平、中川僚太、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：外傷性中硬膜動静脈瘻の 2 例。第 74 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2017 年 9 月 2 日

中川僚太、中川智義、木嶋教行、館 哲郎、三浦慎平、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：脳動脈瘤コイル塞栓術 3 ヶ月後に脳実質内に多発造影病変を認め、異物性肉芽腫が疑われた 1 例。第 74 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2017 年 9 月 2 日

中川智義、沖田典子、三浦慎平、山田修平、木嶋教行、金村米博、中島 伸、藤中俊之：HIV 感染症に合併した肺腺癌からの転移性脳腫瘍に対し摘出術を行った 1 例。関連施設臨床懇話会、大阪、2018 年 1 月 7 日

B-8

藤中俊之：脳血管障害に対する血管内治療の進歩。法円坂フォーラム、大阪、2017年6月24日

中島 伸：カルテ記載について。独立行政法人国立病院機構近畿グループ医療安全管理係長研修、大阪、2017年10月20日

中島 伸：病院における医療安全。独立行政法人国立病院機構南九州病院医療安全研修、姶良、2018年1月19日

中島 伸：薬をめぐる四方山話～脳卒中症例を中心に～。第8回八尾薬薬連携協議会研修会、大阪、2018年2月17日

中島 伸：医療安全と診療記録。独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター医療安全管理研修会、敦賀、2018年2月8日

金村米博：悪性脳腫瘍に対する免疫細胞療法の実践。順天堂大学医学部脳神経外科学講座 医局セミナー、東京、2018年3月16日

金村米博：グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の探索とそれに基づくテーラーメイド治療法の開発。探索医療薬物研究会第5回合同シンポジウム『がんと創薬－基礎研究と臨床応用の接点』、大阪、2017年10月28日

金村米博：脳腫瘍の遺伝子診断と治療法選択への応用。Kyoto Neurosurgery Conference 2017、京都、2017年12月7日

心臓血管外科

榎 雅之

当科では、“低侵襲化と生活の質（Quality of life : QOL）向上を目指した心臓血管外科治療”を診療基本方針とし、エビデンスに基づきながら個々の症例の病態や背景に則した最善の治療を目指しています。また、循環器内科や麻酔科、救命救急センターとの緊密な連携の下に緊急対応や外来部門を中心とした病診連携、病々連携を充実させ、遠隔期も含めたきめ細やかな治療戦略をモットーとしています。

虚血性心疾患：冠動脈バイパス手術では、人工心肺装置を用いない低侵襲心拍動下冠動脈バイパス術を第一選択とし、両側内胸動脈使用を基本とした長期遠隔成績の優れた確実な冠血行再建を提供しています。

弁膜症：僧帽弁閉鎖不全症では弁形成術を積極的に行うことにより、術後の抗凝固療法の回避および心機能の回復を目指したQOLを考慮した術式選択をしています。また、当院の特徴として再弁手術症例が多く、臨床研究にて再手術術式の妥当性および安全性を確認しています。

大動脈瘤：胸部大動脈瘤および腹部大動脈瘤では積極的にステントグラフト治療を適応することにより、高齢者、脳梗塞、腎不全、慢性閉塞性肺疾患等のハイリスク症例や破裂等の緊急症例に対しても飛躍的な低侵襲化が得られています。腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療は早期から導入されており、国立病院機構のネットワーク研究に参加することにより長期成績を検討しています。また、急性大動脈解離では、出血に強く再解離の少ない人工血管吻合法（Adventitial Inversion Technique）を用いた上行大動脈置換やOpen stent graftを用いた全弓部置換術を行っています。また、新しく導入されたOpen stent graftに関しては、未だ長期成績が不明であるため、力学的な特性の検討や術後遠隔期を見据えた有効性に関する研究を行なっています。

近年、高齢化による心臓血管外科手術術後のADL低下が危惧されていることより、上記の如く低侵襲手術を積極的に取り入れるとともに、呼吸器合併症予防（ASB、CPAP）の工夫や心臓リハビリプログラムによる早期離床を目指しています。また、新しく心臓血管外科に診療看護師（JNP）が配属されたことにより、患者さんに寄り添った治療が可能になっていきます。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Yoshioka D, Toda K, Yokoyama JY, Matsuura R, Miyagawa S, Kainuma S, Sakaguchi T, Sakaki M, Nishi H, Shirakawa Y, Iwata K, Suhara H, Sakaniwa R, Fukuda H; Osaka Cardiovascular Research Group study group, Sawa Y : Diabetes mellitus adversely affects mortality and recurrence after valve surgery for infective endocarditis. 「J Thorac Cardiovasc Surg.」 155(3):1021-1029、2018年3月

B-4

榎 雅之、北林克清、村上貴志：僧帽弁置換術後弁周囲逆流に対する再手術症例の検討。第

70回日本胸部外科学会定期学術集会、札幌、2017年9月29日

北林克清、榎 雅之、村上貴志：経皮的回収が不可能であった下大静脈フィルターを開腹手術により摘出した2例。第45回日本血管外科学会、広島、2017年4月20日

北林克清、榎 雅之、村上貴志：Measurement of Axial Spring Back Force of Frozenix Open Stent Graft: A Cause of Stent Graft Induced New Entry. 第82回日本循環器学会学術総会、大阪、2018年3月23日

B-6

中江昌郎、榎 雅之、北林克清：慢性B型大動脈解離に対してオープンステント法による全弓部置換術施行後、stent graft induced new entryを来たした一例。第60回関西胸部外科学会、大阪、2017年6月22日

山名史男、榎 雅之、北林克清、中江昌郎、飯田吉則、篠内和也、上田恭敬：収縮性心膜炎に伴う心不全に対し心膜剥皮術、三尖弁形成術を施行した一例。第123回循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

村上貴志、北林克清、榎 雅之：EVAR後type2 endoleakに対して開腹による止血を行ったにも関わらず、再々発して塞栓術により治療した1例。第32回日本血管外科学会近畿地方会、大阪、2018年2月3日

B-8

榎 雅之：冠動脈バイパス手術。第59回大阪健康セミナー、大阪、2017年6月3日

北林克清：急性大動脈解離に対する外科治療。第59回大阪健康セミナー、大阪、2017年6月3日

皮膚科

小澤健太郎

当科では、国立病院機構が担うべき医療のなかでも皮膚がんを含めた皮膚腫瘍に重点を置いており、その他にも下肢静脈瘤や炎症性皮膚疾患など幅広い領域の皮膚疾患の診断と治療に取り組んでいます。

皮膚腫瘍に関して当院は、皮膚がんに対する手術療法ならびに化学療法、放射線療法などの集学的な治療を行うことが可能な施設であり、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医をはじめ優れたスタッフと恵まれた医療設備のもと、正確な診断と十分な説明、事実に裏付けられた治療をモットーに、皮膚がん患者の社会的な生活の質を第一とした診療を行っています。皮膚腫瘍の診断は容易ではないものも多いため、ダーモスコピーによる非侵襲的検査や皮膚生検を積極的に行い、臨床検査科病理部門との合同カンファレンスを行うことで診断精度を高めています。

また、金属アレルギーや接触皮膚炎、薬疹などのアレルギー性疾患、難病である自己免疫性水疱症など専門性の高い診療にも対応し、難治性皮膚疾患に関しても、地域の医療施設や近隣の総合病院から患者を積極的に受け入れています。

下肢表在静脈の弁不全によって発生する下肢静脈瘤に対する専門外来を開設し、非侵襲的な超音波ドップラー検査を用いた診療を行うとともに、保存的治療に加えて、短期入院による血管内レーザー治療を含めた外科的手術を数多く経験し、良好な治療成績を残しています。

臨床研究としては悪性黒色腫に対する免疫療法や分子標的薬の有効性評価や副作用対策について臨床治験やこれらの治療に有効なバイオマーカーを探求するための医師主導臨床試験に参加しています。また、悪性黒色腫、皮膚付属器悪性腫瘍、メルケル細胞癌の疫学調査についての多施設共同研究も行っています。

教育面では当院は大学病院以外では数少ない日本皮膚科学会認定専門医主研修施設で、新専門医制度においても研修基幹施設に認定されており、多様な皮膚疾患の診療を経験できる体制を整えて、皮膚科専門医育成のための医師教育にも取り組んでいます。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Yamamoto Y, Kodama K, Maniwa T, Takeda M, Tanaka Y, Ozawa K, Isei T: Primary malignant melanoma of the lung : A case report. 「Molecular and Clinical Oncology」 7(1) : P39-41、 2017年7月

A-2

小澤健太郎 : 爪囲炎・爪変形・陷入爪「乳がん薬物療法副作用マネジメントプロのコツ」増田慎三編集、P.249-252、メジカルビュー社、東京 2017年9月13日

小澤健太郎 : 皮疹・皮膚乾燥・瘙痒感「乳がん薬物療法副作用マネジメントプロのコツ」増田慎三編集、P.253-256、メジカルビュー社、東京 2017年9月13日

小澤健太郎：色素沈着・光線過敏症「乳がん薬物療法副作用マネジメントプロのコツ」増田慎三編集、P.261-263、メジカルビュー社、東京 2017年9月13日

A-3

小林佑佳、藤井麻美、宮崎明子、小澤健太郎、田所丈嗣、爲政大幾：頭部に生じた apocrine cystadenoma の 1 例 「皮膚の科学」 16(1) : P.84-87、2017 年 4 月

田口理映子、永松麻紀、小林佑佳、東郷さやか、小澤健太郎、田所丈嗣、爲政大幾、川津智是：懸垂性腫瘍を呈した Mixed Tumor of the Skin の 1 例 「皮膚の科学」 16(2) : P.120-124、2017 年 6 月

小林佑佳、小澤健太郎、久米典子、爲政大幾：一括皮下剥離術を施行した多発性皮膚平滑筋腫の 1 例 「皮膚の科学」 16(3) : P.205-209、2017 年 7 月

小林佑佳、藤井麻美、東 祥子、小澤健太郎、田所丈嗣、爲政大幾：皮下腫瘍のみを呈した再発性 AIDS 関連型 Kaposi 肉腫の 1 例 「臨床皮膚科」 72(2) : P.139-143、2018 年 2 月

B-3

小林佑佳、小澤健太郎、森 清、爲政大幾：右鼻翼部に生じた皮膚限局性結節性アミロイドーシスの 1 例。第 116 回日本皮膚科学会総会、仙台、2017 年 6 月 3 日

小林佑佳、小澤健太郎、小塚雄民、爲政大幾：左環指に生じた Aggressive digital papillary adenocarcinoma の 1 例。第 33 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会、秋田、2017 年 6 月 30 日

B-6

池田 彩、藤森なぎさ、小林佑佳、加賀野井朱里、小澤健太郎：落葉状天疱瘡に水疱性類天疱瘡を合併した 1 例。第 110 回近畿皮膚科集談会、大阪、2017 年 7 月 9 日

加賀野井朱里、藤森なぎさ、小林佑佳、小澤健太郎、爲政大幾：HIV 感染症に伴った粘液水腫性苔癬限局型の 1 症例。第 68 回日本皮膚科学会中部支部学術大会、京都、2017 年 10 月 7 日

藤森なぎさ、小林佑佳、加賀野井朱里、小澤健太郎：脂漏性角化症とボーエン廟の合併例。第 464 回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、2017 年 12 月 2 日

藤森なぎさ、小林佑佳、加賀野井朱里、小澤健太郎、東山真里：右後頭部に発生し腺癌への分化を示したボーエン病の 1 例。第 466 回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、2018 年 3 月 11 日

B-8

小澤健太郎：ご紹介患者さんの経過報告。大阪中央皮膚疾患フォーラム、大阪、2017 年 4 月 20 日

小林佑佳：最近当科で経験した症例。大阪中央皮膚疾患フォーラム、大阪、2017年4月20日

小澤健太郎：皮膚のできもの（腫瘍）。第58回おおさか健康セミナー、大阪、2017年4月22日

加賀野井朱里：皮膚感染症と乾癬。第58回おおさか健康セミナー、大阪、2017年4月22日

小林佑佳：下肢静脈瘤。第58回おおさか健康セミナー、大阪、2017年4月22日

小澤健太郎：肛門周囲診療で見られる皮膚疾患。第109回近畿肛門疾患懇談会、大阪、2017年6月17日

加賀野井朱里：ご紹介患者さんの経過報告。大阪中央皮膚 Joint Meeting 2017、大阪、2017年11月2日

泌尿器科

西村健作

泌尿器科診療は悪性腫瘍・尿路結石症が2つの大きな柱になっています。内視鏡手術を積極的に行っており、多岐にわたる疾患で先進的な治療を目指しています。副腎腫瘍・腎癌・腎孟尿管癌・膀胱癌・前立腺癌などにおいて3Dモニターを用いた腹腔鏡手術を標準化し、尿路結石症ではレーザーを用いた経尿道的腎尿管碎石術（f-TUL）や経皮的腎碎石術を併用したTAPが特色と言えます。これらの治療成績を学会において報告を行っています。

臨床研究は全国規模の前立腺癌の観察研究や膀胱癌に対する術後単回膀胱内注入療法・去勢抵抗性前立腺癌に対する新規ホルモン剤の前向き研究など大学と連携して取り組んでいます。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Yoshioka Y, Kotsuma T, Komiya A, Kariya S, Nonomura N, Ogawa K, Tanaka E, Nishimura K, Fujiuchi Y, Kitamura H, Yamagami T, Yamasaki I, Nishimura K, Teshima T, Nakamura K and Itami J : Nationwide, multicenter, retrospective study on high-dose-rate brachytherapy as monotherapy for prostate cancer. Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2017; 952-961: 97(5)

A-2

西村健作：出血性膀胱炎「乳がん薬物療法副作用マネジメント」増田慎三編集、P190-192, メジカルビュー社、東京、2017年9月13日

A-3

今中岳洋、野村広徳、辻村 剛、洪 陽子、金城孝則、吉岡 巖、高田晋吾、八幡陽子、水谷 哲：陰茎結核疹の1例「泌尿器科紀要」2017; 63: 163-167

山本顕生、朝倉寿久、中野剛佑、岡田宣之、中田 渡、任 幹夫、辻畠正雄：左腎合併切除を要した後腹膜成熟型奇形腫の1例「泌尿器科紀要」2017; 63: 395-398

大島純平、木下竜弥、鄭 則秀、原田泰規、岡 聖次、西村健作、森 清：尿管に発生した炎症性偽腫瘍の1例「泌尿器科紀要」2017; 63: 403-406

藤本幸太、大島純平、片山欽三、鄭 則秀、原田泰規、西村健作、清川博貴、児玉良典、眞能正幸：脂肪肉腫との鑑別が困難であった後腹膜海綿状血管腫の1例「泌尿器科紀要」2017; 63: 521-524

B-4

大島純平、藤本幸太、片山欽三、鄭 則秀、原田泰規、西村健作、古妻理之、田中英一、吉田 謙：高リスク前立腺癌に対する高線量率組織内照射療法の治療成績。第105回日本泌尿器科学会総会、鹿児島、2017年4月21日

中田 渡、山本顕生、朝倉寿久、中野剛佑、岡田宣之、任 幹夫、茶谷正史、辻畠正雄：高リスク前立腺癌に対する三次元原体照射（3DCRT）の長期治療成績。第 105 回日本泌尿器科学会総会、鹿児島、2017 年 4 月 21 日

片山欽三、西村健作、原田泰規、鄭 則秀、大島純平、藤本幸太：進行性尿路上皮癌に対する 2nd line 化学療法としての MVAC 療法の治療成績。第 105 回日本泌尿器科学会総会、鹿児島、2017 年 4 月 23 日

岡田宣之、山本顕生、朝倉寿久、中野剛佑、中田 渡、任 幹夫、辻畠正雄：前立腺癌術前診断における MRI 有用性についての検討。第 105 回日本泌尿器科学会総会、鹿児島、2017 年 4 月 23 日

朝倉寿久、洪 陽子、片山欽三、鄭 則秀、原田泰規、西村健作：上部尿管結石に対する TUL が単回で完遂できる要因はなにか？日本尿路結石症学会第 27 回学術集会、大阪、2017 年 8 月 26 日

朝倉寿久、洪 陽子、片山欽三、鄭 則秀、原田泰規、西村健作：高度尿管拡張を伴う左尿管異所開口に対する臍部単孔式腎尿管摘除術の経験。第 31 回日本泌尿器内視鏡学会、徳島、2017 年 11 月 17 日

洪 陽子、朝倉寿久、片山欽三、鄭 則秀、原田泰規、西村健作：腹腔鏡下膀胱全摘除術におけるスプレー式瘻着防止材の使用経験。第 31 回日本泌尿器内視鏡学会、徳島、2017 年 11 月 17 日

鄭 則秀、朝倉寿久、洪 陽子、片山欽三、原田泰規、西村健作：金属尿管ステントの長期留置症例の検討。第 31 回日本泌尿器内視鏡学会、徳島、2017 年 11 月 17 日

B-6

山本顕生、朝倉寿久、辻村 剛、中野剛佑、岡田宣之、中田 渡、任 幹夫、辻畠正雄：後腹膜血管平滑筋肉腫の 1 例。第 235 回日本泌尿器科学会関西地方会、枚方、2017 年 6 月 24 日

洪 陽子、氏家 剛、藤田和利、植村元秀、木内 寛、今村亮一、宮川 康、野々村祝夫：尿道部分切除術を行い陰茎を温存し得た尿道癌の 1 例。第 235 回日本泌尿器科学会関西地方会、枚方、2017 年 6 月 24 日

朝倉寿久、洪 陽子、片山欽三、鄭 則秀、原田泰規、西村健作：腹腔鏡下に切除した後腹膜類皮囊胞の 1 例。第 236 回日本泌尿器科学会関西地方会、神戸、2017 年 10 月 7 日

洪 陽子、朝倉寿久、片山欽三、鄭 則秀、原田泰規、西村健作：FDG PET-CT にて多発異常集積を認め診断に難渋した褐色脂肪を伴った褐色細胞腫の 1 例。第 237 回日本泌尿器科学会関西地方会、西宮、2018 年 2 月 10 日

B-8

鄭 則秀：尿路結石症の最新治療。大手門泌尿器連携ネットワーク、大阪、2018年3月28日

産科・婦人科

翼 啓司

当院産科は、大阪府周産期搬送ネットワーク（OGCS）加盟施設として、産科救急受け入れ施設となっている。NICUの併設がなく早産や胎児疾患には対応できないが、年々受け入れは増加している。産科合併症は経過が急で、母体・胎児に重篤な異常をきたすことが多い。また様々な合併症をもつ妊婦も増加しており、非妊娠とは異なる病像を呈したり妊娠経過に重大な影響を与えることがあるため、該当診療科と連携して管理している。近年、出生率の低下とともに妊娠出産年齢の高齢化等により、いわゆるハイリスク妊娠の割合は増加の一途をたどっている。当院でもこの傾向は顕著であるが、ハイリスク妊娠の管理に際しては、胎児心拍モニタリング、超音波断層法、パルスドップラー法等により、間接的にはあるが子宮内の胎児の状態を把握し、必要な場合には遅滞なく介入を行う一方、異常なく経過している妊産婦はもちろん、様々な合併症をもった妊娠でも、できるだけ自然なお産を体験してもらえるよう努力している。このように、新しい知識・技術を駆使して症例に応じた個別で適切なリスク管理を行うことを通じて、より適正な診療体系を作っていくことが当科の基本目標である。また当科の特徴としては、AIDS診療拠点病院としてHIV/AIDS合併妊娠の管理にも積極的に取り組んでいる。

当院の婦人科診療の中心は「がん」であり、入院患者の多くは悪性腫瘍患者である。また大阪における子宮がん治療の草分けとして出発・発展し、全国でも屈指の婦人科がん治療施設である。また日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録を通じて、わが国における婦人科腫瘍診療の発展に貢献している。さらに、「がん患者の妊娠能や日常生活機能の温存」、「進行がん患者に対する化学療法を含めた集学的治療の効果」などを当面の課題として、手術術式の改良、手術適応の見直し、最適な補助療法の組み合わせの検討等を進めており、各種学会での演題発表や論文作成を通じて、その成果を順次公表している。一方、子宮筋腫や卵巣囊腫等の良性疾患も多数取り扱っている。近年は腹腔鏡下手術の症例数が増加しており、また子宮鏡下手術も積極的に取り入れ、術後後遺症の最少化、必要な機能の温存を考慮しながら、年齢や生活環境なども含めた個々の症例に応じた適切な治療法を提案し実施している。また、大阪府婦人科救急ネットワークの受け入れ施設として、可能な限り婦人科救急にも対応している。

当科は新専門医制度において、京都大学、近畿大学と連携した産婦人科専門医指導施設であり、日本婦人科腫瘍学会、日本周産期新生児医学会、日本女性医学会等の専門医研修施設として、若手医師の指導・育成を行っており、全国の医療施設で中心となって活躍している多数の専門医を輩出してきた。また各種臨床試験にも積極的に参加し、新たな治療法の創出に貢献している。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Mikami T, Yamaguchi K, Sawayama S, Abiko K, Kondoh E, Baba T, Konishi I, Mandai M, Matsumura N: Two cases of recurrent uterine cervical cancer with arterio-enteric fistula treated by femoro-femoral artery

bypass in hybrid operation room 「International Cancer Conference Journal (2018)」 7 : P.26-29、2018
年 1月 1日

A-2

岡垣篤彦、富田宏昭：「実例から学ぶ電子カルテ活用—FileMakerで電カルを使いこなす」 ライフサイエンス社 : P.11-107、2017年 5月 11日

A-3

寺田亜希子、松本久宣、酒井美恵、矢口愛弓、赤木佳奈、伴 建二、岡垣篤彦、巽 啓司：
当科における卵巣上皮性境界悪性腫瘍 54 例の解析 「産婦人科の進歩」 69(2) : P.77-84、2017年
5月 1日

岡垣篤彦、定光大海：電子災害掲示板および電子災害診療録の使用経験の分析 3-F-1 ワーク
ショップ 「医療情報学」 21st : P.122-123、2017年 6月 1日

岡垣篤彦：首都直下地震における DMAT 派遣支援アプリケーションの作成および医療機関の
被災予測 「医療情報学」 37(2) : P.55-67、2017年 6月 16日

巽 啓司：生殖器 1 月経異常・不正出血～子宮体がんを見逃さないこと～「乳がん薬物療
法副作用マネジメントプロのコツ」 P.304-307、2017年 9月 13日

松本久宣：(化学療法に伴う) 早期閉経に関する諸問題「乳がん薬物療法副作用マネジメント
プロのコツ」 P.384-386、2017年 9月 13日

岡垣篤彦：心臓カテ経過記録、アンギオ記録、救命救急外来の電子カルテ記載内容と請求情
報の比較分析 「医療情報学」 37(Suppl) : P.217、2017年 11月 1日

岡垣篤彦：診察室で必要とされる薬剤および関連情報 「医療情報学」 37(Suppl) : P.240、2017
年 11月 1日

定光大海、岡垣篤彦、若井聰智：首都直下地震における医療機関被害想定と災害拠点病院の
役割 「Japanese Journal of Disaster Medicine」 21(3) : P.454、2017年 2月 1日

真鍋史朗、服部 瞳、武田理宏、中川彰人、岡垣篤彦：多施設臨床研究データ収集システム
における ODM の活用事例報告 「医療情報学」 37(Suppl) P.359、2017年 11月 1日

B-2

Matsumoto H, Okada Y, Fujikami Y, Sakai M, Yaguchi A, Terada A, Akagi K, Ban K, Okagaki A,
Tatsumi K : Introduction of laparoscopic surgery for ovarian cysts in pregnancy. 18th APAGE Annual
Congress 2017, Okayama, 2017年 9月 7日

B-4

松本久宣、藤上友輔、酒井美恵、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、伴 建二、岡田由貴子、

岡垣篤彦、巽 啓司：非感染性発熱を伴う G-CSF 產生子宮頸部扁平上皮癌の 1 例。第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会、広島、2017 年 4 月 15 日

矢口愛弓、伴 建二、藤上友輔、酒井美恵、寺田亜希子、赤木佳奈、岡田由貴子、松本久宣、岡垣篤彦、巽 啓司：過去10年間に当科で取り扱った巨大卵巣腫瘍55例の検討。第69回日本産科婦人科学会、広島、2017年4月15日

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海：電子災害掲示板および電子災害診療録の使用経験の分析。第 21 回医療情報学会春季学術大会、福井、2017 年 6 月 2 日

松本久宣、藤上友輔、矢口愛弓、酒井美恵、寺田亜希子、赤木佳奈、伴 建二、岡田由貴子、岡垣篤彦、巽 啓司：子宮頸部高度異形成（CIN3）に対する子宮全摘術後、腔断端に生じた小細胞癌の 1 例。第 59 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、熊本、2017 年 7 月 27 日

伴 建二、三上哲平、藤上友輔、酒井美恵、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、岡田由貴子、松本久宣、岡垣篤彦、巽 啓司：脳転移をきたした子宮頸部原発印環細胞癌の 1 例。第 59 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、熊本、2017 年 7 月 27 日

松本久宣、岡田由貴子、三上哲平、藤上友輔、酒井美恵、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、伴 建二、岡垣篤彦、巽 啓司：妊娠中の卵巣囊腫に対する腹腔鏡下手術の導入。第 57 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、岡山、2017 年 9 月 9 日

伴 建二、三上哲平、藤上友輔、酒井美恵、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、岡田由貴子、松本久宣、岡垣篤彦、巽 啓司：ソフト凝固（低電圧凝固モード）を用いた婦人科腹腔鏡下手術における止血操作の検討。第 57 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、岡山、2017 年 9 月 7 日

松本久宣、岡田由貴子、三上哲平、藤上友輔、酒井美恵、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、伴 建二、岡垣篤彦、巽 啓司：妊娠中の卵巣囊腫における腹腔鏡下手術の導入－当院で経験した 2 症例－。第 71 回国立病院総合医学会、高松、2017 年 11 月 11 日

伴 建二、三上哲平、藤上友輔、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、岡田由貴子、松本久宣、岡垣篤彦、巽 啓司：婦人科腹腔鏡下手術時の出血に対するソフト凝固（低電圧凝固モード）の導入。第 71 回国立病院総合医学会、高松、2017 年 11 月 11 日

伴 建二、三上哲平、藤上友輔、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、岡田由貴子、松本久宣、岡垣篤彦、巽 啓司：ソフト凝固（低電圧凝固モード）を用いた術中止血～腹腔鏡下手術における止血を中心～。第 40 回日本産婦人科手術学会、大阪、2017 年 11 月 26 日

B-5

岡垣篤彦：災害対策としての医療情報処理。第 7 回兵庫県医用画像情報システム研究会、兵庫、2017 年 8 月 5 日

岡垣篤彦：災害対策としての医療情報処理。フィルメーカーカンファレンス、横浜、2017年10月24日

岡垣篤彦：災害・ER外来、アンギオ、心臓カテーテル経過記録システムの記録内容と請求情報の比較分析。第37回医療情報学連合大会 ワークショップ07 医療の質向上に貢献する診療支援システムとその効果分析、大阪、2017年11月22日

岡垣篤彦：診察室で必要とされる薬剤および関連情報。第37回医療情報学連合大会 ワークショップ12 患者を守る薬剤情報の伝達、共有、大阪、2017年11月22日

三上哲平、伴建二、松本久宣、藤上友輔、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、岡田由貴子、岡垣篤彦、巽啓司：広汎子宮全摘術及び放射線治療後に発症したイレウスに対し、腹腔鏡下手術を施行した1例。第18回産婦人科手術療法・周術期研究会、京都、2018年2月10日

三上哲平、伴建二、松本久宣、藤上友輔、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、岡田由貴子、岡垣篤彦、巽啓司：広汎子宮全摘出術及び放射線治療後のイレウスに対する腹腔鏡下手術。第32回大阪温知会総会、大阪、2018年2月17日

B-6

藤上友輔、伴建二、矢口愛弓、酒井美恵、寺田亜希子、岡田由貴子、松本久宣、岡垣篤彦、巽啓司：異所性子宮内膜症を認めた3例。第136回近畿産婦人科学会、大阪、2017年6月18日

眼科

大鳥安正

大阪の中心に位置していることからも、近畿圏における主要な基幹病院として病診連携・病病連携の重要性を認識し、紹介元と緊密に連絡を取るようにしております、特に緑内障・網膜硝子体疾患においては多くの難治性疾患を受け入れ、最終病院として機能しています。各医員は白内障以外に専門分野を標榜しており、情報収集も怠らず、最新で質の高い医療を提供することを心がけています。また、厚生労働省の政策医療感覚器ネットワーク機関としても全国の多施設共同研究に参加しています。

平成29年4月から30年3月の眼科における総手術件数は総計1,811件でした。

白内障：白内障手術件数は最も多く、平成29年度の白内障単独手術件数は1,132件（1泊入院265件）でした。入院は両眼4泊5日、片眼3泊4日、片眼1泊2日から選択可能です。白内障手術の待ち期間は平均1か月程度です。**緑内障**：原発開放隅角緑内障は薬物療法が第一選択ですが、薬物療法で眼圧下降が十分でない場合には外科的治療（線維柱帯切除術が主流、発達緑内障やステロイド緑内障には線維柱帯切開術を選択、平成29年度の緑内障手術件数は358件）を行っています。低侵襲緑内障手術（Minimally Invasive Glaucoma Surgery, MIGS）も採用しております。また、難治な血管新生緑内障に対しても積極的にアバスチン併用線維柱帯切除術を行っています。**網膜・硝子体手術**：増殖糖尿病網膜症、増殖硝子体網膜症、網膜剥離、黄斑部手術などを中心に積極的に行ってます。平成29年度には硝子体手術285件、強膜内陷術3件が行われ、網膜剥離症例では症例に応じて初診当日入院・当日手術も行っています。硝子体手術は25ゲージシステムによる低侵襲硝子体手術を実施し良好な成績を得ています。手術加療だけでなく、加齢黄斑変性、網膜静脈分枝閉塞症や糖尿病黄斑浮腫などに対する抗Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF) 抗体の硝子体内注射も積極的に行ってます。**その他（眼形成・翼状片など）**：翼状片手術、眼瞼内反症手術など33件の手術が行われました。眼部悪性腫瘍は当院の形成外科と連携しております。当院はHIV/AIDS先端医療開発センターであるため、免疫・感染症内科との連携によりサイトメガロウイルス網膜炎などのHIV眼合併症の治療を多数行っています。

【2017年度研究業績発表】

A-0

Otori Y, Takahashi G, Urashima M, Kuwayama Y : Evaluating the Quality of Life of glaucoma patients using the State-Trait Anxiety Inventory. 「J Glaucoma」 26 (11) 1025-1029, 2017.

A-1

松田 理 : 症状や訴え、写真、検査結果で疾患を推理する! Dr.探偵!疾患スクープ（麦粒腫）「眼科ケア」メディカ出版、19巻4号、P297, 368-369、2017年4月1日

松田 理 : 症状や訴え、写真、検査結果で疾患を推理する! Dr.探偵!疾患スクープ（白内障）「眼科ケア」メディカ出版、19巻7号、P585, 670-672、2017年7月1日

松田 理：症状や訴え、写真、検査結果で疾患を推理する！ Dr.探偵!疾患スクープ（ぶどう膜炎）「眼科ケア」メディカ出版、19巻10号、P881, 950-952、2017年10月1日

大鳥安正：血管新生緑内障の診断と管理について教えてください、特集 眼科Q&A、救急疾患ごとの基本的な対処法、7. 水書体・緑内障「あたらしい眼科」34巻臨時増刊号、メディカル葵出版、P213-216、2017年11月15日

大鳥安正：神経線維層欠損「緑内障を見逃さない眼底・OCTの見かた」富田剛司編集、日本医事新報社、18巻9号、P7-9、2018年2月20日

大鳥安正：視神經乳頭低形成「緑内障を見逃さない眼底・OCTの見かた」富田剛司編集、日本医事新報社、18巻9号、P86-91、2018年2月20日

A-2

東出朋巳、大鳥安正、真鍋伸一、坂田 礼：手術相談室、眼内レンズ亜脱臼合併症眼での緑内障手術戦略「眼科手術」メディカル葵出版、31(1)、P94-96、2018年1月15日

三木篤也、雲井美帆：近視緑内障「緑内障を見逃さない眼底・OCTの見かた」富田剛司編集、日本医事新報社、18巻9号、P58-65、2018年2月20日

B-2

Kumoi M, Miki A, Usui S, Kawashima R, Matsushita K, Nishida K: Segmentation failure of retinal nerve fiber layer in spectral-domain optical coherence tomography. 7th World Glaucoma Congress, Helsinki, 2017年6月28～29日

Kumoi M, Miki A, Maeda N, Nishida K: Transient myopic shift after 24-hour monitoring of IOP-related profile using a contact lens sensor. The 33rd Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress, Hong Kong, 2018年2月8～11日

B-3

大鳥安正：中期～後期症例における中心10-2の活用のポイント。第6回日本視野学会学術集会、秋田、2017年4月22日

大鳥安正：エクスプレス慎重派の立場から。第28回日本緑内障学会、広島、2017年9月29日

B-4

横山洵子、雲井美帆、橘 依里、内堀裕昭、山本拓広、松田 理、數尾久美子、大鳥安正：EX-PRESS併用濾過手術導入1年目と2年目の術後中期成績比較。第28回日本緑内障学会、広島、2017年9月29日

内堀裕昭、雲井美帆、橘 依里、横山洵子、山本拓広、松田 理、數尾久美子、大鳥安正：線維柱帶切除術の担当医別術後成績の比較。第28回日本緑内障学会、広島、2017年9月30

日

橋依里、雲井美帆、横山洵子、内堀裕昭、山本拓広、松田理、數尾久美子、大鳥安正：CASIA2によるOverhanging blebの切除範囲予測が有用であった1症例。第28回日本緑内障学会、広島、2017年9月30日

雲井美帆、橋依里、横山洵子、内堀裕昭、山本拓広、松田理、數尾久美子、大鳥安正：上方視神経乳頭部分低形成の一卵性双生児の姉妹例。第71回日本臨床眼科学会、東京、2017年10月13日

狩野 廉、金森章泰、大鳥安正、森 和彦、植木麻理：関西緑内障道場 非専門医のための緑内障診療ガイド～治療導入までのはじめの一歩～。第71回日本臨床眼科学会インストラクションコース38、東京、2017年10月14日

溝上志朗、大鳥安正、植木麻理、金森章泰、谷戸正樹、廣岡一行：緑内障手術の合併症、以下に予防し、どう対処する？第41回日本眼科手術学会 インストラクションコース4、京都、2018年1月26日

B-5

大鳥安正：考える！緑内障診療。第6回なんかい眼科フォーラム、大阪、2017年7月1日

大鳥安正：眼内炎は忘れた頃にやってくる。東西対抗緑内障研究会、東京、2017年10月12日

大鳥安正：緑内障眼底読影のコツ、眼底写真から高侵達OCTまで。大阪府保険医協会学術講演会、大阪、2017年11月11日

大鳥安正：緑内障眼底読影のミニマムエッセンス。新・眼科診療アップデートセミナー2018 in Kyoto、京都、2018年3月10日

B-6

雲井美帆、松田理、橋依里、横山洵子、内堀裕昭、辻野知栄子、數尾久美子、大鳥安正：経扁平部挿入型バルベルトインプラント眼に合併した増殖糖尿病網膜症牽引性網膜剥離に対しシリコンオイルを注入した症例。第243回OCC、大阪、2017年10月28日

雲井美帆、松田理、橋依里、横山洵子、内堀裕昭、辻野知栄子、數尾久美子、大鳥安正：眼類天疱瘡に併発した緑内障に対して Suture trabeculotomy ab interno を施行した2症例。第52回PACGs、大阪、2017年10月31日

B-8

内堀裕昭：今どきの緑内障診断～OCTでわかるあれこれ～。第9回中央区勉強会、大阪、2017年6月2日

大鳥安正：緑内障。富山大学医学部3回生学生講義、富山、2017年6月22日

大鳥安正：緑内障の病態と治療法。視能訓練士協会基礎教育プログラム、大阪、2017年9月17日

雲井美帆：外来で遭遇する症例「病院編」。第6回なにわ病診連携講演会、大阪、2018年3月16日

耳鼻咽喉科

西村 洋

2015年4月1日より、前任科長の堀井の新潟大学教授就任に伴い、交代で私（西村）が大阪府立母子保健総合医療センターより着任しました。北村医師が大阪府立急性期・総合医療センターへ異動になり、森鼻医師が大阪大学より李医師が堺市立病院より着任しました。専修医の2名（山村・秋田）は留任しました。昨年は科長が西村洋（平成5年大阪大学卒）、森鼻哲生（平成11年大阪大学卒業）、李杏菜（平成22年川崎医科大学卒）、山村裕眞（平成24年大阪大学卒）、秋田佳名子（平成25年近畿大学卒）です。一昨年度の4名より1名増えて5人体制となりました。2017年4月より山村が大学に戻り当院の研修医であった福田雅俊（平成27年阪大卒）が新たに耳鼻咽喉科の専修医となりました。

私の専門分野は中内耳手術や難聴などの耳科学で、博士課程（大阪大学大学院耳鼻咽喉科）での研究内容は人工内耳装用者の聴覚の中枢機構を脳血流PETを用いて解明することでした。この研究の内容は英文科学雑誌Natureに発表させていただきました。

今年度より当医療センターで診療をし、またその臨床内容に則した形で、患者さんの治療に繋がる研究をやっていけたらと考えています。

【2017年度 研究業績発表】

B-4

西村 洋、森鼻哲生、李 杏菜、福田雅俊：術後耳における外耳道入口部形成について。第27回日本耳科学会総会・学術講演会、横浜、2017年11月23日

西村 洋、太田有美、今井貴夫、川島貴之、大崎康宏、森鼻哲生、佐藤 崇、岡崎鈴代、日尾祥子、猪原秀典：大阪大学耳鼻咽喉科関連多施設での耳科手術成績の検討－外傷－。第118回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会、広島、2017年5月18日

森鼻哲生、太田有美、西村 洋、今井貴夫、川島貴之、大崎康宏、佐藤 崇、岡崎鈴代、日尾祥子、猪原秀典：大阪大学耳鼻咽喉科関連多施設での耳科手術成績の検討－慢性中耳炎・聴力成績－。第118回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会、広島、2017年5月18日

秋田佳名子、森鼻哲生、西村 洋：頬部の悪性リンパ腫の一例。第79回耳鼻咽喉科臨床学会、下関、2017年7月7日

放射線診断科・放射線治療科

栗山啓子 田中英一

放射線診断科は画像診断と IVR (Interventional Radiology) を実施し、64列マルチスライス CT2 台、1.5T および 3T の MRI 装置 2 台、アンギオ CT を用いた臨床研究をおこなっている。2017 年度は、常勤医師 5 名、非常勤医師 3 名、診療放射線技師で研究をおこなった。画像 診断では全身の CT と MRI の研究を中心に学会報告や論文発表をおこなっている。

胸部の CT は肺の画像診断と IVR に有用であり、特にすりガラス濃度を呈する早期の肺腺癌の診断が課題となっている。胸腔鏡下肺生検や上皮内癌の縮小手術の術前に CT ガイド下に色素 (ICG) でマーキングを行い、その安全性と良好な術中視認性の報告を行った。HIV/AIDS 患者の日和見感染に代表される非結核性抗酸菌感染症で治療が有効な *Mycobacterium kansasii* の画像解析を行い、国内外に発表した。

放射線治療科では外部放射線治療装置（リニアック）を 2 台、高線量率小線源治療装置 (remote after loading system : RALS) を 1 台保有しており、これらを用いた臨床研究をおこなっている。

特に、小線源治療の研究に関しては、国内のみならず世界をリードできるよう積極的に学会報告や論文発表をおこなっている。近年は、特に画像誘導小線源治療 (image-based brachytherapy) の前立腺癌、婦人科腫瘍等への臨床応用拡大の研究をすすめている。2017 年度は、常勤医師 2 名、非常勤医師 2 名で研究をおこなった。小線源治療の対象疾患としては、再発婦人科腫瘍、新鮮子宮頸癌、前立腺癌、舌癌などの頭頸部癌、再発直腸癌などである。関西圏外からも患者紹介があり、複数の施設から研修生（医師・放射線技師・看護師）を多数受け入れた。

平成 28 年度から、文部科学省科学研究費（研究責任者：大阪歯科大学・秋山広徳、研究分担者：田中英一、古妻理之、辻本豊、吉田謙ら）による「口腔癌 3 次元画像誘導小線源治療におけるリアルタイム線量評価システムの構築」の研究をおこなった。本研究は、口腔癌小線源治療中の線量実測を目指したものである。口腔癌は、狭い領域に複雑な構造物が近接しているため、精巧なモデルの作成が必要となる。その後、モデルを使用してアプリケータ刺入、蛍光線量計による線量実測などをおこなった。

平成 29 年度から、文部科学省科学研究費（研究責任者：大阪医科大学・吉田謙、研究分担者：田中英一、古妻理之、辻本豊ら）による「正確な小線源治療を担保するリアルタイム In vivo dosimetry の開発」の研究をおこなっている。

外部照射は IMRT などの高精度放射線治療の適応拡大に関する研究をすすめており、前立腺癌根治照射以外に、肺癌術後再発例や脳転移例、脊椎転移例、頭頸部癌術後照射などの臨床例に順次適応拡大をおこなっている。

【2017 年度 研究業績発表】

(放射線診断科)

A-0

Nagai K, Kuriyama K, Inoue A, Yoshida Y, Takami K : Computed tomography-guided preoperative

localization of small lung nodules with indocyanine green. 「Acta Radiologica」 2017年10月3日

Hashimura H, Kimura F, Ishibashi-Ueda H, Morita Y, Higashi M, Nakano S, Iguchi A, Uotani K, Sugimura K, Naito H: Radiologic-Pathologic Correlation of Primary and Secondary Cardiomyopathies: MR Imaging and Histopathologic Findings in Hearts from Autopsy and Transplantation. 「Radiographics」 37(3):719-736. 2017年

Higashi M, Ikeda Y, Miyauchi H, Zaima N, Suzuki A, Li M, Kobayashi K, Naito H, Hirano K : Imaging Modalities for Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy. 「Ann Nucl Cardiol」 3 (1) : 94-102. 2017年8月23日

Nakao YM, Miyamoto Y, Higashi M, Noguchi T, Ohishi M, Kubota I, Tsutsui H, Kawasaki T, Furukawa Y, Yoshimura M, Morita H, Nishimura K, Kada A, Goto Y, Okamura T, Tei C, Tomoike H, Naito H, Yasuda S: Sex differences in impact of coronary artery calcification to predict coronary artery disease. 「Heart」 pii: heartjnl-2017-312151. doi: 10.1136/heartjnl-2017-312151. [Epub ahead of print] 2018年1月13日

Juri H, Tsuboyama T, Koyama M, Yamamoto K, Nakai G, Nakamoto A, Yamamoto K, Azuma H, Narumi Y: Assessment of the ability of CT urography with low-dose multi-phasic excretory phases for opacification of the urinary system. 「PLoS One」 12(4): e0174800, 2017年4月6日

Tsuboyama T, Jost G, Pietsch H, Tomiyama N: Comparison of Power Versus Manual Injection in Bolus Shape and Image Quality on Contrast-Enhanced Magnetic Resonance Angiography: An Experimental Study in a Swine Model. 「Invest Radiol」 52(9): P547-553, 2017年9月

Ota T, Hori M, Onishi H, Sakane M, Tsuboyama T, Tatsumi M, Nakamoto A, Kimura T, Narumi Y, Tomiyama N: Preoperative staging of endometrial cancer using reduced field-of-view diffusion-weighted imaging: a preliminary study. 「Eur Radiol」 27(12): P5225-5235, 2017年12月

Sakane M, Tatsumi M, Hori M, Onishi H, Tsuboyama T, Nakamoto A, Ota T, Eguchi H, Wakasa K, Hatazawa J, Tomiyama N: Volumetric parameters of 2-deoxy-2-[18F]fluoro-d-glucose positron emission tomography/computed tomography can predict histopathologic treatment response after neoadjuvant chemoradiotherapy in pancreatic adenocarcinoma. 「Eur J Radiol」 94: P64-69, 2017年9月

Dia AA, Hori M, Onishi H, Sakane M, Ota T, Tsuboyama T, Tatsumi M, Okuaki T, Tomiyama N: Application of non-Gaussian water diffusional kurtosis imaging in the assessment of uterine tumors: A preliminary study. 「PLoS One」 12(11): e0188434, 2017年11月27日

A-4

坪山尚寛、富山憲幸：MRIによる筋層浸潤診断のポイントは？「臨床婦人科産科」71(4)・（増刊号）、P285-288、医学書院、2017年4月20日。

坪山尚寛、富山憲幸：充実性付属器腫瘍の鑑別診断「画像診断」37(11)（増刊号）s102-107、

秀潤社、2017年9月10日

B-2

Kuriyama K, Yoshida Y, Inoue A, Sumikawa H: Mycobacterium kansasii pulmonary infection: CT findings in AIDS patients comparison with non-AIDS patients. 4th World Congress of Thoracic Imaging, Boston, 2017年6月18日

Higashi M, Onishi Y, Kono AK, Kanzaki S, Fukuda F, Minatoya K, Naito H: Computed tomographic angiography of the Adamkiewicz artery using a small focal spot. ASCI 2017 (The 11th Congress of Asian Society of Cardiovascular Imaging), Kyoto, 2017年6月2日

Tsuboyama T: Differential diagnosis of benign, borderline, and malignant ovarian tumors with MRI and PET/CT. 6th Asian Congress of Abdominal Radiology (ACAR), 韓国、2017年4月21日

Yoshida Y, Kuriyama K, Inoue A, Sumikawa H: CT findings of pulmonary mycobacterium kansasii infection in AIDS patients comparison with immunocompetent. European Congress of Radiology, ウィーン, 2018年2月28日

B-3

Tsuboyama T, Hori Y, Hori M, Onishi H, Tatsumi M, Sakane M, Ota T, Tomiyama N: Imaging findings of ovarian dysgerminoma with emphasis on multiplicity and vascular architecture: implication for pathogenesis. 第31回日本腹部放射線学会、北海道、2017年6月30日

吉田悠里子、栗山啓子、永井啓介、岸本健太郎、井上敦夫、高村 学、東 将浩、崔 秀美: AIDS患者と非HIV患者に発症したMycobacterium kansasii症のCT所見の比較。第76回日本放射線学会総会、横浜、2017年4月14日

吉田悠里子、栗山啓子、木曾建吾、井上敦夫、東 将浩、上地隆史、森 清: HIV/AIDS患者に合併した播種型Mycobacterium kansasii症の1例。第31回胸部放射線研究会、松山、2017年9月8日

萩 美里、大谷陽子、森 清、水谷麻紀子、八十島宏行、森川希実、井上敦夫、中森正二、関本貢嗣、眞能正幸、増田慎三: Triple negative乳癌(TNBC)に対する術前化学療法の現状と課題。第55回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017年10月20日

安藤性實、小河原光正、木村 剛、宮本 智、高見康二、井上敦夫、栗山啓子、田中英一、眞能正幸: Nivolumabで縮小効果が得られた肺多型癌の一例。第58回日本肺癌学会学術集会、横浜、2017年10月15日

八十島宏行、増田慎三、森川希実、大谷陽子、水谷麻紀子、井上敦夫、栗山啓子、森 清、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣: HER2陽性およびTriple negative乳癌における、術前化学療法後MRI画像評価にみる非切除手術への可能性。第25回日本乳癌学会総会、福岡、2017年7月13日

大宮英泰、高見康二、関本貢嗣、中森正二、平尾素宏、池田正孝、宮崎道彦、宮本敦史、増田慎三、西川和宏、濱直樹、三宅正和、植村守、水谷麻紀子、八十島宏行、前田栄、大谷陽子、浜川卓也、栗山啓子、眞能正幸：臨床病期Ⅰ期右側非小細胞肺癌における縦隔リンパ節郭清に関する到達法別検討。第 117 回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017 年 4 月 27 日

B-5

吉田悠里子：神経原性肺水腫をきたした 10 歳代女性の 1 例。第 64 回なにわ臨床研究会、大阪、2017 年 5 月 24 日

木村剛、小河原光正、宮本智、安藤性實、高見康二、安村かおり、井上敦夫、栗山啓子、森清、眞能正幸：アファチニブとリバーロキサバンが奏効した肺血栓塞栓症合併肺腺癌の 1 例。第 106 回日本肺癌学会関西支部会、大阪、2017 年 6 月 24 日

B-8

栗山啓子：胸部 X 線写真の診かた～肺野型肺癌早期発見のために～。第 31 回日本臨床内科医学会、大阪、2017 年 10 月 9 日

東将浩：大動脈瘤と大動脈解離の緊急 CT～誰にも相談できない時に備えて～。第 24 回大阪画像診断 IVR セミナー、大阪、2017 年 5 月 31 日

東将浩：～コレステロール以外の脂肪もたまる～中性脂肪蓄積心筋血管症 (Triglyceride deposit cardiomyovasculopathy, TGCV)。第 29 回火の国 RI カンファレンス、熊本、2018 年 3 月 9 日

(放射線治療科)

A-0

Kotsuma T, Yamazaki H, Masui K, Yoshida K, Shimizutani K, Akiyama H, Murakami S, Isohashi F, Yoshioka Y, Ogawa K, Tanaka E : Brachytherapy for Buccal Cancer: From Conventional Low Dose Rate (LDR) or Mold Technique to High Dose Rate Interstitial Brachytherapy (HDR-ISBT). Anticancer Res. 2017 Dec;37(12):6887-92.

Yamazaki H, Ogita M, Hime K, Nakamura S, Suzuki G, Kotsuma T, Yoshida K, Yoshioka Y : Effect of intratumoral abscess/necrosis on the outcome for head and neck cancer patients treated by hypofractionated stereotactic re-irradiation using CyberKnife®. Mol Clin Oncol. 2017 Sep;7(3):336-40.

Yoden E, Nose T, Otani Y, Asahi S, Tsukiyama I, Dokiya T, Saeki T, Fukuda I, Sekine H, Shikama N, Kumazaki Y, Takahashi T, Yoshida K, Kotsuma T, Masuda N, Nakashima K, Matsumura T, Nakagawa S, Tachiiri S, Moriguchi Y, Itami J, Oguchi M : Uncertainty of cosmetic evaluation after accelerated partial breast irradiation: interim analysis of a Japanese prospective multi-institutional feasibility study. Jpn J Radiol. 2017 Jul;35(7):381-8

Yamazaki H, Demizu Y, Okimoto T, Ogita M, Hime K, Nakamura S, Suzuki G, Yoshida K, Kotsuma T,

Yoshioka Y, Oh R : Reirradiation for recurrent head and neck cancers using charged particle or photon radiotherapy. Strahlenther Onkol. 2017 Jul;193(7):525-33.

Yamazaki H, Nakamura S, Suzuki G, Yoshida K, Kotsuma T : Comment on "Effect of tumor dose, volume and overall treatment time on local control after radiochemotherapy including MRI guided brachytherapy of locally advanced cervical cancer" Kari Tanderup et al. Radiother Oncol. 2017 Apr;123(1):169

A-2

田中英一 : 放射線治療「乳癌薬物療法副作用マネジメント」第1章③、増田慎三編集、メジカルビュー社、p 24-27、2017年9月

B-2

Yoshida K, Yamazaki H, Takenaka T, Kotsuma T, Masui K, Komori T, Shimbo T, Yoshikawa N, Yoshioka H, Uesugi Y, Hamada T, Nakata M, Matsutani H, Ueda M, Tsujimoto Y, Tanaka E, Narumi Y : HDR Image-guided Interstitial Brachytherapy for Postoperative Local Recurrent Uterine Cancer. 36th ESTRO, Vienna, 2017年5月5日.

B-5

古妻理之、吉田謙、辻本豊、上田麻里、田中英一 : 鼻腔近傍の基底細胞癌を高線量率モールド照射にて治療した1例。日本放射線腫瘍学会小線源治療部会 第19回学術大会、京都、2017年5月26日

(診療放射線技師)

B-4

竹位応輝、岡田敦彦 : The influence that B0 shim mode gave in Slice Encoding Metal Artifact Correction(SEMAC) in the case of THA MR imaging. 第45回日本磁気共鳴医学会大会、栃木、2017年9月15日

岡田敦彦、竹位応輝 : The influence of SAR reduction parameters to Slice Encoding for Metal Artifact Correction(SEMAC) in the case of THA MR Imaging. 第45回日本磁気共鳴医学会大会、栃木、2017年9月15日

与小田一郎、和田恵子、室屋隆伸、岡田敦彦、岡本 誉、西野敏博、屋口有香、武智昭弘、松林 諒 : MRI装置の更新工事中における検査のバックアップ体制とその効果について。第71回国立病院総合医学会、高松、2017年11月11日

西野敏博、岡本 誉、与小田一郎 : 放射線科が起因するインシデント報告についての検証。第71回国立病院総合医学会、高松、2017年11月10日

細川徹、若井聰智 : 多数の放射能汚染患者への対応。第71回国立病院総合医学会、高松、2017年11月11日

西牧晃二、西野敏博、藤田浩司、木村 裕、岡本 誉、与小田一郎 : 当院の血管撮影時にお

ける被ばく線量の実態調査について。第71回国立病院総合医学会、高松、2017年11月10日

和田恵子、近藤智美、竹位応輝、岡田敦彦、和田恵子、岡本 誉、与小田一郎：当院3T-MRI装置における正常心筋T1値の検討。第71回国立病院総合医学会、高松、2017年11月10日

B-5

細川 徹：頭部CT読影入門。国近放フレッシャーズセミナー、大阪、2017年5月13日

和田恵子、竹位応輝：ポジショニング実習。国近放フレッシャーズセミナー、大阪、2017年5月13日

木村 裕：症例検討「実際に所見をあげてみよう」これだけは知つとこ会、大阪、2018年2月10日

伴 春奈、木村 裕：症例検討「頭部症例検討」これだけは知つとこ会、大阪、2018年2月10日

B-6

西牧晃二、西野敏博、藤田浩司、木村 裕、岡本 誉、与小田一郎：当院の血管撮影時における被ばく線量の実態調査について。国立病院近畿放射線技師会学術大会、大阪、2017年10月7日

近藤智美、竹位応輝、岡田敦彦、和田恵子、岡本 誉、与小田一郎：当院3T-MRI装置における正常心筋T1値の検討。国立病院近畿放射線技師会学術大会、大阪、2017年10月7日

口腔外科

有家 巧

当科では口腔、顎、顔面領域に生じる疾患を治療対象としています。すなわち 1) 歯および歯周組織疾患 2) 口腔粘膜疾患 3) 顎骨疾患 4) 唾液腺疾患 5) 顎関節疾患 6) 神経疾患 7) 血液疾患（診断と口腔粘膜出血の処置）8) リンパ系疾患などの口腔外科疾患を扱っています。特に悪性腫瘍の治療においては頭頸部カンファランスと病理カンファランスを行い、関連科の協力を得て集学的な治療を積極的に行ってています。一方総合病院の口腔外科として、一般開業歯科医院では治療困難な全身管理（全身麻酔および周術期管理を含む）を要する患者さんの歯科治療や、入院患者さんの口腔管理も行っています。なかでも口腔ケアは、放射線治療、化学療法、骨髄移植、全身麻酔の術前（上部消化管疾患、肺がん等）、人工呼吸器装着および各種感染症などの患者における治療の遂行および入院期間に影響を与える大きな要因として認識され、十分な対応が求められています。

教育面では当科は歯学部学生の早期臨床体験を受け入れ、歯科医師卒後研修の研修指定病院としてマッチングに参加し、1名の歯科医師臨床研修医を教育しています。また日本口腔外科学会および日本顎関節学会の研修指定機関に指定され、専門医取得のための卒後教育も積極的に行ってています。

臨床研究としては口腔顎顔面悪性腫瘍術後における顎骨再建と口腔機能再建、非関節性開口障害の診断と治療をそのテーマとしています。

【2017年度 研究業績発表】

B-4

有家 巧、濱田裕之、江場匡敏、後藤倫子、古川正幸、鹿野 学：口唇の知覚異常を契機に発見された HIV 関連悪性リンパ腫の 1 例。第 71 回国立病院総合医学会、高松、2017 年 11 月 11 日

江場匡敏、古川正幸、濱田裕之、後藤倫子、鹿野 学、有家 巧：Good 症候群を有する頬粘膜癌の 1 例。第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会、京都、2017 年 10 月 20 日

有家 巧：術後管理に苦慮した習慣性顎関節脱臼の 1 例。第 30 回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会、横浜、2017 年 7 月 19 日

B-5

宮川まどか、濱田裕之、後藤倫子、古川正幸、鹿野 学、有家 巧：入院後 17 病日目に発症した破傷風の 1 例。第 48 回日本口腔外科学会近畿支部学術集会、大阪、2017 年 7 月 1 日

救命救急センター

定光大海

1. 診療スタッフ

定光 大海 診療部長 (日本救急医学会専門医・指導医、日本外科学会認定医、日本集中治療医学会専門医、大阪大学臨床教授、宮崎大学臨床教授、香川大学・大阪医科大学非常勤講師)

木下 順弘 部長、副センター長 (日本救急医学会専門医・指導医、日本外科学会認定医、日本集中治療医学会専門医)

上尾 光弘 医 長 (日本救急医学会専門医・指導医、日本熱傷学会専門医)

若井 聰智 医 長 (日本救急医学会専門医)

岩佐 信孝 医 長 (日本救急医学会専門医、日本外科学会専門医)

島原由美子 医 師 (日本麻酔科学会専門医、日本救急医学会専門医、日本集中治療医学会専門医)

曾我部 拓 医 師 (日本麻酔科学会専門医・指導医、日本救急医学会専門医、日本集中治療学会専門医)

石田健一郎 医 師 (日本救急医学会専門医、日本集中治療学会専門医)

家城 洋平 医 師 (日本救急医学会専門医、日本外科学会専門医)

下野圭一郎 医 師 (日本救急医学会専門医)

小島 将裕 医 師 (日本救急医学会専門医、日本外科学会専門医)

田中 太助 医 師 (日本救急医学会専門医)

中倉 晴香 医 師 (日本外科学会専門医)

田尻 昌士 医 師

2. 診療方針と特色

1) 三次救急に対応する救命救急センターで主として外傷、急性中毒、熱傷、心肺機能停止、ショック、臓器不全など重症救急患者の診療を行う。また、政策医療のひとつである災害医療では局地および広域災害に対応する。二次救急への応援も今年度から積極的に行い、患者数確保につなげたい。

2) 院内の危機管理の一貫として、突然の心停止など予期せず生命の危機的状態に陥った入院患者の治療支援として Blue Call システムを担う。

3) 救急救命士や救急隊員の医療行為の質を担保するメディカルコントロール (MC) を担う。これはオンライン MC とオフライン MC に大別される。オンラインでは 365 日 24 時間対応で救急隊からの搬送依頼の応需や救急救命士への特定行為（器具を用いた気道確保や静脈路確保、薬剤投与など）の指示を行う。オフラインでは、病院実習や救急症例検討会、プレホスピタル研究会などを通じた教育と救急搬送事例の事後の活動検証を行う。スタッフのうち救急科専門医の 11 名は大阪市の救急救命士活動の評価を行う検証会議の構成員となっている。

4) 災害医療については、院内のフルスケールの災害訓練をはじめとして、大阪府下や全国の広域災害訓練へ参加してきた。平成 25 年 10 月 1 日には厚生労働省医政局医療対策室 DMAT 事務局が本院に開設され、全国の基幹的役割を担うことになった。年間 10 回の日本 DMAT 技能維持研修を担うとともに、内閣府広域災害訓練や近畿など地域ブロック災害訓練等に積極的に係わっている。また、局地災害を主な任務とする大阪 DMAT 活動にも関与している。院内では、

院内 DMAT 研修等の日常的な活動を企画し、災害に対応できる人材を養成している。被ばく医療では、大阪府の二次被ばく医療施設として、放射線災害に対応できる。2016年4月14に起こった熊本地震では DMAT や初動医療班、医療救護班を派遣した。

- 5) 日本救急医学会指導医指定施設、専門医指定施設であり、三次救急を担う救命救急センターで救急医療に従事する人材の養成は重要な役割の一つである。
- 6) 日本集中治療医学会専門医研修認定施設、日本熱傷学会専門医研修認定施設として、集中治療医、熱傷専門医の育成施設となっている。

3. 診療実績

平成29年度は救命救急センター入院患者1,415名のうち救急科が受け入れた患者は703名となつた。CPA や外傷等の外因が主な傷病であった。患者依頼に対してやむを得ずお断りした、いわゆる不応需は年間 157 件で、いずれも昨年度より減少した。救命救急センターでの患者受け入れは、救急患者を断らないという病院の方針により大幅に増加し、救急科も二次救急との連携することで患者増につながつた。今後も同様の方針で患者数確保につなげていきたい。

4. 臨床研究のテーマ

国立病院機構の組織的災害対応、放射線災害に対する診療支援体制の確立、災害時の遠隔医療支援システムの確立は災害医療に関する継続的な研究テーマである。

臨床研究としては、院外心停止に関する共同研究、慢性期医療機関との連携に関する実態調査等を行つてゐる。厚生労働省科学研究の指定研究として南海トラフ巨大地震における DMAT の役割に関する研究は報告書を提出し、その内容は今後の日本 DMAT のあり方に反映された。分担研究として行った災害カルテの標準化に関する研究は、全国で災害時に用いる標準診療記録票として完成した。その他にも国立病院機構の多施設共同研究や国際治験に参加している。

5. 教育方針

初期臨床研修では、三次救急患者の診療を基本に据えて、救急患者の初期診断および治療法、トリアージ、心肺停止患者に対する蘇生法、重症患者の呼吸・循環、代謝・栄養管理法、基本的な外科手技などを経験することで救急患者の見方と Critical Care の基本が習得できることを目指す。後期研修医は救急科専門医の習得が目標となる。新専門医制度への対応も可能になつた。

6. 平成29年度目標および長期展望

患者収容を律速する課題のひとつは、救命救急センター専従医師数である。専修医およびスタッフ医師の確保は継続的な努力目標である。複数の傷病者を同時に受け入れる体制作りが今後の課題である。二次救急との連携は今年度から開始し、病院経営の黒字化への効果が明らかになった。

長期的には、二次医療圏を超えた広域の地域からの依頼にも対応できる体制が目標である。災害拠点病院や DMAT 事務局として中心的割を担うための人材確保も大きな目標である。被ばく医療では、放射線災害に貢献できる体制を整えることが病院の役割に合致する。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Ishida K, Kinoshita Y, Iwasa N, Nakae M, Sakaki M, Ieki Y, Takahashi K, Shimahara Y, Sogabe T, Shimono K, Noborio M, Sadamitsu D: Emergency room thoracotomy for acute traumatic cardiac tamponade caused by a blunt cardiac injury: A case report. International journal of surgery case reports. 2017;35:21-24. doi: 10.1016/j.ijscr.2017.03.009.2017年4月5日

Matsumura Y, Matsumoto J, Idoguchi K, Kondo H, Ishida T, Kon Y, Tomita K, Ishida K, Hirose T, Umakoshi K, Funabiki T; DIRECT-IABO investigators..Non-traumatic hemorrhage is controlled with REBOA in acute phase then mortality increases gradually by non-hemorrhagic causes: DIRECT-IABO registry in Japan.. European journal of trauma and emergency surgery. 2017 Aug 22. doi: 10.1007/s00068-017-0829-z.2017年8月22日

Matsumura Y, Matsumoto J, Kondo H, Idoguchi K, Ishida T, Kon Y, Tomita K, Ishida K, Hirose T, Umakoshi K, Funabiki T; DIRECT-IABO Investigators..Fewer REBOA complications with smaller devices and partial occlusion: evidence from a multicentre registry in Japan.. Emergency medicine journal. 2017 Dec;34(12):793-799. doi: 10.1136/emermed-2016-206383.2017年8月31日

Matsuyama T, Iwami T, Yamada T, Hayakawa K, Yoshiya K, Irisawa T, Abe Y, Nishimura T, Uejima T, Ohishi Y, Kiguchi T, Kishi M, Kishimoto M, Nakao S, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Izawa J, Shimamoto T, Hatakeyama T, Fujii T, Sado J, Kawamura T, Shimazu T, Kitamura T: Prognostic Impact of Serum Albumin Concentration for Neurologically Favorable Outcome in Patients Treated with Targeted Temperature Management After Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Multicenter Prospective Study.. Ther Hypothermia Temp Manag. 2018 Jan 24. doi: 10.1089/ther.2017.0053. [Epub ahead of print].2018年1月24日

Sagishima K, Kinoshita Y: Pupil diameter for confirmation of brain death in adult organ donors in Japan. Acute Medicine & Surgery 2017; 4: 19-24.

Kinoshita Y: Oxygenation index is a reliable indicator of the risk for hypoxia during the apnea test. Brain Death & Resuscitation 2017; 29: 91-96.

A-1

定光大海：救急医療のしくみ「救急患者支援、地域につなぐソーシャルワーカー救急認定ソーシャルワーク標準テキストー」 pp2-14、救急認定ソーシャルワーカー認定機構監修、へるす出版、東京、2017

木下順弘：「救急医療におけるメディカルコントロール」メディカルコントロール検討委員会、へるす出版、東京、2017年10月

木下順弘：幼児外傷性ショック症例における両親の宗教的理由による輸血拒否「ケースブック臨床倫理－救急・集中治療－」 p81-88、氏家良人、前田正一編集、克誠堂出版、東京、2018年2月

A-3

岡垣篤彦、定光大海：首都直下地震における DMAT 派遣支援アプリケーションの作成および医療機関の被災予測「医療情報学」37：p55-67、2017年5月

曾我部拓、島原由美子、石田健一郎、家城洋平、佐尾山裕生、定光大海：食事中の喉頭異物が原因で発症した陰圧性肺水腫の1症例「日本集中治療医学会雑誌」24(6)：p629-630、2017年11月1日

小島将裕、大西光雄、小倉裕司、鳴津岳士：Posterior reversible encephalopathy syndrome (PRES) を発症した小児重症熱傷の1例「熱傷」43巻5号：p273-281、2017年12月

A-4

定光大海：救急医療からみた、人生の最終段階における高齢者医療「救急医学」41：p1045-1050、2017年9月10日

定光大海、太田裕子：救急医療にかかわる気管・施設の都市部における役割と未来像「救急医学」41：p409-415、2017年4月10日

A-5

定光大海、小井土雄一：災害時における初動医療班の活動のあり方を考える（総合医学会報告）「IRYO」72：p13-15、2018年1月

A-6

家城洋平、木下順弘、石田健一郎、曾我部拓、中倉晴香、高端恭輔、下野圭一郎、島原由美子、岩佐信孝、上尾光弘、定光大海：大量の腹腔内出血に対して開腹術と同時に IABO を併用し救命した一例「日本外傷学会雑誌」31巻4号：p453-456、2017年10月

B-3

定光大海：救急認定ソーシャルワーカー認定制度を創設して—医師の立場から。第20回日本臨床救急医学会（シンポジウム）、東京、2017年5月28日

定光大海：救急医療と在宅医療の連携—救急医の立場から。第20回日本臨床救急医学会（パネルディスカッション）、東京、2017年5月27日

太田裕子、定光大海、山口壽美枝：隊員支援加算1算定効果に関する考察～救急外来からの早期介入を通じて～。第20回日本臨床救急医学会、東京、2017年5月28日

小島将裕、清水健太郎、小倉裕司、鳴津岳士：間接熱量計を用いた重症救急患者のエネルギー消費量と生命予後との検討。第54回日本外科代謝栄養学会、新潟、2017年7月7日

定光大海：救急科領域講習5. 南海トラフ大地震災害に備える。第45回日本救急医学会（指定講演）、大阪、2017年10月25日

上尾光弘、定光大海、家城洋平：災害時標準診療録に準拠した電子災害診療録の作成と熊本地震での使用経験。第45回日本救急医学会、大阪、2017年10月25日

若井聰智、定光大海：事態対処医療における警察一医療連携における課題。第20回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2017年5月28日

若井聰智：災害医療のための他機関との連携。第27回日本医療薬学会年会、千葉、2017年11月5日

若井聰智、鈴木教久、近藤久禎：H28 熊本地震での病院避難（第2報）。第23回日本集団災害医学会総会・学術集会、横浜、2018年2月3日

積 翔太、若井聰智：災害時の多機関連携における大阪府の取組について。第23回日本集団災害医学会総会・学術集会、横浜、2018年2月3日

B-4

山下幾太郎、石田健一郎、中倉晴香、田尻昌士、田中太助、曾我部拓、島原由美子、小島将裕、木下順弘、定光大海：びまん性肺胞出血に対し、VV-ECMO を用い救命した一例。第45回日本集中治療医学会学術集会、千葉、2018年2月21日

松村洋輔、松本純一、近藤浩史、井戸口孝二、石田時也、昆 祐理、石田健一郎、廣瀬智也、馬越健介、船曳知弘：細径デバイスによる遅滞ない遮断開始と速やかな遮断終了がREBOAを用いた蘇生と集中治療のポイントである。第45回日本集中治療医学会学術集会、千葉、2018年2月23日

石田健一郎、木下順弘、小島将裕、田中太助、家城洋平、中倉晴香、田尻昌士、峰松佑輔、上田恭敬、定光大海：病院到着時VF症例において良好な神経学的転帰が期待できる因子の検討。第45回日本集中治療医学会学術集会、千葉、2018年2月23日

高端恭輔、石田健一郎、木下順弘、定光大海、嶋津岳士：10年間の穿通性頸部損傷の検討。第45回日本救急医学会総会・学術集会、大阪、2017年10月24日

中倉晴香、石田健一郎、下野圭一郎、家城洋平、曾我部拓、島原由美子、岩佐信孝、上尾光弘、木下順弘、定光大海：当センターで経験したリチウム中毒の検討。第45回日本救急医学会総会・学術集会、大阪、2017年10月25日

下野圭一郎、中倉晴香、石田健一郎、家城洋平、曾我部拓、島原由美子、岩佐信孝、上尾光弘、木下順弘、定光大海：急性期脳卒中入院患者における神経原性肺水腫についての検討。第45回日本救急医学会総会・学術集会、大阪、2017年10月24日

曾我部拓、島原由美子、石田健一郎、家城洋平、田中太助、田尻昌士、中倉晴香、小島将裕、山下幾太郎、定光大海：低Na血症を繰り返した鉱質コルチコイド反応性低Na血症の1例。第

45回日本集中治療医学会学術集会、千葉、2018年2月23日

家城洋平、岩佐信孝、上尾光弘、定光大海：当院での重傷外傷における IABO を用いた治療戦略。第31回日本外傷学会総会・学術集会、東京、2017年6月2日

家城洋平、中倉晴香、岩佐信孝、定光大海：腹腔内出血にて発症し、TAE と開腹術を施行したが救命できなかつた急性骨髓性白血病に合併した脾破裂の一例。第9回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会、札幌、2017年9月9日

家城洋平、木下順弘、定光大海：IABP と PCPS を使用し重度の呼吸循環不全を治療した最重症のくも膜下出血例。第30回日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会、福岡、2017年6月25日

長井 稔、若井聰智：国立病院機構近畿グループにおける病院間災害研修。第23回日本集団災害医学会総会・学術集会、横浜、2018年2月1日

B-5

小島将裕、清水健太郎、元岡大祐、中村昇太、小倉裕司、飯田哲也、嶋津岳士：重症救急患者の腸内細菌叢・腸内環境の変化と臨床との関連。第87回日本感染症学会西日本地方会学術集会、第60回日本感染症学会中日本地方会学術集会、第65回日本化学療法学会西日本支部総会、長崎、2017年10月28日

B-6

村上皓紀、小島将裕、上尾光弘、藤原綾子、高見康二、田中太助、中倉晴香、定光大海：金属製気管カニューレ破損による気道異物の1例。第117回近畿救急医学研究、神戸、2018年3月10日

田尻昌士、曾我部拓、石田健一郎、島原由美子、中倉晴香、家城洋平、定光大海：アスピリン大量内服に対し臨床症状から血中濃度を推定し血液浄化療法を導入した1例。日本集中治療医学会第1回関西支部学術集会、神戸、2017年7月8日

B-8

定光大海：これまでとこれから救急医療～チームでおこなう救急医療～。下関医師会学術講演会、下関、2017年4月13日

定光大海：四国防災・危機管理特別プログラム「災害医療マネジメント」診療録管理、2017年6月23日

定光大海：超高齢社会の地域医療連携と救急医療。一般社団法人大阪府病院協会・大阪府救急医療機関連絡協議会、大阪、2017年6月28日

定光大海：H29原子力規制庁委託「講師養成講座」基礎研修、大阪、2017年11月7日

定光大海：ワークショップ「事後検証」。平成29年度病院前医療体制における指導医等研修（初

級者)、兵庫、2017年12月1日

定光大海：H29原子力規制庁委託「講師養成講座」実践研修、原子力安全研究協会、2017年12月16日～17日

上尾光弘：大阪府医師会災害・外傷初期診療研修会（大阪府医師会館）2017年9月

上尾光弘：大阪府医師会災害・外傷初期診療研修会（大阪府医師会館）2018年1月

上尾光弘：大阪府医師会災害・外傷初期診療研修会（大阪府医師会館）2018年2月

上尾光弘：大阪医療センターICLSコース（院内）2017年6月

上尾光弘：大阪医療センターICLSコース（院内）2017年9月

上尾光弘：大阪医療センターICLSコース（院内）2017年11月

上尾光弘：救急医療・災害医療の現状と問題点。東淀川区医師会学術講演、大阪、2017年9月

上尾光弘：災害電子カルテの作成。第4回国際救急災害シンポジウム、東大阪、2017年11月23日

上尾光弘：大阪トライアスロン大会医療班、2017年6月

上尾光弘：大阪市消防との症例検討会、2017年9月

上尾光弘、岡垣篤彦、定光大海：災害電子カルテの作成とその意義。第71回国立病院総合医学会、高松、2017年11月11日

麻酔科

渋谷博美

麻酔科は、多くの診療科の多岐にわたる手術に対応し、新生児を除く、幅広い年齢層の手術麻酔を年間およそ 3,500 症例施行しています。社会の高齢化に伴い、年々合併症を伴う手術が増加していますが、術前麻酔科外来にて、リスクを評価し、合併症に対して他科へのコンサルトや担当診療科と合同カンファレンスを行うことで、良質で安全な麻酔が施行できるように努めています。また、麻酔法も、吸入麻酔や静脈麻酔による全身麻酔に加え、硬膜外麻酔の適応のない症例に対しては、末梢神経ブロックによる鎮痛方法も取り入れ、痛みのない術後を心掛けています。

教育面では、医学部の学生によるクリニカルクーラークリップを受け入れ、実践現場での知識を得てもらい、初期研修医には、手技だけでなく、術前評価や手術中の循環管理、術後鎮痛などの周術期管理の研修を行っています。専攻医に対しては、日本麻酔科学会の専門医育成認定病院として、深い知識と技術が取得できるように、教育しています。

研究面においては、周術期管理に難渋した希少な症例の報告だけでなく、臨床研究も行っています。麻酔法や輸液の種類や量、心エコーによる周術期の病態変化、硬膜外麻酔や末梢神経ブロックによる術後鎮痛効果についてなど、retrospective に検証し、質の高い医療ができるように研究を行っているほか、より安全で快適な麻酔にするための麻酔法についての研究も行い、現場につなげています。また、麻酔科の関連学会にも積極的に参加し、研究発表だけでなく、多くの新しい情報の取得と現在の知識の再確認を行っています。

【2017 年度 研究業績発表】

B-3

山本俊介：平成 30 年度診療報酬改定。日本心臓血管麻酔学会第 22 回学術大会、栃木、2017 年 9 月 16 日

B-4

島川宜子、前田晃彦、上田祥弘、石井裕子、伊藤千明、天野栄三：血管造影室での全身麻酔下脳血管手術において未抜管退室に寄与する因子についての検討。日本麻酔科学会第 64 回学術集会、神戸、2017 年 6 月 9 日

春原真理、前田晃彦、山本俊介、天野栄三、渋谷博美、岡田俊樹：分離肺換気下に胸部外科手術を受ける患者を対象とした超音波検査による周術期肺モニタリング。日本麻酔科学会第 64 回学術集会、神戸、2017 年 6 月 8 日

鞠子千安紀、伊藤千明、松田智明、山本俊介、天野栄三、渋谷博美：気道確保困難が予想された Klippel-Feil 症候群の全身麻酔管理経験。日本臨床麻酔学会第 37 回大会、東京、2017 年 11 月 3 日

藤井裕美、上田祥弘、石井裕子、島川宜子、天野栄三、渋谷博美：周術期免疫補充療法によ

り、遊離皮弁再建を伴う高侵襲口腔底悪性腫瘍手術を施行できた Good 症候群の麻酔経験。日本臨床麻酔学会第 37 回大会、東京、2017 年 11 月 4 日

B-6

藤井裕美、上田祥弘、草野真悠子、島川宜子、天野栄三、渋谷博美：血友病 A 患者の時間外緊急開頭血腫除去術中の大量出血に対し、凝固因子補充の指標に苦慮した 1 例。第 63 回日本麻酔科学会関西支部学術集会、大阪、2017 年 9 月 2 日

鞠子千安紀、石井裕子、中西裕貴子、山本俊介、天野栄三、渋谷博美：全身麻酔終了後リカバリー室にて明らかな誘因なく喉頭痙攣を認めた 1 例。第 63 回日本麻酔科学会関西支部学術集会、大阪、2017 年 9 月 2 日

和田愛子、松田智明、春原真理、伊藤千明、天野栄三、渋谷博美：声帯癒着症合併患者膝窩動脈人工血管置換術を腹臥位全身麻酔下に施行した 1 例。第 63 回日本麻酔科学会関西支部学術集会、大阪、2017 年 9 月 2 日

臨床検査科

眞能正幸

1. 概況

臨床検査部門は病院基本方針の1つである「質の高い医療の継続」の一旦を担うため『精度保証されたデータを迅速に提供すること』を使命としている。昨年6月には医療法が一部改正され、臨床検査の精度担保が必須事項となったことから、益々精度保証に対する関心が高まっている中、当科はいち早く臨床検査室の国際規格であるISO15189認定を平成26年11月13日国内第86番目の施設として取得した。



また、二交替勤務、輸血管理当直を早期より導入し休日・夜間を含む24時間体制で緊急検査、輸血管理・検査に対応している。スタッフは医師3名と臨床検査技師41名、検査助手3名で運営している。

・各部門について

外来検査部門：6個のブースと車椅子用ブース1つを設け、外来患者の採血を実施している。採血は検査業務の入口であり、その9割以上を臨床検査技師が実施している。また、入院患者の翌日採血予定分の採血管を前日に準備し、各病棟へ搬送している。併設の一般検査室では検尿、便潜血、穿刺液（髄液、胸腹水等）の検査、原虫や虫卵検出等を中心に検査している。

総合検査部門：血液中心とした体液中の成分を様々な分析機で検査している。緊急検査は30分以内、至急検査や診察前検査は約60分以内を目指して検査を実施している。更に多くの治験にも協力しており、検体の処理や保管を実施している。この他、輸血血液製剤の一元化管理を行い、安全かつ効率的な血液製剤の利用に努めている。

微生物検査部門：臨床検体からの細菌分離、同定検査、薬剤感受性検査の他にインフルエンザウイルスなどの迅速抗原検査、結核菌、HCV、HBVおよびHIVのリアルタイムPCR法による高感度測定や、HIV薬剤耐性遺伝子解析やMRSAの遺伝子型（POT法）の検出も行っている。これらの情報は耐性菌週報として院内に発信するとともに、ICT会議やICTラウンド資料として院内感染防止に貢献している。

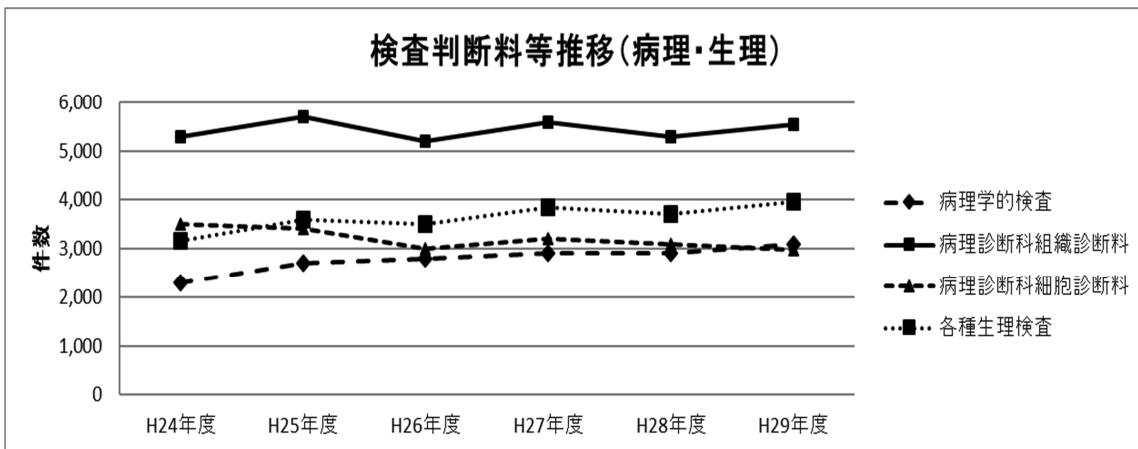
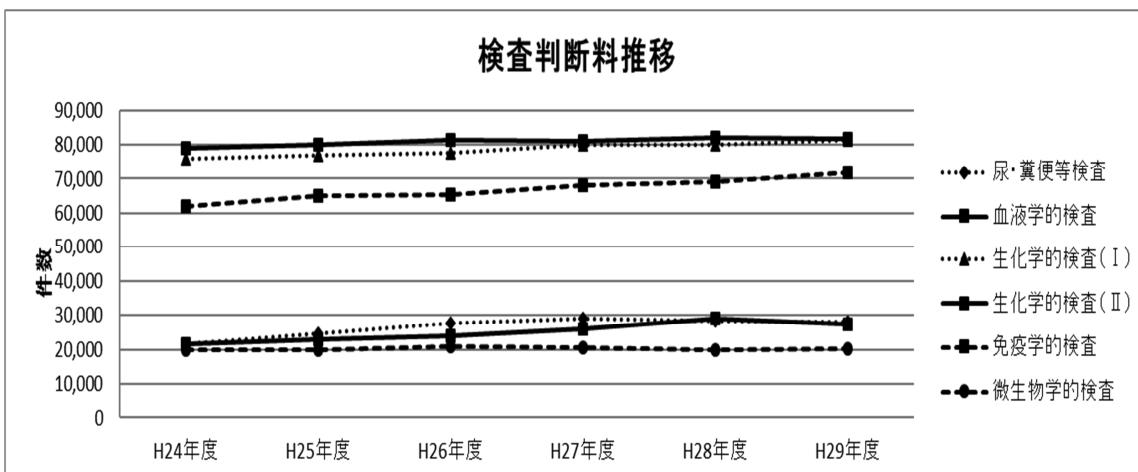
病理検査部門：術中の迅速病理診断や迅速細胞診、100種以上の抗体を備えた免疫染色により症例に応じた治療法の選択に貢献している。高度な専門的病理診断に対応するため4大学より病理専門医を招聘している。

生理検査部門：心電図、脳波、呼吸機能、超音波など実際の患者を対象とした部門である。循環器系、呼吸器系、消化器系、神経系や聴覚系等の分野の検査を実施し、特に超音波検査についてはエコーセンターとして、各診療科の超音波検査の受付を一括して行っている。

2. 活動報告

各種の外部精度管理調査（日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、大阪府医師会）に参加している。一例として日本医師会主催の臨床検査精度管理調査の成績（過去6年間）を示す。

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
総合評価点	99.8	99.7	98.8	98.1	98.3	98.3



臨床検査科として、ISO15189認定（RML00860）の他、日本臨床細胞学会（No.466）、日本病理学会研修認定施設（No.5011）などの施設認定を取得している。また、細胞検査士（5名）、超音波検査士（5名）、認定輸血検査技師（4名）、糖尿病療養指導士（1名）の認定技師が在籍している。

3. 今後の課題と目標

当科では世代交代の波に向けて、臨床検査技師の人材育成に力を入れている。入職後3年目までの技師を対象に複数部門（総合検査は必須）を積極的にローテーションさせジェネラリストとしての基礎を育てると共に、認定資格取得を含め専門性を高めていくことを、今後も、継承していく。

チーム医療の推進にも積極的に関わり、糖尿病教室、NST（栄養サポートチーム）、肝臓病教室、ICT（感染対策チーム）での患者指導・情報提供・ラウンド等に参加、さらにISO15189認定施設として診療機能、治験業務の質向上に貢献していく。

現在実施している各種臨床病理カンファレンス（乳腺腫瘍、呼吸器腫瘍、皮膚科疾患、肝

生検、肝胆膵腫瘍、骨軟部腫瘍等) を継続し、病理診断や臨床診断・治療の質の向上に今後も努めていく。また、職員研修部との共催で月1回のCPCを充実させ、若手臨床医の教育にも貢献していく。

(文責 佐野 隆宏・眞能 正幸)

【2017年度研究業績発表】

A-0

Mori K, Takeda M, Kodama Y, Kiyokawa H, Yasojima H, Mizutani M, Otani Y, Morikawa N, Masuda N, Mano M: Tumor thickness and histological features as predictors of invasive foci within preoperatively diagnosed ductal carcinoma in situ. 「Human Pathology」 64(6) : P145-155、2017年6月

Okita Y, Masuda N, Mizutani M, Kodama Y, Mori K, Mano M, Nakagawa T, Nakajima S, Fujinaka T : Widespread subdural metastasis from breast cancer progressing rapidly with cerebral herniation: A case report. 「Molecular and Clinical Oncology」 6(6) : P960-962、2017年6月

Konishi E, Nakashima Y, Mano M, Tomita Y, Kubo T, Araki N, Morii E, Yoshikawa H, Haga H, Toguchida J, Ueda T, Osawa M, Hoshi M, Inoue T, Aono M, Yanagisawa A : Chondroblastoma of extra-craniofacial bones: Clinicopathological analyses of 103 cases. 「Pathology International」 67(10) : P495-502、2017年10月

Hirao M, Yamada T, Michida T, Nishikawa K, Hamakawa T, Mita E, Mano M, Sekimoto M : Peritoneal Seeding after Gastric Perforation during Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Cancer.

「Digestive Surgery」 2017年11月8日 [Epub ahead of print]

Kobayashi Y, Maeda S, Hama N, Miyamoto A, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Hirao M, Kato T, Sekimoto M, Mori K, Mano M, Nakamori S : Successful conversion surgery for unresectable pancreatic cancer with peritoneal metastases after neoadjuvant albumin-bound paclitaxel and gemcitabine chemotherapy:case report and literature review. 「International Cancer Conference Journal」 7(1) : P20-25、2018年1月

A-3

西村理恵子、増田慎三、山城勝重、村田有也、松井 哲、森 清、高橋將人、青儀健二郎、伊藤正博、前田茂人、倉岡和矢、尾崎慎治、市原 周、佐藤康幸、田口健一、徳永えり子、鈴木博義、渡辺隆紀：乳癌転移巣細胞診検体受容体検査の日常運用に関する多施設共同研究：ホルマリン固定細胞診検体のアルギン酸ナトリウム法セルブロックによる標本作製の提案。

「乳癌の臨床」 32(3) : P.249-257、篠原出版社、2017年7月

藤本幸太、大島純平、片山欽三、鄭 則秀、原田泰規、西村健作、清川博貴、児玉良典、眞能正幸：脂肪肉腫との鑑別が困難であった後腹膜海綿状血管腫の1例。「泌尿器科紀要」 63(12) : P521-524、2017年12月31日

B-2

Kaoku S, Watanebe T, Yamaguchi T, Okuno T, Yaegashi H, Tohno E, Tsunoda H, Fujimoto Y, Seki Y, and Togashi Y: Color Doppler Findings Differentiating between Benign and Malignant Breast Masses – JABTS BC-04 Study Part 1-. The 16th World Federaton for Ultrasound in Medicine and Biology Congress in 2017, Taipei, 2017年 10月 17日

B-3

糸山光麿: 細胞検査士の教育と研究: 私の場合。第 58 回日本臨床細胞会総会春季大会、大阪、2017 年 5 月 28 日

八十島宏行、増田慎三、森川希実、大谷陽子、水谷麻紀子、井上敦夫、栗山啓子、森 清、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣 : HER2 陽性および Triple negative 乳癌における、術前化学療法後 MRI 画像評価にみる非切除手術への可能性。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

大谷陽子、増田慎三、八十島宏行、水谷麻紀子、森川希実、森 清、眞能正幸、中森正二 : 術前化学療法前センチネルリンパ節生検の成績。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

加奥節子 : カラードプラ法の悪性所見・良性所見 –BC04 の結果をふまえてー。第 39 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会、埼玉、2017 年 9 月 23 日

加奥節子 : B モード、カラードプラ、エラストグラフィを併用した評価。第 39 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会、埼玉、2017 年 9 月 23 日

B-4

上平朝子、坪倉美由紀、中藏伊知郎、廣田和之、上地隆史、田栗貴博、眞能正幸、中森正二 : 大阪医療センターにおける CRE アウトブレイクの伝播要因の解析。第 91 回日本感染症学会総会・学術講演会、第 65 回日本化学療法学会学術集会、東京、2017 年 4 月 7 日

吉田悠里子、栗山啓子、永井啓介、岸本健太郎、井上敦夫、高村 学、東 将浩、崔 秀美 : AIDS 患者と非 HIV 患者に発症した Mycobacterium kansasii 症の CT 所見の比較。第 76 回日本放射線学会総会、横浜、2017 年 4 月 14 日

大宮英泰、高見康二、関本貢嗣、中森正二、平尾素宏、池田正孝、宮崎道彦、宮本敦史、増田慎三、西川和宏、濱 直樹、三宅正和、植村 守、水谷麻紀子、八十島宏行、前田 栄、大谷陽子、浜川卓也、栗山啓子、眞能正幸 : 臨床病期 I 期右側非小細胞肺癌における縦隔リンパ節郭清に関する到達法別検討。第 117 回日本外科学会定期学術集会、2017 年 4 月 27 日

西村理恵子、村田有也、森 清、山城勝重、倉岡和矢、市原 周、田口健一、鈴木博義、伊藤正博 : セルプロックを用いた乳癌転移巣受容体検査の判定上の問題点 : NHO 他施設共同研究。第 58 回日本臨床細胞学会総会春期大会、大阪、2017 年 5 月 28 日

植田 萌、森 清、高木景城、糸山光麿、笹 倫郎、眞能正幸：乳腺 apocrine ductal carcinoma in situ (DCIS) の 4 例。第 58 回日本臨床細胞学会総会春期大会、大阪、2017 年 5 月 28 日

小林佑佳、小澤健太郎、森 清、爲政大幾：右尾翼部に生じた皮膚限局性アミロイドーシスの 1 例。第 116 回日本皮膚科学会総会、仙台、2017 年 6 月 3 日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、山田拓哉、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣：高齢者食道癌にたいする外科治療の現状。第 71 回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017 年 6 月 15 日

森川希実、増田慎三、水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、田中希世、眞能正幸、森 清、関本貢嗣、中森正二：ホルモン陽性 HER2 陰性進行再発乳癌患者における血清 HER2 蛋白測定と抗 HER2 治療の可能性。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 13 日

森 清、清川博貴、眞能正幸：腫瘍厚み径と種々の組織学的因素は、術前に非浸潤性乳管癌症例と診断された症例での浸潤巣存在予測に有用である。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

小林雄太、前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、森 清、眞能正幸、中森正二：術前化学療法により切除が可能となった多発腹膜播種を伴う膵癌の 1 例。第 48 回日本膵臓学会大会、京都、2017 年 7 月 15 日

伴建二、藤上友輔、酒井美恵、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、浦田由貴子、松本久宣、岡垣篤彦、巽 啓司、清川博貴、森 清：脳転移をきたした子宮頸部原発印環細胞癌の 1 例。第 59 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、熊本、2017 年 7 月 27 日

小林雄太、前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、森 清、眞能正幸、中森正二：Gemcitabine・nab-paclitaxel 併用術前化学療法により切除が可能となった多発腹膜播種を伴う膵癌の 1 例。第 26 回日本がん転移学会学術集会・総会、大阪、2017 年 7 月 28 日

吉田悠里子、栗山啓子、木曾建吾、井上敦夫、東 将浩、上地隆史、森 清：HIV/AIDS 患者に合併した播種型 Mycobacterium kansasii 症の 1 例。第 31 回胸部放射線研究会、松山、2017 年 9 月 8 日

安藤性實、小河原光正、宮本 智、木村 剛、高見康二、井上敦夫、栗山啓子、田中英一、眞能正幸：Nivolumab で縮小効果が得られた肺多型癌の 1 例。第 58 回日本肺癌学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 15 日

萩 美里、大谷陽子、森 清、水谷麻紀子、八十島宏行、森川希美、井上敦夫、中森正二、関本貢嗣、眞能正幸、増田慎三：Triple negative 乳癌 (TNBC) に対する術前化学療法の現状と課題。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 20 日

西村理恵子、森 清、田口健一、鈴木博義、伊藤正博：乳癌転移巣セルブロックを用いた受容体検査における判定上の問題点：国立病院機構多施設共同研究。第 64 回日本臨床検査医学学会学術集会、京都、2017 年 11 月 17 日

片山真穂、初山弘幸、藤澤悠貴、松山高明、眞能正幸、上田初江：未分化多型肉腫 (Undifferentiated pleomorphic sarcoma) と診断された心臓腫瘍の 1 例。第 56 回日本臨床細胞学会総会秋期大会、横浜、2017 年 11 月 19 日

原田和弥、森 清、笹 倫郎、長友 萌、眞能正幸、竹中明美、津田絹江：細胞診の免疫染色が有用であった原発不明癌の 3 例。第 56 回日本臨床細胞学会総会秋期大会、横浜、2017 年 11 月 19 日

B-6

木村 剛、小河原光正、宮本 智、安藤性實、高見康二、安村かおり、井上敦夫、栗山啓子、森 清、眞能正幸：アファチニブとリバーロキサバンが奏効した肺血栓塞栓症合併肺腺癌の 1 例。第 106 回日本肺癌学会関西支部会、大阪、2017 年 6 月 24 日

長田陽子、大谷陽子、森川希実、八十島宏行、水谷麻紀子、眞能正幸、森 清、増田慎三：同時性-両側原発性乳腺アポクリン癌の 1 例。第 15 回日本乳癌学会 近畿地方会、京都、2017 年 12 月 16 日

加奥節子：乳房超音波技術講習会における総合判定。第 27 回日本乳癌画像研究会、静岡、2018 年 2 月 18 日

瓜原浩代、森 清、原田和弥、長友 萌、笹 倫郎、眞能正幸：アポクリン癌と扁平上皮癌が混在した乳腺化生癌の一例。第 43 回日本臨床細胞学会大阪府支部学術集会、大阪、2018 年 3 月 3 日

リハビリテーション科

上田孝文

急性期総合病院における当科の役割として急性発症後の早期機能回復、外傷後または外科術後の早期機能回復を目的に主科の医師、看護師などと連携をとりながら理学療法、作業療法、言語聴覚療法の3部門が超早期から積極的に介入している。機能回復に時間がかかる疾患については最善の状態で後継病院へ引き継げるよう、また外科術後などでは自宅退院を目指して最大の機能回復を図っている。

リハビリテーション科の診療体制は当科の専従医師による障害診断と理学療法、作業療法、言語聴覚療法のそれぞれの治療的特性に合わせた処方が出され、治療は各専門職の療法士が担当している。

平成29年度の療法士のスタッフ体制(30.3.31現在)は18人体制で、うち理学療法士11人、作業療法士4人、言語聴覚士3人である。

リハビリテーション科へ依頼される診療科は整形外科、総合内科、脳内科、脳外科、救命科、外科、循環器内科、消化器科、心臓外科、感染内科(HIV)等ほぼ全科に渡っている。

例えば整形外科関連では人工関節(股・膝関節)や脊椎術後患者でクリティカルパスに基づいて良質で均質なリハを実施し、在院日数短縮とQOL向上を両立している。特に人工膝関節置換術患者は術前から退院後まで筋力、関節可動域ADL等、運動機能を定量的に評価し、術後3週間で退院できるように短期集中型治療を行っている。また脳内科からは脳血管障害、脳外科からは脳腫瘍、頭部外傷術後、小児脳神経外科からは先天性中枢神経異常など幅広い疾患に対応している。両科とも脳卒中ケアユニット(SCU)から一般病棟まで関わり、定期的なカンファレンスを行い患者の早期治療方針決定と最良な状態で後継病院に円滑に連携できるよう実施している。また、平成28年1月から循環器内科、心疾患の急性期に対する心臓リハを離床から歩行300mまで心臓負荷テストのプロトコールに従って理学療法および作業療法が携わるようになり、前年比実施単位数21.6%増と実績を伸ばした。さらに平成28年11月からは心臓外科術後の急性期心臓リハビリテーションもプロトコールに従って実践している。また、各科から共通に処方される廃用症候群リハビリテーションも前年比28.8%増と実績を伸ばしている。29年度リハビリテーション科全体の実施単位数は75,303単位で前年比6.3%増となった。29年度は救急搬送患者の増大により、救急救命室でのリハビリテーション実施が増大した。

理学療法(PT)は徒手または機械器具で四肢・体幹の運動機能回復を図り、ベッド上の起居動作、移乗動作、歩行から階段昇降動作などの移動動作の獲得を目的とし実践している。四肢・体幹の運動障害だけでなく、呼吸、循環障害に対しても適用がある。これら呼吸・循環障害を有する患者に関して、それぞれ呼吸ケアチームに参画、心臓リハに関しても定期的なカンファレンスを開催し、他職種と共同し最良の治療を目指している。

作業療法(OT)は作業を治療手段とする特性から上肢の運動機能回復、特に手指などの細かな運動や持久力の回復を図り、食事、排尿・排便などのトイレ動作、更衣、整容、入浴などの日常生活活動(ADL)・身のまわり動作(self care)の獲得を目的に実践している。これが理学療法との役割分担の違いである。特に急性期においても食事とトイレ動作の生命維持に関わるADLの回復が重要となる。他にはADLに関わる高次脳機能障害に対しても

適応がある。

言語聴覚療法（ST）は主に脳疾患から由来する失語症、構音障害などの言語障害や摂食嚥下障害の回復に適した技術で、これの障害に対するアプローチのほかに高次脳機能障害の評価、未破裂動脈瘤、脳腫瘍、水頭症などの術前評価、頭部外傷後遺症の評価などを行い、必要に応じてこれらに対する治療や援助にも取り組んでいる。平成27年度から耳鼻咽喉科における人工内耳術後のリハビリテーションにもSTが取り組んでいる。

病院全体として在院日数短縮化の方針の中で、現在はリハビリテーション科のスタッフも充実してきており、当院の急性期リハビリテーションのニードに応えられるようになってきている。また心臓リハや廃用症候群など潜在的にリハビリテーションが必要と考えられる患者は多く、需要の拡大が見込まれる。

今後は更にチームアプローチとして各部門が充実したリハビリテーション医療と在院日数短縮化が両立できるノウハウを確立することが当面の課題である。効果的で効率のよいリハビリテーション医療を短期間に実施し、成果を上げることができるよう努力している。

文責 西園博章

臨床腫瘍科

久田原郁夫

臨床腫瘍科は、平成11年に設立され、腫瘍内科、腫瘍外科、緩和ケア内科の3科の総合科となっています。腫瘍内科・腫瘍外科に所属する医師は、兼任で各々の専門領域（呼吸器、消化器、骨軟部）のがん診療をおこなっています。緩和ケア内科医師はがんサポートチームとして薬剤師、看護師、心理士と共に入院患者の緩和ケアを担当しています。

毎週開催している臨床腫瘍科カンファレンスでは、外来化学療法室で発生した毒性の分析と検討および新規の症例検討をおこなっています。また定期的行事として、Cancer Board およびオンコロジーセミナーを開催しております。これらの行事はがんの診断、治療に関して総合的かつ横断的に討論し知識を深めるよい機会となっています。

がんの種類は多彩でその臨床像も個人によって一様ではありません。また、新規の抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤が続々と発売され国内外で多くの臨床試験がおこなわれ治療方法の選択肢が広がってきています。各種の画像診断、病理診断および分子生物学的診断も日々進歩をとげています。このような環境で、診断、治療において主科のみならず個別的かつ総合的な判断が求められる機会が増えています。またがん治療に特化した看護師、薬剤師が積極的に介入することで患者さんは多くの恩恵を受けています。このように今や、がん治療はチーム医療が基本となっておりますが、臨床腫瘍科はその司令塔の役目を担っていきたいと考えています。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Outani H, Imura Y, Tanaka T, Takenaka S, Oshima K, Hamada K, Kakunaga S, Joyama S, Naka N, Kudawara I, Ueda T, Araki N, Yoshikawa H : Clinical outcomes of patients with epithelioid sarcomas:impact and management of nodal metastasis. Int J Clin Oncol 23(1):181-188, 2018

A-2

久田原郁夫：脊髄圧迫症状。「乳がん薬物療法副作用マネージメント プロのコツ」 p334-337、増田慎三編集、メジカルビュー社、2017年9月13日

B-2

Shoji A, Hasegawa H, Fujii Y, Kato S, Kiyota R, Shinkai K, Tashiro T, Ishihara A, Iwasaki T, Tanaka T, Akasaka T, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Hirao M, Mita E : Efficacy and prognostic factor analysis in second-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer. American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2018, San Francisco, 2018年1月18日

Hasegawa H, Mitani S, Wakatsuki T, Hara H, Takahashi D, Chin K, Hirao M, Kadomatsu S, Muro K : Systemic chemotherapy for gastric cancer with early recurrence after adjuvant S-1 monotherapy: a multicenter retrospective study. American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2018, San Francisco, 2018年1月18日

Kakunaga S, Matsuoka Y, Kudawara I, Ueda T : Denosumab combined with sunitinib in patient with metastasis of humerus from renal cell carcinoma. The 19th. International Society of Limb Salvage General Meeting (ISOLS). Kanazawa city, 2017年5月10日

B-3

長谷川裕子、平尾素宏、三田英治：Management of chemotherapy in elderly patients with metastatic gastric cancer. 第25回JDDW 日本消化器関連学会週間、福岡、2017年10月12日

B-4

角永茂樹、伊村慶紀、王谷英達、田中太晶、竹中 聰、大島和也、濱田健一郎、中 紀文、名井 陽、久田原郁夫、荒木信人、上田孝文、青木康彰、吉川秀樹：延長型腫瘍用人工関節の治療成績。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月13日

竹中 聰、角永茂樹、伊村慶紀、濱田健一郎、中 紀文、大島和也、王谷英達、田中太晶、上田孝文、久田原郁夫、名井 陽、荒木信人、吉川秀樹：骨盤骨肉腫の予後を改善するためには四肢骨肉腫との比較。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月13日

荒木信人、大島和也、王谷英達、田中太晶、伊村慶紀、中 紀文、濱田健一郎、竹中 聰、上田孝文、久田原郁夫、角永茂樹、青木康彰、倉都滋之、吉川秀樹：悪性骨腫瘍の患肢温存術長期経過後合併症とその対策。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月14日、

濱田健一郎、中 紀文、伊村慶紀、王谷英達、田中太晶、竹中 聰、大島和也、角永茂樹、城山 晋、荒木信人、久田原郁夫、上田孝文、吉川秀樹：神経纖維腫症1型に発症した悪性末梢神経腫瘍に対する治療成績。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月14日

王谷英達、立岩大輔、岩佐沙弥、伊村慶紀、田中太晶、大島和也、荒木信人、濱田健一郎、竹中 聰、中 紀文、名井 陽、吉川秀樹、角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：骨巨細胞腫の治療成績。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月14日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：下腿後面の悪性軟部腫瘍に対して術前化学療法・放射線治療を施行した治療経験。第1回日本サルコーマ治療研究学会学術集会、東京、2018年2月23日

安藤性實、小河原光正、木村 剛、宮本 智、高見康二、井上敦夫、栗山啓子、田中英一、眞能正幸：Nivolumabで縮小効果が得られた肺多型癌の一例。第58回日本肺癌学会学術集会、横浜、2017年10月15日

庄司絢香、長谷川裕子、加藤聖也、清田良介、新海数馬、田代拓、中川健太郎、石原朗雄、岩崎哲也、西尾公美子、榎原祐子、山田拓哉、中水流正一、石田 永、平尾素宏、三田英治：

当院における高齢者切除不能胃癌に対する化学療法の検討。第 25 回 JDDW 日本消化器関連学会週間、福岡、2017 年 10 月 14 日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、西尾公美子、榎原祐子、山田拓哉、中水流正一、石田永、平尾素宏、三田英治：転移を有する切除不能大腸癌の予後とその予後に影響を与える因子についての検討。第 15 回日本臨床腫瘍学会、神戸、2017 年 7 月 29 日

Wakatsuki T, Mitani S, Hara H, Takahari D, Chin K, Hasegawa H, Hirao M, Kadokawa S, Muro K : Chemotherapy for gastric cancer with early recurrence after adjuvant S-1 monotherapy: a multicenter retrospective study. 第 15 回日本臨床腫瘍学会、神戸、2017 年 7 月 27 日

B-5

庄司絢香、長谷川裕子、石田永、三田英治：高齢者切除不能胃癌に対するシスプラチン併用療法と予後について。第 107 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2017 年 9 月 6 日

B-6

久田原郁夫、小河原光正、長谷川裕子：当院における Cancer Board の現状と問題点。第 9 回関西がんチーム医療研究会、大阪、2017 年 9 月 16 日

久田原郁夫：がんの特性。平成 29 年度がん看護研究会、大阪、2017 年 7 月 29 日

久田原郁夫：胸椎腫瘍。第 88 回関西 SKR 研究会、大阪、2017 年 8 月 31 日

久田原郁夫：イホスファミド投与後に SIADH を発症した軟部肉腫症例。第 149 回関西骨軟部腫瘍研究会、大阪、2018 年 2 月 3 日

古市拓也、角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：右大腿骨骨腫瘍の 1 例。第 149 回関西骨軟部腫瘍研究会、大阪、2018 年 2 月 3 日

久田原郁夫：緩和ケア概論。第 10 回がんに携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪、2017 年 12 月 2 日

久田原郁夫：がん疼痛の評価と治療。第 10 回がんに携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪、2017 年 12 月 2 日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：下腿軟部腫瘍の 1 例。第 148 回関西骨軟部研究会、大阪、2017 年 11 月 25 日

木村剛、小河原光正、宮本智、安藤性實、高見康二、安村かおり、井上敦夫、栗山啓子、森清、眞能正幸：アフアチニブとリバーロキサバンが奏効した肺血栓塞栓症合併肺腺癌の 1 例。第 106 回日本肺癌学会関西支部会、大阪、2017 年 6 月 24 日。

青野奈々：診断時から終末期までの緩和ケア。第 15 回兵庫臨床管理栄養士研究会定例会、神

戸、2017年4月22日

青野奈々：呼吸困難。大阪府立急性期総合医療センター 緩和ケア研修会、大阪、2017年7月
7日

青野奈々：オピオイドを開始するとき。多根総合病院 緩和ケア研修会、大阪、2018年2月 17
日

薬剤部

山崎邦夫

大阪医療センターの運営方針に基づき、医薬品の適正使用の推進、医薬品の安全管理、病棟における薬物療法の有効性・安全性の向上に資する業務、薬剤管理指導業務、チーム医療への主体的関与（HIV 感染症患者への服薬支援、がんサポートチーム、NST、ICT、外来化学療法室でのがん薬物療法支援など）を実践し、良質かつ適正な医療の提供に貢献することを薬剤部の基本方針としている。

1. 病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

病棟担当薬剤師を専任化し、薬物療法の質の向上と医療安全の確保を主な目的として次の業務を行っている。

1) 無菌調製業務

注射処方の投与量、投与速度、配合変化などの確認を行うとともに、病棟に設置したクリーンベンチ内で注射薬の無菌調製を行っている（42,999 件/年）。

抗がん剤の調製はレジメン、処方内容を確認した後、薬剤部内無菌室で調製している（3,374 件/年）。

2) 入院時の持参薬確認

持参薬について、薬剤師による正確な報告、服用状況の確認を行うことにより、医療安全の向上と持参薬服用の適正化に取り組んでいる。

3) 処方提案・支援

主治医に対して行っている主な処方提案・支援は、持参薬の代替薬の提案、処方設計支援、支持療法薬の提案、薬物血中濃度に基づいた処方設計等である。

4) 医薬品情報の提供・相談応需

採用医薬品情報の提供や医薬品に係る医療スタッフからの照会や相談に対して情報提供に努めている。

5) 薬剤管理指導業務

薬物療法に係る様々な情報を収集・分析し、その内容から効果の評価、副作用のモニタリングを実施し、薬学的アプローチを積極的に実施している。

2. 外来服薬支援指導

HIV 感染症専門薬剤師を配置、「お薬の相談室」に常駐し長期的な支援体制を構築している。外来における指導件数は 3,216 件/年であった。また、外来化学療法室では治療計画、副作用などについて指導を実施し、がん薬物療法の安全と質の向上に努めている。薬剤師による外来がん薬物療法患者への指導件数は 672 件/年であった。

3. 医薬品情報管理（収集・整理・評価・提供）

医薬品情報の適正な管理と供給を行うために専任スタッフを配置し、医療スタッフからの相談応需や医薬品情報の発信を行っている。厚生労働省への医薬品・医療機器副作用報告については 21 件/年の報告を行っている。また、プレアボイド報告としては日本病院薬剤師会に

366件/年の報告を行っている。

4. 治験薬管理業務

治験薬管理者（薬剤部長）の管理責任の下、GCPを遵守した治験薬の適切な保管、管理、調剤を行うと共に、被験者への治験薬投与が円滑かつ安全に行われるよう努めている。

5. 専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進

日本病院薬剤会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設、日本薬剤師研修センター小児薬物療法認定薬剤師研修施設の認定を受けている。また、今年度の薬学生長期実務実習生は31名を受け入れ薬学教育にも寄与している。

6. 臨床研究業績

論文投稿、学会発表等は以下の通りである。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Yagura H, Watanabe D, Kushida H, Tomishima K, Togami H, Hirano A, Takahashi M, Hirota K, Ikuma M, Kasai D, Nishida Y, Yoshino M, Yamazaki K, Uehira T, Shirasaka T : Impact of UGT1A1 gene polymorphisms on plasma dolutegravir trough concentrations and neuropsychiatric adverse events in Japanese individuals infected with HIV-1. BMC Infect Dis 7(1) : P622、2017年9月16日

Nakakura I, Ogawa Y, Sakakura K, Imanishi K, Hirota K, Shimatani Y, Uehira T, Nakamori S, Sako R, Doi T, Yamazaki K : IMP-6 Carbapenemase-Producing Enterobacteriaceae Bacteremia Successfully Treated with Amikacin-Meropenem in Two Patients. Pharmacotherapy. 37. e96-e102. 2017年10月1日

Yonemura T, Okada N, Sagane K, Okamiya K, Ozaki H, Iida T, Yamada H, Yagura H : Effects of Milk or Apple Juice Ingestion on the Pharmacokinetics of Elvitegravir and Cobicistat in Healthy Japanese Male Volunteers: A Randomized, Single-Dose, Three-Way Crossover Study. Clin Pharmacol Drug Dev. 2018年1月24日. doi: 10.1002/cpdd.425. [Epub ahead of print]

A-3

中蔵伊知郎、坂倉広大、今西嘉生里、小川吉彦、廣田和之、上地隆史、坪倉美由紀、上平朝子、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫 : カルバペネム系抗菌薬の適正使用に向けた段階的な antimicrobial stewardship の取り組みがカルバペネム系抗菌薬使用状況および緑膿菌に対するメロペネムの薬剤耐性率に及ぼす影響：単施設の後ろ向き観察研究。「医療薬学」43. 457-464. 2017.

坂倉広大、中蔵伊知郎、今西嘉生里、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫 : チゲサイクリンによる皮膚障害を呈した日本人症例。「医療薬学」44(1): 24-28、2018.

A-6

庄野裕志：「乳がん薬物療法副作用マネジメントプロのコツ」：P.406-408、メディカルレビュー社、2017年9月13日

矢倉裕輝：エキスパートが教える薬物動態。月刊薬事10月臨時増刊号「抗HIV薬」P.254-261、じほう、東京、2017年10月25日

矢倉裕輝：薬剤師が知っておきたいチーム医療実践のための感染症検査。「C型肝炎」P.133-138、南山堂、東京、2017年11月5日

中蔵伊知郎、柴野理依子、今西嘉生里、坂倉広大、佐光留美、福田利明、山崎邦夫：連載薬剤師による処方設計〈64〉病棟薬剤師による注射用抗菌薬の投与量確認および介入に関する取り組み。「医薬ジャーナル」2018年1月号（Vol.54 No.1）P133-139、医薬ジャーナル社、2018年1月1日

矢倉裕輝：Evidence Update 2017 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する 抗ウイルス薬「薬局」69（1）P.117-120、南山堂、東京、2018年1月5日

B-3

松田能宣、森田達也、宮路天平、小川智子、加藤邦子、武田ヒサ、所 昭宏、井上義一、山口拓洋、岩瀬 哲：間質性肺疾患の呼吸困難に対するモルヒネの安全性に関する第1相試験。第22回日本緩和医療学会学術大会、横浜、2017年6月24日

B-4

中蔵伊知郎、坂倉広大、今西嘉生里：*Enterococcus faecium*菌血症に対するバンコマイシンの血中濃度とアウトカムの関連性。第65回日本化学療法学会学術集会 合同学会、東京、2017年4月7日

今西嘉生里、中蔵伊知郎、坂倉広大、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫：アンピシリン/スルバクタムの1日投与量の違いによる臓器障害発現について、肺炎患者を対象とした後方視的調査。第65回日本化学療法学会総会、東京、2017年4月7日

坂倉広大、中蔵伊知郎、今西嘉生里：持続的血液濾過透析施行症例における追加投与までの時間を考慮したバンコマイシン初回投与量の検討。第65回日本化学療法学会総会、東京、2017年4月7日

中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫、白阪琢磨：当院におけるエルビテグラビル/コビシスタット/エムトリシタбин/テノホビルアラブエナミド配合錠の初回導入例の使用状況。第27回抗ウイルス療法学会学術集会・総会、熊本、2017年5月20日

水本知宏、小田亮介：救命救急センター専任薬剤師の増員による効果とプレアボイド報告内

容の検証。第 20 回日本臨床救急医学会総会、東京、2017 年 5 月 28 日

垣内万依、庄野裕志、森川希実、大谷陽子、八十島宏行、水谷麻紀子、増田慎三：エリブリンメシル酸塩の治療継続に及ぼす腎機能の影響。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

今西嘉生里、中蔵伊知郎、坂倉広大、佐光留美、福田利明、山崎邦夫：アンピシリソルバクタムの 1 日投与量の違いによる臓器障害発現について。第 27 回日本医療薬学会年会、千葉、2017 年 11 月 4 日

仲野宏紀、庄野裕志、福田利明、佐光留美、山崎邦夫：治癒切除不能な進行・再発胃癌に対するパクリタキセル+ラムシルマブ併用療法の好中球減少及び発熱性好中球減少症の発症状況調査。第 27 回日本医療薬学会年会、千葉、2017 年 11 月 5 日

坂倉広大、中蔵伊知郎、今西嘉生里、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫：残腎機能を有した持続的血液濾過透析施行症例への負荷投与実施および早期バンコマイシン血中濃度測定の検討。第 27 回日本医療薬学会年会、千葉、2017 年 11 月 5 日

中蔵伊知郎、坂倉広大、今西嘉生里、岩川精吾、福田利明、佐光留美、山崎邦夫：メロペネム水和物後発品投与による肝・腎機能所見への影響の後方視的検討。第 27 回日本医療薬学会年会、千葉、2017 年 11 月 5 日

大矢博己、富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、福田利明、佐光留美、上平朝子、白阪琢磨、山崎邦夫：大阪医療センターにおける HIV 感染症に対する初回治療の処方動向。第 71 国立病院総合医学会 香川、2017 年 11 月 10 日

富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、福田利明、佐光留美、廣田和之、上地隆史、上平朝子、白阪琢磨、山崎邦夫：フェニトイン併用時のドルテグラビルナトリウム血中濃度について検討した一例。第 71 回国立病院総合医学会、2017 年 11 月 11 日

中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、上平朝子、白阪琢磨：当院における ART 施行中の高齢者を対象とした処方調査。第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017 年 11 月 24 日

富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：リトナビル併用ダルナビルからダルナビル・コビシスタット配合剤へ変更した症例の臨床検査値および自覚症状の変化。第 31 回日本エイズ学会学術集会、東京、2017 年 11 月 25 日

矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：日本人 HIV-1 感染症症例におけるテノホビルアラフェナミドを含む 1 日 1 回 1 錠製剤投与時のテノホビル血漿トラップ濃度に関する検討。第 31 回日本エイズ学会学術集会、東京、2017 年 11 月 25 日

中蔵伊知郎、坂倉広大、廣田和之、上地隆史、上平朝子、坪倉美由紀、山崎邦夫：IMP-6型カルバペネマーゼ產生腸内細菌科細菌の菌種別薬剤感受性の検討。第33回日本環境感染学会総会・学術集会、東京、2018年2月24日

庄野裕志、明石直子、馬場奈央、安原加奈、八十島宏行、佐光留美、福田利明、増田慎三、山崎邦夫：抗がん剤曝露対策における当院薬剤部の環境汚染調査（第二報）。日本臨床腫瘍学会学術大会2018、横浜、2018年3月18日

B-5

矢倉裕輝：抗HIV薬に対する治療薬物モニタリングパネルディスカッション1：感染症領域における治療薬物モニタリング。第65回日本化学療法学会西日本支部総会、長崎、2017年10月26日

B-6

矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、渡邊 大、福田利明、佐光留美、上平朝子、山崎邦夫、白阪琢磨：UGT1A1遺伝子多型とドルテグラビル投与時の中枢神経系副作用症状発現の関連。第2回日本臨床薬理学会近畿地方会、大阪、2017年6月10日

江原美里、庄野裕志、福田利明、佐光留美、山崎邦夫：当院における大腸がんベバシズマブ併用化学療法が皮下埋没型中心静脈ポート留置後患者に及ぼす合併症の検討。第39回日本病院薬剤師会近畿学術大会、大阪、2018年2月3日

吉村英美、萬浪綾乃、南 沙甫、朴井三矢、福田利明、佐光留美、山崎邦夫：整形外科病棟における術後鎮痛薬に関する調査。第39回日本病院薬剤師会近畿学術大会、大阪、2018年2月3日

矢淵慈子、今西嘉生里、中蔵伊知郎、福田利明、佐光留美、山崎邦夫：深部静脈血栓症および肺血栓塞栓症の治療および再発抑制目的に対するリバーロキサバンの当院での使用状況調査。近畿薬剤師合同学術大会、京都、2018年2月3日

B-7

中内崇夫：トキソプラズマ脳症を発症した一症例。関西HIV臨床カンファレンス2017年度薬剤師部会主催症例検討会、大阪、2018年2月17日

B-8

矢倉裕輝：血友病と個別化治療～薬剤師の立場から～。第7回ヘモフィリアケアセミナー兵庫、兵庫、2017年4月1日

矢倉裕輝：当院における抗HIV薬の処方トレンド。第5回抗HIV療法プラッショアップセミナー、大阪、2017年5月13日

矢倉裕輝：薬剤師の視点からみたCROI2017。関西HIV臨床カンファレンス2017年度薬剤師部会主催講演会、大阪、2017年7月8日

中蔵 伊知郎：スマホアプリの関数電卓でできるアミノグリコシド系薬の TDM。第3回薬剤師のための大蔵 Shin 感染症治療研究会、薬剤師のための大蔵 Shin 感染症治療研究会、大阪、2017年8月27日

矢倉裕輝：抗 HIV 療法について～服薬支援の重要性～。平成29年度 HIV/AIDS 看護研修会、大阪、2017年9月4日

矢倉裕輝：高齢者の ART で考慮すべきポイント～高齢化に伴う薬物動態の変化と留意すべき相互作用～。第2回 HIV ファーマシストフォーラム、東京、2017年9月23日

中蔵伊知郎：日常診療における Antimicrobial Stewardship (AMS) のポイント～抗菌薬適正使用支援チーム (AST) 担当薬剤師の視点から～。第65回日本心臓病学会学術集会、大阪、2017年10月1日

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の特徴と薬剤師の役割。平成29年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017年10月2日

中蔵伊知郎：Antimicrobial Stewardship に関する各施設での取り組み。第11回大阪感染制御薬剤師研究会講習会、大阪、2017年10月7日

矢倉裕輝：ART と医療経済～高い治療成功率の維持に向けて～。第31回日本エイズ学会学術集会 ランチョンセミナー、東京、2017年11月24日

矢倉裕輝：頻用されている薬剤の現状と課題。第6回抗 HIV 療法プラッシュアップセミナー、大阪、2017年12月9日

矢倉裕輝：研究データを HIV 患者の服薬支援・薬物治療マネジメントに活かす。抗 HIV 療法アドバンスセミナー、福岡、2018年1月13日

矢倉裕輝：外来受診 HIV 患者の服薬支援における薬剤師の役割。抗 HIV 療法ステップアップセミナー、福岡、2018年1月13日

矢倉裕輝：服薬支援の実際～服薬スケジュールの組み方・服薬継続への関わり～。平成29年度 HIV/AIDS 看護研修会、大阪、2018年1月15日

坂倉広大：バンコマイシン投与設計～腎機能評価が困難であった症例。第4回薬剤師のための大蔵 Shin 感染症治療研究会、大阪、2018年1月27日

庄野裕志：外来がん化学療法施行患者における病院薬剤師のかかわり。城東区薬剤師会研修会、大阪、2018年2月25日

坂倉広大：若手薬剤師が悩む感染症治療への介入方法 病棟で困った症例のあれこれ。第12

回大阪感染制御薬剤師講習会、大阪、2018年3月17日

B-9

矢倉裕輝：感染症 today 「HIV 感染症の服薬指導」。ラジオ NIKKEI、大阪、2017年6月14日

看護部

伊藤文代

平成29年度の研究業績の主な取り組みとしては、看護師長会を中心に看護研究に着手したことである。また、昨年度取り組んだ社会人基礎力に関する研究を基に、日本病院学会で提言を行った。

1. 新任看護師長が感じる役割葛藤

異動や新しい役割を担う新任看護師長が様々な困難と向き合いながら役割を遂行する際の葛藤はどのような内容なのかを明らかにし、悩みを乗り越える手がかりを見つける手段とする。

2. 家族がDNARを決定する過程におけるICU看護師の思いと行動

ICUにおいて、積極的治療から「心肺蘇生をしないこと」へ方針が変更となる過程で、看護師は患者家族に対して意思決定支援を行っている。クリティカル領域のDNARに関する看護師の思いと行動を明らかにしたいと考えた。

3. オゾン式空間除菌消臭装置を用いた医療環境における臭気効果の検証

オゾンによる酸化分解がにおいの原因となる物質を破壊する原理に着目し、人の主観と臭気センサーにより、オゾン式空間除菌装置の脱臭効果を検証する。この研究成果は、快適な療養環境の提供の工夫につながる。

4. 質の高い退院支援のための取り組み工夫

退院支援看護師が配置され、病棟看護師と連携を取りながらより質の高い退院支援を行うため、退院支援を行った事例を振り返り退院支援看護師の役割を明確にした。

5. A病院夜勤リーダー看護師が管理師長に期待する関わりについての実態調査

A病院の夜勤リーダー看護師が、管理師長に期待する関わりについて明らかにする。

6. 看護学生が専門職として育つ臨床の場についての提言

看護学生が看護職として臨床に出るまでに身につけているものと、臨床が求めている能力がマッチしていない現状がある。このような課題に対して、社会人基礎力を早期から育成すること、個々に見合った能力開発プログラムを用意し、集合教育と実務教育の組み合わせによる実践能力の育成が重要である。

その他、著述（4題）、発表は第71回国立病院総合医学会（2題）、第32回日本がん看護学会学術集会（1題）、第25回日本乳癌学術集会（1題）、第15回国立病院看護研究学会学術集会（1題）、第59回近畿地区国立病院看護学会（2題）、第67回日本病院学会（1題）であった。

【2017年度 研究業績発表】

A-3

尚和敬宗、奥松丈典、森永瑞穂：レアケースもしっかりフォロー 教科書では教わらない口腔ケア ベッドサイドの困った解決術、BRAIN NURSING 2017.10月号、メディカ出版、2017

年 10 月

角野郁子：インシデントレポートの上手な使い方 0 レベルインシデント報告の推進と気づきの共有、隔月間 病院安全教育、日総研出版、2017 年 10 月

馬場奈央：化学療法センターとその運営のコツ、乳がん薬物療法副作用マネジメントプロのコツ、メジカルビュー社、2017 年 10 月

苅山有香、井上亜希、杉本直子、蒲田亜希、西山由紀、近藤美由紀、山鼻 優：消化器外科の必須ケア 10. ルート管理・抜去、消化器外科ナーシング、2018 年春季増刊号、メディカ出版

B-4

四方文子：内分泌療法を受けている若年乳がん患者の体験する困難と医療者へのニーズ。第 25 回日本乳癌学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

四方文子：未婚若年乳癌患者の内分泌療法中に療養生活体験。第 32 回日本がん看護学術集会、千葉、2017 年 2 月 3 日

東 政美、中本弘香、増田雅子、伊藤文代：HIV/AIDS に関する知識習得に向けた情報発信の効果。第 31 回日本エイズ学会、2017 年 11 月 26 日

B-5

伊藤文代：看護学生が専門職として育つ臨床の場についての提言。第 67 回日本病院学会、神戸、2017 年 7 月 20 日

B-6

武部美紀：新任看護師長が感じる役割葛藤。第 15 回国立看護研究学会学術集会、東京、2017 年 12 月 9 日

市川 誠、有村友里、勝田裕希、山中真理子、鈴木智子、藤井秀子：家族が DNAR を決定する過程における ICU 看護師の思いと行動。第 59 回近畿地区国立病院看護学会、大阪、2017 年 10 月 14 日

藤井秀子、阿島美奈、山内紀美：オゾン式空間除菌装置を用いた療養環境における消臭効果の検証。第 59 回近畿地区国立病院看護学会、大阪、2017 年 10 月 14 日

藤井秀子、阿島美奈、山内紀美：オゾン式空間除菌装置を用いた療養環境における消臭効果の検証。第 15 回国立病院看護研究学会学術集会、東京、2017 年 12 月 9 日

和田愛子：質の高い退院支援のための取り組み工夫。第 71 回国立病院総合医学会、高松、2017 年 11 月 18 日

増田雅子 : A 病院夜勤リーダー看護師が管理看護師長に期待する関わりについての実態調査。
第 71 回国立病院総合医学会、高松、2017 年 11 月 17 日

栄養管理部

谷川 清

栄養管理室では、栄養士がチーム医療の一員として専門性を発揮すると共に、各科カンファレンスへの積極的な参加と栄養士の病棟担当制の推進によりメディカルスタッフとの連携強化を図り、入院患者の栄養状態維持改善、免疫力低下防止、治療効果及びQOL向上に努めている。

栄養食事指導では、個人指導と各種教室である集団指導を実施し行っているが、糖尿病や腎臓病、循環器疾患等の慢性疾患や術前術後等についても積極的な取り組みを行い研究に繋がっている。

食事提供では、術前術後の栄養管理、化学療法での食欲低下患者、摂食嚥下障害患者等への個々に対応した食事の提供を行っているが、アレルギー対応についても大幅に伸びている。

今年度の、栄養管理室で行った主な取り組みについて下記に示す。

1. 栄養サポートチーム

平成 25 年 6 月より栄養サポートチームを嚥下障害・内科系疾患とがん・外科系疾患の 2 チーム体制により専門性に特化した細やかな対応を継続して実施している。栄養士の病棟担当制により、医師、看護師との連携やアセスメントの充実が図られ、より重点的な活動が行われた。年間依頼件数は 776 件、年間算定件数は 1,005 件となった。また歯科医師連携加算は 186 件の算定件数となった。

2. 栄養食事指導

術前術後患者、糖尿病教育入院、循環器疾患、腎臓病、摂食嚥下障害やサルコペニア等の栄養食事指導を積極的に実施している。平成 29 年 2 月からの栄養指導室増設と栄養士曜日担当制により指導件数は 18% の増となった。指導病名別では、糖尿病、腎臓病、肝臓病、循環器疾患、がんが多くを占めているが、特に循環器疾患の指導件数の伸びは大きい。年間指導件数は、4,313 件であった。

3. 1型糖尿病専門外来指導

1 型糖尿病患者を対象に、平成 25 年 7 月より食事や活動、インスリン量などについての外来栄養指導を開始、インスリンポンプ導入患者に対するカーボカウント、ポンプ機能等の説明、患者自身による食事に合わせたインスリン調整など内容的にも充実したものとなっている。外来患者数の増により更なる要望に対応するため平成 29 年 1 月より更に枠を増やし今年度についても 444 件の指導を行った。

4. 糖尿病透析予防指導管理料

平成 24 年度から新設され、現在糖尿病内科医師、専任看護師、専任管理栄養士でチームにより月 4 回実施、平成 29 年度は年間 127 件であった。

5. Nutrition Week

栄養管理の最新・高度の知識・技術を修得させ、サービスの質と提供体制の均質化及び向上を図ることを目的として、ニュートリションウィークを今年度も開催した。

日本病態栄養学会「NST 実習技能研修」として 6月 19 日～6月 23 日に実施。当院と機構病院、民間病院より 24 名を受け入れた。

6. NST セミナー

チームの活性化と栄養療法の質的向上を目指し、医師、看護師、薬剤師、栄養士等による、全職員を対象としたセミナーを年間 7回開催。参加人数は延べ 165 名。

【2017年度 研究業績発表】

B-3

永妻佑季子: インスリンポンプ療法ファシリテーター。第 5 回日本糖尿病療養指導学術集会、大阪、2017 年 7 月 20 日

B-4

大土彩子、濱 直樹、藤村真理子、谷川 清、平尾素弘：当院における癌・外科 NST アウトカムの検討。日本外科代謝栄養学会第 54 回学術集会、新潟、2017 年 7 月 7 日

B-6

中野芳恵、加藤 研、永妻佑季子、谷川 清、福山雅代、山吹素直江、光井絵里、種田灯子、益田貴史、平尾素弘、瀧 秀樹：1 型糖尿病患者へのカーボカウント指導の在り方。第 54 回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2017 年 11 月 11 日

大土彩子、濱 直樹、谷川 清、平尾素弘：当院における癌・外科 NST アウトカムの検討。第 21 回関西がんチーム医療研究会、大阪、2017 年 9 月 16 日

宗本由香、越後朋彦、谷川 清：看護学校講義担当を経験して～アンケート調査から見えてきた 90 分の活用法～。近畿国立病院管理栄養士協議会 第 6 回近畿学術集会、大阪、2017 年 10 月 21 日

B-8

永妻佑季子：理系女性のキャリアパス設計論。大阪薬科大学理系女性人材育成プログラム、大阪、2017 年 7 月 8 日

宗本由香：当院における糖尿病栄養指導の実際。中央区糖尿病スキルアップセミナー、大阪、2018 年 2 月 21 日

宗本由香：減塩食の実践編 腎臓病での食事療法のコツ。市民公開講座 in 大阪 いきいき腎臓病 延ばそう健康寿命！！、大阪、2018 年 3 月 3 日

がんサポートチーム

廣常秀人 久田原郁夫

がんサポートチームは、医師、看護師、薬剤師、MSW、心理士、栄養士など多職種から成り、診断早期からの緩和ケアの実践を主治医、病棟看護師と連携して、横断的なチーム医療を展開している。院内外での各職種向けの緩和ケア研修会では、講師をつとめている。また、院内外の医療従事者を対象としたセミナーも開催している。地域医療との連携を図り、外来への移行、在宅医療の導入、緩和ケア病棟・ホスピスへの転院などをスムーズに行っていけるような体制をより強化していきたい。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Outani H, Imura Y, Tanaka T, Takenaka S, Oshima K, Hamada K, Kakunaga S, Joyama S, Naka N, Kudawara I, Ueda T, Araki N, Yoshikawa H: Clinical outcomes of patients with epithelioid sarcomas:impact and management of nodal metastasis. Int J Clin Oncol 23(1):181-188, 2018

A-2

久田原郁夫：脊髄圧迫症状「乳がん薬物療法副作用マネジメント プロのコツ」 p334-337、増田慎三編集、メジカルビュー社、2017年9月13日

和田知未：⑥うつ・不安・アカシジア、⑦不眠「乳がん薬物療法副作用マネジメント プロのコツ」 p236-244、増田慎三編集、メジカルビュー社、2017年9月13日

井出恭子：第2部 6 疼痛・緩和ケア「パスの中の看護過程がひとめでわかる！消化器外科病棟ケア」 p169-178、独立行政法人国立病院機構大阪医療センター看護部、メディカ出版、2017年6月15日

四方文子：薬物療法中の心のケア/日常生活の工夫「乳がん薬物療法副作用マネジメント プロのコツ」 p391-393、増田慎三編集、メジカルビュー社、2017年9月13日

B-2

Kakunaga S, Matsuoka Y, Kudawara I, Ueda T: Denosumab combined with sunitinib in patient with metastasis of humerus from renal cell carcinoma.The 19th. International Society of Limb Salvage General Meeting (ISOLS), Kanazawa city, 2017年5月10日

B-3

関根知嘉子：知ってください、用いてください MSW～総合病院の立場から。第41回日本死の臨床研究会年次大会、秋田、2017年10月7日

B-4

角永茂樹、伊村慶紀、王谷英達、田中太晶、竹中 聰、大島和也、濱田健一郎、中 紀文、

名井 陽、久田原郁夫、荒木信人、上田孝文、青木康彰、吉川秀樹：延長型腫瘍用人工関節の治療成績。第 50 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 13 日

竹中 聰、角永茂樹、伊村慶紀、濱田健一郎、中 紀文、大島和也、王谷英達、田中太晶、上田孝文、久田原郁夫、名井 陽、荒木信人、吉川秀樹：骨盤骨肉腫の予後を改善するため：四肢骨肉腫との比較。第 50 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 13 日

荒木信人、大島和也、王谷英達、田中太晶、伊村慶紀、中 紀文、濱田健一郎、竹中 聰、上田孝文、久田原郁夫、角永茂樹、青木康彰、倉都滋之、吉川秀樹：悪性骨腫瘍の患肢温存術長期経過後合併症とその対策。第 50 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

濱田健一郎、中 紀文、伊村慶紀、王谷英達、田中太晶、竹中 聰、大島和也、角永茂樹、城山 晋、荒木信人、久田原郁夫、上田孝文、吉川秀樹：神経纖維腫症 1 型に発症した悪性末梢神経腫瘍に対する治療成績。第 50 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

王谷英達、立岩大輔、岩佐沙弥、伊村慶紀、田中太晶、大島和也、荒木信人、濱田健一郎、竹中 聰、中 紀文、名井 陽、吉川秀樹、角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：骨巨細胞腫の治療成績。第 50 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：下腿後面の悪性軟部腫瘍に対して術前化学療法・放射線治療を施行した治療経験。第 1 回日本サルコーマ治療研究学会学術集会、東京、2018 年 2 月 23 日

仲野宏紀、庄野裕志、福田利明、佐光留美、山崎邦夫：治癒切除不能な進行・再発胃癌に対するパクリタキセル+ラムシルマブ併用療法の好中球減少及び発熱性好中球減少症の発症状況調査。第 27 回日本医療薬学会年会、千葉、2017 年 11 月 5 日

四方文子、増田慎三、八十島宏之、水谷麻紀子、大谷陽子：内分泌療法を受けている若年乳がん患者の体験する困難と医療者へのニーズ。第 25 回日本乳癌学術総会、千葉、2017 年 7 月 14 日

須磨知美、礒崎聖子、今村 隆、小杉孝子、小辻希世子、松向寺真彩子、田中美知代、西本幸代、溝口由里子、森田眞子、和田野飛鳥：総合病院心理職における“働き方”的多様性について（4）—入院患者への面接枠を設定する際のアセスメント要因を検討する—。日本心理臨床学会第 36 回大会、横浜、2017 年 11 月 19 日

B-8

久田原郁夫、小河原光正、長谷川裕子：当院における Cancer Board の現状と問題点。第 9 回関西がんチーム医療研究会、大阪、2017 年 9 月 16 日

久田原郁夫：がんの特性。平成 29 年度がん看護研究会、大阪、2017 年 7 月 29 日。

久田原郁夫：胸椎腫瘍。第 88 回関西 SKR 研究会、大阪、2017 年 8 月 31 日

久田原郁夫：イホスファミド投与後に SIADH を発症した軟部肉腫症例。第 149 回関西骨軟部腫瘍研究会、大阪、2018 年 2 月 3 日

古市拓也、角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：右大腿骨骨腫瘍の 1 例。第 149 回関西骨軟部腫瘍研究会、大阪、2018 年 2 月 3 日

久田原郁夫：緩和ケア概論。第 10 回 がんに携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪、2017 年 12 月 2 日

久田原郁夫：がん疼痛の評価と治療。第 10 回がんに携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪、2017 年 12 月 2 日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：下腿軟部腫瘍の 1 例。第 148 回関西骨軟部研究会、大阪、2017 年 11 月 25 日

和田知未：気持ちの辛さ。せん妄。第 4 回大阪府済生会泉尾病院緩和ケア研修会、大阪、2017 年 4 月 16 日

和田知未：コミュニケーション。第 11 回大阪医療センター緩和ケア研修会、大阪、2017 年 12 月 3 日

和田知未：コミュニケーション。第 5 回多根病院緩和ケア研修会、大阪、2018 年 2 月 18 日

青野奈々：診断時から終末期までの緩和ケア。第 15 回兵庫臨床管理栄養士研究会定例会、神戸、2017 年 4 月 22 日

青野奈々：呼吸困難。大阪府立急性期総合医療センター緩和ケア研修会、大阪、2017 年 7 月 7 日

青野奈々：オピオイドを開始するとき。多根総合病院緩和ケア研修会、大阪、2018 年 2 月 17 日

上田純子：コミュニケーションスキル。がん看護研修、大阪、2018 年 2 月 3 日

道川綾加：「慢性期看護の考え方」「慢性期にある人の看護」「慢性期にある人の看護（事例）」大阪医療センター附属看護学校 成人経過別援助論、大阪、2018 年 1 月 25 日、2 月 15 日、2 月 20 日

道川綾加：がん看護に必要な理論：IASM。がん看護研修、大阪、2017 年 10 月 21 日

道川綾加 : IASM 使用した事例展開。がん看護研修、大阪、2017年10月21日

梶原裕希 : 緩和ケア。がん看護研修、大阪、2017年7月29日

西川敦世 : AYA 世代のがん患者の特徴と看護上の問題。がん看護研修、大阪、2017年7月29日

西川敦世 : 高齢がん患者の特徴と看護上の問題。がん看護研修、大阪、2017年7月29日

齊藤明音 : 集学的治療を受ける患者の看護上の問題。がん看護研修、大阪、2017年7月29日

齊藤明音 : 各病期における看護。がん看護研修、大阪、2017年7月29日

齊藤明音 : エンド・オブ・ライフケアの概論と看護上の問題。がん看護研修、大阪、2018年2月3日

齊藤明音 : 意思決定支援とロールプレイ。がん看護研修、大阪、2018年2月3日

齊藤明音 : 悲嘆。がん看護研修、大阪、2018年2月3日

齊藤明音 : 終末期にある人への看護援助。大阪医療センター附属看護学校 成人経過別援助論、大阪、2018年2月14日

齊藤明音 : 看取りの看護。大阪医療センター附属看護学校 成人経過別援助論、大阪、2018年2月22日

井出恭子 : がんサポートチームからみた麻薬のリスクマネジメント。オンコロジーセミナー、大阪、2017年5月17日

井出恭子 : 終末期の考え方。大阪医療センター附属看護学校 成人経過別援助論、大阪、2018年1月30日

井出恭子 : 終末期にある人の特徴と理解。大阪医療センター附属看護学校 成人経過別援助論、大阪、2018年2月13日

臨床心理室

廣常秀人

1. スタッフ

臨床心理室長：廣常秀人

臨床心理室長代行：和田知未

常勤スタッフ：安尾利彦、森田眞子、富田朋子

非常勤スタッフ：宮本哲雄、速見佳子、牧寛子

エイズ予防財団リサーチレジデント：西川歩美、水木薰

遺族専門家相談員：大山好弘

2. 概要

平成19年7月より臨床心理室は、①病院の理念に基づく事業であること、②質の高い医療の提供に貢献すること、③疾患と心理状態の関連が研究されていること、④医療者・患者関係と保健行動との関連が医療の効果を左右すること、⑤診療科間のサービスの格差をなくすこと、以上5点の目的や理由により、全診療科の患者やその家族等に対応可能な臨床心理室として再編された。昨年度より常勤心理療法士3名、非常勤心理療法士2名、エイズ予防財団リサーチレジデントの心理療法士2名、遺族相談員の心理療法士1名の、合計9名体制となった。

現在臨床心理室は、臨床心理室運営委員会で審議した活動目標や計画をもとに、患者や家族等の心理相談、心理検査、各診療科・チームとのリエゾン・コンサルテーションといった心理臨床活動に加え、臨床心理室内のカンファレンス、臨床心理学専攻の大学院生の実習受け入れ、近畿グループ管内のメンタルヘルス相談、心理に関する研修の企画・運営・講義・講演、そして、研修を行っている。

当臨床心理室では従来日々の臨床に加えて、厚生労働行政推進調査事業費補助金によるHIV関連の研究班に分担研究者や協力者として参与し、HIV陽性者の心理学的問題や、HIV医療における心理臨床に関する研究を積み重ねている。また、各種セミナーや研修会において積極的に事例発表を行い、自己研鑽に務めている。調査研究や事例研究を心理臨床学会や日本エイズ学会などの学会において発表することにより、総合病院における臨床心理室の役割を他施設に伝え、医療の総合的な充実に資することも、当臨床心理室にとって重要な任務であると認識している。

【2017年度 研究業績発表】

A-2

安尾利彦：病院で働く心理職・各論 HIV「病院で働く心理職 - 現場から伝えたいこと」野村れいか編集、国立病院機構心理療法士協議会監修、P.124-134、日本評論社、2017年9月8日

速見佳子：第19章 芸術療法「基礎から学ぶ心理療法」矢澤美香子編、P.228-241、ナカニシ

ヤ出版、京都、2018年3月20日

A-4

手塚千恵子、安尾利彦：HIV感染男性患者達のグループ・ワーカー自己愛を巡って－「集団精神療法」33(2)：P.234-235、創元社、2017年12月10日

A-5

安尾利彦、手塚千恵子、森田眞子、富田朋子、宮本哲雄、速見佳子、西川歩美、水木薫：HIV陽性者の心理的問題と援助に関する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」平成29年度研究報告書、P.68-73、2018年3月

安尾利彦、手塚千恵子、森田眞子、富田朋子、宮本哲雄、速見佳子、西川歩美、水木薫：HIV陽性者の心理的問題と援助に関する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」平成27-29年度総合研究報告書、P.82-87、2018年3月

B-3

安尾利彦：(シンポジウム) 病院臨床。甲南心理臨床学会、神戸、2017年8月6日

安尾利彦：服薬アドヒアランスへの心理士による関わり。第31回日本エイズ学会学術集会・総会シンポジウム8「STR時代の服薬アドヒアランスを再考する」、東京、2017年11月26日

B-4

須磨知美、磯崎聖子、今村 隆、小杉孝子、小辻希世子、松向寺真彩子、田中美知代、西本幸代、溝口由里子、森田眞子、和田野飛鳥：総合病院心理職における“働き方”的多様性について(4) —入院患者への面接枠を設定する際のアセスメント要因を検討する—。日本心理臨床学会第36回大会、横浜、2017年11月19日

速見佳子：音楽によって喚起される物語とコンプレックスに関する研究。日本心理臨床学会第36回大会、横浜、2017年11月19日

水木 薫、安尾利彦、西川歩美、白阪琢磨：HIV陽性者の行動面の障害を伴う問題の心理的背景に関する研究。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

西川歩美、安尾利彦、水木 薫、白阪琢磨：薬害 HIV遺族健診事業に関する研究—利用動機、利用上の困難、利用者による事業への評価、健診後の地元医療機関受診状況に関する検討—。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

B-8

安尾利彦：健康管理・メンタルヘルスについて。大阪医療センター新採用職員研修、大阪、2017年4月4日

森田眞子：職場のメンタルヘルス（ハラスメント防止を含む）（講義・実習）。人事院平成29年度近畿地区新採用職員研修、大阪、2017年4月7日

富田朋子：事例発表。関西ロールシャッハ研究会、大阪、2017年4月16日

森田眞子：難病患者の事例について。バウムテスト研究会、京都、2017年6月12日

富田朋子：心理士業務と心理士からみた患者理解について。薬学部実習生向け講義、大阪、2017年6月13日

西川歩美：ファシリテーション。平成29年度遺族交流会、宮城、2017年7月1-2日

大山好弘：ファシリテーション。平成29年度患者家族担当相談員研修会、大阪、2017年7月15日

富田朋子：心理検査について。精神科研修医向け講義、大阪、2017年7月28日

森田眞子：バウムテストについて。精神科研修医向け講義・実習、大阪、2017年7月28日

大山好弘：ファシリテーション。平成29年度遺族担当相談員研修会、大阪、2017年8月27日

西川歩美：ファシリテーション。平成29年度遺族相談員研修、大阪、2017年8月27日

安尾利彦：症例提供。大阪精神分析セミナー、大阪、2017年9月17日

森田眞子：HIV陽性者の心理的支援およびHIV陽性者の看護③チーム医療：チーム診療の実際。HIV/AIDS看護師研修会初心者コース、大阪、2017年9月5日

森田眞子：HIVとカウンセリング。奈良医科大学学生実習、大阪、2017年9月14日

森田眞子：HIV心理臨床について～HIVに関わる心理士として、気になる事柄～。第141回岡山HIV診療ネットワーク研究会、岡山、2017年9月16日

水木 薫：事例提供。近畿ブロックHIV医療におけるカウンセリング研修会、大阪、2017年9月29日

安尾利彦：HIVとカウンセリング。HIV感染症研修会、大阪、2017年10月3日

下司有加、富田朋子、矢倉裕輝：チーム医療の実際～多職種との協働～。HIV感染症研修会、大阪、2017年10月3日

安尾利彦：神経心理検査と事例検討。平成29年度HIV感染症医師実地研修会、大阪、2017

年 10 月 23 日

森田眞子：グループワークファシリテーション。エイズ予防財団平成 29 年度 HIV 検査相談研修会、大阪、2017 年 10 月 26・27 日

森田眞子：HIV とカウンセリング。大阪大学医学部学生 環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017 年 11 月 2 日

森田眞子：HIV 陽性者の心理的支援。HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2017 年 11 月 6 日

森田眞子：HIV 陽性者の看護③チーム医療：チーム診療の実際。HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2017 年 11 月 7 日

畠田朋子：ファシリテーション。平成 29 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2017 年 11 月 19 日

安尾利彦：ファシリテーション。平成 29 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2017 年 11 月 19 日

宮本哲雄：ファシリテーション。平成 29 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2017 年 11 月 19 日

西川歩美：ファシリテーション。平成 29 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2017 年 11 月 19 日

森田眞子：ファシリテーション。平成 29 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2017 年 11 月 19 日

大山好弘：ファシリテーション。平成 29 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2017 年 11 月 19 日

安尾利彦：ストレスとは。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2017 年 12 月 4 日

安尾利彦：セルフケアとは。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2017 年 12 月 4 日

安尾利彦：グループファシリテーション。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2017 年 12 月 4 日

森田眞子：グループワークファシリテーション。なのはな主催 2017 年度新入職者向けメンタルヘルス研修、大阪、2017 年 12 月 4 日

速見佳子：HIV 感染の記憶のない HIV 陽性男性との面接。日本ユング派分析家協会グループ
スーパーヴィジョン（川戸圓先生）、大阪、2017年12月9日

森田眞子：チームアプローチにおける心理職の関わりについて。がん看護研修会、大阪、2018
年2月3日

安尾利彦：HIV 医療におけるカウンセリング。島根県臨床心理士会 HIV/AIDS カウンセラー研
修会、島根、2018年2月10日

西川歩美：ファシリテーション。平成29年度遺族等相談事業相談員研修、大阪、2018年2
月11日

大山好弘：ファシリテーション。平成29年度遺族等相談事業相談員研修会、大阪、2018年2
月11日

メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」

1. 構成メンバー

中森正二副院長、関本貢嗣副院長、水戸祥江副看護部長、廣常秀人精神科長、疋地道代精神科医、宗清大祐管理課長、山本紗世職員研修部係長、安尾利彦心理療法士

2. 概要

メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」は、当院の職員のメンタルヘルス、中でも主に1次予防（メンタルヘルスに関する情報提供・教育研修・環境改善）と2次予防（メンタルヘルス不調の早期把握・早期対策）に関する企画、立案、評価、対策を行う組織横断的なチームである。

平成18年の厚生労働省からの「労働者的心の健康づくりのための指針」の改定に基づき、「事業者が自らの事業所におけるメンタルヘルスケアを積極的に推進すること」との指針に従い、平成23年4月からの院内での立ち上げの準備期間を経て、安全衛生委員会のもとで平成24年1月から本格的な活動を開始した。

チームの愛称である「なのはな」は、菜の花の花言葉「豊かな日々」「快活」に由来しており、「職員一人ひとりが心豊かに、活き活きと働くための職場づくりをサポートしたい」という願いが込められている。

「なのはな」がこれまでに取り組んできた主な活動は大きく分けて、1) 職員からの個別相談、2) チームの広報と情報提供、3) 教育研修、4) 危機介入、5) 健康診断時のセルフチェックの実施、6) 各部署訪問による労働環境改善の働きかけ、以上6つである。

- 1) 職員からの個別相談：相談窓口を設け、本人およびその上司や同僚からの相談について、精神科医1名と臨床心理士1名が対応している（精神科診療や心理療法の提供はせず、コンサルテーションのみとしている）。
- 2) チームの広報と情報提供：ネームプレートに入れることができる、相談窓口を記載したカードを作成した。また院内広報誌になのはな便りを掲載した。
- 3) 教育研修：新入職者オリエンテーション時の講義に加え、ラインケア研修、セルフケア研修を企画運営またはその協力をしている。
- 4) 危機介入：入院患者の自殺が発生した際、現場に暴露された職員の個別面談、グループミーティングを行った。また発生部署の職員全員に対して、急性ストレス障害に関する情報提供を行った。
- 5) 健康診断時のセルフチェックの実施：平成27年度より義務化されたストレスチェック制度に先駆けて、問診票とともに仕事の疲労度セルフチェックを配布し、任意・匿名で回収し、希望者には書面で結果のフィードバックを行った。昨年度からは義務化によって導入された制度に移行した。
- 6) 各部署訪問による労働環境改善の働きかけ：了解が得られた部署に対して、職業性ストレス簡易調査票によるアンケートを実施し、その結果をもとにその職場の職員が主体的に改善点を検討・実施し、再度同じ調査票を用いて改善度を評価した。

3. 今年度の主な活動状況

- 1) 定例連絡会議：計 10 回（平成 29 年 4 月 18 日、5 月 16 日、6 月 14 日、7 月 18 日、8 月 15 日、10 月 17 日、11 月 21 日、12 月 19 日、平成 30 年 2 月 20 日、3 月 20 日）
- 2) 研修会（企画運営および協力）：新規採用職員研修（平成 29 年 4 月 4 日）、新採用臨床研修医オリエンテーション（4 月 12 日）、安全衛生研修「ストレスチェックから 1 年半—その現状と、課題そして対応—生活充実度も含めてー」（演者：大阪樟蔭女子大学心理学科名誉教授 夏目誠）（5 月 16 日）、メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修（12 月 4 日）

【2017 年度 研究業績発表】

A-6

疋地道代：なのはな便り「全職員対象研修会レポート」大阪医療センター院内報法円坂だより 138 号、pp.4-5、2017 年 6 月

B-8

安尾利彦：健康管理・メンタルヘルスについて。大阪医療センター新採用職員研修、大阪、2017 年 4 月 4 日

疋地道代：「医療従事者のメンタルヘルス」、平成 29 年度大阪医療センター新採用臨床研修医オリエンテーション、大阪、2017 年 4 月 12 日

廣常秀人：（司会）安全衛生研修「ストレスチェックから 1 年半—その現状と課題、そして対応—生活充実度も含めてー」（演者：大阪樟蔭女子大学心理学科名誉教授 夏目誠）、大阪、2017 年 5 月 16 日

疋地道代：対人関係がうまくいかない職員に対して。公益財団法人大阪府看護協会市東支部教育講演、大阪、2017 年 5 月 30 日

安尾利彦：ストレスとは。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2017 年 12 月 4 日

安尾利彦：セルフケアとは。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2017 年 12 月 4 日

安尾利彦：グループファシリテーション。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2017 年 12 月 4 日

臨床工学室

榎 雅之

臨床工学室スタッフ

榎 雅之（医師、心臓血管外科科長、手術部長、臨床工学室室長）

井上裕之（臨床工学技士長）

- ・体外循環技術認定士
- ・呼吸療法認定士
- ・全国国立病院機構臨床工学技士協議会理事

宮川幸恵（主任臨床工学技士）

- ・体外循環技術認定士
- ・透析技術認定士
- ・日本体外循環技術医学会代議員・安全委員
- ・日本体外循環技術医学会近畿地方会役員（地方代表）
- ・大阪府臨床工学技士会学術委員

峰松佑輔（主任臨床工学技士）

- ・血液浄化専門臨床工学技士
- ・急性血液浄化認定指導者
- ・日本アフェレシス学会認定技士
- ・透析技術認定士
- ・関西血液浄化研究会会长
- ・大阪府臨床工学技士会理事・学術委員
- ・日本アフェレシス学会評議員・技術委員
- ・日本急性血液浄化学会評議員
- ・全国国立病院機構臨床工学技士協議会理事

樋口栄二（臨床工学技士）

- ・呼吸療法認定士
- ・救急救命士

藤井順也（臨床医工学技士）

- ・体外循環技術認定士
- ・呼吸療法認定士
- ・ITE (Intervention Technical Expert)
- ・日本 DMAT 隊員
- ・大阪 DMAT 隊員
- ・臨床検査技師

柴田純一（臨床工学技士）

井戸紀之（臨床工学技士）

- ・ITE (Intervention Technical Expert)

黒木亮佑（臨床工学技士）

- ・臨床検査技師

水口優介（臨床工学技士）

- ・透析技術認定士

丸宮和也（臨床工学技士）

1. 概要

臨床工学室は、生命維持管理装置の管理・操作を中心に業務を行うとともに、当直およびオンコール体制にて緊急業務に対しても 365 日 24 時間、柔軟に対応している。また、生命維持管理装置の動作点検を日々行い医療安全の向上に貢献している。

a. 手術室部門

心臓血管外科手術における人工心肺装置および周辺機器の管理・操作業務を週 3 回の定期手術のほか、緊急手術や術中の医療機器のトラブルにも対応している。

b. 循環部門

心臓カテーテル室におけるカテーテルインターベーションおよび不整脈業務を行い、循環器外来にて外来患者のペースメーカーチェックを行っている。また、手術室・心臓カテーテル室・初療室・各種集中治療室における経皮的心肺補助装置（PCPS）・大動脈内バルーンパンピング（IABP）の管理・操作業務を行っている。

c. 血液浄化部門

人工腎室に臨床工学技士 1 名を常駐させ、入院患者を対象とした各種血液浄化装置の管理・操作業務を行っている。また、重症患者に対しては集中治療室にて、持続緩徐式血液透析濾過療法などの各種急性血液浄化療法の管理・操作を行っている。

d. ME 機器部門

中央管理室の医療機器における日常点検と物品管理、病棟での医療機器トラブル対応を行っている。また、一般病棟および集中治療室に貸し出された全ての人工呼吸器が正常に作動しているか、毎日、使用病棟を巡回し、人工呼吸器の動作点検を行っている。この巡回業務は機械的人工呼吸療法時の事故防止の観点から大きな成果を上げている。

e. 教育・研修

生命維持管理装置（人工呼吸器、IABP、PCPS、CHDF など）の院内向けの勉強会を定期的に実施している。臨床工学室内の教育体制としては、新人教育プログラムなどを設けるとともに、認定士資格取得に向けたスキルアップ教育も行っている。

2. 業務実績

・手術室部門

人工心肺症例数：62 件

・補助循環部門

PCPS 症例数：26 件（述べ 86 日）

IABP 症例数：30 件（述べ 134 日）

・血液浄化部門

血液透析（HD or HDF）：1,566 件

持続的血液浄化（CHDF）：404 件

単純血漿交換（PE）：3 件

血漿吸着（PA）：30 件

二重濾過膜血漿交換（DFPP）：2 件

エンドトキシン吸着 (ET-A) : 8 件

腹水還元濾過療法 (CART) : 2 件

・教育・研修

臨床実習生 4 名受入れ

・院内勉強会の実施

開催回数 : 15 回

3. 学術業績 :

峰松佑輔 : 英文共著 1 編、特別講演等 : 3 演題、シンポジウム等 : 2 演題、司会 : 5 回

宮川幸恵 : セッション 1 演題、講演 1 演題、一般演題 2 演題

柴田純一 : 一般演題 2 演題

* 詳細 (<http://www.onh.go.jp/rinko/data.html>)

【2017 年度 研究業績発表】

A-0

Yamato M, Minematsu Y : A New Approach: Chronotherapy in Acute Blood Purification for Septic Shock.
Journal of Biosciences and Medicines, 2017, 5, 32-36. 2017 年 7 月 18 日

B-3

峰松佑輔 : DFPP における安全な血漿処理量の設定とモニタリング。第 62 回日本透析医学会学術集会、神奈川、2017 年 6 月 17 日

峰松佑輔 : レーザー血流計を用いた連続的末梢循環モニタリングは、アフェレシスモニタとして有効か? 第 3 回モニタリング技術研究会、名古屋、2017 年 8 月 6 日

峰松佑輔 : 敗血症ショックにおけるメディエータ制御と新たな可能性。第 28 回日本急性血液浄化学会学術集会、埼玉、2017 年 9 月 23 日

宮川幸恵 : 妊婦にやさしい人工心肺環境。第 43 回日本体外循環技術医学会大会、北海道、2017 年 10 月 9 日

B-4

柴田純一、峰松佑輔、倭 成史、岩谷博次、榎 雅之 : アフェレシス療法におけるポータブルレーザー血流計 (ポケット LDF) の有効性。第 69 回日本透析医学会学術集会、神奈川、2017 年 6 月 17 日

宮川幸恵 : 女性 Perfusionist のワーク・ライフ・バランスと JaSECT 地方会の活用。第 37 回日本体外循環技術医学会近畿地方会大会、京都、2018 年 2 月 4 日

B-5

峰松佑輔 : 特殊血液浄化のテクニカルスキルへアフェレシス療法を工学的な視点で考える~。第 12 回 大阪府臨床工学技士会 血液浄化セミナー、大阪、2017 年 9 月 3 日

B-8

峰松佑輔：敗血症ショックに対する急性血液浄化療法の新たな方向性を探る～DAMPs とその制御。熊本 SepXIris セミナー2017、熊本、2017年4月18日

院長室

是恒之宏

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Nagai A, Hirata M, Kamatani Y, Muto K, Matsuda K, Kiyohara Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, Ohnishi Y, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Kubo M : Overview of the BioBank Japan Project: Study design and profile. Journal of Epidemiology 27, s2-s8pp, 2017

Hirata M, Kamatani Y, Nagai A, Kiyohara Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Kubo M, Muto K, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, Ohnishi Y, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Mastuda K: Cross-sectional analysis of BioBank Japan clinical data: A large cohort of 200,000 patients with 47 common diseases. Journal of Epidemiology 27, s9-s21, 2017

Hirata M, Nagai A, Kamatani Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Kubo M, Muto K, Kiyohara Y, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, Ohnishi Y, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Mastuda K: Overview of BioBank Japan follow-up data in 32 diseases. Journal of Epidemiology 27, s22-s28, 2017

Okada E, Ukawa S, Nakamura K, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Ninomiya T, Kiyohara Y, Muto K, Kamatani Y, Yamagata Z, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Tamakoshi A: Demographic and lifestyle factors and survival among patients with esophageal and gastric cancer: The BioBank Japan Project. Journal of Epidemiology 27, s29-s35, 2017

Tamakoshi A, Nakamura K, Ukawa S, Okada E, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Kamatani Y, Muto K, Kiyohara Y, Yamagata Z, Ninomiya T, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり): Characteristics and prognosis of Japanese colorectal cancer patients: The Biobank Japan Project, Journal of Epidemiology 27, s36-s42, 2017

Ukawa S, Okada E, Nakamura K, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Yamagata Z, Kamatani Y, Ninomiya T, Kiyohara Y, Muto K, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Tamakoshi A: Characteristics of patients with liver cancer in the BioBank Japan project, Journal of Epidemiology 27, s43-s48, 2017

Nakamura K, Ukawa S, Okada E, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Ninomiya T, Muto K, Kiyohara Y, Matsuda K, Kamatani Y, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Tamakoshi A: Characteristics and prognosis of Japanese male and female lung cancer patients: The BioBank Japan Project, Journal of Epidemiology 27, s49-s57, 2017

Nakamura K, Okada E, Ukawa S, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Kiyohara Y, Muto K, Kamatani Y, Ninomiya T, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Tamakoshi A: Characteristics and prognosis of Japanese female breast cancer patients: The Biobank Japan Project, Journal of Epidemiology 27, s58-s64, 2017

Ukawa S, Nakamura K, Okada E, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Muto K, Matsuda K, Ninomiya T, Kiyohara Y, Kamatani Y, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Tamakoshi A: Clinical and histopathological characteristics of patients with prostate cancer in the BioBank Japan Project, Journal of Epidemiology 27, s65-s70, 2017

Hata J, Nagai A, Hirata M, Kamatani Y, Tamakoshi A, Yamagata Z, Muto K, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Kiyohara Y, Ninomiya T, Collaborator: Risk prediction models for mortality in patients with cardiovascular disease: The BioBank Japan Project, Journal of Epidemiology 27, s71-s76, 2017

Yokomichi H, Noda H, Nagai A, Hirata M, Tamakoshi A, Kamatani Y, Kiyohara Y, Matsuda K, Muto K, Ninomiya T, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Yamagata Z: Cholesterol levels of Japanese dyslipidaemic patients with various comorbidities: BioBank Japan, Journal of Epidemiology 27, s77-s83, 2017

Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Tamakoshi A, Kiyohara Y, Kamatani Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Yamagata Z: Stain use and all-cause and cancer mortality: BioBank Japan cohort, Journal of Epidemiology 27, s84-s91, 2017

Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Kiyohara Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kamatani Y, Tamakoshi A, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Yamagata Z: Serum glucose, cholesterol and blood pressure levels in Japanese type 1 and 2 diabetic patients: BioBank Japan, Journal of Epidemiology 27, s92-s97, 2017

Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Kiyohara Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kamatani Y, Tamakoshi A, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Yamagata Z: Survival of macrovascular disease, chronic kidney disease, chronic respiratory disease, cancer and smoking in patients with type 2 diabetes: BioBank Japan cohort, Journal of Epidemiology 27, s98-s106, 2017

Koretsune Y, Yamashita T, Yasaka M, Oda E, Matsubayashi D, Ota K, Kobayashi M, Matsushita Y, Kaburagi J, Ibusuki K, Takita A, Iwashita M, Yamaguchi T: Usefulness of a healthcare database for epidemiological research in atrial fibrillation, Journal of Cardiology 70, 169-179, 2017

Yamamoto K, Koretsune Y, Akasaka T, Kisanuki A, Ohte N, Takenaka T, Takeuchi M, Yoshida K, Iwade K, Okuyama Y, Hirano Y, Takeda Y, Tsukamoto Y, Kinugasa Y, Nakatani S, Sakamoto T, Iwakura K, Sozu T, Masuyama T: Effects of vitamin K antagonist on aortic valve degeneration in non-valvular atrial

fibrillation patients: Prospective 4-year observational study, ELSEVIER, Thrombosis Research, 69-75pp, 31 Oct. 2017

A-3

是恒之宏：ワルファリンからリバロキサバンへ切り替えた NVAF 患者における治療満足度－SPAF-QOL。JCS 2017 レポート、第 81 回日本循環器学会学術集会記録集、2017 年 6 月 13 日

是恒之宏：国際的レジストリー研究 GARFIELD-AF：日本人集団からの知見。JCS 2017 レポート、第 81 回日本循環器学会学術集会記録集、Life Science Publishing、2017 年 6 月 13 日

A-4

是恒之宏：専門医に訊く 診療のキーポイント。脳梗塞と心房細動、第 4 卷第 2 号、2017 年 5 月 1 日発行

是恒之宏：論説 高齢者診療と EBM。大阪府病院協会ニュース No.561、10-11、2017 年 7 月 1 日発行

安部晴彦、是恒之宏：TODAY'S THERAPY 2018 今日の治療指針 私はこう治療している 循環器疾患 同種薬の特徴と使い分け。抗血栓薬、医学書院、335-336、2018 年 1 月 1 日

安部晴彦、是恒之宏：循環器疾患最新の治療 2018-2019、南江堂、26-30、2018 年 1 月 15 日

是恒之宏：ワルファリン療法における出血リスクマネジメントとケイセントラの位置づけ、日経メディカル、74-76、2018 年 3 月 10 日

A-6

是恒之宏、P.A.Noseworthy, 赤塚昌治：(座談会) AF 治療の「実臨床」を専門家 3 氏が解説～日本 vs. 世界の抗凝固療法～。学会レポート、㈱メディカルトリビューン、2017 年 4 月 6 日

是恒之宏、室原豊明、相庭武司：(座談会) リアルワールドデータで検証するアピキサバンの有用性、㈱メディカルトリビューン、2017 年 4 月 20 日

是恒之宏：「正しく、品よく、心をこめて」の理念の下によりよい医療サービス、医療人の育成、臨床研究を。ドクターズアテンション、2017 年 7 月

是恒之宏：健康寿命を延ばすコツ 外出をするきっかけを。毎日新聞朝刊 ご近所のお医者さん 425、2017 年 8 月 22 日

是恒之宏：脳梗塞の予防－心臓と脳は繋がっている－。日医ニュース No.490、2017 年 10 月 5 日

B-1

Koretsune Y: Japan date showcase. The Thrombosis Research Institute at ESC Congress 2017, Barcelona, Spain, 2017年8月27日

Koretsune Y, Jitendra PS Sawhney: Stroke prevention in patients with atrial fibrillation and comorbidities. Tea-Time Seminar 1, APHRS 2017, Yokohama, 2017年9月14日

Koretsune Y: DOCA in Asian AF Patients, Ethnic Difference in Efficacy and Safety of DOAC. Invited Symposium 82(Pharmacological Therapy 8), APHRS 2017, Yokohama, 2017年9月17日

B-2

Shinouchi K, Iida Y, Toriyama C, Nishida H, Yasumura K, Yorifuji H, Kato T, Idemoto A, Mishima T, Yokoi K, Abe H, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Impact of preexisting chronic total occlusions of the coronary artery on the outcome of out-of-hospital sudden cardiac arrest patients with acute coronary syndrome, ESC Congress 2017 - European Society of Cardiology, Barcelona, Spain, 2017年8月27日

B-3

是恒之宏: 抗凝固療法 up date ~循環器内科医の立場から~、抗凝固療法の表と裏~臨床における抗凝固療法の意義と問題点について。第31回日本臨床内科医学会、大阪、2017年10月9日

是恒之宏: GARFIELD-AF -国際レジストリーからみたアジア、日本の特徴-。日本循環器病学会学術集会ランチョンセミナー36、大阪、2018年3月24日

B-4

飯田吉則、三嶋 剛、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬: 心室性期外収縮2段脈による失神を認めるβ遮断薬が著効した一例。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

加藤大志、三嶋 剛、鳥山智恵子、飯田吉則、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬: 生体弁による三尖弁置換術後患者に経静脈的に右室リード挿入し両心室ペーシングを行った一例。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

三嶋 剛、鳥山智恵子、飯田吉則、依藤弘紀、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬: 心房細動アブレーション中に左房天蓋静脈損傷による縦隔血腫を生じた一例。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

井手本明子、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、安村かおり、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏: 救急外来受診時にDダイマー上昇を認めなかった急性大動脈解離の一例。第123回日本循環器学会近

畿地方会、大阪、2017年6月24日

篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、井手本明子、三嶋 剛、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性冠症候群による心停止患者の動脈血pHと予後との関連。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

西田博毅、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘樹、安村かおり、加藤大志、井出本明子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：比較的速い狭窄の進行を認めた重症大動脈弁狭窄症の一例。第123回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

安村かおり、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、西田博毅、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：腹部大動脈壁在血栓から下肢動脈塞栓をきたした担癌患者の一例。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

是恒之宏、池田隆徳、上妻謙、平野照之、来田信人、茶珍元彦：日本人非弁膜症心房細動患者におけるワルファリンからアピキサバンへの切り替え後の患者満足度の改善について。第65回日本心臓病学会学術集会、大阪、2017年10月1日、

B-5

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。高齢者の抗血栓療法を考える会、鹿児島、2017年4月20日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。第8回星の心北河内不整脈セミナー、守口、2017年5月11日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。Edoxaban Expert Meeting、大阪、2017年6月3日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。Stroke Prevention in Atrial Fibrillation Forum in OSAKA、大阪、2017年7月1日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。第3回大阪東血栓治療研究会、大阪、2017年7月22日

是恒之宏：NVAF患者におけるDOACの重要性。Master Class埼玉エリア、埼玉、2017年8月4日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。超高齢社会における抗凝固療法～総合診療医における1次予防・2次予防～、吉祥寺、2017年9月8日

是恒之宏：NVAF 患者における DOAC の重要性。MASTER CLASS in TOCHIGI、宇都宮、2017 年 9 月 23 日

是恒之宏：心房細動抗凝固療法の最前線。奈良地区 Core Member Meeting、奈良、2017 年 10 月 3 日

是恒之宏：NVAF 患者における DOAC の重要性。Master Class in Osaka、大阪、2017 年 10 月 20 日

是恒之宏：NVAF 患者における DOAC の重要性。Master Class in Hiroshima、広島、2017 年 10 月 21 日

是恒之宏：DOAC の知識/情報を整理する。不整脈エキスパートラウンドテーブル、大阪、2017 年 10 月 26 日

是恒之宏：心房細動治療における最新の知見とアドヒアランス ENGAGE AF-TIMI 48 Update。Thrombosis Expert Meeting for Pharmacists、東京、2017 年 10 月 29 日

是恒之宏：臨床現場に活かすための RWD の読み方。Expert Seminar in Sapporo～超高齢化社会における抗凝固療法を考える～、札幌、2017 年 11 月 4 日

是恒之宏：なるほど ザ リアルワールドデータ-GARFIELD-AF Registry-～補完されていく RWD から何が見えるのか？～。エリキュースインターネット講演会、大阪、2017 年 11 月 13 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。脳と神経を考える会 2017、大阪、2017 年 11 月 17 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。脳卒中リハビリカンファレンス、京都、2017 年 11 月 18 日

是恒之宏：「被験者保護のあり方を今改めて考える」研究と治療：研究者、医療者、二つの想い。第 38 回日本臨床薬理学会学術集会、横浜、2017 年 12 月 8 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。Osaka Kita Primary Care Meeting、大阪、2018 年 1 月 24 日

是恒之宏：心房細動抗凝固療法における最新の知見とアドヒアランス。近畿薬剤師合同学術大会 2018、京都、2018 年 2 月 4 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。Cardiology ON-SITE～エキスパートの治療現場から～、神戸、2018 年 3 月 1 日

B-8

是恒之宏：NOAC導入後の国内外における抗凝固治療の変遷（GARFIELD registry から）、実臨床から考えるNOACの適した患者像。日経メディカルオンライン座談会、大阪、2017年9月29日

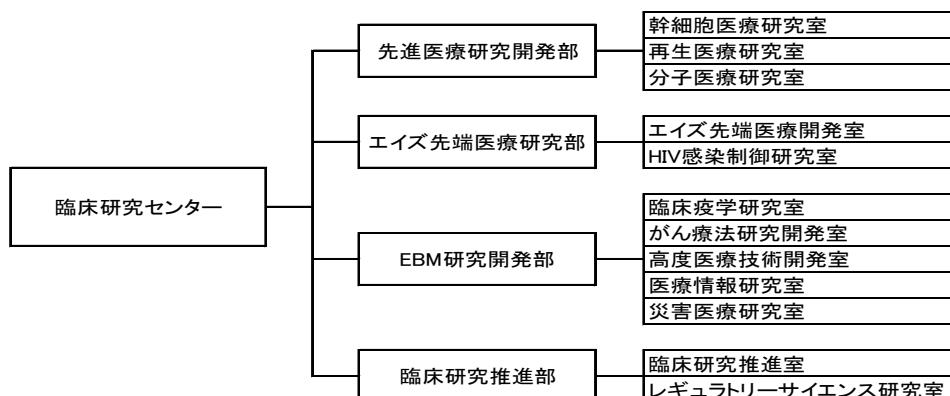
是恒之宏：世界におけるNOAC使用状況の変遷（GARFIELD registry から）。Medical Tribune エリキュース座談会、東京、2018年2月25日

-臨床研究センター-

臨床研究センター

センター長 上松正朗

当臨床研究センターはセンターとなって10年目の節目を迎えた。国立病院機構では平成17年度より新たな研究業績評価が開始されたが、当院は常に1-2位の座を獲得している。この業績評価は、治験、臨床研究プロトコール作成、特許の取得、競争的研究費の獲得、論文著書、国内外の学会発表などの総合力で分析される。日常臨床が多忙を極める中で、大阪医療センターの治験を含めた臨床研究への積極的な取り組みが評価されたものと考える。平成20年度臨床研究部から臨床研究センターへランクアップとなったが、それにともない、1部5室体制から2部9室体制へと改編され、従来病院内の組織であった治験管理部門を新たに臨床研究も含めた支援室、臨床研究推進室として研究センターの元におくこととなった。平成23年度からは、新たに高度医療技術開発室、レギュラトリーサイエンス研究室を開設し、3部11室となった。これまでと同様、文部科研に応募を希望する医師については、併任発令を行い、これに対応した。また、院内の多くの医師が臨床研究に携わっていること、本部からの研究助成金を研究業績に応じて一部分配することにより研究推進を図る目的で、平成18年度より医長以上の併任、英文論文筆頭著者併任をおこなうこととした。平成25年度DMAT西日本拠点に指定されたのに伴い、平成26年度から災害医療研究室を加え4部12室となった。平成29年度の構成は以下のとおりである。



先進医療研究開発部

幹細胞医療研究室

幹細胞医療研究室では、ヒトiPS細胞（人工多能性幹細胞）の作製と、iPS細胞から神経幹細胞（神経系細胞を供給する能力を持つ幹細胞）への分化誘導を行い、再生医療や、神経毒性評価系の構築に向けた技術開発、及び疾患の発症メカニズムの研究を行っている。また、当センター脳神経外科及び再生医療研究室と共同で、各種脳腫瘍の遺伝子変異解析と、新規腫瘍マーカーの探索を実施している。

再生医療研究室

再生医療研究室では、各種ヒト細胞を応用した「細胞治療」を新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を行なっている。また、

ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施している。

分子医療研究室

分子医療研究室では多施設共同研究として難治性脳形成障害症の診断基準作成及び新規治療法開発に向けた病態解析研究を支援する臨床病態、画像情報、遺伝子情報、患者由来生体試料（組織・細胞・DNA）などのデーターベンク構築を実施中である。幹細胞研究室と共同で、患者由来試料から分離した線維芽細胞、神経幹細胞、間葉系細胞（臍帯由来）、血液細胞の特性解析を行い、並行してそれら細胞から疾患 iPS 細胞の樹立を実施し、その特性解析を実施している。

エイズ先端医療研究部

エイズ先端医療開発室

大阪医療センターでは、HIV 感染症の専門的診療は感染症内科が担い、他の機能はエイズ先端医療研究部がコーディネートしている。臨床研究の主なテーマとして HIV 感染症の病態解析や治療に関する研究と患者中心の医療の提供に関する研究取り組んでいる。教育・研修では院外向けと共に、院内での研修については、看護部、医療相談室、臨床心理室等と共に職員研究部と協働で実施し、多くの参加者を得ている。

HIV 感染制御研究室

エイズ先端医療開発室と共同で、HIV 感染症の診療における多く問題に対して研究を行っている。厚生労働省エイズ対策研究事業を中心に、HIV 感染症の病態における種々の問題点の解明に取り組み、多施設共同臨床調査や臨床的課題について取り組んでいる。

EBM 研究開発部

臨床疫学研究室

臨床疫学研究室は主に消化器疾患の病態を分子疫学面から検証し、最適な治療方法や安全性を検討している。C 型肝炎に関する種々の研究、B 型肝炎に関する種々の研究を積極的に推進している。さらに HIV 感染が B 型急性肝炎の重症度に与える影響についても検討している。

がん療法研究開発室

現在のがん医療は、オーダーメイド医療という語に代表される各個人のがんの種類や特徴に応じた診断や治療が行われている。病気や病態の違いの多くは分子異常の違いによって生じるものと考えられており、本研究室では、外科手術時などに得られたがん組織を利用してがんにおける分子異常を探り、新たながんの診断や治療戦略の開発をめざしている。またこれらの成果を利用した全国規模の多施設共同臨床試験への参加および自主的臨床研究の企画もおこなっている。

高度医療技術開発室

病院における医療現場のニーズを企業が保有している技術開発力や大学の基礎医学研究能力に結び付けながら、常に新しい高度医療技術の開発に取り組んでゆくことが、病院に付属する本研究室の役割である。近年はビッグデータの分析など統計解析手法の進歩も著しく、医療分野においてはクラスター分析などによって疾患の新たな表現型（Phenotype）に関する研究も進んでいる。平成30年度は、心不全特に収縮の保たれた心不全症例における表現型分析を新たに進める予定である。

医療情報研究室

医療情報研究室では、医療へのIT応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。病院において実稼働している病統情報統合システムを用いた研究、病院情報システム本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関するシステム的検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。また、ネットワーク技術や画像処理技術の応用・改良など、情報処理の基盤技術に関連した研究も行っている。早急に実用化することを求められている災害時の国内標準電子カルテについて、あるいはSS-MIX、SS-MIX2、MML、openEHRといった標準規格を通して異なる電子カルテシステム間のスムーズな連携についても研究を行なっている。。

災害医療研究室

研究テーマは三次救急の代表的な病態である多発外傷、院外心停止、中毒、熱傷、多臓器不全が中心であるが、さらに今後の発生が想定されている大災害時のDMATの戦略的対応に関する研究を行ってきた。南海トラフ巨大地震へのDMATの戦略的対応については、厚生科研の小井土研究班の分担研究で継続している。救急医学関連では、学会主導型で行われる、外傷、敗血症、ARDS、市中劇症型感染症（以上、日本救急医学会多施設共同研究；JAAM FORECAST）に参画した。

臨床研究推進部

臨床研究推進室

臨床研究推進室は、CRCおよび治験事務局として治験の全体的なコーディネーションを担うことにより、契約前から終了まで迅速かつ質の高い治験実施を支援している他、受託研究審査委員会（IRB）事務局機能も併せ持っている。受託研究と各種臨床研究関連指針が適応される自主研究は、それぞれ独立した2つのIRB（第1委員会・第2委員会）により審議を行っている。この2つのIRBは、厚生労働省より「質の高い倫理審査が行える委員会（認定倫理審査委員会）」として認定を受けている。平成29年度は、臨床研究法公布にともない厚生労働大臣が認定する臨床研究審査委員会取得をめざし、準備を行い、厚生労働省に申請した。

レギュラトリーサイエンス研究室

レギュラトリーサイエンスの考えに基づき、臨床現場での薬剤・医療機器や技術等の使用を評価するための手法の構築を目的として平成23年4月に設立され、7年が経過した。平成29

年度においては、直接経口抗凝固薬が実際に患者のQOL改善に関与しているかをワルファリンからの切り替え例において検討した。また、心房細動患者治療の国際共同レジストリーが進行中であり、日本のNational Coordinatorとして参加。2018年8月には研究が終了しその後解析が進む予定である。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Horiuchi Y, Aoki J, Tanabe K, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Yasuda S, Noguchi T, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Shibata Y, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ishihara M; J-MINUET investigators. : A High Level of Blood Urea Nitrogen Is a Significant Predictor for In-hospital Mortality in Patients with Acute Myocardial Infarction. *Int Heart J.* 2018 Mar 30;59(2):263-271. doi: 10.1536/ihj.17-009. Epub 2018 Feb 20.

Ishihara T, Awata M, Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Nanto K, Kanda T, Tsujimura T, Uematsu M, Mano T. : Satisfactory arterial repair 1 year after ultrathin strut biodegradable polymer sirolimus-eluting stent implantation: an angioscopic observation. *Cardiovasc Interv Ther.* 2018 Jan 15. doi: 10.1007/s12928-018-0510-4. [Epub ahead of print]

Masuda M, Fujita M, Iida O, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Sunaga A, Tsujimura T, Matsuda Y, Ohashi T, Uematsu M : Pace-capture-guided ablation after contact-force-guided pulmonary vein isolation: results of the randomized controlled DRAGON trial. *Europace.* 2017 Nov 17. doi: 10.1093/europace/eux319. [Epub ahead of print]

Hashimoto T, Ako J, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Toubaru T, Saku K, Ohshima S, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M; J-MINUET investigators : A lower eicosapentaenoic acid/arachidonic acid ratio is associated with in-hospital fatal arrhythmic events in patients with acute myocardial infarction: a J-MINUET substudy. *Heart Vessels.* 2017 Nov 16. doi: 10.1007/s00380-017-1084-2. [Epub ahead of print]

Tanabe K, Popma JJ, Kozuma K, Saito S, Muramatsu T, Nakamura S, Namiki A, Morino Y, Hagiwara N, Uematsu M, Kawasaki T, Fujii K, Serruys PW, Onuma Y, Ying S, Kusano H, Stone GW, Kimura T : Multi-slice Computed Tomography Assessment of Everolimus-Eluting Absorb Bioresorbable Scaffold in Comparison with Metallic Drug-Eluting Stents from the ABSORB Japan randomized Trial. *EuroIntervention.* 2017 Nov 14. pii: EIJ-D-17-00716. doi: 10.4244/EIJ-D-17-00716. [Epub ahead of print]

Tsujimura T, Iida O, Ishihara T, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Nanto K, Kanda T, Sunaga A, Takahara M, Uematsu M : The impact of coronary artery disease and left ventricular ejection fraction on the prognosis of patients with peripheral artery disease. *Intern Med J.* 2017 Nov;47(11):1313-1316. doi:

10.1111/imj.13600.

Inoue K, Suna S, Iwakura K, Oka T, Masuda M, Furukawa Y, Egami Y, Kashiwase K, Hirata A, Watanabe T, Takeda T, Mizuno H, Minamiguchi H, Kitamura T, Dohi T, Nakatani D, Hikoso S, Okuyama Y, Sakata Y; OCVC Investigators (内に Uematsu M あり) : Outcomes for Atrial Fibrillation Patients with Silent Left Atrial Thrombi Detected by Transesophageal Echocardiography. *Am J Cardiol.* 2017 Sep 15;120(6):940-946. doi: 10.1016/j.amjcard.2017.06.022. Epub 2017 Jun 29.

Kanda T, Masuda M, Fujita M, Iida O, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Sunaga A, Tsujimura T, Matsuda Y, Ohashi T, Uematsu M : Comparison of the origin and coupling interval between ectopy with and without atrial fibrillation initiation. *J Cardiol.* 2018 Jan;71(1):59-64. doi: 10.1016/j.jcc.2017.06.002. Epub 2017 Jul 13.

Ishihara T, Iida O, Inoue K, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Nanto K, Kanda T, Tsujimura T, Sunaga A, Mano T, Uematsu M : Histological Evaluation of a Self-Expanding Stent-Graft 23 Months After Implantation in the Superficial Femoral Artery. *J Endovasc Ther.* 2017 Oct;24(5):746-750. doi: 10.1177/1526602817719881. Epub 2017 Jul 10.

Ogita M, Suwa S, Ebina H, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Hokimoto S, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Toubaru T, Saku K, Oshima S, Nishimura K, Miyamoto Y, Ishihara M; J-MINUET investigators : Off-hours presentation does not affect in-hospital mortality of Japanese patients with acute myocardial infarction: J-MINUET substudy. *J Cardiol.* 2017 Dec;70(6):553-558. doi: 10.1016/j.jcc.2017.05.006. Epub 2017 Jul 3.

Masuda M, Fujita M, Iida O, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Sunaga A, Tsujimura T, Matsuda Y, Ohashi T, Uematsu M : An E/e' ratio on echocardiography predicts the existence of left atrial low-voltage areas and poor outcomes after catheter ablation for atrial fibrillation. *Europace.* 2017 Jun 22. doi: 10.1093/europace/eux119. [Epub ahead of print]

Iida O, Takahara M, Soga Y, Azuma N, Nanto S, Uematsu M; PRIORITY Investigators : Prognostic Impact of Revascularization in Poor-Risk Patients With Critical Limb Ischemia: The PRIORITY Registry (Poor-Risk Patients With and Without Revascularization Therapy for Critical Limb Ischemia). *JACC Cardiovasc Interv.* 2017 Jun 12;10(11):1147-1157.

Ohki T, Kichikawa K, Yokoi H, Uematsu M, Yamaoka T, Maeda K, Kanaoka Y : Outcomes of the Japanese multicenter Viabahn trial of endovascular stent grafting for superficial femoral artery lesions. *J Vasc Surg.* 2017 Jul;66(1):130-142.e1. doi: 10.1016/j.jvs.2017.01.065. Epub 2017 Apr 8.

Sunaga A, Masuda M, Fujita M, Iida O, Kanda T, Matsuda Y, Morozumi T, Mano T, Uematsu M : Cardiac iodine-123-metiodobenzylguanidine scintigraphy may be useful to identify pathologic from physiologic sinus bradycardia. *Pacing Clin Electrophysiol.* 2017 Jun;40(6):632-637. doi: 10.1111/pace.13078. Epub

2017 May 16.

Ishihara M, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Fujino M, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Tobaru T, Oshima S, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H; J-MINUET Investigators : Long-Term Outcomes of Non-ST-Elevation Myocardial Infarction Without Creatine Kinase Elevation - The J-MINUET Study. Circ J. 2017 Jun 23;81(7):958-965.

Ishihara T, Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Nanto K, Kanda T, Tsujimura T, Sunaga A, Awata M, Nanto S, Uematsu M : Comparison of early-phase arterial repair following cobalt-chrome everolimus-eluting stent and slow-release zotarolimus-eluting stent: an angioscopic study. Cardiovasc Interv Ther. 2018 Apr;33(2):163-168.

Masuda M, Fujita M, Iida O, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Sunaga A, Tsujimura T, Matsuda Y, Ohashi T, Uematsu M : Comparison of Left Atrial Voltage between Sinus Rhythm and Atrial Fibrillation in Association with Electrogram Waveform. Pacing Clin Electrophysiol. 2017 May;40(5):559-567.

Fujino M, Ishihara M, Ogawa H, Nakao K, Yasuda S, Noguchi T, Ozaki Y, Kimura K, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Ako J, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y; J-MINUET Investigators : Impact of symptom presentation on in-hospital outcomes in patients with acute myocardial infarction. J Cardiol. 2017 Jul;70(1):29-34.

Shiraki T, Iida O, Takahara M, Soga Y, Mii S, Okazaki J, Kuma S, Yamaoka T, Kamoi D, Shintani Y, Ishikawa T, Kitano I, Uematsu M : Comparison of Clinical Outcomes after Surgical and Endovascular Revascularization in Hemodialysis Patients with Critical Limb Ischemia. J Atheroscler Thromb. 2017 Jun 1;24(6):621-629.

Ishihara T, Iida O, Okamoto S, Fujita M, Masuda M, Nanto K, Shiraki T, Kanda T, Tsujimura T, Okuno S, Yanaka K, Uematsu M : Potential mechanisms of in-stent occlusion in the femoropopliteal artery: an angioscopic assessment. Cardiovasc Interv Ther. 2017 Oct;32(4):313-317.

Abe N, Miura T, Miyashita Y, Hashizume N, Ebisawa S, Motoki H, Tsujimura T, Ishihara T, Uematsu M, Katagiri T, Ishihara R, Tosaka A, Ikeda U : Long-Term Prognostic Implications of the Admission Shock Index in Patients With Acute Myocardial Infarction Who Received Percutaneous Coronary Intervention. Angiology. 2017 Apr;68(4):339-345.

B-2

Shinouchi K, Iida Y, Toriyama C, Nishida H, Yasumura K, Yorifuji H, Kato T, Idemoto A, Mishima T, Yokoi K, Abe H, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Impact of preexisting chronic total occlusions of the coronary artery on the outcome of out-of-hospital sudden cardiac arrest patients with acute coronary syndrome, ESC Congress 2017 - European Society of Cardiology, Barcelona, Spain, 2017

年 8 月 27 日

Idemoto A, Abe H, Nakamura M, Iida Y, Toriyama C, Ozaki T, Yasumura K, Nishida H, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Incremental Value of Systemic Extracellular Water Volume Assessment by Bioelectrical Impedance Analysis and Echocardiography in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. ACC2018, Orlando, America, 2018 年 3 月 10 日

B-4

篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、三嶋 剛、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：慢性完全閉塞病変が急性冠症候群による心停止患者の予後に与える影響。第 65 回日本心臓病学会、大阪、2017 年 9 月 29 日

加藤大志、三嶋 剛、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、西田博毅、安村かおり、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：生体弁による三尖弁置換術後患者に経静脈的に右室リード挿入し両心室ペーシングを行った一例。第 65 回日本心臓病学会、大阪、2017 年 9 月 29 日

西田博毅、安部晴彦、横井研介、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：冠動脈石灰化の予測における僧帽弁輪および大動脈弁石灰化評価の有用性。第 65 回日本心臓病学会、大阪、2017 年 9 月 30 日

Yasumura K, Abe H, Nakamura M, Nishida H, Kato T, Idemoto A, Shinouchi K, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y : Prognostic Impact of Mitral Annular Plane Systolic Excursion and Systolic Blood Pressure Ratio in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日

Abe H, Idemoto A, Nishida H, Yasumura K, Kato T, Nakamura M, Toriyama C, Iida Y, Ozaki T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y : Caveat of Echocardiographic Assessment of Moderate to Severe Aortic Stenosis: Comparison with Cardiac Catheterization. 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日

Kato T, Mishima T, Iida Y, Toriyama C, Nishida H, Yorifuji H, Yasumura K, Idemoto A, Shinouchi K, Yokoi K, Abe H, Date M, Uematsu M, Koretsune H, Ueda Y : Right Ventricular Endocardial Lead Implantation through Bioprosthetic Tricuspid Valve for Cardiac Resynchronization Therapy. 第 64 回日本不整脈心電学会、横浜、2017 年 9 月 16 日

飯田吉則、安部晴彦、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：繰り返す心囊液貯留にアスピリンが著効した 1 例。第 65 回日本心臓病学会、大阪、2017 年 10 月 1 日

Idemoto A, Abe H, Yasumura K, Nishida H, Kato T, Shinouchi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Good Predictor of Right Atrial Pressure in the Inferior Vena Cava Parameters by 2-Dimensional Echocardiography. 第 21 回日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 13 日

Iida Y, Abe H, Yasumura K, Shinouchi K, Mishima T, Yokoi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Improvement of diuretic resistance by correction of anemia by blood transfusion in a patient with congestive heart failure. 第 21 回日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 13 日

Yasumura K, Abe H, Kato T, Iida Y, Mishima T, Yokoi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Nutritional Assessment Indices in Heart Failure with and without Reduced Exercise Tolerance. 第 21 回日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 13 日

Kato T, Abe H, Yasumura K, Iida Y, Mishima T, Yokoi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Addition of a Thiazide Diuretic May Have Beneficial Effects on Exercise Capacity in a Case of Hypertension. 第 21 回日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 14 日

彦惣俊吾、砂真一郎、小島貴行、中谷大作、土肥智晴、世良英子、中本 敬、山田貴久、安村良男、上松正朗、樋口義治、藤 久和、坂田泰史 : A Large Scale Multicenter Prospective Observational Study to Clarify Complexity of Heart Failure with Preserved Ejection Fraction (HFpEF) -PURSUIT-HFpEF Study-. 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日

石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畠 陽介、上松正朗、真野敏昭 : 急性心筋梗塞に対するプラチナクロムエベロリムス溶出性ステント留置後亜急性期の血栓性の検討。第 37 回心筋梗塞研究会、東京、2017 年 7 月 1 日

B-5

上松正朗 : 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針の改正について。大阪府医師会 治験セミナー、大阪、2017 年 11 月 30 日

B-6

安村かおり、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、西田博毅、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基朗、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏 : 腹部大動脈壁在血栓から下肢動脈塞栓をきたした担癌患者の一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

西田博毅、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘樹、安村かおり、加藤大志、井出本明子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏 : 比較的速い狭窄の進行を認めた重症大動脈弁狭窄症の一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

安部晴彦、安村かおり、加藤大志、井手本明子、西田博毅、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏 : 大動脈弁

狭窄症における心肺運動負荷試験の有用性。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、井手本明子、三嶋 剛、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性冠症候群による心停止患者の動脈血 pH と予後との関連。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

三嶋 剛、鳥山智恵子、飯田吉則、依藤弘紀、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：心房細動アブレーション中に左房天蓋静脈損傷による縦隔血腫を生じた一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

加藤大志、三嶋 剛、鳥山智恵子、飯田吉則、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：生体弁による三尖弁置換術後患者に経靜脈的に右室リード挿入し両心室ペーシングを行った一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

飯田吉則、三嶋 剛、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：心室性期外収縮 2 段脈による失神を認める β 遮断薬が著効した一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

井手本明子、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、安村かおり、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 �剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：救急外来受診時に D ダイマー上昇を認めなかった急性大動脈解離の一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

尾崎立尚、三嶋 剛、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、安村かおり、西田博毅、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：長期の心不全管理にてポリファーマシーに陥った一例。第 217 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2017 年 9 月 16 日

井手本明子、安部晴彦、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：D ダイマー上昇の原因精査に下肢血管エコーが有用であった一例。第 44 回日本超音波医学会関西地方会、大阪、2017 年 9 月 23 日

西田博毅、安部晴彦、井手本明子、安村かおり、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正明、是恒之宏：経胸壁心エコーは心臓 CT より鋭敏に僧帽弁石灰化を検出し冠動脈石灰化の重症度を予測する。関西心エコリサーチクラブ、神戸、2017 年 12 月 16 日

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、

井出本明子、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：
慢性完全閉塞病変が急性冠症候群による心停止患者の予後に与える影響。第30回日本心血管
インターベンション治療学会 近畿地方会、豊中、2018年2月10日

B-8

上松正朗：海外学会で採択される抄録の作り方。Next generation スキルアップセミナー、大阪、
2017年11月27日

上松正朗：人を対象とする医学系研究に関する倫理指針と臨床研究法。大阪労災病院 臨床研
究セミナー、堺、2018年3月8日

幹細胞医療研究室

室長 正札智子

【概要】

幹細胞医療研究室では、ヒト iPS 細胞（人工多能性幹細胞）の作製と、iPS 細胞から神経幹細胞（神経系細胞を供給する能力を持つ幹細胞）への分化誘導を行い、再生医療や、神経毒性評価系の構築に向けた技術開発、及び疾患の発症メカニズムの研究を行っています。また、当センター脳神経外科及び再生医療研究室と共同で、各種脳腫瘍の遺伝子変異解析と、新規腫瘍マーカーの探索を実施しています。

【研究テーマ】

1. 神経疾患原因遺伝子の遺伝子変異解析

難治性脳形成障害症などの神経疾患をお持ちの患者様より、ゲノム DNA をご提供頂き、疾患を起因する原因遺伝子の変異解析を行っています。また、これらの変異による疾患発症メカニズムの分子的解析を進めています。

2. ヒト iPS 細胞由来神経幹細胞の作製と培養法の検討

神経幹細胞は、自己増殖能と神経系細胞に特化した分化能を保持しながら、長期に維持・培養することができるため、再生医療研究や創薬研究での有用性が高い細胞です。そこで、iPS細胞から神経幹細胞を誘導し、再生医療への応用や、神経毒性評価系の構築を目指した研究を行っています。iPS 細胞、及び iPS 細胞由来神経幹細胞は、詳細に特性解析を行い、より良い分化誘導法の開発を進めるとともに、安全性や品質の評価方法について検討を行っています。

3. 脳腫瘍患者摘出手術検体の遺伝子解析と新規腫瘍マーカーの探索

大阪医療センター及び近隣施設の神経膠腫の患者様より、摘出腫瘍組織をご提供いただき、発症原因や予後との関連が示唆されている遺伝子の分子診断を行っています。検出された遺伝子変異や異常分子の結果は、診断や治療方針の参考にして戴くために迅速なフィードバックを行っています。また腫瘍組織から樹立し、長期培養に成功した神経膠腫由来細胞の生物学的特性解析を行い、iPS 細胞由来神経幹細胞の腫瘍化リスクとなるマーカーの探索を実施しています。また、小児に発症例の多い脳腫瘍である髓芽腫と上衣種については、検体を全国より収集して分子診断を行っています。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Tateno H, Hiemori K, Hirayasu K, Sougawa N, Fukuda M, Warashina M, Amano M, Funakoshi T, Sadamura Y, Miyagawa S, Saito A, Sawa Y, Shofuda T, Sumida M, Kanemura Y, Nakamura M, Okano H, Onuma Y, Ito Y, Asashima M, Hirabayashi J: Development of a practical sandwich assay to detect human pluripotent stem cells using cell culture media. 「Regenerative Therapy」 6:1-8, 2017 年 6 月

Cavalli FMG, Remke M, Rampasek L, Peacock J, Shih DJH, Luu B, Garzia L, Torchia J, Nor C, Morrissy AS, Agnihotri S, Thompson YY, Kuzan-Fischer CM, Farooq H, Isaev K, Daniels C, Cho BK, Kim SK, Wang KC, Lee JY, Grajkowska WA, Perek-Polnik M, Vasiljevic A, Faure-Conter C, Jouvet A, Giannini C, Nageswara Rao AA, Li KKW, Ng HK, Eberhart CG, Pollack IF, Hamilton RL, Gillespie GY, Olson JM, Leary S, Weiss WA, Lach B, Chambliss LB, Thompson RC, Cooper MK, Vibhakar R, Hauser P, van Veelen MC, Kros JM, French PJ, Ra YS, Kumabe T, López-Aguilar E, Zitterbart K, Sterba J, Finocchiaro G, Massimino M, Van Meir EG, Osuka S, Shofuda T, Klekner A, Zollo M, Leonard JR, Rubin JB, Jabado N, Albrecht S, Mora J, Van Meter TE, Jung S, Moore AS, Hallahan AR, Chan JA, Tirapelli DPC, Carlotti CG, Fouladi M, Pimentel J, Faria CC, Saad AG, Massimi L, Liau LM, Wheeler H, Nakamura H, Elbabaa SK, Perezpeña-Diazconti M, Chico Ponce de León F, Robinson S, Zapotocky M, Lassaletta A, Huang A, Hawkins CE, Tabori U, Bouffet E, Bartels U, Dirks PB, Rutka JT, Bader GD, Reimand J, Goldenberg A, Ramaswamy V, Taylor MD: Intertumoral Heterogeneity within Medulloblastoma Subgroups. 「Cancer Cell」 31(6):737-754, 2017年 6月

Kanemura Y, Sumida M, Okita Y, Yoshioka E, Yamamoto A, Kanematsu D, Handa Y, Fukusumi H, Inazawa Y, Takada A, Nonaka M, Nakajima S, Mori K, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Moriuchi S, Yamasaki M: Systemic Intravenous Adoptive Transfer of Autologous Lymphokine-activated $\alpha\beta$ T-Cells Improves Temozolomide-induced Lymphopenia in Patients with Glioma. 「Anticancer Res」 37(7):3921-3932, 2017年 7月

Bamba Y, Nonaka M, Sasaki N, Shofuda T, Kanematsu D, Suemizu H, Higuchi Y, Pooh RK, Kanemura Y, Okano H, Yamasaki M: Generation of induced pluripotent stem cells and neural stem progenitor cells from newborn with spina bifida aperta. 「Asian Spine J」 11(6):870-879, 2017年 12月

Fukusumi H, Handa Y, Shofuda T, Kanemura Y: Small-scale screening of anticancer drugs acting specifically on neural stem/progenitor cells derived from human induced pluripotent stem cells using a time-course cytotoxicity test. 「Peer J」 6:e4187, 2018年 1月

B-2

Fukusumi H, Handa Y, Shofuda T, Kanemura Y: IDENTIFICATION OF DRUGS ACTING SPECIFICALLY ON NEURAL STEM/PROGENITOR CELLS DERIVED FROM HUMAN INDUCED PLURIPOTENT STEM CELLS BY USING A TIME-COURSE CYTOTOXICITY TEST. ISSCR 2017 Annual Meeting, Boston, MA, USA, 2017年 6月 16日

Mori K, Shofuda T, Okita Y, Arita H, Kinoshita M, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Tomogane Y, Fukai J, Ishibashi K, Nishida N, Taki T, Nonaka M, Izumoto S, Moriuchi S, Nakajima Y, Hashimoto N, Kodama Y, Hirose T, Kanemura Y: Glioblastoma treatment of Bevacizumab era in Kansai region, Japan. 22nd Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, San Francisco, California, USA, 2017年 11月 18日

Kijima N, Kanematsu D, Shofuda T, Yoshioka E, Handa Y, Moriuchi S, Nonaka M, Okita Y, Tsuyuguchi N, Fukai J, Higuchi Y, Suemizu H, Kanemura Y: Characterization of patient-derived tumor spheres and

xenografts for glioblastoma. 22nd Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, San Francisco, California, USA, 2017年 11月 18日

Kanemura Y, Sumida M, Okita Y, Yoshioka E, Yamamoto A, Kanematsu D, Handa Y, Fukusumi H, Nozaki Y, Takada A, Nonaka M, Nakajima S, Mori K, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Moriuchi S, Yamasaki M: Adoptive immunotherapy using lymphokine-activated $\alpha\beta$ T-cells improves Temozolomide-induced lymphopenia in patients with glioma. 22nd Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, San Francisco, California, USA, 2017年 11月 19日

Kanemura Y, Sumida M, Okita Y, Yoshioka E, Yamamoto A, Kanematsu D, Handa Y, Fukusumi H, Nozaki Y, Takada A, Nonaka M, Nakajima S, Mori K, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Moriuchi S: Adoptive immunotherapy using lymphokine-activated alpha beta T-cells improves Temozolomide-induced lymphopenia in patients with glioma. AACR Immunobiology of Primary and Metastatic CNS Cancer, San Diego, USA, 2018年 2月 13日

B-3

Kanemura Y, Shofuda T, Yoshioka E, Ichimura K, Yamasaki M, Shibui S, Arai H, Sasaki A, Sakamoto H, Nishikawa R: Molecular classification and clinical characteristics of medulloblastomas in Japan. 第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年 5月 20日

Kanemura Y, Okita Y, Moriuchi S, Nonaka M, Mori K, Nakajima S, Sumida M, Yoshioka E, Yamamoto A, Handa Y, Kanematsu D, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Yamasaki M: Adoptive immunotherapy using lymphokine-activated alpha beta T-cells improves Temozolomide-induced lymphopenia in patients with glioma. 一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年 10月 12日

金村米博、正札智子、埜中正博、沖田典子、宇田武弘、露口尚弘、石橋謙一、有田英之、香川尚己、橋本直哉、木下 学、深井順也、西田南海子、友金祐介、森 鑑二、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク：小児脳腫瘍のクリニカルシークエンス。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年 10月 13日

木下 学、福間良平、柳澤琢史、篠崎隆志、貴島晴彦、高橋雅道、成田善孝、有田英之、藤本康倫、寺川雄三、露口尚弘、深井順也、沖田典子、高垣匡寿、石橋謙一、児玉良典、埜中正博、森内秀祐、泉本修一、中島義和、森 鑑二、正札智子、市村幸一、金村米博：国内大規模画像コホートを用いた人工知能による GradeII-III 神経膠腫の画像分子診断。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年 11月 26日

B-4

深井順也、佐々木貴浩、金村米博、森 鑑二、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、上松右二、中尾直之：高齢者神経膠腫の分子マーカーと予後、治療選択：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークに登録された 142 例の解析。日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年 5月 20日

深井順也、佐々木貴浩、金村米博、森 鑑二、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、

廣瀬隆則、藤田浩二、上松右二、中尾直之：高齢者神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークに登録された 142 例の後方視的解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第 76 回学術総会、名古屋、2017 年 10 月 14 日

福角勇人、正札智子、中村雅也、岡野栄之、金村米博：臨床試験に使用するヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞作製法の開発。第 4 回再生医療とリハビリテーション研究会、吹田、2017 年 11 月 18 日

木嶋教行、兼松大介、正札智子、吉岡絵麻、半田有佳子、森内秀祐、塙中正博、沖田典子、露口尚弘、深井順也、樋口裕一郎、末水洋志、金村米博：グリオーマ初代培養確立株の特徴とその in vivo での形態の特徴についての検討。第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017 年 11 月 26 日

沖田典子、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、眞能正幸、木下 学、塙中正博、中島伸、金村米博、藤中俊之：神経膠腫の非造影病変での定位的評価による MET-PET と MGMT メチル化率の相関性。第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017 年 11 月 27 日

有田英之、木下 学、川口 淳、児玉良典、高橋雅道、寺川雄三、沖田典子、高垣匡寿、深井順也、石橋謙一、露口尚弘、森内秀祐、泉本修一、中島義和、藤田浩二、塙中正博、藤本康倫、森 鑑二、正札智子、成田善孝、市村幸一、金村米博：Lower Grade Glioma の Radiogenomic 解析。第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017 年 11 月 27 日

森 鑑二、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、沖田典子、有田英之、木下 学、宇田武弘、友金祐介、深井順也、石橋謙一、西田南海子、瀧 琢有、塙中正博、泉本修一、中島義和、森内秀祐、露口尚弘、寺川雄三、橋本直哉、児玉良典、廣瀬隆則、金村米博：関西中枢神経系腫瘍分子診断ネットワークにおけるベバシズマブ時代の膠芽腫治療。第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017 年 11 月 27 日

深井順也、佐々木貴浩、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、廣瀬隆則、沖田典子、友金祐介、木下 学、泉本修一、有田英之、森内秀祐、露口尚弘、寺川雄三、宇田武弘、中島義和、西田南海子、塙中正博、石橋謙一、藤田浩二、上松右二、中尾直之、森 鑑二、金村米博：高齢者神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析。第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017 年 11 月 27 日

福角勇人、正札智子、隅田美穂、野崎佑衣、山本篤世、半田有佳子、兼松大介、吉岡絵麻、高田 愛、中村雅也、岡野栄之、金村米博：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞における残留 iPS 細胞の高感度検出法の開発。第 17 回日本再生医療学会総会、横浜、2018 年 3 月 21 日

再生医療研究室

室長 金村米博

【概要】

再生医療研究室では、各種ヒト細胞を応用した「細胞治療」を新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を行なっています。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施しています。

【主な研究テーマ】

1. 治療用ヒト細胞培養プロセスの開発

治療に使用する各種ヒト細胞を培養・加工するヒト細胞培養専用施設（セルプロセッシングセンター）の管理・運用を担当し、セルプロセッシングセンター内でのヒト細胞培養プロトコールの開発を行っています。また、細菌・真菌検査や遺伝子検査などを組み込んだ治療用ヒト細胞の品質検査法の開発などを行なっています。

2. 医療用ヒト幹細胞の品質管理技術の開発

再生医療に使用する細胞として、組織幹細胞であるヒト神経幹細胞および間葉系幹細胞さらにヒトiPS細胞由来神経前駆細胞などを主な研究対象として、細胞増殖能、染色体構造、細胞表面マーカー発現様式、細胞分化能等を詳細に解析してこれら細胞の生物学的特性を明らかにし、医療応用するための細胞の品質管理に必要な項目の策定とその検査方法の開発を行っています。

3. ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索

ヒトiPS細胞由来神経前駆細胞を主に使用して、各種薬剤の毒性評価をハイスクープットで評価するシステムの開発を行っています。また、ヒト神経前駆細胞やグリオーマ幹細胞を標的とする新規治療薬候補化合物の探索を実施しています。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Tsuyuguchi N, Terakawa Y, Uda T, Nakajo K, Kanemura Y: Diagnosis of Brain Tumors Using Amino Acid Transport PET Imaging with 18F-fluciclovine: A Comparative Study with L-methyl-11C-methionine PET Imaging. 「Asia Ocean J Nucl Med Biol」 5(2):85-94, 2017年5月

Tateno H, Hiemori K, Hirayasu K, Sougawa N, Fukuda M, Warashina M, Amano M, Funakoshi T, Sadamura Y, Miyagawa S, Saito A, Sawa Y, Shofuda T, Sumida M, Kanemura Y, Nakamura M, Okano H, Onuma Y, Ito Y, Asashima M, Hirabayashi J: Development of a practical sandwich assay to detect human pluripotent stem cells using cell culture media. 「Regenerative Therapy」 6:1-8, 2017年6月

Hori I, Otomo T, Nakashima M, Miya F, Negishi Y, Shiraishi H, Nonoda Y, Magara S, Tohyama J, Okamoto N, Kumagai T, Shimoda K, Yukitake Y, Kajikawa D, Morio T, Hattori A, Nakagawa M, Ando N, Nishino I, Kato M, Tsunoda T, Saitsu H, Kanemura Y, Yamasaki M, Kosaki K, Matsumoto N, Yoshimori T, Saitoh S: Defects in autophagosome-lysosome fusion underlie Vici syndrome, a neurodevelopmental disorder with multisystem involvement. 「Sci Rep」 7(1):3552, 2017年6月

Okamoto N, Miya F, Tsunoda T, Kato M, Saitoh S, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K: Novel MCA/ID syndrome with ASH1L mutation. 「Am J Med Genet A」 173(6):1644-1648, 2017年6月

Kanemura Y, Sumida M, Okita Y, Yoshioka E, Yamamoto A, Kanematsu D, Handa Y, Fukusumi H, Inazawa Y, Takada A, Nonaka M, Nakajima S, Mori K, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Moriuchi S, Yamasaki M: Systemic Intravenous Adoptive Transfer of Autologous Lymphokine-activated $\alpha\beta$ T-Cells Improves Temozolomide-induced Lymphopenia in Patients with Glioma. 「Anticancer Res」 37(7):3921-3932, 2017年7月

Bamba Y, Kanemura Y, Okano H, Yamasaki M: Visualization of migration of human cortical neurons generated from induced pluripotent stem cells. 「J Neurosci Methods」 289:57-63, 2017年9月

Kato K, Miya F, Hori I, Ieda D, Ohashi K, Negishi Y, Hattori A, Okamoto N, Kato M, Tsunoda T, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K, Saitoh S: A novel missense mutation in the HECT domain of NEDD4L identified in a girl with periventricular nodular heterotopia, polymicrogyria and cleft palate. 「J Hum Genet」 62(9):861-863, 2017年9月

Kijima N, Kanemura Y: Mouse Models of Glioblastoma. 「Glioblastoma [Internet]」 Edited by De Vleeschouwer S, Chapter 7:131-139, Codon Publications, Brisbane, AU, 2017年9月

Okamoto N, Miya F, Hatsukawa Y, Suzuki Y, Kawato K, Yamamoto Y, Tsunoda T, Kato M, Saitoh S, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K: Siblings with optic neuropathy and RTN4IP1 mutation. 「J Hum Genet」 62(10):927-929, 2017年10月

Okamoto N, Tsuchiya Y, Miya F, Tsunoda T, Yamashita K, Boroevich KA, Kato M, Saitoh S, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K, Kitagawa D: A novel genetic syndrome with STARD9 mutation and abnormal spindle morphology. 「Am J Med Genet A」 173(10):2690-2696, 2017年10月

Iwata R, Maruyama M, Ito T, Nakano Y, Kanemura Y, Koike T, Oe S, Yoshimura K, Nonaka M, Nomura S, Sugimoto T, Yamada H, Asai A: Establishment of a tumor sphere cell line from a metastatic brain neuroendocrine tumor. 「Med Mol Morphol」 50(4):211-219, 2017年12月

Bamba Y, Nonaka M, Sasaki N, Shofuda T, Kanematsu D, Suemizu H, Higuchi Y, Pooh RK, Kanemura Y, Okano H, Yamasaki M: Generation of induced pluripotent stem cells and neural stem progenitor cells from newborn with spina bifida aperta. 「Asian Spine J」 11(6):870-879, 2017年12月

Ueki M, Maeda M, Sugiyama T, Kohmoto R, Kojima S, Ikeda T, Harada A, Kanemura Y, Miya F, Tsunoda T, Yamasaki M: A case of Dandy-Walker malformation complicated by Axenfeld-Rieger syndrome. 「Int J Ophthalmol Eye Res」 S1:02:001:1-3, 2017年12月

Achiha T, Arita H, Kagawa N, Murase T, Ikeda JI, Morii E, Kanemura Y, Fujimoto Y, Kishima H: Enchondromatosis-associated oligodendrogloma: case report and literature review. 「Brain Tumor Pathol」 35(1):36-40, 2018年1月

Fukusumi H, Handa Y, Shofuda T, Kanemura Y: Small-scale screening of anticancer drugs acting specifically on neural stem/progenitor cells derived from human induced pluripotent stem cells using a time-course cytotoxicity test. 「Peer J」 6:e4187, 2018年1月

Abe K, Katsuno H, Toriyama M, Baba K, Mori T, Hakoshima T, Kanemura Y, Watanabe R, Inagaki N: Grip and slip of L1-CAM on adhesive substrates direct growth cone haptotaxis. 「Proc Natl Acad Sci U S A」 115(11):2764-2769, 2018年3月

A-2

福角勇人、金村米博：ES細胞「再生医療とリハビリテーション」再生医療とリハビリテーション研究会編、P.7-18、株式会社三輪書店、東京、2018年3月

A-4

木下 学、金村米博、成田善孝：Radiomicsによる大規模臨床データを利用した脳腫瘍の画像分子診断の試み「INNNERVISION」 32(9):38-40, 2017年8月

金村米博、岡野栄之：脳梗塞「Clinical Neuroscience」 36:299-303, 2018年3月

B-2

Fukusumi H, Handa Y, Shofuda T, Kanemura Y: IDENTIFICATION OF DRUGS ACTING SPECIFICALLY ON NEURAL STEM/PROGENITOR CELLS DERIVED FROM HUMAN INDUCED PLURIPOTENT STEM CELLS BY USING A TIME-COURSE CYTOTOXICITY TEST. ISSCR 2017 Annual Meeting, Boston, MA, USA, 2017年6月16日

Okamoto N, Miya F, Tsunoda T, Kato M, Saitoh S, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K: A novel genetic syndrome with RAB11B mutation. ASHG 2017 Annual Meeting, Orlando, FL, USA, 2017年10月20日

Kinoshita M, Arita H, Takahashi M, Narita Y, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Okita Y, Nonaka M, Moriuchi S, Fukai J, Izumoto S, Ishibashi K, Kodama Y, Mori K, Ichimura K, Kanemura Y: Radionomic analysis of WHO grade 2 and 3 gliomas with genetic subgroup prediction. 22nd Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, San Francisco, California, USA, 2017年11月17日

Mori K, Shofuda T, Okita Y, Arita H, Kinoshita M, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Tomogane Y, Fukai J, Ishibashi K, Nishida N, Taki T, Nonaka M, Izumoto S, Moriuchi S, Nakajima Y, Hashimoto N, Kodama Y, Hirose T, Kanemura Y: Glioblastoma treatment of Bevacizumab era in Kansai region, Japan. 22nd Annual

Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, San Francisco, California, USA, 2017年11月18日

Kijima N, Kanematsu D, Shofuda T, Yoshioka E, Handa Y, Moriuchi S, Nonaka M, Okita Y, Tsuyuguchi N, Fukai J, Higuchi Y, Suemizu H, Kanemura Y: Characterization of patient-derived tumor spheres and xenografts for glioblastoma. 22nd Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, San Francisco, California, USA, 2017年11月18日

Kanemura Y, Sumida M, Okita Y, Yoshioka E, Yamamoto A, Kanematsu D, Handa Y, Fukusumi H, Nozaki Y, Takada A, Nonaka M, Nakajima S, Mori K, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Moriuchi S, Yamasaki M: Adoptive immunotherapy using lymphokine-activated $\alpha\beta$ T-cells improves Temozolomide-induced lymphopenia in patients with glioma. 22nd Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, San Francisco, California, USA, 2017年11月19日

Kanemura Y, Sumida M, Okita Y, Yoshioka E, Yamamoto A, Kanematsu D, Handa Y, Fukusumi H, Nozaki Y, Takada A, Nonaka M, Nakajima S, Mori K, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Moriuchi S: Adoptive immunotherapy using lymphokine-activated alpha beta T-cells improves Temozolomide-induced lymphopenia in patients with glioma. AACR Immunobiology of Primary and Metastatic CNS Cancer, San Diego, USA, 2018年2月13日

B-3

Kanemura Y, Shofuda T, Yoshioka E, Ichimura K, Yamasaki M, Shibui S, Arai H, Sasaki A, Sakamoto H, Nishikawa R: Molecular classification and clinical characteristics of medulloblastomas in Japan. 第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年5月20日

Arita H, Yamasaki K, Mukasa A, Kanemura Y, Nagane M, Ueki K, Nishikawa R, Komori T, Narita Y, Ichimura K: TERT promoter status refines the prognostication of IDH wt gliomas. 第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年5月20日

Ichimura K, Komori T, Nakano Y, Arita H, Yamasaki K, Yoshioka T, Hirato J, Kanemura Y, Sakamoto H, Nishikawa R: Current status of molecular classification for central nervous system tumors in Japan. 第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年5月20日

金村米博: 小児脳腫瘍の遺伝子診断と治療法選択への応用。第45回日本小児脳神経外科学会、神戸、2017年6月3日

Kanemura Y, Okita Y, Moriuchi S, Nonaka M, Mori K, Nakajima S, Sumida M, Yoshioka E, Yamamoto A, Handa Y, Kanematsu D, Goto S, Kamigaki T, Shofuda T, Yamasaki M: Adoptive immunotherapy using lymphokine-activated alpha beta T-cells improves Temozolomide-induced lymphopenia in patients with glioma. 一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

木下 学、有田英之、佐々木貴浩、藤田浩二、高橋雅道、成田善孝、金村米博、貴島晴彦：大規模脳腫瘍画像データの網羅的な解析を目指した Radiomics 解析の開発。一般社団法人日本

脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

金村米博、正札智子、埜中正博、沖田典子、宇田武弘、露口尚弘、石橋謙一、有田英之、香川尚己、橋本直哉、木下 学、深井順也、西田南海子、友金祐介、森 鑑二、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク：小児脳腫瘍のクリニカルシークエンス。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月13日

中野嘉子、平戸純子、山崎夏維、福岡講平、北原麻衣、金村米博、信澤純人、坂本博昭、西川 亮、原 純一、義岡孝子、市村幸一：小児グリオーマ、上衣腫、胚細胞腫の遺伝子解析－JCCG中央診断より－。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月26日

木下 学、福間良平、柳澤琢史、篠崎隆志、貴島晴彦、高橋雅道、成田善孝、有田英之、藤本康倫、寺川雄三、露口尚弘、深井順也、沖田典子、高垣匡寿、石橋謙一、児玉良典、埜中正博、森内秀祐、泉本修一、中島義和、森 鑑二、正札智子、市村幸一、金村米博：国内大規模画像コホートを用いた人工知能によるGradeII-III神経膠腫の画像分子診断。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月26日

金村米博：in vitro 創薬・毒性試験に使用可能なヒトiPS細胞由来神経系細胞の開発。日本薬理学会第138年会、金沢、2018年3月26日

B-4

香川尚己、阿知波孝宗、横田千里、有田英之、藤本康倫、貴島晴彦、森井英一、金村米博、中里洋一、吉峰俊樹：母と子に発症した神経膠芽腫の病理組織像と分子遺伝学的検討。第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年5月19日

阿知波孝宗、有田英之、横田千里、福屋章悟、香川尚己、村瀬剛、池田純一郎、森井英一、金村米博、藤本康倫：多発性内軟骨腫（Ollier病）に合併した乏突起膠腫の一例。第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年5月19日

上松右二、深井順也、金村米博、藤田浩二、中尾直之：分子情報を含め診断した幼児小脳astrocytomaの1例。第35回日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年5月20日

深井順也、佐々木貴浩、金村米博、森 鑑二、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、上松右二、中尾直之：高齢者神経膠腫の分子マーカーと予後、治療選択：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークに登録された142例の解析。日本脳腫瘍病理学会、宇都宮、2017年5月20日

横井摂理、堤真紀子、宮 冬樹、宮田昌史、加藤光広、岡本伸彦、角田達彦、山崎麻美、金村米博、小崎健次郎、齋藤伸治、倉橋浩樹：Novel compound heterozygous variants in PLK4 cause microcephaly and chorioretinopathy. 第59回日本小児脳神経学会学術集会、大阪、2017年6月15日

藤中俊之、木嶋教行、沖田典子、中川智義、三浦慎平、中川僚太、館 哲郎、中村 元、金村米博、中島 伸：大型脳動脈瘤に対するFlow diverterを用いた血管内治療成績。一般社団法

人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

春山裕典、赤木洋二郎、吉本幸司、空閑太亮、秦 暢宏、古賀友紀、大賀 正、金村米博、西川 亮、坂本博昭、市村幸一、飯原弘二：髄芽腫のsubgroup分類とMRI所見、臨床的特徴についての検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

三浦慎平、木嶋教行、中川智義、中川僚太、館 哲郎、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：中大脑動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

中川智義、山田修平、藤中俊之、館 哲郎、中川僚太、三浦慎平、木嶋教行、沖田典子、金村米博、中島 伸：血管内治療後に再治療を要した脳動脈瘤18例の検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

中川僚太、中川智義、木嶋教行、館 哲郎、三浦慎平、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：脳動脈瘤に対する血管内治療3ヶ月後に脳実質内に多発造影病変を認め、異物性肉芽腫が疑われた1例。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

木嶋教行、中川智義、三浦慎平、中川僚太、館 哲郎、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：重症くも膜下出血患者の治療戦略とその転帰。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月12日

館 哲郎、木嶋教行、中川智義、三浦慎平、中川僚太、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：外傷性中硬膜動静脈瘻の2例。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月13日

沖田典子、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、眞能正幸、木下 学、埜中正博、中島 伸、金村米博、藤中俊之：神経膠腫の非造影病変での定位的評価によるmethionine PETとMGMTプロモーターメチル化率の相関性について。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月13日

深井順也、佐々木貴浩、金村米博、森 鑑二、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、廣瀬隆則、藤田浩二、上松右二、中尾直之：高齢者神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークに登録された142例の後方視的解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月14日

上松右二、深井順也、金村米博、西林宏起、藤田浩二、中尾直之：当科におけるグリオーマ Integrated diagnosisの現状。一般社団法人日本脳神経外科学会第76回学術総会、名古屋、2017年10月14日

福角勇人、正札智子、中村雅也、岡野栄之、金村米博：臨床試験に使用するヒトiPS細胞由来神経前駆細胞作製法の開発。第4回再生医療とリハビリテーション研究会、吹田、2017年11月

18日

木嶋教行、兼松大介、正札智子、吉岡絵麻、半田有佳子、森内秀祐、埜中正博、沖田典子、露口尚弘、深井順也、樋口裕一郎、末水洋志、金村米博：グリオーマ初代培養確立株の特徴とそのin vivoでの形態の特徴についての検討。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月26日

沖田典子、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、眞能正幸、木下 学、埜中正博、中島伸、金村米博、藤中俊之：神経膠腫の非造影病変での定位的評価によるMET-PETとMGMTメチル化率の相関性。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月27日

露口尚弘、寺川雄三、宇田武弘、木下 学、有田英之、金村米博：gliomaの遺伝子変異とMethionine-PETの相関性について。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月27日

佐々木貴浩、木下 学、藤田浩二、有田英之、宇田武弘、露口尚弘、林 宣秀、深井順也、上松右二、森 鑑二、沖田典子、埜中正博、森内秀祐、中尾直之、金村米博：MGMTプロモーター領域のメチル化予測を目指した膠芽腫のRadiomics解析。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月27日

有田英之、木下 学、川口 淳、児玉良典、高橋雅道、寺川雄三、沖田典子、高垣匡寿、深井順也、石橋謙一、露口尚弘、森内秀祐、泉本修一、中島義和、藤田浩二、埜中正博、藤本康倫、森 鑑二、正札智子、成田善孝、市村幸一、金村米博：Lower Grade GliomaのRadiogenomic解析。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月27日

森 鑑二、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、沖田典子、有田英之、木下 学、宇田武弘、友金祐介、深井順也、石橋謙一、西田南海子、瀧 琢有、埜中正博、泉本修一、中島義和、森内秀祐、露口尚弘、寺川雄三、橋本直哉、児玉良典、廣瀬隆則、金村米博：関西中枢神経系腫瘍分子診断ネットワークにおけるベバシズマブ時代の膠芽腫治療。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月27日

梅原 徹、有田英之、金村米博、香川尚己、藤本康倫、貴島晴彦：Grade II-III神経膠腫再発／悪性転化に対するベバシズマブの治療成績の検討。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月27日

深井順也、佐々木貴浩、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、廣瀬隆則、沖田典子、友金祐介、木下 学、泉本修一、有田英之、森内秀祐、露口尚弘、寺川雄三、宇田武弘、中島義和、西田南海子、埜中正博、石橋謙一、藤田浩二、上松右二、中尾直之、森 鑑二、金村米博：高齢者神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析。第35回日本脳腫瘍学会学術集会、高松、2017年11月27日

福角勇人、正札智子、隅田美穂、野崎佑衣、山本篤世、半田有佳子、兼松大介、吉岡絵麻、高田 愛、中村雅也、岡野栄之、金村米博：ヒトiPS細胞由来神経前駆細胞における残留iPS細胞の高感度検出法の開発。第17回日本再生医療学会総会、横浜、2018年3月21日

B-6

森 鑑二、沖田典子、有田英之、木下 学、宇田武弘、友金祐介、深井順也、石橋謙一、西田南海子、瀧 琢有、塙中正博、泉本修一、中島義和、児玉良典、橋本直哉、金村米博：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークの活動報告。Neurosurgery Kinki 2017 Spring Meeting 第73回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 第75回近畿脊髄外科学研究会 合同開催、豊中、2017年4月8日

三浦慎平、木嶋教行、沖田典子、藤森なぎさ、小澤健太郎、中川智義、中川僚太、館 哲郎、金村米博、中島 伸、藤中俊之：頭蓋内へ遠隔転移した乳房外パジェット病の一例。第74回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2017年9月2日

藤田祐也、尾崎友彦、金村米博、木下 学：右傍側脳室に発生したpapillary glioneuronal tumor の1例。第74回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2017年9月2日

館 哲郎、木嶋教行、中川智義、三浦慎平、中川僚太、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：外傷性中硬膜動静脈瘻の2例。第74回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2017年9月2日

中川僚太、中川智義、木嶋教行、館 哲郎、三浦慎平、沖田典子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：脳動脈瘤コイル塞栓術3ヶ月後に脳実質内に多発造影病変を認め、異物性肉芽腫が疑われた1例。第74回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2017年9月2日

B-8

金村米博：グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の探索とそれに基づくテーラーメイド治療法の開発。探索医療薬物研究会第5回合同シンポジウム『がんと創薬－基礎研究と臨床応用の接点』、大阪、2017年10月28日

金村米博：脳腫瘍の遺伝子診断と治療法選択への応用。Kyoto Neurosurgery Conference 2017、京都、2017年12月7日

分子医療研究室

室長 上松正朗

分子医療研究室では多施設共同研究として難治性脳形成障害症の診断基準作成及び新規治療法開発に向けた病態解析研究を支援する臨床病態、画像情報、遺伝子情報、患者由来生体試料（組織・細胞・DNA）などのデーターベンク構築を実施中である。研究組織で独自に構築したデータサーバー難治性脳形成障害症（fetal brain malformation 以下 FBM）（<http://fms.fetal-brain-malformation.jp>）を使用して、2009年12月～2018年6月までの期間で、症例登録協力施設47施設から450件が登録された。45施設から提供されたDNA試料591検体、培養細胞試料216検体を分離・樹立し保管した。エキスパートによる画像診断、病理診断、そして標的遺伝子のみならず次世代シークエンサーを駆使した遺伝子解析を施行した。その結果、約260例で確定診断が得られた。幹細胞研究室と共同で、患者由来試料から分離した線維芽細胞、神経幹細胞、間葉系細胞（臍帯由来）、血液細胞の特性解析を行い、並行してそれら細胞から疾患iPS細胞の樹立を実施し、その特性解析を実施している。

これら研究成果は、FBMの遺伝子診断のみならず分子病態解析、予防法の確立、新規治療法開発の研究に大きく貢献するものである。

エイズ先端医療開発室

エイズ先端医療研究部長 白阪琢磨

エイズ先端医療研究部はエイズ先端医療開発室と HIV 感染制御室から構成されている。

当院は薬害 HIV 裁判の和解に基づく恒久対策の一環として、平成 9 年にエイズ診療における近畿ブロックのブロック拠点病院に選定され、診療（全科対応体制）、臨床研究、教育・研修、情報発信の 4 機能を担っている。院内設置の HIV/AIDS 先端医療開発センターが関連部署と緊密な連携を取り任務を遂行している。HIV 感染症の専門的診療は感染症内科が担い、他の機能はエイズ先端医療研究部がコーディネートしている。臨床研究では厚生労働行政推進調査事業補助金によるエイズ対策政策研究事業（平成 29 年度は指定研究「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」（研究代表者 白阪琢磨、研究分担者 下司有加、安尾利彦）、指定研究「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」（研究分担者 渡邊大））などを実施し、臨床研究の主なテーマとして HIV 感染症の病態解析や治療に関する研究と患者中心の医療の提供に関する研究取り組んでいる。平成 29 年度の独立行政法人国立病院機構の NHO ネットワーク共同研究課題として、感染早期患者に対する MVC による強化療法の効果に関する研究（H29-NHO（エイズ）-01、研究代表者 白阪琢磨）の 1 課題で研究代表者として研究を遂行した。抗 HIV 療法重要な服薬アドヒアランスの向上・維持のための研究は、日本医療研究開発機構エイズ対策実用化研究事業〔アドヒアランス向上に関する研究（9 研究代表者白阪琢磨）〕を実施した。血液製剤による感染者の多くは加齢に伴う長期療養が重大な課題となっており、厚生労働科行政推進調査事業補助金によるエイズ対策政策研究事業「非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究（研究代表者 木村哲）」班の研究分担（消化器内科 三田英治）を担当し研究協力も行っている。重複感染の C 型肝炎に対しては厚生労働行政推進調査事業補助金によるエイズ対策政策研究事業指定研究班（江口班（研究分担者 上平朝子））の研究分担を担当している。教育・研修では院外向けと共に、院内での研修については、看護部、医療相談室、臨床心理室等と共に職員研究部と協働で実施し、多くの参加者を得ている。これらの研究成果は学会あるいは論文として発表した。情報発信については当院のホームページ内に HIV/AIDS 先端医療開発センター (<http://www.onh.go.jp/khac/>) を設け、厚労科研の成果の一部 (HAART Support) や HIV 感染症/AIDS に関する情報を発信しており、ホームページを 1999 年に開設以来アクセス数は 71 万件を超え、多くの方の利用を得ている。

平成 25 年 4 月には大阪大学大学院医学系研究科の連携大学院（エイズ先端医療学）が併設され、平成 26 年度から 1 名の大学院生を受け入れている。

今後も、HIV/AIDS 先端医療開発センターの研究部門として HIV 感染症/AIDS に関する臨床研究、教育・研修、情報発信を進め、特に急性感染期の HIV 感染症の診断と治療を新たなテーマとして研究を推進して行きたい。

【2017 年度 研究発表業績】

A-0

Miyazaki N, Sugiura W, Gatanaga H, Watanabe D, Yamamoto Y, Yokomaku Y, Yoshimura K, Matsushita

S, the Japanese HIV-MDR Study Group: High antiretroviral coverage and viral suppression prevalence in Japan: an excellent profile for downstream HIV care spectrum. 「Jpn J Infect Dis.」 70(2):P.158-160、2017年3月24日

Watanabe D, Yamamoto Y, Suzuki S, Ashida M, Matsumoto E, Yukawa S, Hirota K, Ikuma M, Ueji T, Kasai D, Nishida Y, Uehira T, Shirasaka T: Cross-sectional and longitudinal investigation of human herpesvirus 8 seroprevalence in HIV-1-infected individuals in Osaka, Japan. 「J Infect Chemother.」 23(4):P.201-205、2017年4月

Kawado M, Hashimoto S, Oka S, Fukutake K, Higasa S, Yatsuhashi H, Ogane M, Okamoto M, Shirasaka T: Clinical Improvement by Switching to an Integrase Strand Transfer Inhibitor in Hemophiliac Patients with HIV: The Japan Cohort Study of HIV Patients Infected through Blood Products. 「The Open AIDS Journal」 11:18-23、2017年4月26日

Itoi-Ochi S, Hayashi M, Yamaoka T, Kobayashi Y, Isei T, Shirasaka T, Katayama I: Occult HIV infection in Japanese rupioid psoriasis. 「J Dermatol.」 44(7):e172-e173、Epub 2017年4月28日

Yagura H, Watanabe D, Kushida H, Tomishima K, Togami H, Hirano A, Takahashi M, Hirota K, Ikuma M, Kasai D, Nishida Y, Yoshino M, Yamazaki K, Uehira T, Shirasaka T : Impact of UGT1A1 gene polymorphisms on plasma dolutegravir trough concentrations and neuropsychiatric adverse events in Japanese individuals infected with HIV-1. 「BMC Infect Dis.」 7(1) : P.622、2017年9月16日

Nakakura I, Ogawa Y, Sakakura K, Imanishi K, Hirota K, Shimatani Y, Uehira T, Nakamori S, Sako R, Doi T, Yamazaki K: IMP-6 Carbapenemase-Producing Enterobacteriaceae Bacteremia Successfully Treated with Amikacin-Meropenem in Two Patients. 「Pharmacotherapy」 37(10):e96-e102、Epub 2017年7月12日

Yonemura T, Okada N, Sagane K, Okamiya K, Ozaki H, Iida T, Yamada H, Yagura H : Effects of Milk or Apple Juice Ingestion on the Pharmacokinetics of Elvitegravir and Cobicistat in Healthy Japanese Male Volunteers: A Randomized, Single-Dose, Three-Way Crossover Study. 「Clin Pharmacol Drug Dev.」、[Epub ahead of print] 2018年1月24日

Yukawa S, Watanabe D, Uehira T, Shirasaka T: Clinical benefits of using inulin clearance and cystatin C for determining glomerular filtration rate in HIV-1-infected individuals treated with dolutegravir. 「J Infect Chemother.」 24(3):P.199-205、2018年3月

A-2

西田恭治：保因者ケア「血友病の診療マニュアル」宮川義隆、天野景裕 編集、P.227-233、株式会社医薬ジャーナル社、大阪、2017年10月31日

白坂琢磨：抗HIV薬「治療薬ハンドブック2018」高久史磨監修、P.1378-1402、じほう、東京、2018年1月

A-3

光井絵理、加藤 研、安部倉竹紗、種田灯子、廣田和之、矢嶋敬史郎、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨、瀧 秀樹：HIV 感染症治療中に 1 型糖尿病とバセドウ病を発症し免疫再構築症候群と考えられた 1 例「糖尿病」60(4):P.295-300、日本糖尿病学会、2017 年 4 月 30 日。

池田 超、藤原弘明、桑田聖平、矢野眞紀、田中堅司、細野 晃、辻 亨、森本 実、瀧原 義宏、安原武志、首藤加奈子、吉村 誠、谷 慶彦、白阪琢磨、大川聰子：0-095 全国初 新たな献血推進の啓発拠点 献血サポート薬局について「血液事業」40(2):P.426-426、日本血液事業学会、2017 年 11 月 21 日

西田恭治：血友病診療における消炎鎮痛解熱剤の使い方について教えてください「Frontiers in Haemophilia」5(1) P.27-28、天野景裕、酒井道生、野上恵嗣、日笠聰、藤井輝久、松下正編集、メディカルレビュー社、東京、2018 年 3 月 9 日

A-4

白阪琢磨：Question HIV serodiscordant couple で挙児希望の相談があった場合にどうすればよいですか「HIV 感染症と AIDS の治療」8(1):P.32-42、メディカルレビュー社、2017 年 6 月

上平朝子：10.感染②侵襲性カンジダ症・ニューモシスチス肺炎-陰性化するまで、適切な量・期間で抗菌薬を継続する-「乳がん薬物療法副作用マネジメントプロのコツ」P.295-299、メディカルレビュー社、2017 年 9 月 14 日

白阪琢磨：2（生涯・専門）職業暴露後対策について～HIV を中心に～「日本臨床内科医会会誌」32(3):P.436-436、日本臨床内科医会、2017 年 10 月

白阪琢磨：Q&A 形式 Case Study “CD4 の上昇を認めない症例に対して日和見感染症予防をどうしたらよいですか”「HIV 感染症と AIDS の治療」8(2):P.24-28、株式会社メディカルレビュー社、2017 年 11 月

白阪琢磨：HIV 感染症/エイズ診療の現在～エイズ・ウイルス感染拡大の終焉を視野に入れた治療と予防～「診療と新薬」54(12):P.1139-1172、医事出版社、2017 年 12 月 28 日

廣田和之：フォトクイズ「HIV 感染症と AIDS の治療」8(2):P.42-45、メディカルレビュー社、2017 年 12 月

上平朝子：CRE アウトブレイク CRE、1 例の背後には複数の保菌例が隠れている「INFECTION CONTROL」27(1):P.37-42、メディカ出版、2018 年 1 月

A-5

渡邊 大：ゲンボイヤ[®]配合錠の使用経験「第 91 回日本感染症学会総会・学術講演会（ランチョンセミナー8）記録集」、2017 年 7 月発行

白阪琢磨：効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究。厚生労働科学研究費補助金

(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業) 「効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究」平成 29 年度研究報告書、2018 年 3 月 31 日

白阪琢磨：効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究」総合研究報告書、2018 年 3 月 31 日

白阪琢磨：HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」平成 29 年度研究報告書、2018 年 3 月 31 日

白阪琢磨：HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」総合研究報告書、2018 年 3 月 31 日

安尾利彦：HIV 陽性者の心理学的問題と援助に関する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」平成 29 年度研究報告書、P.68-73、2018 年 3 月 31 日

安尾利彦：HIV 陽性者の心理学的問題と援助に関する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」総合研究報告書、P.82-87、2018 年 3 月 31 日

下司有加：エイズ診療拠点病院と在宅あるいは福祉施設の連携に関する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」平成 29 年度研究報告書、P.86-88、2018 年 3 月 31 日

下司有加：エイズ診療拠点病院と在宅あるいは福祉施設の連携に関する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」総合研究報告書、P.102-105、2018 年 3 月 31 日

渡邊 大：近畿ブロックの HIV 医療体制整備。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」平成 29 年度研究報告書、P.48-51、2018 年 3 月 31 日

白阪琢磨：ホームページやスマホを利用した検査施設受検向上に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 検査受検勧奨に関する研究」平成 28 年度研究報告書、P.97-100、2018 年 3 月 31 日

上平朝子：大阪における検査システムの構築に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 検査受検勧奨に関する研究」平成 29 年度研究報告書、P.60-63、2018 年 3 月 31 日

上平朝子：大阪医療センターにおける HIV/HCV 重複感染凝固異常患者の検討。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者の肝移植に関する研究」平成 29 度研究報告書、P.11-14、2018 年 3 月 31 日

白阪琢磨：服薬アドヒアランス向上に関する研究。日本医療研究開発機構感染症実用化研究事業エイズ対策実用化研究事業「服薬アドヒアランス向上に関する研究」総合研究報告書、2018 年 3 月 31 日

下司有加：HIV 陽性者の受診行動に影響を与える要素に関する研究。日本医療研究開発機構感染症実用化研究事業エイズ対策実用化研究事業「服薬アドヒアランス向上に関する研究」総合研究報告書、2018 年 3 月 31 日

A-6

白阪琢磨：HIV 治療「1 日 1 錠」に「朝日新聞」 平成 29 年 5 月 17 日号

西田恭治：知つておきたい血友病保因者のこと「ファイン VOL.12」P.2-5、バクスアルタ株式会社、2017 年 9 月

矢倉裕輝：エキスパートが教える薬物動態「月刊薬事 10 月臨時増刊号」P.254-261、じほう、東京、2017 年 10 月 25 日

白阪琢磨：2 内科 “内科で遭遇しやすい性感染症の診療のポイント” 「性の健康 平成 29 年秋号」16(3):18-23、公益財団法人性の健康医学財団、2017 年 10 月 31 日

西田恭治：血友病および関連の出血性疾患について「Novo Nordisk Haemophilia Fundation アニュアルレポート」P.1-15、Novo Nordisk Haemophilia Fundation、2017 年 11 月

西田恭治：産婦人科：血友病「Textbook of Hemophilia 3rd edition」P.29-31、瀧正志 編集、ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社、東京、2017 年 12 月

西田恭治：女性と von Willebrand 病「Textbook of Hemophilia 3rd edition」P.32-34、瀧正志 編集、ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社、東京、2017 年 12 月

矢倉裕輝：Evidence Update 2017 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する 抗ウイルス薬「薬局」69 (1) P.117-120、南山堂、東京、2018 年 1 月 5 日

西田恭治：保因者検診とは「血友病保因者支援マニュアル」P.15-16、瀧正志、西田恭治 編集、バイオベラティブ・ジャパン株式会社、2018 年 2 月

西田恭治：保因者へのアドバイス「血友病保因者支援マニュアル」P.21-23、瀧正志、西田恭治 編集、バイオベラティブ・ジャパン株式会社、2018 年 2 月

B-2

Togami H, Yagura H, Hirano A, Takahashi M, Yoshino M, Abe K, Oishi Y, Takematsu S, Kakigoshi S, Yamamoto Y, Ito T, Yamamoto M, Mizumori Y, Kanei O, Utsumi M, Watanabe D, Yokomaku Y, Shirasaka T: Correlation between UGT1A1*6 and *28 genotype, and plasma dolutegravir concentrations in Japanese HIV-1 infected patients. 9th IAS Conference on HIV Science (MOPEB0328), Paris, France, 2017年7月24日

B-3

渡邊 大：Tenovir Alafenamide based regimen の臨床的有用性（ランチョンセミナー）ゲンボイヤ[®]配合錠の使用経験。第91回日本感染症学会総会・学術講演会、東京、2017年4月6日

安尾利彦：病院臨床（シンポジウム）。甲南心理臨床学会、神戸、2017年8月6日

白阪琢磨：産業医学研修会2（生涯・専門）「職業暴露後対策について～HIVを中心～」。第31回日本臨床内科医学会、大阪、2017年10月8日

矢倉裕輝：ARTと医療経済～高い治療成功率の維持に向けて～。第31回日本エイズ学会学術集会（ランチョンセミナー）。東京、2017年11月24日

渡邊 大：プロテアーゼ阻害剤による抗HIV治療戦略（ランチョンセミナー）。プレジコビックス[®]配合錠の臨床的役割と使用経験。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

白阪琢磨：『手引きversion21』のWhat's New?（シンポジウム「治療の手引き」）。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

照屋勝治、上平朝子、田中 勝、横幕能行：ART eraの悪性腫瘍と対応（シンポジウム「治療の手引き」）。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

安尾利彦：服薬アドヒアランスへの心理士による関わり（シンポジウム8「STR時代の服薬アドヒアランスを再考する」）。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

B-4

上平朝子、坪倉美由紀、中藏伊知郎、廣田和之、上地隆史、田栗貴博、眞能正幸、中森正二：大阪医療センターにおけるCREアウトブレイクの伝播要因の解析。第91回日本感染症学会総会・学術集会、東京、2017年4月7日

中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫、白阪琢磨：当院におけるエルビテグラビル/コビシスタット/エムトリシタビン/テノホビルアラフエナミド配合錠の初回導入例の使用状況。第27回抗ウイルス療法学会学術集会・総会、熊本、2017年5月20日

廣田和之、西田恭治、矢口愛弓、山本雄大、新井 剛、湯川理己、上地隆史、伊熊素子、笠井大介、渡邊 大、上平朝子、巽 啓司、白阪琢磨：血栓止血子宮全摘術の止血管管理に半減期延長型VIII因子製剤を使用した血友病A保因者の一例。第39回血栓止血学会学術集会、名古屋、2017年6月10日

杉山 文、坂宗和明、田中純子、白阪琢磨：HIV感染症患者の服薬アドヒアランス関連因子に関する解析。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017年11月1日

白阪琢磨、渡邊 大、山本政弘、金井 修、上平朝子：感染早期患者に対するMVCによる強化療法の効果に関する研究。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月10日

渡邊 大、上平朝子、鈴木佐知子、松本絵梨奈、笠井大介、廣田和之、南 留美、高濱宗一郎、林 公一、澤村守夫、山本政弘、白阪琢磨：高IFN- γ 血症と高IL-6血症を呈するHIV-1感染者の臨床的特徴に関する検討。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月10日

富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、福田利明、佐光留美、廣田和之、上地隆史、上平朝子、白阪琢磨、山崎邦夫：フェニトイン併用時のドルテグラビルナトリウム血中濃度について検討した一例。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月11日

須磨知美、磯崎聖子、今村 隆、小杉孝子、小辻希世子、松向寺真彩子、田中美知代、西本幸代、溝口由里子、森田眞子、和田野飛鳥：総合病院心理職における“働き方”的多様性について(4) —入院患者への面接枠を設定する際のアセスメント要因を検討する—。日本心理臨床学会第36回大会、横浜、2017年11月19日

白阪琢磨、渡邊 大、山本政弘、南 留美、金井 修、上平朝子：HIV感染早期患者に対するMVCを加えた強化療法の効果と安全性に関する研究。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

白阪琢磨、大金美和、岡 慎一、岡本 学、川戸美由紀、橋本修二、日笠 聰、福武勝幸、八橋 弘：血液製剤によるHIV感染者の調査成績 第1報 CD4値、HIV-RNA量と治療の現状と推移。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

川戸美由紀、橋本修二、大金美和、岡 慎一、岡本 学、福武勝幸、日笠 聰、八橋 弘、白阪琢磨：血液製剤によるHIV感染者の調査成績 第2報 生活状況の概要。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、上平朝子、白阪琢磨：当院におけるART施行中の高齢者を対象とした処方調査。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

下司有加：終末期を迎えるHIV陽性者の支援のあり方。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

水木 薫、安尾利彦、西川歩美、白阪琢磨：HIV陽性者の行動面の障害を伴う問題の心理的背景に関する研究。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

西川歩美、安尾利彦、水木 薫、白阪琢磨：薬害HIV遺族健診事業に関する研究—利用動機、利用上の困難、利用者による事業への評価、健診後の地元医療機関受診状況に関する検討—。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

新井 剛、渡邊 大、上地隆史、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、永井崇之、宮田順之、吉村幸浩、立川夏夫、上平朝子、白阪琢磨：アドヒアランス良好かつ耐性変異が無いウイルスへの抗HIV療法でも、長期間血中HIV-1-RNA量低下を認めなかつた2例。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

横幕能行、伊藤俊広、山本政広、岡 慎一、豊嶋崇徳、田邊嘉也、渡邊珠代、白阪琢磨、藤井輝久、宇佐美雄司、池田和子、吉野宗宏、本田美和子、葛田衣重、小島賢一、内藤俊夫、安藤 稔：拠点病院定期通院者の抗HIV療法によるHIV複製制御の達成度評価—我が国のHIV感染症/エイズ診療体制整備の成果—。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

藤原良次、橋本 謙、山田富秋、種田博之、入江恵子、小川良子、早坂典生、藤原 都、白阪琢磨：血友病由来HIV感染者の心理的支援方法の検討。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

齊藤誠司、村上由佳、飯塚暁子、松井綾香、野村直幸、木梨貴博、坂田達朗、草川 茂、木内 英、前島雅美、渡邊 大：妊婦HIVスクリーニング検査からHIV-2の診断に到つた日本人妊婦例。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

治田匡平、市田裕之、石樋康浩、宇高 歩、日笠真一、尾崎淳子、大槻真央、矢倉裕輝、吉野宗宏、古西 満、杉山幸正：当院におけるART施行中の高齢者を対象とした処方調査。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

渡部恵子、大野稔子、藤田和華子、佐々木晃子、伊藤ひとみ、須藤美絵子、川口 玲、高山次代、羽柴知恵子、東 政美、丸山栄子、長與由紀子、杉野祐子、大金美和、池田和子：全国エイズ診療拠点病院のHIV/AIDS看護体制に関する調査（1）～患者ケア実施の現状と課題に対する検討～。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

佐々木晃子、須藤美絵子、伊藤ひとみ、渡部恵子、大野稔子、藤田和華子、川口 玲、高山次代、羽柴知恵子、東 政美、丸山栄子、長與由紀子、杉野祐子、大金美和、池田和子：全国エイズ診療拠点病院のHIV/AIDS看護体制に関する調査（2）～患者相談内容とその課題からみるHIV担当看護師への支援に関する検討～。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

渡邊 大、矢倉裕輝、櫛田宏幸、富島公介、戸上博昭、平野 淳、高橋昌明、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨：ドルテグラビルの血中濃度

とUGT1A1遺伝子多型が、ドルテグラビル投与後の神経精神系有害事象の発生に与える影響についての検討。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

山本雄大、渡邊 大、湯川理己、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院におけるヒトヘルペスウイルス8型関連疾患の現状。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：日本人 HIV-1 感染症症例におけるテノホビルアラフェナミドを含む1日1回1錠製剤投与時のテノホビル血漿トラフ濃度に関する検討。第31回日本エイズ学会学術集会、東京、2017年11月25日

富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：リトナビル併用ダルナビルからダルナビル・コビシスタット配合剤へ変更した症例の臨床検査値および自覚症状の変化。第31回日本エイズ学会学術集会、東京、2017年11月25日

泉 抽岐、佐保美奈子、西口初江、豊島裕子、井田真由美、井内公仁子、熊谷祐子、岡本友子、白阪琢磨：介護保険施設における感染症予防研修：全職員への出前講座企画。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

岡崎玲子、蜂谷敦子、鴻永博之、渡邊 大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南 留美、吉田 繁、小島洋子、森 治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、猪狩英俊、寒川 整、石ヶ坪良明、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、林田庸総、岡 慎一、松田昌和、重見 麗、濱野章子、横幕能行、渡邊珠代、藤井輝久、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、岩谷靖雅、吉村和久：国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

東 政美、中本弘香、増田雅子、伊藤文代：HIV/AIDS に関する知識習得に向けた情報発信の効果。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

岩橋恒太、生島 嗣、藤田彩子、市川誠一、白阪琢磨：MSM を対象とした献血に関する情報伝達方法および意識調査。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

佐保美奈子、安井典子、三澤朋洋、泉 抽岐、西口初江、堀有優美、田中彩水、岸本晶愛、白阪琢磨、古山美穂、山田加奈子、高 知恵：大阪市 A 地区における介護職の HIV 研修の検討。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

近藤真規子、佐野貴子、長島真美、貞升健志、蜂谷敦子、横幕能行、林田庸総、鴻永博之、渡邊 大、吉村幸浩、立川夏夫、岩室紳也、井戸田一朗、今井光信、加藤真吾、椎野禎一郎、吉村和久：日本で流行するHIV-1 CRF01_AEと周辺アジア諸国における流行株との関連。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

中藏伊知郎、坂倉広大、廣田和之、上地隆史、上平朝子、坪倉美由紀、山崎邦夫：IMP-6型カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌の菌種別薬剤感受性の検討。第33回日本環境感染学会総会・学術集会、東京、2018年2月24日

B-5

矢倉裕輝：抗HIV薬に対する治療薬物モニタリングパネルディスカッション1：感染症領域における治療薬物モニタリング。第65回日本化学療法学会西日本支部総会、長崎、2017年10月26日

中山久仁子、守屋章成、千葉大、菅長麗依、来住知美：あなたの患者さんの旅行は安全ですか～Basic course 1, プライマリ・ケアにおける渡航に伴うリスクマネジメント～。日本プライマリ・ケア連合学会第15回秋季セミナー、大阪、2017年11月12日

B-6

渡邊大、上平朝子、鈴木佐知子、松本絵梨奈、笠井大介、廣田和之、南留美、高濱宗一郎、林公一、澤村守夫、山本政弘、白阪琢磨：高IFN- γ 血症を呈するHIV-1感染者の臨床的特徴に関する検討。第31回近畿エイズ研究会・学術集会、大阪、2017年6月3日

矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、渡邊大、福田利明、佐光留美、上平朝子、山崎邦夫、白阪琢磨：UGT1A1遺伝子多型とドルテグラビル投与時の中枢神経系副作用症状発現の関連。第2回日本臨床薬理学会近畿地方会、大阪、2017年6月10日

B-7

渡邊大：HIV感染症、併発症の最新治療について。北陸ブロック医療等相談会、福井、2017年9月30日。

中内崇夫：トキソプラズマ脳症を発症した一症例。関西HIV臨床カンファレンス2017年度薬剤師部会主催症例検討会、大阪、2018年2月17日

B-8

矢倉裕輝：血友病と個別化治療～薬剤師の立場から～。第7回ヘモフィリアケアセミナー兵庫、兵庫、2017年4月1日

西田恭治：血友病のトータルケアと薬剤師のかかわり。血友病トータルケアセミナー、大阪、2017年4月12日

矢倉裕輝：当院における抗HIV薬の処方トレンド。第5回抗HIV療法プラッショアップセミナー、大阪、2017年5月13日

白阪琢磨：概論。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年5月18日

西田恭治：ノボノルディスク血友病財団の紹介。第17回 Haemostasis 研究会、福岡、2017年5月27日

西田恭治：血友病と薬害エイズ。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年6月1日

白阪琢磨：HIV/AIDS 基礎知識～医療と最新の治療について。大阪府エイズ対策事業 平成29年度 HIV/AIDS 基礎研修、大阪、2017年6月2日

白阪琢磨：HIV の最近の話題と最新治療について。大阪中央病院教育研修、大阪、2017年6月8日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年6月8日

岡本 学：HIV とソーシャルワーク。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年6月8日

白阪琢磨：HIV の最新治療。厚生科研エイズ対策研究事業 第14回 HIV サポートリーダー養成研修、大阪、2017年6月9日

上地隆史：PCP。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年6月15日

伊熊素子：抗酸菌症。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年6月15日

廣田和之：CMV 感染症。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年6月22日

中濱智子：陽性妊婦の看護支援。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年6月22日

西田恭治：保因者のケア妊娠・出産。第2回血友病トータルケアウェブセミナー、大阪、2017年6月22日

西田恭治：患者さんから学ぶ血友病診療の盲点。関西血友病シンポジウム、大阪、2017年6月24日

西田恭治：日本と世界の血友病治療の現状と課題～日本の「輸出貿易管理令」と「国際貢献」～。血友病に関するメディア勉強会、東京、2017年6月28日

下司有加：HIV/AIDS の基礎知識（疾患・治療・職務感染時の対応）。厚生労働行政推進調査

事業費補助金エイズ対策政策研究事業主催訪問看護師研修会、静岡、2017年7月1日

東 政美：HIV陽性者の療養支援。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業主催訪問看護師研修会、静岡、2017年7月1日

西川歩美：ファシリテーション。平成29年度遺族交流会、宮城、2017年7月1-2日

西田恭治：成人の再教育。第14回血友病看護フォーラム、東京、2017年7月2日

白阪琢磨：HIV陽性者の人権課題～HIV、AIDS等の現状と課題～。大阪府人権総合講座 人権相談員養成コース、大阪、2017年7月6日

白阪琢磨：HIV/AIDSの最新医療状況や一般的な症例について、及び梅毒の基礎知識について。特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター平成29年度総会・講演会、大阪、2017年7月8日

矢倉裕輝：薬剤師の視点からみたCROI2017。関西HIV臨床カンファレンス2017年度薬剤師部会主催講演会、大阪、2017年7月8日

大山好弘：ファシリテーション。平成29年度患者家族担当相談員研修会、大阪、2017年7月15日

白阪琢磨：HIV医療の現状について。高槻病院院内感染対策研修会、高槻、2017年7月24日

西田恭治：血友病をとりまく世界の潮流と日本の動き。コバールトライwebカンファレンス、大阪、2017年8月7日

白阪琢磨、下司有加、岡本一学：HIV感染症と看護・介護上の標準予防策の実際。浜寺中央病院職員向けHIV感染症研修、堺、2017年8月9日

西田恭治：取り残された血友病保因者問題－血友病AとB保因者の違い－。第3回西日本血友病B研究会、福岡、2017年8月19日

大山好弘：ファシリテーション。平成29年度遺族担当相談員研修会、大阪、2017年8月27日

西川歩美：ファシリテーション。平成29年度遺族相談員研修、大阪、2017年8月27日

下司有加：HIV/AIDSの基礎知識（疾患・治療・職務感染時の対応）。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業主催訪問看護師研修会、京都、2017年9月2日

東 政美：HIV陽性者の療養支援。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究

事業主催訪問看護師研修会、京都、2017年9月2日

渡邊 大 : HIV/AIDS の基礎知識 (HIV 感染症・抗体検査・日和見疾患・治療)。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2017 年 9 月 4 日

矢倉裕輝 : 抗 HIV 療法について～服薬支援の重要性～。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2017 年 9 月 4 日

西田恭治 : HIV/AIDS 患者の背景 (薬害エイズについて)。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2017 年 9 月 4 日

岡本 学 : 社会資源の活用について。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2017 年 9 月 4 日

中濱智子 : HIV/AIDS の概要 (歴史・動向)。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2017 年 9 月 5 日

森田眞子 : HIV 陽性者の心理的支援。および HIV 陽性者の看護③チーム医療 : チーム診療の実際。HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2017 年 9 月 5 日

東 政美 : HIV 陽性者の看護①療養支援 (外来受診者の動向・外来療養支援の実際)。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2017 年 9 月 5 日

下司有加 : HIV 陽性者の看護②HIV 陽性者の療養支援における課題。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2017 年 9 月 5 日

辻 宏幸 : NGO のとりくみ。平成 29 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017 年 9 月 7 日

白阪琢磨 : HIV/エイズの基礎知識と施設での受け入れについて。高齢者等介護施設のための HIV/エイズ研修会、大阪、2017 年 9 月 8 日

西田恭治 : 検査・診断、止血管理の実際、インヒビター出現症例への対応、保因者ケア、ライフステージ・活動性を考慮した治療マネジメント。THE NEXT 2017、大阪、2017 年 9 月 9 日・10 日

上平朝子 : HIV 感染症の基礎知識。平成 29 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2016 年 9 月 12 日

渡邊 大 : HIV 感染症の診断。平成 29 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017 年 9 月 12 日

白阪琢磨 : HIV 感染症の疫学。平成 29 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017

年9月13日

山本雄大：KS、症例提示。平成29年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017年9月13日

伊熊素子：女性とHIV。平成29年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017年9月13日

富島公介：薬剤師の役割と服薬指導。平成29年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017年9月14日

上地隆史：HIV脳症、PML、呼吸器疾患。平成29年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017年9月14日

森田眞子：HIVとカウンセリング。平成29年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017年9月14日

中濱智子：陽性妊婦の看護支援。平成29年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017年9月15日

廣田和之：STD（性行為感染症）の診断。平成29年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017年9月15日

森田眞子：HIV心理臨床について～HIVに関わる心理士として、気になる事柄～。第141回岡山HIV診療ネットワーク研究会、岡山、2017年9月16日

安尾利彦：症例提供。大阪精神分析セミナー、大阪、2017年9月17日

矢倉裕輝：高齢者のARTで考慮すべきポイント～高齢化に伴う薬物動態の変化と留意すべき相互作用～。第2回HIVファーマシストフォーラム、東京、2017年9月23日

水木薰：事例提供。近畿ブロックHIV医療におけるカウンセリング研修会、大阪、2017年9月29日

西田恭治：オーバービュー保因者問題とは－日本の現状と課題－。バイエルヘルモフィリアセミナー2017－保因者を考える－、広島、2017年9月30日

白阪琢磨：疫学と抗HIV治療ガイドライン。平成29年度HIV感染症研修会、大阪、2017年10月2日

渡邊 大：HIV感染症の診断。平成29年度HIV感染症研修会、大阪、2017年10月2日

矢倉裕輝：抗HIV薬の特徴と薬剤師の役割。平成29年度HIV感染症研修会、大阪、2017年

10月 2日

渡邊 大、矢倉裕輝：初回抗 HIV 療法の実際。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 2 日

西田恭治：血友病診療・凝固因子製剤の使い方。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 2 日

岡本 学：HIV 感染者に対するソーシャルワーク。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 2 日

上地隆史：日和見感染症（PCP）。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

廣田和之：日和見感染症（CMV）。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

伊熊素子：日和見感染症（抗酸菌症）。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

廣田和之、伊熊素子、上地隆史：症例検討（医師・薬剤師向け）。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

下司有加、矢倉裕輝、富田朋子：チーム医療の実際～多職種との協働～。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

上平朝子：針刺し暴露後対策。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

東 政美：外来・病棟看護と療養支援。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

安尾利彦：HIV とカウンセリング。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 3 日

岡本 学：HIV 感染症と物質依存。平成 29 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 5 日

東 政美：在宅療養支援の実際。平成 29 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 10 日

山本雄大：日和見感染症診療（カンジダ症・KS 他）。平成 29 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 11 日

渡邊 大：HIV 急性感染。平成 29 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 11 日

西田恭治：血友病診療の実際。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1ヶ月コース）、大阪、2017年 10 月 11 日

上平朝子：免疫再構築症候群（IRIS）。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 12 日

来住知美：女性と性感染症。HIV 検査に関わるスタッフ研修会 ChotCAST なんば、大阪、2017 年 10 月 14 日

中濱智子：陽性妊婦の看護支援。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 17 日

渡邊 大：抗 HIV 療法の副作用と薬剤耐性。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 19 日

上地隆史：結核の診断・治療・感染対策。院内定期講演会、大阪、2017 年 10 月 19 日

白阪琢磨：基調講演。大阪中之島ロータリークラブ創立 25 周年記念式典、大阪、2017 年 10 月 21 日

安尾利彦：神経心理検査と事例検討。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 23 日

上地隆史：日和見感染症診療（HIV 脳症、PML、クリプトコッカス症）。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 24 日

廣田和之：STD（性行為感染症）の診療。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 25 日

富島公介：HIV と服薬指導。平成 29 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017 年 10 月 26 日

東 政美：HIV 陽性者の外来支援。平成 29 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017 年 10 月 26 日

森田眞子：グループワークファシリテーション。エイズ予防財団平成 29 年度 HIV 検査相談研修会、大阪、2017 年 10 月 26・27 日

白阪琢磨：HIV の最新治療。厚生科研エイズ対策研究事業 第 15 回 HIV サポートリーダー養成研修、大阪、2017 年 10 月 27 日

西田恭治：取り残された血友病保因者問題～明日からの取り組みにむけて～。第 12 回北陸ヘモフィリアセミナー、金沢、2017 年 10 月 28 日

白阪琢磨：HIV/AIDS の基礎知識（疾患・治療・職務感染時の対応）。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業主催訪問看護師研修会、大分、2017年10月28日

下司有加：事例検討・グループワーク。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業主催訪問看護師研修会、大分、2017年10月28日

東政美：HIV陽性者の療養支援。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業主催訪問看護師研修会、大分、2017年10月28日

上平朝子：HIV針刺し暴露後予防。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年11月2日

森田眞子：HIVとカウンセリング。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2017年11月2日

渡邊大：HIV/AIDSの基礎知識（HIV感染症・抗体検査・日和見疾患・治療）。平成29年度HIV/AIDS看護師研修初心者コース、大阪、2017年11月6日

森田眞子：HIV陽性者の心理的支援。HIV/AIDS看護師研修会初心者コース、大阪、2017年11月6日

森田眞子：HIV陽性者の看護③チーム医療：チーム診療の実際。HIV/AIDS看護師研修会初心者コース、大阪、2017年11月7日

白阪琢磨：現代的健康課題についてーHIV/エイズや性感染症についてー。大阪府平成29年度新規採用養護教諭研修（第10回）、大阪、2017年11月16日

富田朋子：ファシリテーション。平成29年度薬害HIV遺族交流会、京都、2017年11月19日

安尾利彦：ファシリテーション。平成29年度薬害HIV遺族交流会、京都、2017年11月19日

宮本哲雄：ファシリテーション。平成29年度薬害HIV遺族交流会、京都、2017年11月19日

西川歩美：ファシリテーション。平成29年度薬害HIV遺族交流会、京都、2017年11月19日

森田眞子：ファシリテーション。平成29年度薬害HIV遺族交流会、京都、2017年11月19日

大山好弘：ファシリテーション。平成 29 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2017 年 11 月 19 日

白阪琢磨：HIV/AIDS の現状と支援。大阪府立大学公衆衛生看護学 I、大阪、2017 年 11 月 28 日

白阪琢磨：HIV 感染症・治療。大阪赤十字看護専門学校 講義、大阪、2017 年 12 月 6 日

矢倉裕輝：頻用されている薬剤の現状と課題。第 6 回抗 HIV 療法ブラッシュアップセミナー、大阪、2017 年 12 月 9 日

速見佳子：HIV 感染の記憶のない HIV 陽性男性との面接。日本ユング派分析家協会グループ スーパーヴィジョン（川戸圓先生）、大阪、2017 年 12 月 9 日

来住知美：ココロとカラダの健康教室。性感染症予防のための出前授業、和泉、2017 年 12 月 15 日

矢倉裕輝：研究データを HIV 患者の服薬支援・薬物治療マネジメントに活かす。抗 HIV 療法 アドバンスセミナー、福岡、2018 年 1 月 13 日

矢倉裕輝：外来受診 HIV 患者の服薬支援における薬剤師の役割。抗 HIV 療法ステップアップ セミナー、福岡、2018 年 1 月 13 日

上地隆史：日和見疾患の病態と治療（ニューモシスチス肺炎 サイトメガロウイルス網膜炎 HIV 脳症）。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2018 年 1 月 15 日

矢倉裕輝：服薬支援の実際～服薬スケジュールの組み方・服薬継続への関わり～。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2018 年 1 月 15 日

廣田和之：性感染症の基礎知識。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2018 年 1 月 15 日

伊熊素子：HIV 陽性妊娠の治療と支援。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2018 年 1 月 15 日

中濱智子：周産期看護の実際。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2018 年 1 月 15 日

中濱智子：困難症例の実際（外来）。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2018 年 1 月 15 日

東政美：初診時の問診について。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2018 年 1 月 16 日

白阪琢磨：HIV 感染症で期待される病診連携と課題～一般診療所における対応～。大阪府医師会「平成 29 年度 HIV 地域医療連携研修会」、大阪、2018 年 1 月 31 日

上平朝子：大阪医療センターでの CRE アウトブレイクの経験。大阪市立総合医療センター、大阪、2018 年 2 月 2 日

廣田和之：ニューモシスティス肺炎の治療中に治療困難となった症例集。関西 HIV 臨床カンファレンス 若手医師のための診療スキルアップセミナー、大阪、2018 年 2 月 3 日

安尾利彦：HIV 医療におけるカウンセリング。島根県臨床心理士会 HIV/AIDS カウンセラー研修会、島根、2018 年 2 月 10 日

西川歩美：ファシリテーション。平成 29 年度遺族等相談事業相談員研修、大阪、2018 年 2 月 11 日

大山好弘：ファシリテーション。平成 29 年度遺族等相談事業相談員研修会、大阪、2018 年 2 月 11 日

白阪琢磨：日本におけるエイズ患者の実態。滋慶医療経営管理研究センター平成 29 年度新入職者導入教育プログラム、大阪、2018 年 2 月 21 日

下司有加：HIV/AIDS の基礎知識。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業主催訪問看護師研修会、山口、2018 年 3 月 3 日

東 政美：HIV 陽性者の療養支援。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業主催訪問看護師研修会、山口、2018 年 3 月 3 日

白阪琢磨：日本におけるエイズ患者の実態。大阪保健福祉専門学校 講義、大阪、2018 年 3 月 12 日

西田恭治、変わるか？保因者を含めた軽・中等症血友病患者の止血管理。近畿 Hemophilia Seminar、大阪、2018 年 3 月 17 日

廣田和之：現在の血友病治療。関西 HIV 臨床カンファレンス 看護部会主催講演会、大阪、2018 年 3 月 24 日

下司有加：血友病患者の看護。関西 HIV 臨床カンファレンス 看護部会主催講演会、大阪、2018 年 3 月 24 日

B-9

白阪琢磨：性感染症について。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2017 年 4 月 29 日放送

矢倉裕輝：感染症 today 「HIV 感染症の服薬指導」、ラジオ NIKKEI、大阪、2017年 6月 14 日

白阪琢磨：HIV 検査促進の啓発活動について。NHK ラジオ第 1「ごごラジ」、東京、2017 年 9 月 21 日、(再放送) 12 月 2 日

白阪琢磨：明日へのことば「エイズ治療最前線の 30 年」。NHK 関西発ラジオ深夜便)、NHK ラジオ第 1、2017 年 11 月 11 日

白阪琢磨：性感染症について①。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2017 年 11 月 11 日

白阪琢磨：性感染症について②。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2017 年 11 月 18 日

白阪琢磨：性感染症について③。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2017 年 11 月 25 日

HIV 感染制御研究室

室長 渡邊 大

当研究室は、白阪琢磨が室長を兼任しているエイズ先端医療開発室と共同で、HIV 感染症の診療における多く問題に対して研究を行っております。

近年の抗 HIV 療法の進歩により、多くの症例でウイルス抑制が得られるようになりました (Jpn J Infect Dis. 2017)。しかし、長期間生存している潜伏感染細胞を駆逐できないが故に、一生の内服加療を強いられます。細胞中の残存プロウイルス量は、抗 HIV 療法を行っている場合、潜伏感染細胞数を示していると考えられています。我々は残存プロウイルス量の高感度の測定法の開発を行い、早期に治療を開始した症例では残存プロウイルス量が低く抑えられていることを明らかにしました (BMC Infect Dis. 2011)。

抗 HIV 療法によって長期間血中ウイルス量が測定感度未満に押さえられていたとしても、免疫系は改善に回復したわけではありません。その例として、ウイルス量が抑えられていた症例においても血中インターフェロン γ が持続的に高値を示す症例が存在すること (Viral Immunol. 2010)、水痘帶状疱疹ウイルスに対する細胞性免疫の回復は不十分なこと (J Med Virol. 2013) を報告しました。抗 HIV 薬の副作用も完全には解決されていません。テノホビルによって血中ミトコンドリア CK 活性は上昇すること (J Infect Chemother. 2012)、ドルテグラビルの神経精神系有害事象はその血中濃度や UGT1A1 遺伝子多型と関連すること (BMC Infect Dis. 2017)、ドルテグラビル投与例における腎機能評価が困難であること (J Infect Chemother. 2018) ddi の長期内服に伴う非硬性門脈圧亢進症を呈した症例 (J Infect Chemother. 2014) を報告しました。

薬剤耐性検査や薬剤血中濃度は HIV 感染者の治療において欠かすことのできない検査です。当研究室ではこれらに関する研究も行っております (Antiviral Res. 2010, J Infect Chemother. 2015, Inter Med. 2016)。

抗 HIV 療法以外にも、さまざまな課題が残されています。急性 HIV 感染症 (AIDS Res Ther. 2015)、ヒトヘルペス 8 感染症 (J Infect Chemother. 2017, Inter Med. 2014)、ウイルス性肝炎、発がんの問題などがあげられます。当研究室では、厚生労働省エイズ対策研究事業を中心に、この病態における問題点の解明に取り組み、多施設共同臨床調査や臨床的課題について取り組んでおります。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Miyazaki N, Sugiura W, Gatanaga H, Watanabe D, Yamamoto Y, Yokomaku Y, Yoshimura K, Matsushita S, the Japanese HIV-MDR Study Group: High antiretroviral coverage and viral suppression prevalence in Japan: an excellent profile for downstream HIV care spectrum. 「Jpn J Infect Dis.」 70(2):P.158-160、2017 年 3 月 24 日

Watanabe D, Yamamoto Y, Suzuki S, Ashida M, Matsumoto E, Yukawa S, Hirota K, Ikuma M, Ueji T, Kasai D, Nishida Y, Uehira T, Shirasaka T: Cross-sectional and longitudinal investigation of human

herpesvirus 8 seroprevalence in HIV-1-infected individuals in Osaka, Japan. 「J Infect Chemother.」 23(4):P.201-205、2017年4月

Yagura H, Watanabe D, Kushida H, Tomishima K, Togami H, Hirano A, Takahashi M, Hirota K, Ikuma M, Kasai D, Nishida Y, Yoshino M, Yamazaki K, Uehira T, Shirasaka T : Impact of UGT1A1 gene polymorphisms on plasma dolutegravir trough concentrations and neuropsychiatric adverse events in Japanese individuals infected with HIV-1. 「BMC Infect Dis.」 7(1) : P.622、2017年9月16日

Yukawa S, Watanabe D, Uehira T, Shirasaka T: Clinical benefits of using inulin clearance and cystatin C for determining glomerular filtration rate in HIV-1-infected individuals treated with dolutegravir. 「J Infect Chemother.」 24(3):P.199-205、2018年3月

A-3

光井絵理、加藤 研、安部倉竹紗、種田灯子、廣田和之、矢嶋敬史郎、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨、瀧 秀樹 : HIV 感染症治療中に1型糖尿病とバセドウ病を発症し免疫再構築症候群と考えられた1例「糖尿病」 60(4):P.295-300、日本糖尿病学会、2017年4月30日。

A-5

渡邊 大 : ゲンボイヤ[®]配合錠の使用経験 「第91回日本感染症学会総会・学術講演会（ランチョンセミナー8）記録集」、2017年7月発行

渡邊 大 : 近畿ブロックのHIV医療体制整備。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業） 「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」 平成29年度研究報告書、P.48-51、2018年3月31日

B-2

Togami H, Yagura H, Hirano A, Takahashi M, Yoshino M, Abe K, Oishi Y, Takematsu S, Kakigoshi S, Yamamoto Y, Ito T, Yamamoto M, Mizumori Y, Kanei O, Utsumi M, Watanabe D, Yokomaku Y, Shirasaka T: Correlation between UGT1A1*6 and *28 genotype, and plasma dolutegravir concentrations in Japanese HIV-1 infected patients. 9th IAS Conference on HIV Science (MOPEB0328), Paris, France, 2017年7月24日

B-3

渡邊 大 : Tenofovir Alafenamide based regimen の臨床的有用性（ランチョンセミナー） ゲンボイヤ[®]配合錠の使用経験。第91回日本感染症学会総会・学術講演会、東京、2017年4月6日

渡邊 大 : プロテアーゼ阻害剤による抗HIV治療戦略（ランチョンセミナー）。プレジコビックス[®]配合錠の臨床的役割と使用経験。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

B-4

中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫、白阪

琢磨：当院におけるエルビテグラビル/コビシスタッフ/エムトリシタシン/テノホビルアラフエナミド配合錠の初回導入例の使用状況。第27回抗ウイルス療法学会学術集会・総会、熊本、2017年5月20日

廣田和之、西田恭治、矢口愛弓、山本雄大、新井 剛、湯川理己、上地隆史、伊熊素子、笠井大介、渡邊 大、上平朝子、巽 啓司、白阪琢磨：血栓止血子宮全摘術の止血管管理に半減期延長型VIII因子製剤を使用した血友病A保因者の一例。第39回血栓止血学会学術集会、名古屋、2017年6月10日

白阪琢磨、渡邊 大、山本政弘、金井 修、上平朝子：感染早期患者に対するMVCによる強化療法の効果に関する研究。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月10日

渡邊 大、上平朝子、鈴木佐知子、松本絵梨奈、笠井大介、廣田和之、南 留美、高濱宗一郎、林 公一、澤村守夫、山本政弘、白阪琢磨：高IFN- γ 血症と高IL-6血症を呈するHIV-1感染者の臨床的特徴に関する検討。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月10日

白阪琢磨、渡邊 大、山本政弘、南 留美、金井 修、上平朝子：HIV感染早期患者に対するMVCを加えた強化療法の効果と安全性に関する研究。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

新井 剛、渡邊 大、上地隆史、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、永井崇之、宮田順之、吉村幸浩、立川夏夫、上平朝子、白阪琢磨：アドヒアラ NS良好かつ耐性変異が無いウイルスへの抗HIV療法でも、長期間血中HIV-1-RNA量低下を認めなかつた2例。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

齊藤誠司、村上由佳、飯塚暁子、松井綾香、野村直幸、木梨貴博、坂田達朗、草川 茂、木内 英、前島雅美、渡邊 大：妊娠HIVスクリーニング検査からHIV-2の診断に到つた日本人妊娠例。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

渡邊 大、矢倉裕輝、櫛田宏幸、富島公介、戸上博昭、平野 淳、高橋昌明、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨：ドルテグラビルの血中濃度とUGT1A1遺伝子多型が、ドルテグラビル投与後の神経精神系有害事象の発生に与える影響についての検討。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

山本雄大、渡邊 大、湯川理己、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院におけるヒトヘルペスウイルス8型関連疾患の現状。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：日本人HIV-1感染症症例におけるテノホビルアラフェナミドを含む1日1回1錠製剤投与時のテノホビル血漿トラップ濃度に関する検討。第31回日本エイズ学会学術集会、東京、2017年11月25日

富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：リトナビル併用ダルナビルからダルナビル・コビシスタット配合剤へ変更した症例の臨床検査値および自覚症状の変化。第31回日本エイズ学会学術集会、東京、2017年11月25日

岡崎玲子、蜂谷敦子、潟永博之、渡邊 大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南 留美、吉田 繁、小島洋子、森 治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、猪狩英俊、寒川 整、石ヶ坪良明、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、林田庸総、岡 慎一、松田昌和、重見 麗、濱野章子、横幕能行、渡邊珠代、藤井輝久、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、岩谷靖雅、吉村和久：国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

近藤真規子、佐野貴子、長島真美、貞升健志、蜂谷敦子、横幕能行、林田庸総、潟永博之、渡邊 大、吉村幸浩、立川夏夫、岩室紳也、井戸田一朗、今井光信、加藤真吾、椎野禎一郎、吉村和久：日本で流行するHIV-1 CRF01_AEと周辺アジア諸国における流行株との関連。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

B-6

渡邊 大、上平朝子、鈴木佐知子、松本絵梨奈、笠井大介、廣田和之、南 留美、高濱宗一郎、林 公一、澤村守夫、山本政弘、白阪琢磨：高IFN- γ 血症を呈するHIV-1感染者の臨床的特徴に関する検討。第31回近畿エイズ研究会・学術集会、大阪、2017年6月3日

矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、渡邊 大、福田利明、佐光留美、上平朝子、山崎邦夫、白阪琢磨：UGT1A1遺伝子多型とドルテグラビル投与時の中枢神経系副作用症状発現の関連。第2回日本臨床薬理学会近畿地方会、大阪、2017年6月10日

B-7

渡邊 大：HIV感染症、併発症の最新治療について。北陸ブロック医療等相談会、福井、2017年9月30日。

B-8

渡邊 大：HIV感染症の診断。平成29年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生実習、大阪、2017年6月8日

渡邊 大：HIV/AIDSの基礎知識（HIV感染症・抗体検査・日和見疾患・治療）。平成29年度HIV/AIDS看護師研修初心者コース、大阪、2017年9月4日

渡邊 大：HIV感染症の診断。平成29年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2017年9月12日

渡邊 大：HIV感染症の診断。平成29年度HIV感染症研修会、大阪、2017年10月2日

渡邊 大、矢倉裕輝：初回抗 HIV 療法の実際。平成 29 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 2 日

渡邊 大：HIV 急性感染。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 11 日

渡邊 大：抗 HIV 療法の副作用と薬剤耐性。平成 29 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2017 年 10 月 19 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識（HIV 感染症・抗体検査・日和見疾患・治療）。平成 29 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2017 年 11 月 6 日

臨床疫学研究室

室長 三田英治

臨床疫学研究室は主に消化器疾患の病態を分子疫学面から検証し、最適な治療方法や安全性を検討しています。代表的な研究内容を示します。

C型肝炎に関しては、ペグインターフェロン・リバビリン併用療法で治療効果を規定したIL-28BのSNPが引き続きインターフェロンフリー治療でも重要な意味を持つかを検討しています。また心機能低下や腎機能低下症例に対する抗HCV療法の安全性を調査しています。Genotype 3型は1型や2型に比べても難治例と言えますが、ソホスブビル・リバビリン併用24週治療の有効性と安全性を検証しています。HIV感染合併例でのインターフェロンフリー治療の成績もまとめており、抗レトロウイルス治療との薬物相互作用も検討しています。

次にB型肝炎では、核酸アナログの長期投与成績から導かれる耐性化の問題点を検討しています。そしてラミブジン・アデホビル併用療法効果不良例に対し、アデホビルをTDFに切り替えることの有効性と安全性を明らかにしました。現在はさらにTDFからTAFへの切り替えを検証しています。近年散発的に発生しているB型急性肝炎ではgenotype Aが大半を占めますが、その特徴を解析し、慢性化への関与についても検討しています。またHIV感染がB型急性肝炎の重症度に与える影響についても検討しています。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Sakakibara Y, Nakazuru S, Kodama Y, Mita E : Acute pancreatitis caused by cytomegalovirus-associated duodenal papillitis. Ann Gastroenterol. 31(1) : P122, 2018年1月

Akasaka T, Takeuchi Y, Ishida H, Mita E : A novel gel immersion technique using a bipolar needle-knife in endoscopic submucosal dissection for superficial gastrointestinal neoplasms. Ann Gastroenterol. 31(2) : P247, 2018年3-4月

Yoshio T, Tomida H, Iwasaki R, Horiuchi Y, Omae M, Ishiyama A, Hirasawa T, Yamamoto Y, Tsuchida T, Fujisaki J, Yamada T, Mita E, Ninomiya T, Michitaka K, Igarashi M : Effect of direct oral anticoagulants on the risk of delayed bleeding after gastric endoscopic submucosal dissection. Dig Endosc 29(6):686-694. 2017年9月

Morishita N, Hiramatsu N, Oze T, Urabe A, Tahata Y, Yamada R, Yakushijin T, Hosui A, Iio S, Yamada A, Hagiwara H, Mita E, Yamada Y, Ito T, Inada M, Katayama K, Yabuuchi I, Imai Y, Hikita H, Sakamori R, Yoshida Y, Tatsumi T, Hayashi N, Takehara T : Ultra-deep sequencing analysis of resistance-associated variants during retreatment with simeprevir-based triple therapy after failure of telaprevir-based triple therapy in patients with genotype 1 hepatitis C virus infection. Hepatol Res 47(8):773-782. 2017年7月

Hirao M, Yamada T, Michida T, Nishikawa K, Hamakawa T, Mita E, Mano M, Sekimoto M : Peritoneal Seeding after Gastric Perforation during Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Cancer. Dig Surg

2017年11月8日

A-2

中水流正一、三田英治：肝機能障害・高ビリルビン血症一起因薬物の早期中止を－「乳がん薬物療法副作用マネジメントプロのコツ」増田慎三編集、P.178-181、メジカルビュー社、東京、2017年9月14日

B-2

Shoji A, Hasegawa H, Fujii Y, Kato S, Kiyota R, Shinkai K, Tashiro T, Ishihara A, Iwasaki T, Tanaka T, Akasaka T, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Hirao M, Mita E : Efficacy and prognostic factor analysis in second-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer. American Society of Clinical Oncology 2018, San Francisco, 2018年1月18日

Nakamura M, Mita E, Kiso S, Ohe K, Enjoji M : Nicotinamide ameliorates hepatic steatosis via sirtuin activation. European Association for the Study of the Liver, Rome, Italy, 2017年11月

Kato S, Yamada T, Fujii Y, Shoji A, Kiyota R, Shinkai K, Tashiro T, Ishihara A, Iwasaki T, Tanaka S, Hasegawa H, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Mita E : *Helicobacter pylori* infection status in human immunodeficiency virus-positive patients. United European Gastroenterology 2017, Barcelona, 2017年10月30日

Kiyota R, Yamada T, Kato S, Shoji A, Shinkai K, Tashiro T, Nakagawa K, Ishihara A, Iwasaki T, Nishio K, Hasegawa H, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Uehira T, Mita E : Utility of Immunostaining in the Diagnosis of Gastrointestinal Kaposi's Sarcoma Related to Acquired Immunodeficiency Syndrome: A Retrospective Study. DDW 2017, Chicago, 2017年5月7日

B-3

石田 永、石原朗雄、三田英治：HIV感染を伴うC型慢性肝炎に対するインターフェロンフリーゲン治療の成績について。第53回日本肝臓学会総会、広島、2017年6月8日

長谷川裕子、平尾素宏、三田英治：Management of chemotherapy in elderly patients with metastatic gastric cancer. 第59回日本消化器病学会大会、福岡、2017年10月12日

榎原祐子、山田拓哉、三田英治：HIV感染者にみられる消化管感染症。第93回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017年5月11日

榎原祐子、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、田代 拓、清田良介、新海数馬、岩崎哲也、石原朗雄、田中聰司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：当院における上部消化管出血に対する緊急内視鏡検査の現状。第14回日本消化管学会総会学術集会、東京、2018年2月9日

B-4

新海数馬、榎原祐子、加藤聖也、庄司絢香、清田良介、田代 拓、中川健太郎、石原朗雄、

岩崎哲也、西尾公美子、長谷川裕子、山田拓哉、中水流正一、石田 永、三田英治：当院における大腸ステント留置術の成績。第 93 回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017 年 5 月 12 日

新海数馬、石田 永、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、清田良介、田代 拓、石原朗雄、岩崎哲也、田中聰司、長谷川裕子、赤坂智史、榎原祐子、中水流正一、三田英治：当院におけるエンテカビル治療中の HBs 抗原価の推移。第 21 回日本肝臓学会大会、福岡、2017 年 10 月 13 日

庄司絢香、長谷川裕子、加藤聖也、清田良介、新海数馬、田代 拓、中川健太郎、石原朗雄、岩崎哲也、西尾公美子、榎原祐子、山田拓哉、中水流正一、石田 永、平尾素宏、三田英治：当院における高齢者切除不能胃癌に対する化学療法の検討。第 59 回日本消化器病学会大会、福岡、2017 年 10 月 14 日

庄司絢香、榎原祐子、中川健太郎、加藤聖也、清田良介、新海数馬、田代 拓、石原朗雄、岩崎哲也、西尾公美子、長谷川裕子、山田拓哉、中水流正一、石田 永、三田英治：虚血性大腸炎の発症部位別にみた背景疾患と臨床経過の検討。第 93 回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017 年 5 月 13 日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、西尾公美子、榎原祐子、山田拓哉、中水流正一、石田 永、平尾素宏、三田英治：転移を有する切除不能大腸癌の予後とその予後に影響を与える因子についての検討。第 15 回日本臨床腫瘍学会、神戸、2017 年 7 月 29 日

田代 拓、山田拓哉、加藤聖也、庄司絢香、新海数馬、清田良介、中川健太郎、岩崎哲也、石原朗雄、長谷川裕子、西尾公美子、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：肝硬変を合併した血友病患者に対する内視鏡的食道胃静脈瘤治療の検討。第 93 回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017 年 5 月 11 日

加藤聖也、山田拓哉、藤井祥史、庄司絢香、清田良介、新海数馬、田代 拓、中川健太郎、岩崎哲也、石原朗雄、岩崎哲也、田中聰司、赤坂智史、西尾公美子、長谷川裕子、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：当院における HIV 感染者の *H.pylori* 感染に関する検討。第 93 回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017 年 5 月 12 日

清田良介、山田拓哉、庄司絢香、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、中川健太郎、岩崎哲也、石原朗雄、西尾公美子、長谷川裕子、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：HIV 感染者に発症した消化管カポジ肉腫に対する内視鏡的診断と病理組織診断の検討。第 93 回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017 年 5 月 12 日

中川健太郎、山田拓哉、庄司絢香、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、清田良介、岩崎哲也、石原朗雄、西尾公美子、長谷川裕子、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：HIV 感染者に認めた食道潰瘍についての検討。第 93 回日本消化器内視鏡学会総会、大阪、2017 年 5 月 12 日

榎原祐子、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、田代 拓、清田良介、新海数馬、岩崎哲也、石原朗雄、田中聰司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：閉塞性大腸癌に対する Bridge to Surgery としての大腸ステントの有用性の検討。第 59 回日本消化器病学会大会、福岡、2017 年 10 月 13 日

B-5

石原朗雄、田中聰司、石田 永、三田英治：HIV/HBV 重複感染者に対する TDF 含有 ART における反応不良例の解析。第 107 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2017 年 9 月 23 日

清田良介、石原朗雄、加藤聖也、庄司綾香、田代 拓、新海数馬、中川健太郎、岩崎哲也、長谷川祐子、西尾公美子、山田拓哉、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：胆管障害予防のため ENBD tube から冷却水還流下にラジオ波焼灼術を施行した一例。第 53 回日本肝癌研究会、東京、2017 年 7 月 6 日

藤井祥史、石原朗雄、加藤聖也、庄司綾香、清田良介、田代 拓、新海数馬、岩崎哲也、田中聰司、長谷川祐子、赤坂智史、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：ソラフェニブ投与中に重篤な間質性肺炎をきたし死亡した一例。第 42 回日本肝臓学会西部会、福岡、2017 年 11 月 30 日

庄司絢香、長谷川裕子、石田 永、三田英治：高齢者切除不能胃癌に対するシスプラチン併用療法と予後について。第 107 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2017 年 9 月 6 日

岩崎哲也、中水流正一、石田 永、三田英治：胆管炎を合併した悪性腫瘍術後再建腸管症例に対するダブルバルーン内視鏡を用いた ERCP の有用性に関する検討。第 107 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2017 年 9 月 23 日

谷田将志、田中聰司、新海数馬、石原朗雄、長谷川裕子、赤坂智史、榎原祐子、中水流正二、石田 永、三田英治：ステロイド投与が奏効した IgA 血管炎に伴う多発十二指腸潰瘍の一例。第 217 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2017 年 9 月 16 日

河本泰治、田中聰司、石原朗雄、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、清田良介、新海数馬、田代 拓、岩崎哲也、長谷川裕子、赤坂智史、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：Gilbert 症候群に遺伝性球状赤血球症が合併し著明な間接型優位の高ビリルビン血症を呈した一例。第 42 回日本肝臓学会西部会、福岡、2017 年 11 月 30 日

三田英治、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、清田良介、新海数馬、田代 拓、岩崎哲也、石原朗雄、長谷川裕子、赤坂智史、田中聰司、榎原祐子、中水流正一、石田 永：HIV 感染合併 Genotype 3 型 C 型肝炎に対する Sofosbuvir・Ribavirin 併用 24 週治療の成績。第 42 回日本肝臓学会西部会、福岡、2017 年 11 月 30 日

B-6

東 優希、岩崎哲也、加藤聖也、庄司絢香、清田良介、新海数馬、田代 拓、中川健太郎、石原朗雄、西尾公美子、長谷川裕子、榎原祐子、山田拓哉、中水流正一、石田 永、三田英

治：1型 von Willebrand 病（vWD）に合併した上部空腸 angiodysplasia からの出血に対し、止血処置した1例。第98回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、神戸、2017年6月17日

岩崎哲也、山田拓哉、加藤聖也、庄司絢香、清田良介、新海数馬、田代 拓、中川健太郎、石原朗雄、西尾公美子、長谷川裕子、榎原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：術後再建腸管症例の肝内結石に対し経口胆道鏡（Spyglass DS）を用いて効率的に採石し得た一例。第98回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、神戸、2017年6月17日

榎原祐子、山田拓哉、清田良介、庄司絢香、加藤聖也、新海数馬、田代 拓、中川健太郎、石原朗雄、岩崎哲也、長谷川裕子、西尾公美子、山田拓哉、中水流正一、石田 永、三田英治：当院における胃 MALT リンパ腫の内視鏡診断と治療。第23回日本ヘリコバクター学会、函館、2017年7月1日

宮崎哲郎、榎原祐子、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、新海数馬、清田良介、田代 拓、石原朗雄、岩崎哲也、田中聰司、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：クローン病に併発した IgA 血管炎の1例。第107回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2017年9月23日

B-8

三田英治：GT3に対する治療について。第5回 Japan HIV and Hepatitis Study Group 研究会、東京、2017年7月2日

庄司絢香、田中聰司、石田 永、三田英治：当院におけるDAA治療の現況。国立病院機構ネットワーク研究〔肝疾患〕班会議、長崎、2017年7月7日

三田英治：B型肝炎～あなたのB型肝炎、わたしたちが制御します～。平成29年度日本肝臓学会近畿地区市民公開講座『肝臓病は治る時代へ—最新の治療をあなたに！—』、吹田、2017年7月30日

三田英治：HIV感染症と肝炎。HIV研修会、大阪、2017年10月4日

三田英治：HIV感染症に合併する肝炎の診断と治療。大阪府医師会 平成29年度HIV医療講習会、大阪、2017年11月1日

三田英治：C型肝炎の征圧とB型肝炎の制御。難病医療相談会、神戸、2017年12月17日

三田英治：HIV感染者のウイルス肝炎治療。LUMIPULSE Forum 2018、大阪、2018年2月10日

三田英治：C型肝炎の制圧とB型肝炎の制御。大阪市中央区東医師会・法円坂地域医療フォーラム、大阪、2018年3月17日

三田英治：B型肝炎の最新治療とこれからの展望について。B型肝炎治療に関する医療講演&

訴訟に関する個別相談、大阪、2018年3月18日

がん療法研究開発室

室長 中森正二

統計的資料によれば、日本人の半分はがんに罹患し、全死因の約 1/3 はがんによる死亡となっており、がんに対する有効な治療法の開発は急務であると言える。しかしながら、これまでのがん治療法の多くは、症例ごとの経験の積み重ねによって得られた知識によって行われ、その検証も行われることはほとんどなく、未だにがん治療成績は満足するものとはいえない。そのような状況において、現在、がん治療成績向上を目的として科学的根拠に基づいた効果的ながん治療法の開発が求められてきている。また、がん自体やそれに伴う病態は、他の様々な病気と同じように、遺伝子や蛋白、糖鎖といった分子の異常に基づいて生じている。実際、がんを例に取れば、遺伝子やその産物である蛋白や糖鎖の異常が、発がん、増殖、転移の各ステップにおいて重要な役割を果たしていることは確かなことであり、現在も様々な分子異常が報告されつつある。これらの異常分子の特徴や機能を利用した新しいがんの診断法や、治療への応用が盛んとなっている。このような背景のもと、がん治療において、個別化医療やオーダーメイド医療という語に代表されるような各個人のがんの種類や病態の特徴に応じた医療が進められつつある。本研究室では、このような最新の基礎研究や臨床研究によって得られた成果を利用した科学的根拠に基づいた新しい癌治療法の開発を目的としている。また、科学的根拠を確実にするために全国規模の多施設共同臨床試験や自主的臨床試験研究の企画を行うとともに積極的に参加している。さらに、新たながらんの診断や治療戦略の開発をめざして、外科手術時などに得られたがん組織を利用してがんにおける分子異常を探り、それに基づいた臨床において利用できる医療技術や医薬品として確立することを行う目的とした研究（橋渡し研究、トランスレーショナルリサーチ）を行っている。その具体的プロセスとして、1) 基礎研究との有機的な共同研究：臨床材料を用いて得られた研究結果と臨床資料との対応、臨床材料を用いた網羅的遺伝子解析や網羅的ペプチド蛋白解析、糖鎖解析を利用した発がん、増殖、転移に関わる責任分子の抽出、同定し、治療標的分子を明らかにする。2) 分子異常に基づいた新たな腫瘍マーカーの開発。3) 抗がん剤や放射線治療の感受性や耐性に関する分子の探索と分離、同定、その臨床応用の研究を行っている。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Ikeda M, Shimizu S, Sato T, Morimoto M, Kojima Y, Inaba Y, Hagiwara A, Kudo M, Nakamori S, Kaneko S, Sugimoto R, Tahara T, Ohmura T, Yasui K, Sato K, Ishii H, Furuse J, Okusaka T : Reply to the Letter to the editor 'Sorafenib plus hepatic arterial infusion chemotherapy with cisplatin versus Sorafenib for advanced hepatocellular carcinoma: randomized phase II trial' by Fornaro et al. 「Annals of Oncology」 28(4) : P903-904、2017年4月1日

Yamaue H, Shimizu A, Hagiwara Y, Sho M, Yanagimoto H, Nakamori S, Ueno H, Ishii H, Kitano M, Sugimori K, Maguchi H, Ohkawa S, Imaoka H, Hashimoto D, Ueda K, Nebiki H, Nagakawa T, Isayama

H, Yokota I, Ohashi Y, Shirasaka T : Multicenter, randomized, open-label Phase II study comparing S-1 alternate-day oral therapy with the standard daily regimen as a first-line treatment in patients with unresectable advanced pancreatic cancer. 「Cancer Chemotherapy and Pharmacology」 79(4)、P813-823、2017年4月

Hirata Y, Kobayashi T, Nishiumi S, Yamanaka K, Nakagawa T, Fujigaki S, Iemoto T, Kobayashi M, Okusaka T, Nakamori S, Shimahara M, Ueno T, Tsuchida A, Sata N, Ioka T, Yasunami Y, Kosuge T, Kaneda T, Kato T, Yagihara K, Fujita S, Yamada T, Honda K, Azuma T, Yoshida M : Identification of highly sensitive biomarkers that can aid the early detection of pancreatic cancer using GC/MS/MS-based targeted metabolomics. 「Clinica Chimica Acta」 468 : P98-104、2017年5月

Okusaka T, Miyakawa H, Fujii H, Nakamori S, Satoh T, Hamamoto Y, Ito T, Maguchi H, Matsumoto S, Ueno H, Ioka T, Boku N, Egawa S, Hatori T, Furuse J, Mizumoto K, Ohkawa S, Yamaguchi T, Yamao K, Funakoshi A, Chen JS, Cheng AL, Sato A, Ohashi Y, Tanaka M : GEST group; Updated results from GEST study: a randomized, three-arm phase III study for advanced pancreatic cancer. 「Journal of Cancer Research and Clinical Oncology」 143(6) : P1053-1059、2017年6月

Hijioka S, Hosoda W, Matsuo K, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Nakamori S, Ishii H, Kodama Y, Morizane C, Okusaka T, Yanagimoto H, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Yane K, Maguchi H, Tsuchiya Y, Komoto I, Tanaka H, Tsuji A, Hashigo S, Kawaguchi Y, Mine T, Kanno A, Murohisa G, Miyabe K, Takagi T, Matayoshi N, Yoshida T, Hara K, Imamura M, Furuse J, Yatabe Y, Mizuno N : Rb Loss and KRAS Mutation Are Predictors of the Response to Platinum-Based Chemotherapy in Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm with Grade 3: A Japanese Multicenter Pancreatic NEN-G3 Study. 「Clinical Cancer Research」 23(16) : P4625-4632、2017年8月15日

Nishimukai A, Inoue N, Kira A, Takeda M, Morimoto K, Araki K, Kitajima K, Watanabe T, Hirota S, Katagiri T, Nakamori S, Akazawa K, Miyoshi Y : Tumor size and proliferative marker geminin rather than Ki67 expression levels significantly associated with maximum uptake of 18Fdeoxyglucose levels on positron emission tomography for breast cancers. 「PLOS ONE」 12(9)、2017年9月8日

Nakakura I, Ogawa Y, Sakakura K, Imanishi K, Hirota K, Shimatani Y, Uehira T, Nakamori S, Sako R, Doi T, Yamazaki K : IMP-6 Carbapenemase-Producing Enterobacteriaceae Bacteremia Successfully Treated with Amikacin-Meropenem in Two Patients. 「Pharmacotherapy」 37(10)、P96-102、2017年10月

Hagiwara Y, Ohashi Y, Uesaka K, Boku N, Fukutomi A, Okamura Y, Konishi M, Matsumoto I, Kaneoka Y, Shimizu Y, Nakamori S, Sakamoto H, Morinaga S, Kainuma O, Imai K, Sata N, Hishinuma S, Ojima H, Yamaguchi R, Hirano S, Sudo T; JASPAC 01 Study Group : Health-related quality of life of adjuvant chemotherapy with S-1 versus gemcitabine for resected pancreatic cancer: Results from a randomised phase III trial (JASPAC 01). 「European journal of cancer」 93、P79-88、2018年2月22日

Nakazawa Y, Taniyama Y, Sanada F, Morishita R, Nakamori S, Morimoto K, Yeung KT, Yang J : Periostin blockade overcomes chemoresistance via restricting the expansion of mesenchymal tumor subpopulations

in breast cancer. 「Scientific Reports」 8、P4013、2018年3月5日

Nagai K, Kuriyama K, Inoue A, Yoshida Y, Takami K : Computed tomography-guided preoperative localization of small lung nodules with indocyanine green. 「Acta Radiologica」 2017年10月3日

Hashimura H, Kimura F, Ishibashi-Ueda H, Morita Y, Higashi M, Nakano S, Iguchi A, Uotani K, Sugimura K, Naito H : Radiologic-Pathologic Correlation of Primary and Secondary Cardiomyopathies: MR Imaging and Histopathologic Findings in Hearts from Autopsy and Transplantation. 「Radiographics」 37(3) : P719-736、2017年

Higashi M, Ikeda Y, Miyauchi H, Zaima N, Suzuki A, Li M, Kobayashi K, Naito H, Hirano K: Imaging Modalities for Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy. 「Ann Nucl Cardiol」 3(1) : P94-102. 2017年8月23日

Nakao YM, Miyamoto Y, Higashi M, Noguchi T, Ohishi M, Kubota I, Tsutsui H, Kawasaki T, Furukawa Y, Yoshimura M, Morita H, Nishimura K, Kada A, Goto Y, Okamura T, Tei C, Tomoike H, Naito H, Yasuda S : Sex differences in impact of coronary artery calcification to predict coronary artery disease. 「Heart」 pii: heartjnl-2017-312151. doi: 10.1136/heartjnl-2017-312151. [Epub ahead of print] 2018年1月13日

Juri H, Tsuboyama T, Koyama M, Yamamoto K, Nakai G, Nakamoto A, Yamamoto K, Azuma H, Narumi Y: Assessment of the ability of CT urography with low-dose multi-phasic excretory phases for opacification of the urinary system. 「PLoS One」 12(4) : e0174800、2017年4月6日

Tsuboyama T, Jost G, Pietsch H, Tomiyama N : Comparison of Power Versus Manual Injection in Bolus Shape and Image Quality on Contrast-Enhanced Magnetic Resonance Angiography: An Experimental Study in a Swine Model. 「Invest Radiol」 52(9) : P547-553、2017年9月

Ota T, Hori M, Onishi H, Sakane M, Tsuboyama T, Tatsumi M, Nakamoto A, Kimura T, Narumi Y, Tomiyama N : Preoperative staging of endometrial cancer using reduced field-of-view diffusion-weighted imaging: a preliminary study. 「Eur Radiol」 27(12) : P5225-5235、2017年12月

Sakane M, Tatsumi M, Hori M, Onishi H, Tsuboyama T, Nakamoto A, Ota T, Eguchi H, Wakasa K, Hatazawa J, Tomiyama N : Volumetric parameters of 2-deoxy-2-[18F]fluoro-d-glucose positron emission tomography/computed tomography can predict histopathologic treatment response after neoadjuvant chemoradiotherapy in pancreatic adenocarcinoma. 「Eur J Radiol」 94 : P64-69、2017年9月

Dia AA, Hori M, Onishi H, Sakane M, Ota T, Tsuboyama T, Tatsumi M, Okuaki T, Tomiyama N : Application of non-Gaussian water diffusional kurtosis imaging in the assessment of uterine tumors: A preliminary study. 「PLoS One」 12(11) : e0188434、2017年11月27日

Konishi E, Nakashima Y, Mano M, Tomita Y, Kubo T, Araki N, Morii E, Yoshikawa H, Haga H, Toguchida J, Ueda T, Osawa M, Hoshi M, Inoue T, Aono M, Yanagisawa A : Chondroblastoma of

extra-craniofacial bones: Clinicopathological analyses of 103 cases. 「Pathology International」 67(10) : P495-502、2017年10月

Yamada S, Imura Y, Nakai T, Nakai S, Yasuda N, Kaneko K, Outani H, Takenaka S, Hamada K, Myoui A, Araki N, Ueda T, Itoh K, Yoshikawa H, Naka N : Therapeutic potential of TAS-115 via c-MET and PDGFR α signal inhibition for synovial sarcoma. 「BMC Cancer」 17(1) : P334(1-14)、2017年5月16日

Tsuda Y, Ogura K, Hakozaki M, Kikuta K, Ae K, Tsuchiya H, Iwata S, Ueda T, Kawano H, Kawai A : Mesenchymal chondrosarcoma: a Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG) study on 57 patients. 「J Surg Oncol」 115(6) : P760-767、2017年5月16日

Takahashi M, Takahashi S, Araki N, Sugiura H, Ueda T, Yonemoto T, Morioka H, Hiraga H, Hiruma T, Kunisada T, Matsumine A, Shimura M, Kawai A : Efficacy of trabectedin in patients with advanced translocation-related sarcomas: Pooled analysis of two phase II studies. 「Oncologist」 22(1) : P1-10、2017年5月18日

Kawai A, Yonemori K, Takahashi S, Araki N, Ueda T : Systemic therapy for soft tissue sarcoma: proposal for the optimal use of pazopanib, trabectedin, and eribulin. 「Adv Ther 2017 Jul」 34(7) : P1556-1571、2017年5月25日

Nakai T, Imura Y, Tamiya H, Yamada S, Nakai S, Yasuda N, Kaneko K, Otani H, Takenaka S, Hamada K, Myoui A, Araki N, Ueda T, Itoh K, Yoshikawa H, Naka N : Trabectedin is a promising antitumor agent potentially inducing melanocyte differentiation for clear cell sarcoma. 「Cancer Med」 6(9) : P2121-2130、2017年9月16日

Otani H, Imura Y, Tanaka T, Takenaka S, Oshima K, Hamada K, Kakunaga S, Joyama S, Naka N, Kudawara I, Ueda T, Araki N, Yoshikawa H : Clinical outcomes of patients with epithelioid sarcomas: impact and management of nodal metastasis. 「Int J Clin Oncol」 23(1) : P181-188、2018年2月

Ogura K, Susa M, Morioka H, Matsumine A, Ishii T, Hamada K, Ueda T, Kawai A : Reconstruction using a constrained-type hip tumor prosthesis after resection of malignant periacetabular tumors: A study by the Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG). 「J Surg Oncol 2018 Feb 23」 (Epub ahead of print)、2018年2月23日

Yamamoto K, Nagatsuma Y, Fukuda Y, Hirao M, Nishikawa K, Miyamoto A, Ikeda M, Nakamori S, Sekimoto M, Fujitani K, Tsujinaka T : Effectiveness of a preoperative exercise and nutritional support program for elderly sarcopenic patients with gastric cancer. 「Gastric Cancer」 20(5) : P913-918、2017年9月

Hirao M, Yamada T, Michida T, Nishikawa K, Hamakawa T, Mita E, Mano M, Sekimoto M : Peritoneal Seeding after Gastric Perforation during Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Cancer.

「Digestive Surgery」2017年11月8日[Epublish ahead of print]

Kobayashi Y, Maeda S, Hama N, Miyamoto A, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Hirao M, Kato T, Sekimoto M, Mori K, Mano M, Nakamori S : Successful conversion surgery for unresectable pancreatic cancer with peritoneal metastases after neoadjuvant albumin-bound paclitaxel and gemcitabine chemotherapy: case report and literature review. 「International Cancer Conference Journal」7(1) : P20-25、2018年1月

Asaoka T, Miyamoto A, Maeda S, Hama N, Tsujie M, Ikeda M, Sekimoto M, Nakamori S : CA19-9 level determines therapeutic modality in pancreatic cancer patients with para-aortic lymph node metastasis.

「Hepatobiliary Pancreat Dis Int」17(1)、P75-80、2018年2月

Pak J, Ikeda M, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Miyamoto A, Miyazaki M, Hirao M, Nakamori S, Sekimoto M : Risk factors for bleeding in patients receiving fondaparinux after colorectal cancer surgery.

「Journal of the Anus Rectum and Colon」1(4) : P131-135、2017年7月20日

Iwata H, Im S-A, Masuda N, Im Y-H, Inoue K, Rai Y, Nakamura Ri, Kim JH, Hoffman JT, Zhang K, Giorgetti C, Iyer S, Schnell PT, Bartlett CH, Ro J : PALOMA-3: Phase 3 Trial of Fulvestrant With or Without Palbociclib in Premenopausal and Postmenopausal Women With Hormone Receptor-Positive, HER2-Negative Metastatic Breast Cancer That Progressed on Prior Endocrine Therapy; Safety and Efficacy in Asian Patients. 「J Global Oncology」3(4) : P289-303、2017年4月1日

Bell R, Brown J, Parmar M, Toi M, Suter T, Steger GG, Pivot X, Mackey J, Jackisch C, Dent R, Hall P, Xu N, Morales L, Provencher L, Hegg R, Vanleemans L, Kirsch A, Schneeweiss A, Masuda N, Overkamp F, Cameron D : Final efficacy and updated safety results of the randomized phase III BEATRICE trial evaluating adjuvant bevacizumab-containing therapy in triple-negative early breast cancer. 「Ann Oncol」28(4) : P754-760、2017年4月1日

Masuda N, Takahashi M, Nakagami K, Okumura Y, Nakayama T, Sato N, Kanatani K, Tajima K, Kashiwaba M : First-line bevacizumab plus paclitaxel in Japanese patients with HER2-negative metastatic breast cancer: subgroup results from the randomized Phase III MERiDiAN trial. 「Jpn J Clin Oncol」47(5) : P.385-392、2017年5月1日

Yoden E, Nose T, Otani Y, Asahi S, Tsukiyama I, Dokiya T, Saeki T, Fukuda I, Sekine H, Shikama N, Kumazaki Y, Takahashi T, Yoshida K, Kotsuma T, Masuda N, Nakashima K, Matsumura T, Nakagawa S, Tachiiri S, Moriguchi Y, Itami J, Oguchi M : Uncertainty of cosmetic evaluation after accelerated partial breast irradiation: interim analysis of a Japanese prospective multi-institutional feasibility study. 「Jpn J Radiol」35(7) : P.381-388、2017年5月4日

Tamura K, Inoue K, Masuda N, Takao S, Kashiwaba M, Tokuda Y, Iwata H, Yamamoto N, Aogi K, Saeki T, Nakayama T, Sato N, Toyama T, Ishida T, Arioka H, Saito M, Ohno S, Yamauchi H, Yamada K, Watanabe J, Ishiguro H, Fujiwara Y : Randomized phase II study of nab-paclitaxel as first-line chemotherapy in patients with HER2-negative metastatic breast cancer. 「Cancer Sci.」108(5) : P.987-994、

2017年5月

Baselga J, Im SA, Iwata H, Cortés J, De Laurentiis M, Jiang Z, Arteaga CL, Jonat W, Clemons M, Ito Y, Awada A, Chia S, Jagiello-Grusfeld A, Pistilli B, Tseng LM, Hurvitz S, Masuda N, Takahashi M, Vuylsteke P, Hachemi S, Dharan B, Di Tomaso E, Urban P, Massacesi C, Campone M : Buparlisib plus fulvestrant versus placebo plus fulvestrant in postmenopausal, hormone receptor-positive, HER2-negative, advanced breast cancer (BELLE-2): a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. 「Lancet oncology」 18(7) : P.904-916、2017年5月30日

Mori K, Takeda M, Kodama Y, Kiyokawa H, Yasojima H, Mizutani M, Otani Y, Morikawa N, Masuda N, Mano M: Tumor thickness and histological features as predictors of invasive foci within preoperatively diagnosed ductal carcinoma in situ. 「Human Pathology」 64(6) : P145-155、2017年6月

Okita Y, Masuda N, Mizutani M, Kodama Y, Mori K, Mano M, Nakagawa T, Nakajima S, Fujinaka T : Widespread subdural metastasis from breast cancer progressing rapidly with cerebral herniation: A case report. 「Molecular and Clinical Oncology」 6(6) : P960-962、2017年6月

Kawaguchi H, Masuda N, Nakayama T, Aoki K, Anan K, Ito Y, Ohtani S, sato N, Saji S Tokunaga E, Nakamura S, Hasegawa Y, Hattori M, Fuzisawa T, Morita S, Yamaguchi M, Yamashita T, Yamamoto Y, Ohno S, Toi M : Outcomes of fulvestrant therapy among Japanese women with advanced breast cancer: a retrospective multicenter cohort study (JBCRG-C06:safari). 「Breast Cancer Res Treat」 163(3) : P.545-554、2017年6月

Robson M, Im SA, Senkus E, Xu B, Domchek SM, Masuda N, Delaloge S, Li W, Tung N, Armstrong A, Wu W, Goessl C, Runswick S, Conte P : Olaparib for Metastatic Breast Cancer in Patients with a Germline BRCA Mutation. 「n engl j med nejm.org」 377(6) : P.523-533、2017年6月

Masuda N, Lee SJ, Ohtani S, Im YH, Lee ES, Yokota I, Kuroi K, Im SA, Park BW, Kim SB, Yanagita Y, Ohno S, Takao S, Aogi K, Iwata H, Jeong J, Kim A, Park KH, Sasano H, Ohashi Y, Toi M : Adjuvant Capecitabine for Breast Cancer after Preoperative Chemotherapy. 「N Engl J Med.」 376(22) : P.2147-2159、2017年6月1日

Yamamura J, Masuda N, Yamamoto D, Tsuyuki S, Yamaguchi M, Tanaka S, Tsurutani J, Tokunaga S, Yoshidome K, Mizutani M, Aono T, Ooe A, Tanino H, Matsunami N, Yasojima H, Nakayama T, Nishida Y : Gemcitabine and Vinorelbine Combination Chemotherapy in Taxane-Pretreated Patients with Metastatic Breast Cancer: A Phase II Study of the Kinki Multidisciplinary Breast Oncology Group (KMBOG) 1015. 「Chemotherapy」 62(5) : P.307-313、2017年6月13日

Watanabe J, Ito Y, Saeki T, Masuda N, Takano T, Takao S, Nakagami K, Tsugawa K, Nakagawa S, Kanatani K, Nakayama T. : Safety Evaluation of Trastuzumab Emtansine in Japanese Patients with HER2-Positive Advanced Breast Cancer. 「in vivo」 31(3) : P.493-500、2017年6月

Toi M, Masuda N, Ohashi Y : Adjuvant Capecitabine for Breast Cancer. 「N Engl J Med」 337(8) : P.791-792、

2017年8月24日

Loibl S, Turner NC, Ro J, Cristofanilli M, Iwata H, Im S-A, Masuda N, Loi S, André F, Harbeck N, Verma S, Folkard E, Theall KP, Hoffman J, Zhang K, Bartlett CH, Dowsett M : Palbociclib Combined With Fulvestrant in Premenopausal Women With Advanced Breast Cancer and Prior Progression on Endocrine Therapy: PALOMA-3 Results. 「The Oncologist」 22(9) : P.1028-1038、2017年9月

Sledge GW Jr, Toi M, Neven P, Sohn J, Inoue K, Pivot X, Burdaeva O, Okera M, Masuda N, Kaufman PA, Koh H, Grischke EM, Frenzel M, Lin Y, Barriga S, Smith IC, Bourayou N, Llombart-Cussac A : MONARCH 2: Abemaciclib in Combination With Fulvestrant in Women With HR+/HER2- Advanced Breast Cancer Who Had Progressed While Receiving Endocrine Therapy. 「J Clin Oncol」 35(25) : P.2875-2884、2017年9月1日

Ogiya R, Niikura N, Kumaki N, Yasojima H, Iwasa T, Kanbayashi C, Oshitanai R, Tsuneizumi M, Watanabe K, Matsui A, Fujisawa T, Saji S, Masuda N, Tokuda Y and Iwata H : Comparison of immune microenvironments between primary tumors and brain metastases in patients with breast cancer. 「Oncotarget」 8(61) : P.103671-103681、2017年10月27日

Toi M, Masuda N and Soo-Jung Lee : Capecitabine for primary breast cancer. 「Oncotarget」 8(67) : P.110739-110740、2017年11月6日

Sugie T, Suzuki E, Yamauchi A, Yamagami K, Masuda N, Gondo N, Sumi E, Ikeda T, Tada H, Uozumi R, Kanao S, Tanaka Y, Hamazaki Y, Minato N, Toi M : Combined effects of neoadjuvant letrozole and zoledronic acid on gdT cells in postmenopausal women with early-stage breast cancer. 「The Breast」 5(38) : P.114-119、2018年1月

Nakayama T, Sagara Y, Takashima T, Matsunami N, Masuda N, Miyoshi Y, Taguchi T, Aono T, Ito T, Kagimura T, Noguchi S : Randomized phase II study of anastrozole plus tegafur-uracil as neoadjuvant therapy for ER-positive breast cancer in postmenopausal Japanese women (Neo-ACET BC). 「Cancer Chemother Pharmacol」 81(4) : P.755-762、2018年2月21日

Masuda N, Nishimura R, Takahashi M, Inoue K, Ohno S, Iwata H, Mori Y, Hashigaki S, Muramatsu Y, Nagasawa T, Umeyama Y, Toi M : Palbociclib in combination with letrozole as first-line treatment for advanced breast cancer: A Japanese phase II study. 「Cancer Sci.」 109(3) : P.803-813、2018年3月

A-1

増田慎三：乳がんと発生の進み方「新 乳がんおはなし」P.1-21、システムズ株式会社 学術本部、兵庫、2017年

増田慎三：CDK4/6阻害薬【Palbociclib】+ホルモン療法—骨髄抑制に留意しながら、長期使用を目標に上手に減量を—「乳がん薬物療法副作用マネジメント」増田慎三、P.101-104、メジカルビュー社、東京、2017年9月13日

増田慎三：「乳がん薬物療法 副作用マネジメント」増田慎三、P.1-423、メジカルビュー社、東京、2017年9月13日

A-2

久田原郁夫：脊髄圧迫症状「乳がん薬物療法副作用マネジメント プロのコツ」増田慎三編集、P334-337、メジカルビュー社、2017年9月13日

A-3

藤本幸太、大島純平、片山欽三、鄭 則秀、原田泰規、西村健作、清川博貴、児玉良典、眞能正幸：脂肪肉腫との鑑別が困難であった後腹膜海綿状血管腫の1例「泌尿器科紀要」63(12)：P521-524、2017年12月31日

竹中 聰、中 紀文、濱田健一郎、中井 翔、高木啓至、王谷英達、伊村慶紀、名井 陽、上田孝文、荒木信人、吉川秀樹：大腿骨近位部転移性骨腫瘍に対する腫瘍用人工骨頭置換術後の機能的予後調査：術後患肢機能に関与する因子は何か？「臨床整形外科」52(6)：P513-518、2017年6月16日

宮本敦史、上平朝子、坪倉美由紀、廣田和之、上地隆史、中藏伊知郎、関本貢嗣、中森正二：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌によるアウトブレイクの経験「日本外科感染症学会雑誌」14(3)：P173-178、2017年6月

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、植村 守、浜川卓也、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：遠位胆管癌切除後の腹膜転移再発に対し再発巣切除により長期生存が得られた1例「癌と化学療法」44(12)：P1620-1622、2017年11月

村上弘大、濱 直樹、前田 栄、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、大宮英泰、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、高見康二、関本貢嗣、中森正二：減量手術を行うことができた十二指腸原発神経内分泌腫瘍多発肝転移の1例「癌と化学療法」44(12)：P1686-1688、2017年11月

山本 慧、山本和義、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、大宮英泰、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：消化器疾患術後創離開に対する局所陰圧閉鎖療法時の栄養管理の効果の検討。「外科と代謝・栄養」51(2)：P137-144、2017年4月

朴 正勝、山本和義、西川和宏、平尾素宏、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：Imatinib mesylate治療中に膿瘍形成を来し、感染コントロール目的に切除した腹膜播種を伴う巨大胃 gastrointestinal stromal tumor の1例「日本消化器外科学会雑誌」50(5)：P350-356、2017年5月24日

萩原清貴、西川和宏、三宅正和、清川博貴、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：胃癌術後に直腸転移を来たした1例「日本消化器外科学会雑誌」50(10)：P788-795、2017年10月18日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、山本慧、藤原綾子、前田栄、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、中森正二、関本貢嗣：高度冠動脈狭窄を伴う根治切除不能出血性胃癌に対し IABP挿入下に胃切除術を行った1例「癌と化学療法」
44(12) : P2017-2019、2017年11月

山口歩、三宅正和、吉龍澄子、植村守、池田正孝、加藤健志、浜川卓也、前田栄、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：皮膚浸潤を伴う肛門管癌に放射線化学療法後直腸切斷術および会陰再建を施行した1例。「癌と化学療法」
44(12) : P1988-1990、2017年11月

増田慎三：乳癌の薬物療法と支持療法 乳癌の化学療法 早期乳癌「乳癌学－最新の診断と治療－早期乳癌」75(3) : P.358-366、日本臨牀、2017年4月20日

増田慎三：新規薬剤 4. 新しい標的 6) CDK4/6 阻害剤「腫瘍内科」19(6) : P.704-710、科学評論社、2017年6月28日

西村理恵子、増田慎三、山城勝重、村田有也、松井哲、森清、高橋蔵人、青儀健二郎、伊東正博、前田茂人、倉岡和矢、尾崎慎治、市原周、佐藤康幸、田口健一、徳永えり子、鈴木博義、渡辺隆紀：乳癌転移巣細胞診検体受容体検査の日常運用に関する他施設共同研究：ホルマリン固定細胞検体のアルギン酸ナトリウム法セルブロックによる標本作製の提案「乳癌の臨床」P.249-257、(株)篠原出版新社、2017年7月7日

笠井宏委、坂東裕子、青儀健二郎、大野真司、増田慎三：乳癌カレントトピックス アンケート調査からみる医師主導治験の課題と展望「CANCER BOARD of the BREAST」3(2) : P.52-54、メディカルデュース社、2017年8月

増田慎三：Neo-Entrance 試験 JBCRG-22 ; UMIN000023162 「CANCER BOARD of the BREAST」3(2) : P.64-65、メディカルデュース社、2017年8月

A-4

中森正二、福田泰也、前田栄、濱直樹、宮本敦史：IPMNと類似画像を示す自己免疫性膵炎。「肝胆膵」74(4) : P527-532、2017年4月28日

坪山尚寛、富山憲幸：MRIによる筋層浸潤診断のポイントは？「臨床婦人科産科」71(4)増刊号、P285-288、医学書院、2017年4月20日。

坪山尚寛、富山憲幸：充実性付属器腫瘍の鑑別診断「画像診断」37(11)増刊号 : s102-107、秀潤社、2017年9月10日

濱直樹、前田栄、宮本敦史、中森正二：膵臓の術前術後「消化器外科ナーシング」22(7) : P625-633、2017年7月

山本和義、永妻佑季子、福田泰也、西川和宏、平尾素宏、鳥山明子、中原千尋、宮本敦史、中森正二、関本貢嗣、藤谷和正、辻伸利政：サルコペニアを有する高齢胃癌患者に対する新しい取組み～「術前栄養＋エクササイズプログラム」の概要。「外科と代謝・栄養」51(4)：P175-182、2017年8月

大谷陽子、増田慎三：特集 乳がん薬物治療-明日の臨床を見据えて 2.乳がん薬物治療-臨床現場での実践のために 6)術前・術後補助化学療法-適応をどう見極め、どう行うか「臨床腫瘍プラクティス」13(2)：P.125-130、ヴァンメディカル社、2017年5月10日

増田慎三：最新治療戦略 新しい局面を迎えた乳がん治療～これからの化学療法の役割
「CLINICIAN」662(65)：P.46-57、エーザイ株式会社、東京、2018年1月

A-6

増田慎三：ホルモン受容体陽性進行乳癌患者を対象に Fulvestrant を Anastrozole と比較する無作為化第Ⅲ相試験「JBCS2017 第25回日本乳癌学会学術総会 記録集」エーザイ株式会社、2017年10月

増田慎三：国際共同二重盲検第Ⅲ相ランダム化比較試験 MERiDiAN 試験 日本人解析
「AVASTIN DATA for Japanese Patients」P.1-5、中外製薬株式会社、2017年12月

B-1

Robson M E, Im S-A, Senkus E, Xu B, Domchek S M, Masuda N, Delaloge S, Li W, Tung N M, Armstrong A, Wu W, Goessl CD : OlympiAD: Phase III trial of olaparib monotherapy versus chemotherapy for patients(pts) with HER2-negative metastatic breast cancer (mBC) and a germline BRCA, American Society of Clinical Oncology(ASCO), Chicago, 2017年6月4日

Sledge GW Jr, Toi M, Neven P, Sohn J, Inoue K, Pivot X, Burdaeva O, Okera M, Masuda N, Kaufman PA, Koh H, Grischke EM, Frenzel M, Lin Y, Barriga S, Smith IC, Bourayou N, Llombart-Cussac A : MONARCH 2: Abemaciclib in Combination With Fulvestrant in Women With HR+/HER2- Advanced Breast Cancer Who Had Progressed While Receiving Endocrine Therapy. American Society of Clinical Oncology(ASCO), Chicago, 2017年6月4日

Nick C.Turner, R-S.Finn, A-A.Joy, S.Verma, N.Harbeck, S.Moulder, Masuda N, Y-H Im, K.Zhang, S.Kim, W.Sun, P.Schnell, C.H Bartlett, D.Slamon : Palbociclib in combination with endocrine therapy in treatment-naive and previously treated elderly women with HR+, HER2- advanced breast cancer: a pooled analysis from randomized phase 2 and 3 studies. 2017 Baylor College of Medicine Metastatic Breast Cancer Conference, Houston, 2017年10月12～10月13日

Hattori M, Tamura K, Mukai H, Miyoshi Y, Masuda N, Suzuki E, Ishiguro H, Ohtani S, Hara F, Shimamoto T, Yamamoto K, Ding Y, Aktan G, Karantza V, Iwata H : Phase 2 study of pembrolizumab for metastatic triple-negative breast cancer (mTNBC): Japanese subgroup results of KEYNOTE 086. ESMO Asia 2017 Congress, Singapore, 2017年11月17日

Im S-A, Masuda N, Im Y-H, Inoue K, Kim S-B, Redfern A, Lombard J, Lu D, Puyana K, Theall E G, Gauthier M H, Ro J : Efficacy and safety of palbociclib plus endocrine therapy in women with hormone receptor-positive (HR+)/human epidermal growth factor receptor 2-negative (HER2-) advanced breast cancer (ABC) in the Asia-Pacific region: Data from PALOMA-2 and -3. ESMO Asia 2017 Congress, Singapore, 2017年11月17日

Toi M, Huang C, ImY-H, Iwata H, Sohn J H, Wang H-C, Masuda N, Lin Y, Sakaguchi S, Bourayou N, Llombart A, Sledge G : MONARCH 2: Abemaciclib in combination with fulvestrant in Asian women with HR+, HER2- advanced breast cancer who progressed on endocrine therapy. ESMO Asia 2017 Congress, Singapore, 2017年11月17日

B-2

Ueno M, Ioka T, Ueno H, Joon Oh Park, Heung-Moon Chang, Sasahira N, Kanai M, Ik-Joo Chung, Ikeda M, Nakamori S, Mizuno N, Omuro Y, Yamaguchi T, Hara H, Sugimori K, Furuse J, Takeuchi M, Okusaka T, Boku N, Hyodo I : TAS-118 (S-1 plus leucovorin) versus S-1 in gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer: A randomized, open-label, phase III trial (GRAPE trial). ASCO2017, Chicago, 2017年6月3日

Mizuno N, Fukutomi A, Mizusawa J, Katayama H, Nakamura S, Ito Y, Hiraoka N, Ioka T, Ueno M, Ikeda M, Sugimori K, Shimizu K, Okusaka T, Ozaka M, Yanagimoto H, Nakamori S, Azuma T, Hosokawa A, Ishii H, Furuse J, and Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group (HBPOG) of Japan Clinical Oncology Group (JCOG), Japan" : Effect of inflammatory and nutritional (IN) status on induction chemotherapy (CT) followed by chemoradiotherapy (CRT) for locally advanced pancreatic cancer (LAPC): An exploratory subgroup analysis of JCOG1106. ASCO2017, Chicago, 2017年6月3日

Takahashi S, Ohno I, Ikeda M, Konishi M, Kobayashi T, Akimoto T, Kojima M, Morinaga S, Ku Y, Shimizu Y, Nakamori S, Hishinuma S, Takakura N, Kainuma O, Hirano S, Otsubo T, Nagino M, Kimura W, Yamashita Y, Uesaka K : Phase II trial of neoadjuvant S-1 and concurrent radiotherapy for borderline resectable pancreatic cancer: Interim results of JASPAC05. ASCO2017, Chicago, 2017年6月3日

Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Katayama H, Ueno M, Ikeda M, Ozaka M, Sugimori K, Fukutomi A, Hara H, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Yukisawa S, Ishii H, Furuse J, Japan Clinical Oncology Group (JCOG); National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan : Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 combination therapy versus gemcitabine plus cisplatin combination therapy in advanced biliary tract cancer: A Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1113, FUGA-BT). ASCO GI 2018, San Francisco, 2018年1月19日

Kuriyama K, Yoshida Y, Inoue A, Sumikawa H, Mycobacterium kansassii pulmonary infection: CT findings in AIDS patients comparison with non-AIDS patients. 4th World Congress of Thotacic Imaging, Boston, 2017年6月18日

Higashi M, Onishi Y, Kono AK, Kanzaki S, Fukuda F, Minatoya K, Naito H : Computed tomographic angiography of the Adamkiewicz artery using a small focal spot. ASCI 2017 (The 11th Congress of Asian

Society of Cardiovascular Imaging), Kyoto, 2017年6月2日

Tsuboyama T : Differential diagnosis of benign, borderline, and malignant ovarian tumors with MRI and PET/CT. 6th Asian Congress of Abdominal Radiology (ACAR), Korea, 2017年4月

Yoshida Y, Kuriyama K, Inoue A, Sumikawa H: CT findings of pulmonary mycobacterium kansasii infection in AIDS patients comparison with immunocompetent. European Congress of Radiology, Vienna, 2018年2月28日

Iwata S, Kobayashi E, Yonemoto T, Araki N, Kunisada T, Hiraga H, Akiyama T, Kakunaga S, Shinoda Y, Ueda T : Risk factors of symptomatic venous thromboembolism in sarcoma patients: A Japanese prospective multicenter study. 19th International Society of Limb Salvage (ISOLS) 2017 General Meeting, Kanazawa, 2017年5月10日

Ogura K, Fujiwara T, Jeon DG, Cho WH, Hiraga H, Ishii T, Yonemoto T, Kamoda H, Ozaki T, Kozawa E, Nishida Y, Morioka H, Hiruma T, Kakunaga S, Ueda T, Araki N, Naka N, Tsuda Y, Kawano H, Kawai A : Nomograms predicting distant metastases and overall survival after neoadjuvant chemotherapy and surgery for patients with non-metastatic osteosarcoma: A multi-institutional study. 19th International Society of Limb Salvage (ISOLS) 2017 General Meeting, Kanazawa, 2017年5月10日

Kakunaga S, Matsuoka Y, Kudawara I, Ueda T : Denosumab combined with sunitinib in patient with metastasis of humerus from renal cell carcinoma. 19th International Society of Limb Salvage (ISOLS) 2017 General Meeting, Kanazawa, 2017年5月10日

Mori T, Nakayama R, Endo M, Kobayashi E, Kawai A, Ueda T, Morioka H: Forty-eight cases of leiomyosarcoma of bone in Japan : A multicenter study from the Japanese Musculoskeletal Oncology Group. 19th International Society of Limb Salvage (ISOLS) 2017 General Meeting, Kanazawa, 2017年5月10日

Ueda T, Kakunaga S, Matsuoka Y, Kudawara I : Denosumab combined with sunitinib in patient with bone metastasis of humerus from renal cell carcinoma. 38th SICOT Orthopaedic World Congress, Cape Town, 2017年11月30日

Shoji A, Hasegawa H, Fujii Y, Kato S, Kiyota R, Shinkai K, Tashiro T, Ishihara A, Iwasaki T, Tanaka T, Akasaka T, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Hirao M, Mita E : Efficacy and prognostic factor analysis in second-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer. American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2018, Safransico, 2018年1月18日

Hasegawa H, Mitani S, Wakatsuki T, Hara H, Takahashi D, Chin K, Hirao M, Kadokami S, Muro K : Systemic chemotherapy for gastric cancer with early recurrence after adjuvant S-1 monotherapy: a multicenter retrospective study. American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2018, Safransico, 2018年1月18日

Hamakawa T, Nishikawa K, Hirao M, Yamaguchi A, Maeda S, Uemura M, Miyake M, Hama N,
Miyamoto A, Kato T, Nakamori S, Sekimoto M : A case of unclassified/undifferentiated round cell
sarcoma in the stomach diagnosed by excisional biopsy of the regional lymph node metastasis. Asian
Clinical Oncology Society 2018, Chiang Mai, Thailand, 2018 年 2 月 23 日

Miyamoto A, Hama N, Maeda S, Hamakawa T, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Ikeda M, Hirao M,
Sekimoto M, Nakamori S : Impact of visceral obesity and sarcopenia on Pancreaticoduodenectomy.
A-PHPBA2017/JSHBPS29, Yokohama, 2017 年 6 月 10 日

Uemura M, Miyake M, Miyazaki M, Ikeda M, Hamakawa T, Maeda S, Hama N, Nishikawa K, Miyamoto A, Hirao M, Takahashi H, Haraguchi N, Nishimura J, Hata T, Mizuhima T, Yamamoto H, Mori M,
Nakamori S, Sekimoto M : Laparoscopic surgery for locally recurrent rectal cancer with concomitant
sacrectomy. EAES2017, Frankfurt, 2017 年 6 月 15 日

Kobayashi N, Nishikawa K, Hamakawa T, Hirao M, Yamamoto K, Kobayashi Y, Kitakaze M, Maeda S,
Uemura M, Miyake M, Hama N, Miyamoto A, Kato T, Nakamori S, Sekimoto M : Survival Results of
Stage IV Gastric Cancer Patients Treated with Conversion Surgery. Asian Clinical Oncology Society 2018,
Chiang Mai, Thailand, 2018 年 2 月 23 日

Shien T, Nakamura K, Shibata T, Kinoshita T, Aogi K, Fujisawa T, Masuda N, Inoue K, Fukuda H, Iwata
H : A randomized controlled trial comparing primary tumour resection plus systemic therapy with systemic
therapy alone in metastatic breast cancer (PRIM-BC): Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1017.
American Society of Clinical Oncology(ASCO), Chicago, 2017 年 6 月 4 日

Narui K, Yamashita T, Kitada M, Kawaguchi H, Hattori M, Yoshinami T, Matsunami N, Yanagihara K,
Kawasoe T, Nagashima T, Bando H, Yano H, Hasegawa Y, Nakamura R, Kashiwaba M, Masuda N,
Morita S, Ohno S, Toi M : Eribulin in combination with pertuzumab plus trastuzumab for HER2-positive
advanced or recurrent breast cancer (JBCRG-M03). American Society of Clinical Oncology(ASCO),
Chicago, 2017 年 6 月 4 日

Cristofanilli M, DeMichele A, Giorgetti C, Slamon D J, Im S-A, Masuda N, Verma S, Loi S, Colleoni M,
Theall K P, Huang X Bartlett C H, Turner N C : Predictors of prolonged benefit from palbociclib (PAL)
plus fulvestrant (F) in women with endocrine-resistant hormone receptor-positive/human epidermal
growth factor receptor 2-negative (HR+/HER2-) advanced breast cancer (ABC) in PALOMA-3,
American Society of Clinical Oncology(ASCO), Chicago, 2017 年 6 月 4 日

Ogiya R, Niikura N, Kumaki N, Yasojima H, Iwasa T, Kanbayashi C, Oshitanai R, Tsuneizumi M,
Watanabe K, Matsui Ak, Fujisawa T, Saji S, Tokuda Y, Masuda N, Iwata H : Immune microenvironment
in brain metastases of breast cancer. American Society of Clinical Oncology(ASCO), Chicago, 2017 年 6
月 4 日

Masuda N, Ohtani S, Takano T, Inoue K, Suzuki E, Nakamura R, Bando H, Ito Y, Ishida K, Yamanaka T,
Kuroi K, Yasojima H, Kasai H, Takasuka T, Sakurai T, Kataoka T.R, Morita S, Ohno S, Toi M :

Neoadjuvant therapy with trastuzumab emtansine and pertuzumab in patients with HER2-positive primary breast cancer (A randomized, phase 2 study; JBCRG-20). European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Delaloge S, Conte P.F, Im S-A, Senkus-Konefka E, Xu B, Domchek S.M, Masuda N, Li W, Tung N, Armstrong A, Wu W, Goessl C, Runswick S, Robson M : OlympiAD: Further efficacy outcomes in patients with HER2-negative metastatic breast cancer and a germline BRCA mutation receiving olaparib monotherapy vs standard single-agent chemotherapy treatment of physician's choice, European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Aogi K, Yonemori K, Takahashi M, Masuda N, Naito Y, Shimizu S, Nakamura R, Yamamoto H, Hamada A, Michimae H, Tamura K, Sukigara T, Nagasaka R, Fujiwara Y : Efficacy and safety of olaparib combined with eribulin in patients with advanced or metastatic triple negative breast cancer (TNBC) previously treated with anthracyclines and taxanes: The final analysis of a Japanese phase I/II trial, European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Shimomura A, Yonemori K, Masuda N, Aogi K, Takahashi M, Naito Y, Shimizu S, Nakamura R, Hamada A, Michimae H, Hashimoto J, Yamamoto H, Shimizu C, Tamura K, Fujiwara Y Gene : alteration in triple negative breast cancer patients in a phase I/II study of combination therapy with eribulin and olaparib, European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Robson M, Ruddy K.J, Im S-A, Senkus-Konefka E, Xu B, Domchek S.M, Masuda N, Delaloge S, Li W, Tung N, Armstrong A, Wu W, Goessl C, Degboe A, Conte P.F : OlympiAD: Health-related quality of life (HRQoL) in patients with HER2-negative metastatic breast cancer (mBC) and a germline BRCA mutation (gBRCAm) receiving olaparib monotherapy vs standard single-agent chemotherapy treatment of physician's choice (TPC), European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Kawaguchi H, Aogi K, Masuda N, Nakayama T, Ito Y, Ohtani S, Sato N, Takano T, Saji S, Tokunaga E, Hasegawa Y, Hattori M, Fujisawa T, Morita S, Yamashita H, Yamashita T, Yamamoto Y, Yotsumoto D, Toi M, Ohno S : Factors associated with prolonged time to treatment failure with fulvestrant 500 mg in patients with postmenopausal estrogen receptor-positive advanced/metastatic breast cancer (JBCRG-C06; Safari): A subgroup analysis. European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Shimomura A, Niikura N, Fukatsu Y, Sawaki M, Ogiya R, Yasojima H, Fujisawa T, Yamamoto M, Tsuneizumi M, Kitani A, Watanabe J, Matsui A, Takahashi Y, Takashima S, Shien T, Tamura K, Saji S, Masuda N, Tokuda Y, Iwata H : Durable complete response in HER2-positive breast cancer: A multicenter retrospective analysis. European Society for Medical Oncology (ESMO), Spain, 2017年9月8日

Iwata H, Masuda N, Kim S-B, Inoue K, Rai Y, Fujita T, Shen Z-Z, Chiu JW, Ohtani S, Takahashi M, Yamamoto N, Miyaki T, Sun Q, Yen-Shen L, Xu B, Yap YS, Bustam AZ, Lee JR, Zhang B, Bryce R, Chan A : Neratinib in the extended adjuvant treatment of patients from Asia with early-stage HER2+ breast cancer after trastuzumab-based therapy: Exploratory analyses from the phase III ExteNET trial. SABCS 会議, SanAntonio, 2017年12月5日

Tada H, Miyashita M, Gonda K, Watanabe M, Suzuki A, Watanabe G, Harada N, Sato A, Hamanaka Y, Masuda N, Toi M, Ohno S, Bando H, Ishiguro H, Inoue K, Yamamoto N, Kuroi K, Ohuchi N, Ishida : TNew quantitative diagnostic method by fluorescence nanoparticle for HER2 positive breast cancer treated with neoadjuvant lapatinib and trastuzumab: The Neo LaTH study (JBCRG-16TR), SABCs 会議, SanAntonio, 2017年 12月 5日

Imoto S, Saito Oba M, Masuda N, Nagashima T, Wada N, Takashima T, Kitada M, Kawada M, Hayashida T, Taguchi T, Aihara T, Miura D, Toh U, Yoshida M, Sugae S, Yoneyama K, Matsumoto H, Jinno H, Sakamoto J : Observational study of axilla treatment for breast cancer patients with 1 to 3 positive micrometastases or macrometastases in sentinel lymph nodes. SABCs 会議, SanAntonio, 2017年 12月 5日

Yamaguchi M, Nakayama T, Yoshinami T, Ikeda M, Iwamoto M, Komoike Y, Takashima T, Tsurutani J, Yoshidome K, Yamada T, Morita S, Masuda N : A randomized phase II study of maintenance hormone therapy with or without capecitabine after induction therapy with bevacizumab plus paclitaxel in hormone receptor positive and HER2 negative metastatic breast cancer (KBCSG-TR1214). SABCs 会議, SanAntonio, 2017年 12月 5日

Shimomura A, Masuda N, Tamura K, Yasojima H, Sawaki M, Nishimura Y, Saji S, Iwata H : A phase 1 study of KHK2375 (entinostat) as monotherapy and in combination with exemestane in Japanese patients with hormone receptor-positive, HER2-negative, advanced or recurrent breast cancer. SABCs 会議, SanAntonio, 2017年 12月 5日

Iwata H, Masuda N, Fujisawa T, Toyama T, Ohtani S, Yamamoto Y, Kashiwaba M, Taira N, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamaguchi T, Ohashi Y : NEOS: A randomized, open label, phase 3 trial of adjuvant chemotherapy for postmenopausal breast cancer patients who responded to neoadjuvant letrozole: First report of long-term outcome and prognostic value of response to neoadjuvant endocrine therapy, SABCs 会議, SanAntonio, 2017年 12月 5日

Masuda N, Sato N, Morimoto T, Ueno T, Kanbayashi C, Kaneko K, Yasojima H, Saji S, Sasano H, Morita S, Ohno S, Toi M : Tailored neoadjuvant endocrine and chemo-endocrine therapy for postmenopausal patients with estrogen receptor-positive human epidermal growth factor receptor 2-negative primary breast cancer. SABCs 会議, SanAntonio, 2017年 12月 5日

Yamamoto Y, Iwata H, Masuda N, Fujisawa T, Toyama T, Kashiwaba M, Ohtani S, Taira N, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamaguchi T, Sakamaki K, Chao C, McCullough D, Sugiyama N, Ohashi Y : TransNEOS: Validation of the oncotype DX recurrence score (RS) testing core needle biopsy samples from NEOS as predictor of clinical response to neoadjuvant endocrine therapy for postmenopausal estrogen receptor positive (ER+), HER2 negative (HER2-) breast cancer patients. SABCs 会議. SanAntonio, 2017年 12月 5日

Campone M, Im S-A, Iwata H, Clemons M, Ito Y, Awada A, Chia S, Jagiełło-Grusfeld A, Pistilli B,

Tseng L-M, Hurvitz S, Masuda N, Cortés J, De Laurentiis M, Arteaga CL, Jiang Z, Jonat W, Sellami D, El-Hashimy M, Le Mouhaër S, Sankaran B, Bourdeau L, Baselga J : Buparlisib (BUP) or placebo (PBO) plus fulvestrant (FUL) in postmenopausal patients (pts) with hormone receptor-positive (HR+), human epidermal growth factor receptor 2-negative (HER2-) advanced breast cancer (ABC): Overall survival (OS) results from BELLE-2, a randomized, phase III study. SABCS 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Kawaguchi H, Yamashita T, Masuda N, Kitada M, Narui K, Hattori M, Yoshinami T, Matsunami N, Yanagihara K, Kawasoe T, Nagashima T, Bando H, Yano H, Hasegawa Y, Nakamura R, Kashiwaba M, Morita S, Ohno S, Toi M : Phase II study of eribulin in combination with pertuzumab plus trastuzumab for human epidermal growth factor receptor 2 (HER2)-positive advanced or metastatic breast cancer. SABCS 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Domchek SM, Robson M, Im S-A, Senkus E, Xu B, Masuda N, Delaloge S, Li W, Armstrong A, Conte P, Bannister W, Goessl C, Runswick S, Goel S, Tung N : Tolerability of olaparib monotherapy versus chemotherapy in patients with HER2-negative metastatic breast cancer and a germline BRCA mutation: OlympiAD. SABCS 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Im S-A, Xu B, Li W, Robson M, Ouyang Q, Yeh D-C, Iwata H, Park Y-H, Sohn JH, Tseng L-M, Goessl C, Wu W, Runswick S, Masuda N : Olaparib monotherapy versus chemotherapy for patients with HER2-negative metastatic breast cancer and a germline BRCA mutation: Asian subgroup analysis from the phase III OlympiAD trial. SABCS 会議, SanAntonio, 2017 年 12 月 5 日

Outani H, Nakai S, Nakai T, Takenaka S, Hamada K, Myoui A, Yoshikawa H, Imura Y, Tanaka T, Oshima K, Araki N, Kakunaga S, Kudawara I, Ueda T : Clinical outcome and management of nodal metastasis in the patients with epithelioid sarcoma. 22th Connective Tissue Oncology Society (CTOS) 2017 Annual Meeting, Maui, 2017 年 11 月 8 日

Imura Y, Outani H, Tanaka T, Oshima K, Araki N, Takenaka S, Hamada K, Naka N, Myoui A, Yoshikawa H, Kakunaga S, Kudawara I, Ueda T : Clinical outcome of osteosarcoma in patients older than 40 years of age. 22th Connective Tissue Oncology Society (CTOS) 2017 Annual Meeting, Maui, 2017 年 11 月 8 日

B-3

Tsuboyama T, Hori Y, Hori M, Onishi H, Tatsumi M, Sakane M, Ota T, Tomiyama N : Imaging findings of ovarian dysgerminoma with emphasis on multiplicity and vascular architecture: implication for pathogenesis. 第 31 回日本腹部放射線学会、北海道、2017 年 6 月 30 日

吉田悠里子、栗山啓子、永井啓介、岸本健太郎、井上敦夫、高村 学、東 将浩、崔 秀美 : AIDS 患者と非 HIV 患者に発症した *Mycobacterium kansasii* 症の CT 所見の比較。第 76 回日本放射線学会総会、横浜、2017 年 4 月 14 日

吉田悠里子、栗山啓子、木曾建吾、井上敦夫、東 将浩、上地隆史、森 清 : HIV/AIDS 患者に合併した播種型 *Mycobacterium kansasii* 症の 1 例。第 31 回胸部放射線研究会、松山、2017

年 9 月 8 日

萩 美里、大谷陽子、森 清、水谷麻紀子、八十島宏行、森川希美、井上敦夫、中森正二、関本貢嗣、眞能正幸、増田慎三：Triple negative 乳癌（TNBC）に対する術前化学療法の現状と課題。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 20 日

安藤性實、小河原光正、木村 剛、宮本 智、高見康二、井上敦夫、栗山啓子、田中英一、眞能正幸：Nivolumab で縮小効果が得られた肺多型癌の一例。第 58 回日本肺癌学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 15 日

八十島宏行、増田慎三、森川希実、大谷陽子、水谷麻紀子、井上敦夫、栗山啓子、森 清、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣：HER2 陽性および Triple negative 乳癌における、術前化学療法後 MRI 画像評価にみる非切除手術への可能性。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

川井 章、上田孝文、東 尚弘：骨・軟部腫瘍の集学的治療 all Japan での取り組み。第 90 回日本整形外科学会学術総会、仙台、2017 年 5 月 19 日

上田孝文：軟部肉腫の集学的治療：臨床の立場から、新規薬剤・トラベクテジン。第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017 年 7 月 27 日

上田孝文：悪性軟部腫瘍に対する新規薬物療法の開発。第 129 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会、富山、2017 年 10 月 6 日

長谷川裕子、平尾素宏、三田英治：Management of chemotherapy in elderly patients with metastatic gastric cancer. 第 25 回 JDDW 日本消化器関連学会週間、福岡、2017 年 10 月 12 日

宮本敦史、前田 栄、上平朝子、坪倉美由紀、廣田和之、上地隆史、中藏伊知郎、関本貢嗣、中森正二：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌の大規模アウトブレイクを経験して。第 30 回日本外科感染症学会学術集会、東京、2017 年 11 月 30 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、水島恒和、山本浩文、森 正樹、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡で攻める直腸癌局所再発手術。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017 年 12 月 7 日

三宅正和、植村 守、池田正孝、加藤健志、前田 栄、浜川卓也、西川和宏、濱 直樹、宮本敦史、平尾素宏、宮崎道彦、中森正二、関本貢嗣：大腸手術における縫合不全に対する腹腔鏡下手術。第 54 回日本腹部救急医学会総会、東京、2018 年 3 月 9 日

増田慎三：新時代を迎えた乳癌術前化学療法。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

増田慎三：ホルモン受容体陽性進行乳癌患者を対象に Fulvestrant を Anastrozole と比較する無

作為化第 III 相試験。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

大谷陽子、増田慎三、八十島宏行、水谷麻紀子、森川希実、森 清、眞能正幸、中森正二：術前化学療法前センチネルリンパ節生検の成績。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

西村令喜、増田慎三、高橋將人、井上賢一、大野真司、岩田広治、森 優子、橋垣 学、長澤崇、梅山佳子、戸井雅和：ER 陽性 HER2 陰性閉経後進行・再発乳癌患者における palbociclib と letrozole 併用の国内第 II 相試験成績。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

増田慎三、井本 滋、雷 哲明、三好康雄、神垣俊二、岩瀬弘敬、徳永えり子、高橋三奈、吉田雅行、加々良尚文、John FR Robertson、Matthew J Ellis、Zhimin Shao、今井正彦、Lynda Grinsted、Mehdi Fazal、野口眞三郎：ホルモン受容体陽性進行乳癌患者を対象に Fulvestrant を Anastrozole と比較する無作為化第 III 相試験。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

北條 隆、増田慎三、岩本高行、青儀健二郎、阿南敬生、飯島耕太郎、石田孝宣、河合賢朗、坂谷貴司、新倉直樹、増岡秀次、宮田裕章、隈丸 拓、小島康幸、相良安昭、林 直輝、吉田正行、徳田 裕、中村清吾、津田 均：ER 陽性 HER2 陰性原発乳癌に対するアンスラサイクリンにタキサンを追加した術後化学療法の有用性の検討。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

新倉直樹、扇屋りん、熊木伸枝、八十島宏行、岩朝 勤、神林智寿子、大下内理紗、常泉道子、渡邊健一、松井 哲、藤澤知巳、佐治重衡、徳田 裕、増田慎三、岩田広治：乳癌における原発腫瘍と脳転移腫瘍の免疫微小環境の変化。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

旭 修司、築山 巖、鹿間直人、佐伯俊昭、松村泰成、中川志乃、立入誠司、森口喜生、吉田 謙、古妻理之、増田慎三、余田栄作、中島一毅、大谷侑輝、能勢隆之、小口正彦：組織内照射による加速乳房部分照射（APBI）多施設共同試験の臨床結果（60 ヶ月）。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

津田 萌、石黒 洋、鳥口尚子、増田慎三、坂東裕子、大神正宏、本間真人、森田智視、戸井雅和：ラバチニブ服用タイミングと皮膚毒性の関係：JBCRG-16/Neo-LaTH からのコホート研究。第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017 年 7 月 27 日

高野利実、増田慎三：HER2 陽性進行・再発乳癌治療の現在と未来。第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017 年 7 月 27 日

岩田広治、増田慎三、雷 哲明、藤田崇史、高橋将人、味八木寿子、佐藤信昭、Bo Zhang、渡邊純一郎、井上賢一：HER2 陽性術後トラスツズマブ治療後のネラチニブの有効性—ExerNET study 中間解析における日本人サブセット。第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017 年 7 月 29 日

青儀健二郎、渡邊健一、渡邊隆紀、松井 哲、佐藤康幸、増田慎三、山下芳典、大塚眞哉、徳永えり子、阿南節子：NHO ネットワーク共同研究による多施設共同 Hazardous Drugs (HD) 曝露実態調査から見た本邦の現状。第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017 年 7 月 29 日

増田慎三：閉経前 ER 陽性治療における Best Strategy を探る。第 14 回日本乳癌学会中国四国地方ランチョンセミナー、岡山、2017 年 9 月 16 日

森本卓、佐藤信昭、増田慎三、上野貴之、神林智寿子、金子耕司、八十島宏行、佐藤友威、新宮聖士、田邊 匠、尾崎慎治、笹野公伸、森田智視、大野真司、戸井雅和：閉経後 HR 乳癌患者に対するレスポンスガイド下術前内分泌療法 (JBCRG-11CPA)。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 20 日

増田慎三：Living longer, Living better を目指した転移乳癌治療のエビデンス創出～HER2 陽性乳癌～。第 55 回日本癌治療学会学術集会 学術セミナー、横浜、2017 年 10 月 21 日

向井博文、清水千佳子、増田慎三、大谷彰一郎、大野真司、高橋將人、山本 豊、西村令喜、佐藤信昭、大住省三、岩田広治、森 優子、橋垣 学、Dongrui R. Lu、戸井雅和：未治療 ER+ 進行乳癌患者における palbociclib 第 3 相試験 (PALOMA-2) —日本人 subgroup 解析—。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 21 日

増田慎三、井上賢一、中村力也、雷 哲明、向井博文、大野真司、原 文堅、森 優子、橋垣 学、村松泰明、長澤 崇、梅山佳子、Huang Xin、岩田広治：既治療ホルモン陽性進行乳癌における palbociclib 第 3 相試験 (PALOMA-3) —日本人サブ解析—。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 21 日

北田正博、山下年成、川口英俊、成井一隆、服部正也、吉波哲大、松並展輝、柳原一広、長谷川善枝、中村力也、増田慎三、森田智視、大野真司、戸井雅和：HER2 陽性転移性乳癌に対する trastuzumab, pertuzumab, eribulin 併用療法 (JBCRG-M03)。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 21 日

藤澤知巳、川口英俊、増田慎三、中山貴寛、青儀健二郎、伊藤良則、大谷彰一郎、佐治重衛、長谷川善枝、服部正也、山下年成、山本 豊、森田智視、戸井雅和、大野真司：閉経後進行再発乳癌におけるフルベストラントの長期 TTF に関する検討：Safari 試験。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 21 日

永山愛子、松井 哲、村田有也、増田慎三、森 清、高橋將人、山城勝重、青儀健二郎、前田茂人、伊東正博、尾崎真治、佐藤康幸、徳永えり子、渡辺隆紀、西村理恵子：セルプロックを用いた乳癌転移巣細胞診検体の受容体検査の臨床的検討。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 21 日

八十島宏行、青儀健二郎、渡邊健一、渡邊隆紀、松井 哲、佐藤康幸、増田慎三、山下芳典、

大塚眞哉、徳永えり子、阿南節子、山口聖恵：本邦の Hazardous Drugs (HD) 曝露の実態～多施設共同 HD 曝露実態調査の解析（第 2 報）。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 22 日

増田慎三：ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。第 15 回日本乳癌学会近畿地方会、京都、2017 年 12 月 16 日

長田陽子、大谷陽子、森川希実、八十島宏行、水谷麻紀子、眞能正幸、森清、増田慎三：同時性-両側原発性乳腺アポクリン癌の 1 例。第 15 回日本乳癌学会近畿地方会、京都、2017 年 12 月 16 日

B-4

大宮英泰、高見康二、関本貢嗣、中森正二、平尾素宏、池田正孝、宮崎道彦、宮本敦史、増田慎三、西川和宏、濱直樹、三宅正和、植村守、水谷麻紀子、八十島宏行、前田栄、大谷陽子、浜川卓也、栗山啓子、眞能正幸：臨床病期 I 期右側非小細胞肺癌における縦隔リンパ節郭清に関する到達法別検討。第 117 回日本外科学会定期学術集会、2017 年 4 月 27 日

上平朝子、坪倉美由紀、中藏伊知郎、廣田和之、上地隆史、田栗貴博、眞能正幸、中森正二：大阪医療センターにおける CRE アウトブレイクの伝播要因の解析。第 91 回日本感染症学会総会・学術講演会、第 65 回日本化学療法学会学術集会、東京、2017 年 4 月 7 日

山口 歩、濱直樹、前田栄、中森正二：完全内臓逆位症を伴う胆囊炎に対し、腹腔鏡下胆囊摘出術を施行した 1 例。第 53 回日本胆道学会学術集会、山形、2017 年 9 月 28 日

関本貢嗣、加藤健志、三宅正和、植村守、中森正二、平尾素宏、宮本敦史、西川和宏、濱直樹、前田栄、浜川卓也、池田正孝：直腸癌局去再発の治療戦略。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 22 日

関本貢嗣、加藤健志、三宅正和、植村守、中森正二、平尾素宏、宮本敦史、西川和宏、濱直樹、前田栄、浜川卓也、宮崎道彦、池田正孝：骨盤多臓器合併切除時のトラベルショーティング。第 79 回日本臨床外科学会総会、東京、2017 年 11 月 23 日

植田萌、森清、高木景城、糸山光麿、笹倫郎、眞能正幸：乳腺 apocrine ductal carcinoma in situ (DCIS) の 4 例。第 58 回日本臨床細胞学会総会春期大会、大阪、2017 年 5 月 28 日

森清、清川博貴、眞能正幸：腫瘍厚み径と種々の組織学的因素は、術前に非浸潤性乳管癌症例と診断された症例での浸潤巣存在予測に有用である。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 14 日

片山真穂、初山弘幸、藤澤悠貴、松山高明、眞能正幸、上田初江：未分化多型肉腫 (Undifferentiated pleomorphic sarcoma) と診断された心臓腫瘍の 1 例。第 56 回日本臨床細胞学会総会秋期大会、横浜、2017 年 11 月 19 日

原田和弥、森 清、笹 倫郎、長友 萌、眞能正幸、竹中明美、津田絹江：細胞診の免疫染色が有用であった原発不明癌の3例。第56回日本臨床細胞学会総会秋期大会、横浜、2017年11月19日

岩本圭史、河本恵介、宮本隆司、上田孝文：片側の腸骨筋に囊胞性病変が先行し診断に難渋したリウマチ性多発筋痛症の1例。第61回日本リウマチ学会総会・学術集会、福岡、2017年4月20日

竹中 聰、角永茂樹、伊村慶紀、濱田健一郎、中 紀文、中井 翔、大島和也、王谷英達、田中太晶、上田孝文、久田原郁夫、名井 陽、荒木信人、吉川秀樹：骨盤骨肉腫の予後を改善するために：四肢骨肉腫との比較。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月13日

荒木信人、大島和也、王谷英達、田中太晶、伊村慶紀、中 紀文、濱田健一郎、竹中 聰、上田孝文、久田原郁夫、角永茂樹、青木康彰、倉都滋之、吉川秀樹：悪性骨腫瘍の患肢温存術長期経過後合併症とその対策。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月14日

竹中 聰、濱田健一郎、中 紀文、荒木信人、上田孝文、玉井宣行、名井 陽、吉川秀樹：術中放射線照射処理骨の osteoarticular graft などのようなときには使用すべきか。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月14日

中井隆彰、伊村慶紀、中井 翔、安田直弘、山田修太郎、金子恵子、王谷英達、竹中 聰、濱田健一郎、名井 陽、荒木信人、上田孝文、伊藤和幸、吉川秀樹、中 紀文：淡明細胞肉腫に対する trabectedin (Yondelis; Et-743) の抗腫瘍効果。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月14日

中井 翔、中井隆彰、安田直弘、山田修太郎、金子恵子、竹中 聰、濱田健一郎、名井 陽、荒木信人、上田孝文、伊藤和幸、吉川秀樹、中 紀文：淡明細胞肉腫に対する eribulin mesilate の抗腫瘍効果。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月14日

古家雅之、長本行隆、角永茂樹、青野博之、上田孝文：ゾレドロン酸静注療法が著効した症候性腰椎椎体血管腫の1例。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月14日

竹中 聰、角永茂樹、伊村慶紀、濱田健一郎、中 紀文、大島和也、王谷英達、田中太晶、上田孝文、久田原郁夫、名井 陽、荒木信人、吉川秀樹：骨盤骨肉腫の予後を改善するためには四肢骨肉腫との比較。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017年7月13日

荒木信人、大島和也、王谷英達、田中太晶、伊村慶紀、中 紀文、濱田健一郎、竹中 聰、上田孝文、久田原郁夫、角永茂樹、青木康彰、倉都滋之、吉川秀樹：悪性骨腫瘍の患肢温存術長期経過後合併症とその対策。第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017

年 7 月 14 日

島田俊樹、山田修太郎、平松久仁彦、立石耕介、上田孝文、三岡智規：小児の足趾溶骨性病変に対してラングルハンス細胞組織球症を疑った 2 例。第 129 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会、富山、2017 年 10 月 7 日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、高見康二、池田正孝、宮本敦史、大宮英泰、増田慎三、濱直樹、八十島宏行、水谷麻紀子、三宅正和、植村守、前田栄、大谷陽子、中森正二、関本貢嗣：高齢者食道癌の外科治療成績。第 117 回日本外科学会定期学術集会、東京、2017 年 4 月 27 日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、山田拓哉、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣：高齢者食道癌にたいする外科治療の現状。第 71 回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017 年 6 月 15 日

浜川卓也、平尾素宏、西川和宏、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：透析患者に発生した食道原発悪性黒色腫の 1 切除例。第 71 回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017 年 6 月 15 日

小林登、平尾素宏、浜川卓也、西川和宏、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：当院における食道癌術後胃管潰瘍の後方視的検討。第 71 回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017 年 6 月 15 日

山本慧、平尾素宏、山田拓哉、浜川卓也、西川和宏、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：当院における胃管癌に対する内視鏡的切除及び外科的切除症例の検討。第 71 回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017 年 6 月 15 日

小林雄太、平尾素宏、浜川卓也、西川和宏、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、中森正二、関本貢嗣：Killian-Jamieson 憩室の 1 切除例。第 71 回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017 年 6 月 16 日

浜川卓也、平尾素宏、西川和宏、山本慧、前田栄、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：高度冠動脈狭窄を伴う根治切除不能出血性胃癌に対し IABP 插入下に胃切除術を行った 1 例。第 39 回日本がん局所療法研究会、京都、2017 年 6 月 23 日

浜川卓也、平尾素宏、西川和宏、前田栄、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡下に切除を行った食道癌根治的化学放射線療法後の腹部リンパ節転移の 1 例。第 26 回日本がん転移学会学術集会・総会、大阪、2017 年 7 月 27 日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、池田正孝、宮本敦史、濱直樹、植村守、三宅正和、前田栄、中森正二、関本貢嗣：胃癌原発巣の穿孔・出血にたいする oncologic emergency surgery の現状—当院過去 5 年間の外科手術症例から—。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017

年 7 月 21 日

庄司絢香、長谷川裕子、加藤聖也、清田良介、新海数馬、田代拓、中川健太郎、石原朗雄、岩崎哲也、西尾公美子、榎原祐子、山田拓哉、中水流正一、石田永、平尾素宏、三田英治：当院における高齢者切除不能胃癌に対する化学療法の検討。第 25 回 JDDW 日本消化器関連学会週間、福岡、2017 年 10 月 14 日

Wakatsuki T, Mitani S, Hara H, Takahari D, Chin K, Hasegawa H, Hirao M, Kadowaki S, Muro K : Chemotherapy for gastric cancer with early recurrence after adjuvant S-1 monotherapy: a multicenter retrospective study. 第 15 回日本臨床腫瘍学会、神戸、2017 年 7 月 27 日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、西尾公美子、榎原祐子、山田拓哉、中水流正一、石田永、平尾素宏、三田英治：転移を有する切除不能大腸癌の予後とその予後に影響を与える因子についての検討。第 15 回日本臨床腫瘍学会、神戸、2017 年 7 月 29 日

小林雄太、平尾素宏、赤坂智史、浜川卓也、西川和宏、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、加藤伸弥、三田英治、関本貢嗣：喉頭癌術後の吻合部狭窄により経口内視鏡が困難な胃癌術後の早期食道癌に対して、経残胃的に逆行性 ESD を施行した 1 例。第 79 回日本臨床外科学会総会、東京、2017 年 11 月 24 日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、長谷川裕子、宮本敦史、加藤健志、濱直樹、三宅正和、植村守、前田栄、中森正二、関本貢嗣：当院での胃癌腹膜播種による腹水に対する CART の現状。第 90 回日本胃癌学会総会、横浜、2018 年 3 月 8 日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：サルコペニアが脾頭十二指腸切除の術後経過に及ぼす影響に関する検討。第 117 回日本外科学会定期学術集会、2017 年 4 月 29 日

前田栄、濱直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、中森正二：化学療法の奏功により切除が行われた切除不能膵癌の検討。第 71 回手術手技研究会、名古屋、2017 年 5 月 26 日

Miyamoto A, Hama N, Maeda S, Hamakawa T, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Ikeda M, Hirao M, Sekimoto M, Nakamori S : Impact of visceral obesity and sarcopenia on pancreaticoduodenectomy. 第 29 回日本肝胆膵外科学会学術集会、横浜、2017 年 6 月 10 日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：遠位胆管癌切除後の腹膜転移再発に対し再発切除により長期生存が得られた 1 例。第 39 回日本がん局所療法研究会、京都、2017 年 6 月 23 日

村上弘大、濱直樹、前田栄、宮本敦史、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、大宮英泰、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、高見康二、関本貢嗣、中森正二：減量手術を行うことできた十二指腸原発神経内分泌腫瘍多発肝転移の 1 例。第 39 回日本がん局所療法研究会、

京都、2017年6月23日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：胆道再建後の挙上空腸閉塞に対する挙上空調消化管バイパスに関する検討。第42回日本外科系連合学会学術集会、徳島、2017年6月29日

宮本敦史、村上弘大、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：術前治療が膵癌根治切除例の術後経過に及ぼす影響に関する検討。第48回日本膵臓学会大会、京都、2017年7月15日

小林雄太、前田栄、濱直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、森清、眞能正幸、中森正二：術前化学療法により切除が可能となった多発腹膜播種を伴う膵癌の1例。第48回日本膵臓学会大会、京都、2017年7月15日

池田正孝、山岡雄祐、村上弘大、植村守、三宅正和、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：術後短期抗凝固薬の大腸癌術後予算に与える影響の検討—傾向スコアを用いた解析—。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月20日

前田栄、濱直樹、宮本敦史、植村守、三宅正和、西川和宏、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、中森正二：膵癌術後における残膵切除例6例の検討。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月21日

村上弘大、宮本敦史、前田栄、濱直樹、三宅正和、西川和宏、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：膵癌に対する術前治療と切除後膵液瘻に関する検討。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月22日

前田栄、濱直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、中森正二：化学療法の奏功により切除が行われた遠隔転移を認める切除不能膵癌の検討。第26回日本がん転移学会学術集会・総会、大阪、2017年7月28日

小林雄太、前田栄、濱直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、平尾素宏、池田正孝、関本貢嗣、森清、眞能正幸、中森正二：Gemcitabine・nab-paclitaxel併用術前化学療法により切除が可能となった多発腹膜播種を伴う膵癌の1例。第26回日本がん転移学会学術集会・総会、大阪、2017年7月28日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：遠位胆管癌の再発形式、予後からみた再発巣切除に関する検討。第53回日本胆道学会学術集会、山形、2017年9月28日

宮本敦史、村上弘大、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：早期術後合併症からみた膵癌切除例における術前治療の影響。第15回日本消化器外科学会大会、福岡、2017年10月12日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：術前化学（放射線）療法が膵癌切除例の術後経過に及ぼす影響。第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017 年 10 月 20 日

前田栄、濱直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、平尾素宏、加藤健志、関本貢嗣、中森正二：術前治療後切除膵癌の治療成績の検討。第 12 回膵癌術前治療研究会、広島、2017 年 10 月 28 日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：超高齢者に対する膵頭十二指腸切除の短期成績に関する検討。第 79 回日本臨床外科学会総会、東京、2017 年 11 月 25 日

山口歩、前田栄、濱直樹、宮本敦史、植村守、三宅正和、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：肝アニサキス症の 1 切除例。第 30 回日本外科感染症学会総会学術集会、東京、2017 年 11 月 29 日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：膵頭十二指腸切除例におけるサルコペニアと術後感染性合併症との関連に関する検討。第 30 回日本外科感染症学会総会学術集会、東京、2017 年 11 月 30 日

前田栄、宮本敦史、濱直樹、小林雄太、北風雅敏、山口歩、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、加藤健志、関本貢嗣、中森正二：HIV 患者に対する胆囊摘出術。第 30 回日本外科感染症学会総会学術集会、東京、2017 年 11 月 30 日

北風雅敏、前田栄、宮本敦史、三宅正和、濱直樹、西川和宏、加藤健志、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における HIV 感染症患者に対する鼠径ヘルニア手術の検討。第 30 回日本外科感染症学会総会学術集会、東京、2017 年 11 月 30 日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：完全鏡視下に 3 回の肝切除を施行した肝細胞癌の 1 例。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017 年 12 月 8 日

前田栄、宮本敦史、濱直樹、山本慧、山口歩、小林雄太、小林登、北風雅敏、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、加藤健志、関本貢嗣、中森正二：腹腔鏡下肝切除を施行した血友病の 2 例。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017 年 12 月 9 日

山口歩、濱直樹、前田栄、宮本敦史、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：腹腔鏡下胆囊摘出術を施行した、完全内臓逆位症を伴う胆囊炎の 1 例。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017 年 12 月 9 日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加

藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：胆膵領域癌切除後の拳上空腸閉塞に対する外科的治療に関する検討。第 54 回日本腹部救急医学会総会、東京、2018 年 3 月 9 日

池田正孝、関本貢嗣、植村 守、三宅正和、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二：直腸癌局所再発に対する低侵襲手術。第 117 回日本外科学会定期学術集会、2017 年 4 月 27 日

三宅正和、植村 守、池田正孝、宮崎道彦、前田 栄、浜川卓也、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素弘、中森正二、関本貢嗣：当院における予防的側方郭清の適応とその治療成績。第 117 回日本外科学会定期学術集会、2017 年 4 月 28 日

植村 守、三宅正和、池田正孝、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、森 正樹、中森正二、関本貢嗣：局所進行直腸癌/直腸癌局所再発に対する術前放射線化学療法。第 117 回日本外科学会定期学術集会、2017 年 4 月 28 日

高見康二、大宮英泰、浜川卓也、前田 栄、三宅正和、西川和宏、濱 直樹、宮本敦史、池田正孝、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：HIV 感染患者に発症した原発性肺癌に対して手術を行った 7 例の臨床的検討。第 117 回日本外科学会定期学術集会、2017 年 4 月 29 日

池田正孝、植村 守、三宅正和、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：骨盤内臓器合併切除を必要とする初発直腸 S 状結腸癌症例の検討。第 71 回手術手技研究会、名古屋、2017 年 5 月 26 日

植村 守、三宅正和、宮崎道彦、池田正孝、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：仙骨合併切除を要する直腸癌局所再発手術に対する腹腔鏡下手術。第 71 回手術手技研究会、名古屋、2017 年 5 月 26 日

山口 歩、三宅正和、浜川卓也、前田 栄、植村 守、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：皮膚浸潤を伴う肛門管癌に放射線化学療法後、直腸切除術および会陰再建を施行した一例。第 39 回日本がん局所療法研究会、京都、2017 年 6 月 23 日

山本 慧、山本和義、浜川卓也、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、大宮英泰、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：消化器疾患術後創離開に対する局所陰圧閉鎖療法時の栄養管理の効果の検討。日本外科代謝栄養学会第 54 回学術集会、新潟、2017 年 7 月 7 日

植村 守、三宅正和、池田正孝、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：進行下部直腸癌・直腸癌局所再発に対する側方リンパ節郭清術。第 72 回日本消化器外科学会総会、金沢、2017 年 7 月 20 日

小林雄太、三宅正和、植村 守、池田正孝、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中

森正二、関本貢嗣：当院における閉塞性大腸癌に対する大腸ステントを用いた治療戦略。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月20日

市原もも子、池田正孝、植村 守、三宅正和、宮崎道彦、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：側方郭清の適応と意識および術前化学放射線療法の効果についての検討。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月20日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡下胃切除術における硬膜外麻酔挿入高からみた術後疼痛評価。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月22日

山口 歩、植村 守、三宅正和、宮崎道彦、池田正孝、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における直腸脱手術に対する Reduced Port Surgery の取り組み。第72回日本消化器外科学会総会、金沢、2017年7月22日

下山 遼、植村 守、三宅正和、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における腹腔鏡下直腸固定術～Multiple port から Reduced port ～～。第6回 Reduced Port Suegery Forum、大分、2017年8月4日

山口 歩、植村 守、三宅正和、宮崎道彦、加藤健志、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における、直腸脱手術に対する Reduced Port Surgery の取り組み。第6回 Reduced Port Suegery Forum、大分、2017年8月4日

西川和宏、遠藤俊治、藤谷和正、川田純司、大森 健、高橋 剛、平尾素宏、浜川卓也、朴正勝、村上弘大、市原もも子、宮崎道彦、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、池田正孝、中森正二、関本貢嗣：CY1 進行胃癌の治療成績：胃切除の意義はあるか？第15回日本消化器外科学会大会、福岡、2017年10月13日

植村 守、三宅正和、池田正孝、河合賢二、高橋秀和、原口直紹、西村潤一、畠 泰司、松田 宙、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、森 正樹、中森正二、関本貢嗣：直腸癌局所再発症例に対するギグリ線鋸を用いた腹腔鏡下仙骨合併切除術。第15回日本消化器外科学会大会、福岡、2017年10月13日

Ikeda M, Hamakawa T, Maeda S, Uemura M, Miyake M, Hama N, Nishikawa K, Miyamoto A, Miyazaki M, Hirao M, Nakamori S, Sekimoto M : Lateral pelvic lymph node dissection for the recurrence of lateral lymph nodes after resection of rectal cancer. 第15回日本消化器外科学会大会、福岡、2017年10月13日

植村 守、三宅正和、池田正孝、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、森 正樹、中森正二、関本貢嗣：直腸癌局所再発症例に対する腹腔鏡下手術の取り組み。第72回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017年11月10日

北風雅敏、植村 守、三宅正和、池田正孝、加藤健志、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：直腸癌局所再発に対して仙骨合併切除術を行った症例における術後疼痛管理の検討。第72回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017年11月11日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：早期胃癌に対する噴門側胃切除術・食道残胃吻合の治療成績の検討。第79回日本臨床外科学会総会、東京、2017年11月23日

植村 守、三宅正和、池田正孝、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、水島恒和、森 正樹、中森正二、関本貢嗣：直腸癌局所再発手術における重症合併症との闘い。第79回日本臨床外科学会総会、東京、2017年11月24日

小林 登、植村 守、三宅正和、加藤健志、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：直腸癌術後局所再発に対する仙骨合併切除例の骨盤内感染の検討。第79回日本臨床外科学会総会、東京、2017年11月25日

三宅正和、植村 守、池田正孝、加藤健志、前田 栄、浜川卓也、西川和宏、濱直樹、宮本敦史、平尾素弘、宮崎道彦、中森正二、関本貢嗣：骨盤内臓全摘術後の骨盤内再発切除症例の検討。第79回日本臨床外科学会総会、東京、2017年11月25日

小林雄太、植村 守、三宅正和、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：局所陰圧閉鎖療法を用いて腹会陰式直腸切斷術後の会陰創管理を行った1例。第30回日本外科感染症学会学術集会、東京、2017年11月30日

加藤健志、植村 守、三宅正和、浜川卓也、前田 栄、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：横行結腸癌に対するReduced port surgery(RPS)の標準化と教育。第30回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017年12月7日

小林 登、浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、中森正二、関本貢嗣：イレウス管留置時に診断された胃癌に対して二期的に腹腔鏡下にイレウス解除術および胃切除を施行した一例。第30回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017年12月7日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡下胃切除術予防的D2郭清の治療成績。第30回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017年12月8日

山本 慧、三宅正和、浜川卓也、前田 栄、植村 守、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：瘤への流入血管のクリッピングのみで治療し得た脾動脈瘤の一例。第30回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017年12

月 9 日

Nishikawa K, Fujitani K, Endo S, Kawada J, Hirao M, Hamakawa T, Hasegawa H, Maeda S, Uemura M, Miyake M, Hama N, Miyamoto A, Kato T, Nakamori S, Sekimoto M : Is gasstrectomy for CY1 gastric cancer truly essential? 第 90 回日本胃癌学会総会、横浜、2018 年 3 月 9 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、山口 歩、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：所属リンパ節生検で診断した胃未分化円形細胞肉腫の 1 例。第 90 回日本胃癌学会総会、横浜、2018 年 3 月 9 日

小林 登、西川和宏、浜川卓也、平尾素宏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：HIV 陽性血友病患者の発症した胃癌に対し胃切除を施行した一例。第 90 回日本胃癌学会総会、横浜、2018 年 3 月 8 日

山口 歩、三宅正和、植村 守、加藤健志、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：狭窄型虚血性腸炎にて、イレウスを発症し 2 度の手術を要した 1 例。第 54 回日本腹部救急医学会総会、東京、2018 年 3 月 9 日

加藤伸弥、三宅正和、植村 守、加藤健志、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：腸重積を併発した進行直腸癌を腹腔鏡下に切除した一例。第 54 回日本腹部救急医学会総会、東京、2018 年 3 月 9 日

北風雅敏、植村 守、三宅正和、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：直腸癌によるフルニエ壊疽の 1 例。第 54 回日本腹部救急医学会総会、東京、2018 年 3 月 8 日

萩 美里、三宅正和、北風雅敏、植村 守、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：急性虫垂炎を契機に判明した虫垂癌の一例。第 54 回日本腹部救急医学会総会、東京、2018 年 3 月 8 日

角永茂樹、伊村慶紀、王谷英達、田中太晶、竹中 聰、大島和也、濱田健一郎、中 紀文、名井 陽、久田原郁夫、荒木信人、上田孝文、青木康彰、吉川秀樹：延長型腫瘍用人工関節の治療成績。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 13 日

濱田健一郎、中 紀文、伊村慶紀、王谷英達、田中太晶、竹中 聰、大島和也、角永茂樹、城山 晋、荒木信人、久田原郁夫、上田孝文、吉川秀樹：神経線維腫症 1 型に発症した悪性末梢神経鞘腫瘍に対する治療成績。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

王谷英達、立岩大輔、岩佐沙弥、伊村慶紀、田中太晶、大島和也、荒木信人、濱田健一郎、竹中 聰、中 紀文、名井 陽、吉川秀樹、角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：骨巨細胞腫の治療成績。第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2017 年 7 月 14 日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：下腿後面の悪性軟部腫瘍に対して術前化学療法・放射線治療を施行した治療経験。第1回日本サルコーマ治療研究学会学術集会、東京、2018年2月23日

森川希実、増田慎三、水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、田中希世、眞能正幸、森清、関本貢嗣、中森正二：ホルモン陽性 HER2陰性進行再発乳癌患者における血清 HER2 蛋白測定と抗 HER2 治療の可能性。第25回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017年7月14日

水谷麻紀子、増田慎三、八十島宏行、大谷陽子、森川希実、苅田真子：HER2 陽性転移・再発乳癌に対する一次治療薬としてカドサイラの可能性。第25回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017年7月14日

四方文子、鈴木久美、増田慎三、木村光誠、藤岡大也、寺沢理沙、水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、岩本充彦：内分泌療法を受けている若年乳がん患者の体験する困難と医療者へのニーズ。第25回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017年7月14日

垣内万依、庄野裕志、森川希実、大谷陽子、八十島宏行、水谷麻紀子、増田慎三：エリブリシメシリ酸塩の治療継続に及ぼす腎機能の影響。第25回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017年7月14日

B-5

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、加藤健志、三宅正和、植村守、中森正二、関本貢嗣：臀部慢性膿皮症の検討。第60回東海肛門疾患懇談会、名古屋、2017年7月29日

中森正二：conversion surgery の最近の話題－化学療法を中心に－。第17回阪神臍臓外科研究会、大阪、2018年2月23日

吉田悠里子：神経原性肺水腫をきたした10歳代女性の1例。第64回なにわ臨床研究会、大阪、2017年5月24日

木村剛、小河原光正、宮本智、安藤性實、高見康二、安村かおり、井上敦夫、栗山啓子、森清、眞能正幸：アファチニブとリバーロキサバンが奏効した肺血栓塞栓症合併肺腺癌の1例。第106回日本肺癌学会関西支部会、大阪、2017年6月24日

上田孝文：国立病院機構大阪医療センターにおける病診連携の現状とリハビリテーションを含む骨軟部腫瘍分野の診療内容の紹介。第4回整形外科診療 FACE TO FACE の会(特別講演)、大阪、2017年10月18日

上田孝文：骨・軟部腫瘍診療の要点と最近のトピックス。第39回奈良県骨・関節研究会(特別講演)、奈良、2017年10月21日

庄司絢香、長谷川裕子、石田永、三田英治：高齢者切除不能胃癌に対するシスプラチン併

用療法と予後について。第 107 回例会近畿支部日本消化器病学会地方会、大阪、2017 年 9 月 6 日

増田慎三：閉経後 ER 陽性進行再発乳癌治療の新展開。SEM 大阪、大阪、2017 年 4 月 22 日

増田慎三：乳癌領域における若手医師の教育プログラム。第二回乳癌 Educational セミナー、東京、2017 年 5 月 21 日

増田慎三：進行再発 HER2 陽性乳癌に対するベストストラテジーを考える。中讃地区乳癌 Expert Meeting、香川、2017 年 5 月 23 日

増田慎三：ファイザーが主催する会議に出席し、専門的知見に基づいて乳癌薬物療法に対する専門的知識の供与を行い乳癌治療の均てん化を図る。Advisory Board Meeting for Beast Cancer、東京、2017 年 5 月 26 日

増田慎三：進行再発 HER2 陽性乳癌～1st ライン治療を考える～。The Apex ACADEMY OF HALAVEN @Chicago, Chicago, 2017 年 6 月 4 日

増田慎三：米国腫瘍学会で発表された乳がん治療の最新情報についての意見・討議。Breast Cancer Treatment Strategy Advisory Board Meeting、大阪、2017 年 6 月 26 日

増田慎三：ホルモン受容体陽性乳がん治療について助言。Lilly Breast Cancer Medical Advisory Board Meeting、大阪、2017 年 7 月 7 日

増田慎三：St. Gallen BCC2017 からみた、今後の閉経前内分泌療法の展望。第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017 年 7 月 13 日

増田慎三：HER2 陰性進行再発乳癌に対するベストストラテジーを考える。South Osaka Breast Cancer symposium、大阪、2017 年 7 月 20 日

増田慎三：HER2 陽性進行・再発乳癌治療に関する情報提供。第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017 年 7 月 27 日

増田慎三：HER2 陰性乳癌に関する治療戦略と最新の情報 HER2 陰性進行・再発乳癌におけるアバスチン+パクリタキセル療法。Chugai Onco-Line on Best Cancer、東京、2017 年 8 月 3 日

増田慎三：HER2 陰性進行再発乳癌に対するベストストラテジーを考える。第 18 回乳癌最新情報カンファレンス スポンサードセミナー、京都、2017 年 8 月 4 日

増田慎三：閉経前 ER 陽性乳癌治療における Best Strategy を探る。第 18 回乳癌最新情報カンファレンス、京都、2017 年 8 月 4 日

増田慎三：乳癌診療～今、そしてこれから～。CIMIC 社内研修会、東京、2017 年 8 月 31 日

増田慎三：十分な局所性治療及び術前補助化学療法又は術後補助化学療法を終了した高リスク生殖細胞系 BRCA1/2 変異陽性 HER2 陰性原発乳癌患者に対する術後補助療法としてのオラパリブの有効性と安全性を評価する無作為二重盲検並行群間比較プラセボ対照多施設共同第Ⅲ相試験。2nd OlympiA Local Investigators' Meeting、東京、2017年9月2日

増田慎三：最新の乳がん周術期化学療法。Breast Cancer Round Table Meeting in Kobe、神戸、2017年9月15日

増田慎三：医薬品費用対効果評価の施行的導入の対象品目に係る科学的観点と倫理的・社会的観点の議論。カドサイラに係る費用対効果評価専門組織における役割派遣、東京、2017年9月20日

増田慎三：進行再発 HER2 陽性乳癌に対するベストストラテジーを考える。第4回乳癌勉強会、名古屋、2017年9月23日

増田慎三：進行再発 HER2 陽性乳癌に対するベストストラテジーを考える。Chugai Breast Cancer Seminar in Sendai、仙台、2017年10月6日

増田慎三：ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。乳がん分子標的治療セミナー、東京、2017年10月14日

増田慎三：HER2 乳癌に関する治療戦略と最新の情報提供。石川県乳癌 Expert Meeting、石川、2017年10月27日

増田慎三：HER2 陽性進行再発乳癌治療の現状と展望。東葛乳がん Expert Meeting、千葉、2017年11月10日

増田慎三：第3部パネルディスカッション：ER 陽性 HER2 陰性のABC 患者における治療アルゴリズムを考える。Pfizer Oncology Symposium Breast Cancer 2017、東京、2017年11月11日

増田慎三：乳癌領域の臨床試験 実施状況レビュー。大阪地区 治験 Boost-up Meeting、大阪、2017年11月30日

増田慎三：BRCA 検査、PARP 阻害剤を中心とした TNBC umnet needs に関する討論。SABCS2017 アストラゼネカ Advisory Board Meeting、サンアントニオ、2017年12月8日

増田慎三：新局面を迎える HER2 陰性進行再発乳癌治療、Breast Cancer Treatment Forum、大阪、2017年12月21日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジー。New Year Conference Breast Cancer、埼玉、2018年1月11日

増田慎三：ホルモン受容体陽性乳癌の治療について助言。Lilly Medical Breast Cancer Consultant Meeting、東京、2018年1月19日

増田慎三：HER2陽性進行再発乳癌治療の現状と展望。乳癌 Expert Meeting in 千葉、千葉、2018年1月25日

増田慎三：我が国におけるHER2陰性乳がんの周術期化学療法～享受と独創～。乳癌学術講演会2018、東京、2018年2月24日

増田慎三：ER陽性進行再発乳癌の治療戦略。第28回鳥取県乳腺疾患研究会、鳥取、2018年3月3日

増田慎三：HER2陽性進行再発乳癌の治療戦略～ベストストラテジーを考える～。Chugai Breast Cancer Symposium in Shizuoka 2018、静岡、2018年3月10日

B-6

山田真美、宮崎道彦、田中玲子、加藤健志、三宅正和、植村 守、中森正二、関本貢嗣：急性壊死性筋膜炎の検討第109回近畿肛門疾患懇談会、大阪、2017年6月17日

前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、中森正二：conversion surgeryの功罪。第66回近畿胰疾患懇談会、大阪、2017年10月7日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、加藤健志、三宅正和、植村 守、中森正二、関本貢嗣：器質的/機能的狭窄に対するSSG法。第61回東海肛門疾患懇談会、名古屋、2017年11月4日

下山 遼、植村 守、浜川卓也、前田 栄、三宅正和、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、池田正孝、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：鼠径リンパ節郭清後の難治性リンパ瘻に対してVAC療法が奏功した1例。第617回大阪外科集談会、2017年5月20日

青野奈々：診断時から終末期までの緩和ケア。第15回兵庫臨床管理栄養士研究会定例会、神戸、2017年4月22日

青野奈々：呼吸困難。大阪府立急性期総合医療センター緩和ケア研修会、大阪、2017年7月7日

青野奈々：オピオイドを開始するとき。多根総合病院緩和ケア研修会、大阪、2018年2月17日

B-7

増田慎三：標準療法および最新の乳がん治療に関する説明、アベマシクリブ臨床試験成績の紹介。IY3-MC-JPCF試験 Investigators Meeting、東京、2017年9月30日

増田慎三：イブランスの上手な使い方。Pfizer Breast Cancer Summit 2017 in Osaka、大阪、2017

年 11 月 24 日

増田慎三：ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。イブランス発売記念講演、沖縄、2017 年 12 月 1 日

増田慎三：ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。第 33 回兵庫県病院薬剤師のためのオンコロジーセミナー、神戸、2017 年 12 月 14 日

増田慎三：ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。イブランス発売記念講演 in Aichi、名古屋、2018 年 1 月 26 日

増田慎三：ER 陽性進行再発乳癌の新たな治療戦略～イブランスの役割～。イブランス発売記念講演会 神奈川県央県西部、神奈川、2018 年 2 月 15 日

B-8

中森正二：臍癌診療 Up to Date。生野区医師会学術講演会、大阪、2017 年 11 月 15 日

栗山啓子：胸部 X 線写真の診かた～肺野型肺癌早期発見のために～。第 31 回日本臨床内科医学会、大阪、2017 年 10 月 9 日

東 将浩：大動脈瘤と大動脈解離の緊急 CT～誰にも相談できない時に備えて～。第 24 回 大阪画像診断 IVR セミナー、大阪、2017 年 5 月 31 日

東 将浩：～コレステロール以外の脂肪もたまる～ 中性脂肪蓄積心筋血管症 (Triglyceride deposit cardiomyovasculopathy, TGCV)。第 29 回 火の国 RI カンファレンス、熊本、2018 年 3 月 9 日

B-9

増田慎三：PALOMA-2 試験結果レビュー。進行再発乳癌における治療ストラテジーに関する講演、東京、2017 年 7 月 22 日

高度医療技術開発室

室長　是恒之宏
室員　安部晴彦

近年における医療を取り巻く情報処理や画像処理の技術革新により、診断、治療における医用画像診断装置の利用範囲は拡大しており、著しいイノベーションを引き起こしている。医用画像診断装置の技術開発により低侵襲化、従来視覚化困難であった部位や現象の画像化が可能になりつつあり、そこから新たな治療が生まれる可能性がある。これらの技術開発には医工連携すなわち病院、大学、企業との連携体制の構築が必要であるが、米国における产学連携の仕組みや組織と比較すると本邦ではまだまだ発展の余地が多いと言える。病院における医療現場のニーズを企業が保有している技術開発力や大学の基礎医学研究能力に結び付けながら、常に新しい高度医療技術の開発に取り組んでゆくことが、病院に付属する本研究室の最も重要な役割である。

平成24年度より循環器系研究室員を配置し、医用画像診断装置の技術開発を大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座とともに推進した。

平成27年度より、院内臨床症例（特に心房細動症例、大動脈弁狭窄症症例）の心臓超音波画像解析も並行して推進した。

平成29年度は、院内臨床症例で僧帽弁輪石灰化、大動脈弁石灰化をCT画像から解析し、心臓超音波画像と組み合わせて解析することによって、冠動脈石灰化のリスク層別化が可能であること。また心エコー検査と生体インピーダンス分析を併用することによって心不全患者の再入院リスク層別化が可能であることを報告した。（AHA2017、ACC2018）

さらに、近年はビッグデータの分析など統計解析手法の進歩も著しく、医療分野においてはクラスター分析などによって疾患の新たな表現型（Phenotype）に関する研究も進んでいる。

平成30年度は、心不全特に収縮の保たれた心不全症例における表現型分析を新たに進める予定である。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Sakaguchi T, Watanabe M, Kawasaki C, Kuroda I, Abe H, Date M, Ueda Y, Yasumura Y, Koretsune Y: A novel scoring system to predict delirium and its relationship with the clinical course in patients with acute decompensated heart failure. 「J Cardiol」 pii: S0914-5087(17)30341-6. doi: 10.1016/j.jjcc.2017.11.011.
2017年12月26日

A-2

安部晴彦、是恒之宏：DOACの適応と今後の可能性「循環器疾患最新の治療 2018-2019」永井良三監修、伊藤浩、山下武志編集、南江堂、2018年1月12日

A-3

西田博毅、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、安村かおり、依藤弘紀、井手本明子、加藤大

志、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏：短腸症候群・人工透析に合併したセレン・アルギニン低下により左室機能低下を認めた一例「日本内科学会雑誌」106卷4号、828-833、日本内科学会、2017年4月10日

B-1

安部晴彦：Interactive Echo Case Studies with the Experts (II): Diagnose It If You Can. 11th Echo Hong Kong, Hong Kong, 2017年11月26日

B-2

Shinouchi K, Iida Y, Toriyama C, Nishida H, Yasumura K, Yorifuji H, Kato T, Idemoto A, Mishima T, Yokoi K, Abe H, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Impact of preexisting chronic total occlusions of the coronary artery on the outcome of out-of-hospital sudden cardiac arrest patients with acute coronary syndrome. ESC Congress 2017 European Society of Cardiology, Barcelona, Spain, 2017年8月27日

Nishida H, Abe H, Yokoi K, Idemoto A, Nakamura M, Iida Y, Toriyama C, Ozaki T, Yasumura K, kato T, Shinouchi K, Mishima T, Date M, Uematsu M, Koretsune Y: Mitral Annular Calcification Detected by Transthoracic Echocardiography is a More Robust Marker of Coronary artery Calcification than That Detected by Multidetector Computed Tomography. American Heart Association, California, USA, 2017年11月14日

Idemoto A, Abe H, Nakamura M, Iida Y, Toriyama C, Ozaki T, Yasumura K, Nishida H, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Incremental Value of Systemic Extracellular Water Volume Assessment by Bioelectrical Impedance Analysis and Echocardiography in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. ACC2018, Orlando, USA, 2018年3月10日

B-4

篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、三嶋 剛、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：慢性完全閉塞病変が急性冠症候群による心停止患者の予後に与える影響。第65回日本心臓病学会、大阪、2017年9月29日

加藤大志、三嶋 剛、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、西田博毅、安村かおり、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：生体弁による三尖弁置換術後患者に経静脈的に右室リード挿入し両心室ペーシングを行った一例。第65回日本心臓病学会、大阪、2017年9月29日

西田博毅、安部晴彦、横井研介、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：冠動脈石灰化の予測における僧帽弁輪および大動脈弁石灰化評価の有用性。第65回日本心臓病学会、大阪、2017年9月30日

Yasumura K, Abe H, Nakamura M, Nishida H, Kato T, Idemoto A, Shinouchi K, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y : Prognostic Impact of Mitral Annular Plane Systolic Excursion and Systolic Blood Pressure Ratio in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日

Abe H, Idemoto A, Nishida H, Yasumura K, Kato T, Nakamura M, Toriyama C, Iida Y, Ozaki T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y : Caveat of Echocardiographic Assessment of Moderate to Severe Aortic Stenosis: Comparison with Cardiac Catheterization. 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日

鳥山智恵子、安部晴彦、北林克清、西田博毅、加藤大志、井手本明子、伊達基郎、上田恭敬、榎 雅之、是恒之宏 : 左房に発生した原発性内膜肉腫の一例 A case of primary Intimal sarcoma of the left atrium. 第 90 回日本超音波医学会、栃木、2017 年 5 月 26 日

西田博毅、安部晴彦、横井研介、井手本明子、飯田吉則、鳥山智恵子、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏 : 経胸壁心エコーと心臓 CT による僧帽弁輪石灰化の不一致と冠動脈石灰化の重症度との関係。日本心エコー図学会第 28 回学術集会、名古屋、2017 年 4 月 22 日

井手本明子、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、安村かおり、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏 : 下大静脈の長軸断面および短軸断面での測定指標と右房圧予測に関する検討。日本心エコー図学会第 28 回学術集会、名古屋、2017 年 4 月 23 日

井手本明子、安部晴彦、篠内和也、伊達基郎、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、横井研介、上田恭敬、是恒之宏 : 静脈血栓塞栓症へのリバーロキサバン単独療法の下肢エコーと D ダイマーによる効果予測。JSUM 2017 日本超音波医学会第 90 回学術集会、宇都宮、2017 年 5 月 26 日

Kato T, Mishima T, Iida Y, Toriyama C, Nishida H, Yorifuji H, Yasumura K, Idemoto A, Shinouchi K, Yokoi K, Abe H, Date M, Uematsu M, Koretsune H, Ueda Y : Right Ventricular Endocardial Lead Implantation through Bioprosthetic Tricuspid Valve for Cardiac Resynchronization Therapy. 第 64 回日本不整脈心電学会、横浜、2017 年 9 月 16 日

飯田吉則、安部晴彦、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏 : 繰り返す心嚢液貯留にアスピリンが著効した 1 例。第 65 回日本心臓病学会、大阪、2017 年 10 月 1 日

Idemoto A, Abe H, Yasumura K, Nishida H, Kato T, Shinouchi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Good Predictor of Right Atrial Pressure in the Inferior Vena Cava Parameters by 2-Dimensional Echocardiography. 第 21 回日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 13 日

Iida Y, Abe H, Yasumura K, Shinouchi K, Mishima T, Yokoi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Improvement of diuretic resistance by correction of anemia by blood transfusion in a patient with

congestive heart failure. 第 21 回日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 13 日

Yasumura K, Abe H, Kato T, Iida Y, Mishima T, Yokoi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y:
Nutritional Assessment Indices in Heart Failure with and without Reduced Exercise Tolerance 第 21 回
日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 13 日

Kato T, Abe H, Yasumura K, Iida Y, Mishima T, Yokoi K, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y:
Addition of a Thiazide Diuretic May Have Beneficial Effects on Exercise Capacity in a Case of
Hypertension. 第 21 回日本心不全学会学術集会、秋田、2017 年 10 月 14 日

彦惣俊吾、砂真一郎、小島貴行、中谷大作、土肥智晴、世良英子、中本 敬、山田貴久、安
村良男、上松正朗、樋口義治、藤 久和、坂田泰史：A Large Scale Multicenter Prospective
Observational Study to Clarify Complexity of Heart Failure with Preserved Ejection Fraction (HFpEF)
-PURSUIT-HFpEF Study-. 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日

石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、辻村卓也、須
永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畠 陽介、上松
正朗、真野敏昭：急性心筋梗塞に対するプラチナクロムエベロリムス溶出性ステント留置後
亜急性期の血栓性の検討。第 37 回心筋梗塞研究会、東京、2017 年 7 月 1 日

B-6

安村かおり、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、西田博毅、加藤大志、井手本明
子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基朗、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：腹部大動
脈壁在血栓から下肢動脈塞栓をきたした担癌患者の一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方
会、大阪、2017 年 6 月 24 日

西田博毅、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘樹、安村かおり、加藤大志、井手本明
子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基朗、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：比較的速
い狭窄の進行を認めた重症大動脈弁狭窄症の一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大
阪、2017 年 6 月 24 日

安部晴彦、安村かおり、加藤大志、井手本明子、西田博毅、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘
紀、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基朗、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：大動脈弁
狭窄症における心肺運動負荷試験の有用性。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017
年 6 月 24 日

横井研介、鳥山智恵子、飯田吉則、依藤弘紀、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明
子、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基朗、上田恭敬：冠動脈 2 枝閉塞病変を有する下
壁誘導の ST 上昇型急性心筋梗塞症例で責任病変同定に心臓 MRI が役に立った症例。第 123
回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、井手本明
子、三嶋 剛、横井研介、安部晴彦、伊達基朗、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性冠症

候群による心停止患者の動脈血 pH と予後との関連。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

三嶋 剛、鳥山智恵子、飯田吉則、依藤弘紀、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：心房細動アブレーション中に左房天蓋静脈損傷による縦隔血腫を生じた一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

加藤大志、三嶋 剛、鳥山智恵子、飯田吉則、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：生体弁による三尖弁置換術後患者に経静脈的に右室リード挿入し両心室ペーシングを行った一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

飯田吉則、三嶋 剛、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：心室性期外収縮 2 段脈による失神を認める β 遮断薬が著効した一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

井手本明子、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、安村かおり、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：救急外来受診時に D ダイマー上昇を認めなかった急性大動脈解離の一例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

尾崎立尚、安部晴彦、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 �剛、伊達基郎、上田恭敬：大血管内ステントグラフト内挿術後にうつ血性心不全をきたした 1 例。第 123 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 6 月 24 日

尾崎立尚、三嶋 剛、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、安村かおり、西田博毅、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：長期の心不全管理にてポリファーマシーに陥った一例。第 217 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2017 年 9 月 16 日

井手本明子、安部晴彦、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：D ダイマー上昇の原因精査に下肢血管エコーが有用であった一例。第 44 回日本超音波医学会関西地方会、大阪、2017 年 9 月 23 日

横井研介、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、安村かおり、西田博毅、加藤大志、井出本明子、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬：6Fr システムでの Dio サポート下 Rotablator の経験。第 29 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会 (CVIT)、京都、2017 年 10 月 14 日

横井研介、中村雅之、飯田吉則、鳥山千恵子、尾崎立尚、安村かおり、西田博毅、加藤大志、

井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬：右冠動脈近位部にできた血腫が、遠位部に留置されたステントを超えて遠位部に進展した症例。第 29 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会 (CVIT)、京都、2017 年 10 月 14 日

鳥山智恵子、安部晴彦、中村雅之、飯田吉則、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、井手本明子、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏：末期担癌患者の静脈血栓塞栓症に対してリバーロキサバン強化療法が有効であった一症例。第 124 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017 年 11 月 25 日

西田博毅、安部晴彦、井手本明子、安村かおり、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正明、是恒之宏：経胸壁心エコーは心臓 CT より鋭敏に僧帽弁石灰化を検出し冠動脈石灰化の重症度を予測する。関西心エコーリサーチクラブ、神戸、2017 年 12 月 16 日

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：慢性完全閉塞病変が急性冠症候群による心停止患者の予後に与える影響。第 30 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2018 年 2 月 10 日

B-8

安部晴彦：心不全。第 59 回おおさか健康セミナー、大阪、2017 年 6 月 3 日

安部晴彦：担癌患者 VTE に対する DOAC 使用症例の検討。OSAKA VTE Expert Meeting 2017、大阪、2017 年 7 月 21 日

安部晴彦：心不全の病態と治療のエビデンス。第 15 回 中央区開業医病診連携の会、大阪、2017 年 9 月 14 日

安部晴彦、井手本明子、加藤大志、飯田吉則、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：低強度臥位エルゴ負荷により機能性憎帽弁逆流が経度から重度へ増悪した心不全の一例。第 122 回 UGG 談話会、大阪、2018 年 2 月 10 日

医療情報研究室

室長 岡垣篤彦

医療情報研究室では、医療への IT 応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。病院において実稼働している病統情報統合システムを用いた研究、病院情報システム本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関するシステム的検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。また、ネットワーク技術や画像処理技術の応用・改良など、情報処理の基盤技術に関連した研究も行っている。早急に実用化することを求められている災害時の国内標準電子カルテについて、あるいは SS-MIX、SS-MIX2、MML、openEHR といった標準規格を通して異なる電子カルテシステム間のスムーズな連携についても研究を行なっている。国内で行なわれている医療機関間のデータ共有に関する主要な研究プロジェクトのうち代表的な 3 つのプロジェクト、すなわち、国立病院機構の「電子カルテデータ標準化等のための IT 基盤構築事業」、京都大学が主導する「次世代医療 ICT ワーキンググループ事業-千年カルテプロジェクト」、および大阪大学が主導する「病院情報システムデータを利用した横断的研究基盤構築に関する研究」に参加している。平成 23 年年末に更新した電子カルテシステムは、システムの応用範囲が広くなり、データ利用についても多彩な可能性が考えられる。このシステムを用いて岡垣室長を中心開発してきたカード型カルテシステムの発展をめざすと同時に経営分析的な視点を新たに研究対象に加えている。平成 26 年 1 月より実用化された救命救急外来経過表は、救命救急外来の診療速度についてける国内で最も進んだ電子カルテとして大きな注目を集め、東京大学、京都大学、沖縄中部病院など、国内の一流研究・医療機関より見学を受け入れた。平成 25 年度は災害医療研究室と共同で厚労省指定研究「南海トラフ巨大地震の被害想定に対する DMAT による急性期医療対応に関する研究」において GIS の技術を用いた DMAT 被災地派遣支援ソフトウェアの開発を行い平成 26 年度に報告書を上梓したが、国会での来るべき甚大災害に対する医療支援に関する議論に対しデータの供給を行なうなど国内の甚大災害対策に貢献した。引き続き災害関連の研究として平成 27 年度より厚労省指定研究「首都直下地震に対応した DMAT の戦略的医療活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究」を 2 年間行なった。南海トラフ地震への医療支援に関してはその後も継続的に研究に参加しており、平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）分担研究「南海トラフ地震に関する研究」に共同研究者として参加し、平成 29 年度も引き続き共同研究者として参加した。その他に、国立病院機構の「電子カルテによる「災害診療記録」電子フォーマット自動出力実証事業」に参加した。医療情報学会において 2017 年に「災害・救急医療へのユーザーメード IT の貢献」、2018 年には「医療の質向上に貢献する診療支援システムとその効果分析」というテーマでワークショップを主催した。

【2017年度 研究業績発表】

A-2

岡垣篤彦、富田宏昭：「実例から学ぶ電子カルテ活用—FileMaker で電カルを使いこなす」 ライフサイエンス社：P.11-107、2017年5月11日

A-3

岡垣篤彦、定光大海：首都直下地震における DMAT 派遣支援アプリケーションの作成および医療機関の被災予測「医療情報学」37(2) : P.55-67、2017年6月16日

岡垣篤彦、定光大海：電子災害掲示板および電子災害診療録の使用経験の分析 3-F-1 ワークショッピング「医療情報学」21st : P.122-123、2017年6月1日

岡垣篤彦：心臓カテ経過記録、アンギオ記録、救命救急外来の電子カルテ記載内容と請求情報の比較分析「医療情報学」37(Suppl) : P.217、2017年11月1日

岡垣篤彦：診察室で必要とされる薬剤および関連情報「医療情報学」37(Suppl) : P.240、2017年11月1日

定光大海、岡垣篤彦、若井聰智：首都直下地震における医療機関被害想定と災害拠点病院の役割「Japanese Journal of Disaster Medicine」21(3) : P.454、2017年2月1日

真鍋史朗、服部 瞳、武田理宏、中川彰人、岡垣篤彦：多施設臨床研究データ収集システムにおけるODMの活用事例報告「医療情報学」37(Suppl) P.359、2017年11月1日

B-4

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海：電子災害掲示板および電子災害診療録の使用経験の分析。第21回医療情報学会春季学術大会、福井、2017年6月2日

岡垣篤彦：災害・ER外来、アンギオ、心臓カテーテル経過記録システムの記録内容と請求情報の比較分析。第37回医療情報学連合大会 ワークショップ07 医療の質向上に貢献する診療支援システムとその効果分析、大阪、2017年11月22日

岡垣篤彦：診察室で必要とされる薬剤および関連情報。第37回医療情報学連合大会 ワークショップ12 患者を守る薬剤情報の伝達、共有、大阪、2017年11月22日

B-5

岡垣篤彦：災害対策としての医療情報処理。フィルメーカーカンファレンス、横浜、2017年10月24日

岡垣篤彦：災害対策としての医療情報処理。第7回兵庫県医用画像情報システム研究会、兵庫、2017年8月5日

災害医療研究室

室長 定光大海

救命救急センター・救急科（総合救急部）は主に大阪府下の三次救急を担っており、外因による重症患者の受入れを特徴とした救命救急センターとなっている。時間外に二次救急医療機関で受け入れが困難な事例へ対応する大阪府コーディネート事業にも参加している。コーディネートを求められる事例には、高齢者、薬物大量服用、飲酒、精神疾患で身体損傷を伴う事例などが多く、社会の根の深い問題に直面している。その他にも救急救命士を含む救急隊員の病院前医療活動の質を保証するメディカルコントロール（MC）や政策医療の一つである災害医療にも対応している。

災害医療では、DMAT（Disaster Medical Assistance Team）としての対応や放射線災害に対する緊急被ばく医療を主要な業務として、厚生科学研究や各種災害研修・訓練にかかわってきた。平成25年10月にDMAT事務局が本院で開設され、東京にある事務局の代替機能を果すことが求められた。その役割は次第に大きくなり、平成27年度にはDMAT技能維持研修を全国で12回担当し、さらにDMAT隊員養成研修を2回主催するに至った。今後もさらに役割が拡大すると思われる。南海トラフ巨大地震、首都直下型地震をはじめ、自然災害や人為的災害にも対応できる機能と機動性の充実を図る必要がある。

研究テーマも三次救急の代表的な病態である多発外傷、院外心停止、中毒、熱傷、多臓器不全が中心になる。厚生科学研究費補助金による「災害時効果的初動期医療の確保及び改善に関する研究」では共同研究者として災害時の標準的診療記録票を作成した。さらに主任研究者として厚生労働省指定研究「南海トラフ巨大地震の被害想定に対するDMATによる急性期医療対応に関する研究」を報告し、厚生労働省の進めている災害急性期医療対応の判断根拠となるデータを作成した。2年間にわたる首都直下型地震を想定した指定研究も行い（平成27年度終了）、今後の発生が想定されている大災害時のDMATの戦略的対応に関する研究を行ってきた。南海トラフ巨大地震へのDMATの戦略的対応については、厚生科研の小井土研究班の分担研究で継続している。救急医学関連では、学会主導型で行われる、外傷、敗血症、ARDS、市中劇症型感染症（以上、日本救急医学会多施設共同研究；JAAM FORECAST）に参画した。

これから新たな専門医制度が始まるが、救急を担う医師の確保はさらに難しくなることが予測される。災害医療を担う人材としても欠かせない救急科専門医をいかに確保するかが大きな課題になる。そのためにも次世代の救急医を育てる新たな人材を確保することで救急診療・研究機能の新たな展開を期待したい。

【2017年度 研究業績発表】

A-3

岡垣篤彦、定光大海：首都直下地震におけるDMAT派遣支援アプリケーションの作成および医療機関の被災予測「医療情報学」37：p55-67、2017年5月

A-5

定光大海、小井土雄一：災害時における初動医療班の活動のあり方を考える（総合医学会報告）「IRYO」72：p13-15、2018年1月

B-3

定光大海：救急科領域講習5. 南海トラフ大地震災害に備える。第45回日本救急医学会（指定講演）、大阪、2017年10月25日

上尾光弘、定光大海、家城洋平：災害時標準診療録に準拠した電子災害診療録の作成と熊本地震での使用経験。第45回日本救急医学会、大阪、2017年10月25日

B-8

定光大海：四国防災・危機管理特別プログラム「災害医療マネジメント」診療録管理、2017年6月23日

定光大海：H29原子力規制庁委託「講師養成講座」基礎研修、大阪、2017年11月7日

定光大海：H29原子力規制庁委託「講師養成講座」実践研修、原子力安全研究協会、2017年12月16日～17日

上尾光弘：大阪府医師会災害・外傷初期診療研修会（大阪府医師会館）2017年9月

上尾光弘：大阪府医師会災害・外傷初期診療研修会（大阪府医師会館）2018年1月

上尾光弘：大阪府医師会災害・外傷初期診療研修会（大阪府医師会館）2018年2月

上尾光弘：救急医療・災害医療の現状と問題点。東淀川区医師会学術講演、大阪、2017年9月

上尾光弘：災害電子カルテの作成。第4回国際救急災害シンポジウム、東大阪、2017年11月23日

上尾光弘、岡垣篤彦、定光大海：災害電子カルテの作成とその意義。第71回国立病院総合医学会、高松、2017年11月11日

臨床研究推進室

臨床研究センター長・臨床研究推進部長 上松正朗
臨床研究推進室長 森下典子

臨床研究事業は、従来から国立病院機構が果たすべき先駆的な政策医療の一分野である。当院では治験・臨床研究の円滑な運営・管理、支援を行うことを目的に、臨床研究センター4部12室の中に「臨床研究推進部」、「臨床研究推進室」を配置している。臨床研究推進室は“治験管理部門”と“臨床試験支援部門”的2つの部門から成るが、治験管理部門が、治験以外の臨床研究支援も含め専ら活動の中心となっている。

臨床研究推進室の構成員は、部長1名、室長1名、副室長1名、臨床研究コーディネーター(CRC)7名（看護師）、治験・臨床研究事務局2名（薬剤師）、データマネジャー1名、事務補助5名である（平成30年3月末現在）。

臨床研究推進室は、CRCおよび治験事務局として治験の全体的なコーディネーションを担うことにより、契約前から終了まで迅速かつ質の高い治験実施を支援している他、受託研究審査委員会（IRB）事務局機能も併せ持っている。受託研究と各種臨床研究関連指針が適応される自主研究は、それぞれ独立した2つのIRB（第1委員会・第2委員会）により審議を行っている。この2つのIRBは、厚生労働省より「質の高い倫理審査が行える委員会（認定倫理審査委員会）」として認定を受けている。昨年度より第1委員会、第2委員会の審査においてiPadを導入し、ペーパーレス化を図っている。

治験実績では、国立病院機構内施設で全国3位の成績であった。請求金額総額は2億円を超える見通しであり、昨年度より大きく上回ることができた。

自主研究の支援に関しても、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいた質の高い臨床研究の実施をより進めるために、研究機関の長が行う点検（自己点検）を実施し、その結果を研究者にもフィードバックしている。また確実な同意書管理のための支援も継続的に取り組んでいる。

その他、地域治験ネットワークの活動としては大阪府内の15医療機関で形成する「治験ネットおおさか」の活動にも精力的に参加した。

学術的活動および教育については、各種学会・研究会においては発表や座長を務め、国立病院機構本部主催の初級者 CRC 養成研修では講師依頼や実習受け入れ施設にも指定されている。

院内教育および啓発活動としては「臨床研究推進室ニュース」（年4回）の発行、「治験セミナー」（年3回）、「臨床研究セミナー」（年3回）を実施した。IRB委員への倫理教育としては、CITI JAPAN 倫理研修以外にも、毎月 IRB 開催前に倫理指針や審査のポイント等のビデオ教育を企画し、研究倫理教育の一層の充実化を図った。

今年度は、臨床研究法公布にともない厚生労働大臣が認定する臨床研究審査委員会取得をめざし、事務局が中心となってその準備を行い、3月中旬、厚生労働省に申請した。来年度早々には結果が明らかになる予定である。

【2017年度 研究業績発表】

A-0

Kohara I, Nosaki A, Morishita N, Ushirozawa N, Endo K, Yamada H, Taniguchi T, Kusuoka H : Core Competencies of Clinical Research Coordinators. 「International Journal of Bio-Science and Bio-Technology」 vol.9, no.2: pp.1-10, April 2017.

A-1

森下典子 : Research Integrity を実現するために—CRC の立場で考えること「薬理と治療」45 (9)、ライフサイエンス出版、pp.1413-1415、2017年

森下典子: CRC のキャリアパスと大阪医療センターの取り組み「薬理と治療」45 (suppl-1号)、ライフサイエンス出版、pp.5007-5008、2017年

B-3

森下典子 : 臨床データから成果物に至るまでのプロセスを振り返るとともに、我々CRCの存在意義を考える。第17回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2017 in 名古屋、愛知、2017年9月3日

森下典子 : 早期臨床試験の IRB で臨床薬理の専門家は何をなすべきか (座長)。第38回日本臨床薬理学会学術総会、横浜、2017年12月7日

森下典子 : CRC による CRC のための臨床薬理学講座～CRC 業務と臨床薬理を結び付けよう～ (座長)。第38回日本臨床薬理学会学術総会、横浜、2017年12月9日

B-4

小林恭子、奥田直之、柚本育世、松尾友香、森下典子、笹山洋子、宮本敦史、上松正朗、是恒之宏: IRB 委員の継続教育のあり方を考える。CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2017 in 名古屋、名古屋、2017年9月2日

綱本郷子、辻本有希恵、柚本育世、田所知美、名畑優保、松尾友香、馬場奈央、安原加奈、阿島美奈、森下典子、上松正朗 : 抗がん剤を用いた治験における臨床研究コーディネーターとがん化学療法看護認定看護師の連携。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月10日

田所知美、松尾友香、瀬野千亜紀、金順姫、小林恭子、辻本有希恵、綱本郷子、柚本育世、森下典子、宮本敦史、上松正朗、是恒之宏 : 臨床研究におけるプライバシーポリシーの遵守状況調査。第38回日本臨床薬理学会学術総会、横浜、2017年12月8日

B-7

綱本郷子 : VOLTAGE 試験、TRIUMPH 試験 Kick-off meeting 参加 (主催 : 国立がん研究センター東病院)、東京、2017年8月6日

柚本育世 : COMMANDER 試験 Web 会議 (主催 : バイエル(株))、大阪、2017年8月17日

金 順姫：PATHWAY 試験 Kick-Off ミーティング参加（主催：国立がん研究センター中央病院）、2017年10月13日

綱本郷子：VOLTAGE 試験 WEB 会議（主催：国立がん研究センター東病院）、大阪、2017年11月7日

辻本有希恵：JBCRG-24 (PALLAS) 試験 Kick-Off ミーティング（主催：ABCSG）、東京、2017年11月12日

名畑優保：BAY85-3934 (Molidustat) CRC ミーティング（主催：バイエル(株)）、大阪、2017年11月18日

綱本郷子：VOLTAGE 試験 WEB 会議（主催：国立がん研究センター東病院）、大阪、2018年1月23日

袖本育世：13Y-MC-JPBM Investigator Meeting（主催：イーライリリー(株)）、兵庫、2018年2月17日

田所知美：TANGO Investigators' Meeting（主催：(株)PPD）、イギリス、2018年2月19～20日

綱本郷子：Lilly Breast Cancer Consultation Meeting（主催：イーライリリー(株)）、大阪、2018年3月29日

B-8

森下典子：CRC のキャリアパスと私が目指す CRC 像。国立病院機構主催初級者 CRC 養成研修、東京、2017年5月17日

森下典子：CRC の奮闘と疲労と楽しさについて考える。ワッカの会（主催：北海道大学病院）、札幌、2017年7月21日

森下典子：CRC 管理者の立場から研究公正について考える。第10回 CRC 研修会（主催：札幌市医師会）、札幌、2017年7月22日

辻本有希恵：CRC の業務。CRC 養成研修（初級者向け研修～CRC に必要な知識をわかりやすく解説～）（主催：治験ネットおおさか）、大阪、2017年11月19日

森下典子：臨床研究チームのコーディネーション。平成29年度上級者臨床研究コーディネーター養成研修（主催：大阪大学医学部附属病院）、大阪、2017年10月22日

袖本育世：「乳がん最前線 新しい治療ができるまで～治験・臨床試験とは～」総合討論「新しい治療ができるまで、臨床試験について」。市民公開講座（主催：大阪国際がんセンター）、大阪、2017年10月15日

森下典子：質が高く効率的な倫理審査の実現のために②事務局の立場から。倫理審査委員会・治験審査委員会委員養成研修（主催：名古屋大学医学部附属病院）、愛知、2017年12月3日

瀬野千亜妃：CRC1年目の学び。第3回CRCの明日を考えるin大阪（主催：国立がん研究センター東病院）、大阪、2018年2月3日

森下典子：パネルディスカッション。第3回CRCの明日を考えるin大阪（主催：国立がん研究センター東病院）、大阪、2018年2月3日

森下典子：臨床研究への患者・市民参画を考える～研究者と患者・市民の新たなパートナーシップ～（座長）。第3回研究倫理を語る会（主催：国立がん研究センター中央病院）、東京、2018年2月10日

森下典子：臨床研究におけるCRCの役割を考える。JASMO第36回継続研修会（主催：SMO協会）、東京、2018年2月23日

森下典子：臨床研究コーディネーターと看護ー研究倫理と看護倫理について考えるー。国立病院機構大阪医療センター附属看護学校、大阪、2018年2月23日

森下典子：選ばれる治験医療機関とは～国際競争力向上をめざして～。第6回DIAクリニカルオペレーション・モニタリングワークショップ（主催：DIA）、東京、2018年3月9日

レギュラトリーサイエンス研究室

室長 是恒之宏

レギュラトリーサイエンスは、科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づく的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学とされている。また、レギュラトリーサイエンスは、的確な予測、評価、判断によって①限りなく進歩する科学技術を正しく生かして有効に利用する最善の道を見出すことと、②人間の願望から出発した科学技術が、社会や人間を無視して発達することによってもたらされる深刻な影響を未然に防ぐこと、の二つの大きな目的/役割を担っている。

当研究室は、レギュラトリーサイエンスの考えに基づき、臨床現場での薬剤・医療機器や技術等の使用を評価するための手法の構築を目的として平成 23 年 4 月に設立され、7 年が経過した。

平成 29 年度においては、直接経口抗凝固薬が実際に患者の QOL 改善に関与しているかをワルファリンからの切り替え例において検討した。また、心房細動患者治療の国際共同レジストリーが進行中であり、日本の National Coordinator として参加。2018 年 8 月には研究が終了しその後解析が進む予定である。

【2017 年度 研究業績発表】

A-0

Nagai A, Hirata M, Kamatani Y, Muto K, Matsuda K, Kiyohara Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, Ohnishi Y, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Kubo M : Overview of the BioBank Japan Project: Study design and profile. Journal of Epidemiology 27, s2-s8pp, 2017

Hirata M, Kamatani Y, Nagai A, Kiyohara Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Kubo M, Muto K, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, Ohnishi Y, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Mastuda K: Cross-sectional analysis of BioBank Japan clinical data: A large cohort of 200,000 patients with 47 common diseases. Journal of Epidemiology 27, s9-s21, 2017

Hirata M, Nagai A, Kamatani Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Kubo M, Muto K, Kiyohara Y, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, Ohnishi Y, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Mastuda K: Overview of BioBank Japan follow-up data in 32 diseases. Journal of Epidemiology 27, s22-s28, 2017

Okada E, Ukawa S, Nakamura K, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Ninomiya T, Kiyohara Y, Muto K, Kamatani Y, Yamagata Z, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Tamakoshi A: Demographic and lifestyle factors and survival among patients with esophageal and gastric cancer: The BioBank Japan Project. Journal of Epidemiology 27, s29-s35,

2017

Tamakoshi A, Nakamura K, Ukawa S, Okada E, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Kamatani Y, Muto K, Kiyohara Y, Yamagata Z, Ninomiya T, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A中にKoretsune Yあり): Characteristics and prognosis of Japanese colorectal cancer patients: The Biobank Japan Project, Journal of Epidemiology 27, s36-s42, 2017

Ukawa S, Okada E, Nakamura K, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Yamagata Z, Kamatani Y, Ninomiya T, Kiyohara Y, Muto K, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A中にKoretsune Yあり), Tamakoshi A: Characteristics of patients with liver cancer in the BioBank Japan project, Journal of Epidemiology 27, s43-s48, 2017

Nakamura K, Ukawa S, Okada E, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Ninomiya T, Muto K, Kiyohara Y, Matsuda K, Kamatani Y, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A中にKoretsune Yあり), Tamakoshi A: Characteristics and prognosis of Japanese male and female lung cancer patients: The BioBank Japan Project, Journal of Epidemiology 27, s49-s57, 2017

Nakamura K, Okada E, Ukawa S, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Kiyohara Y, Muto K, Kamatani Y, Ninomiya T, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A中にKoretsune Yあり), Tamakoshi A: Characteristics and prognosis of Japanese female breast cancer patients: The Biobank Japan Project, Journal of Epidemiology 27, s58-s64, 2017

Ukawa S, Nakamura K, Okada E, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Muto K, Matsuda K, Ninomiya T, Kiyohara Y, Kamatani Y, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A中にKoretsune Yあり), Tamakoshi A: Clinical and histopathological characteristics of patients with prostate cancer in the BioBank Japan Project, Journal of Epidemiology 27, s65-s70, 2017

Hata J, Nagai A, Hirata M, Kamatani Y, Tamakoshi A, Yamagata Z, Muto K, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A中にKoretsune Yあり), Kiyohara Y, Ninomiya T, Collaborator: Risk prediction models for mortality in patients with cardiovascular disease: The BioBank Japan Project, Journal of Epidemiology 27, s71-s76, 2017

Yokomichi H, Noda H, Nagai A, Hirata M, Tamakoshi A, Kamatani Y, Kiyohara Y, Matsuda K, Muto K, Ninomiya T, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A中にKoretsune Yあり), Yamagata Z: Cholesterol levels of Japanese dyslipidaemic patients with various comorbidities: BioBank Japan, Journal of Epidemiology 27, s77-s83, 2017

Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Tamakoshi A, Kiyohara Y, Kamatani Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A中にKoretsune Yあり), Yamagata Z: Stain use and all-cause and cancer mortality: BioBank Japan cohort, Journal of Epidemiology 27, s84-s91, 2017

Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Kiyohara Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kamatani Y, Tamakoshi

A, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Yamagata Z: Serum glucose, cholesterol and blood pressure levels in Japanese type 1 and 2 diabetic patients: BioBank Japan, Journal of Epidemiology 27, s92-s97, 2017

Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Kiyohara Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kamatani Y, Tamakoshi A, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group(Appendix A 中に Koretsune Y あり), Yamagata Z: Survival of macrovascular disease, chronic kidney disease, chronic respiratory disease, cancer and smoking in patients with type 2 diabetes: BioBank Japan cohort, Journal of Epidemiology 27, s98-s106, 2017

Koretsune Y, Yamashita T, Yasaka M, Oda E, Matsubayashi D, Ota K, Kobayashi M, Matsushita Y, Kaburagi J, Ibusuki K, Takita A, Iwashita M, Yamaguchi T: Usefulness of a healthcare database for epidemiological research in atrial fibrillation, Journal of Cardiology 70, 169-179, 2017

Yamamoto K, Koretsune Y, Akasaka T, Kisanuki A, Ohte N, Takenaka T, Takeuchi M, Yoshida K, Iwade K, Okuyama Y, Hirano Y, Takeda Y, Tsukamoto Y, Kinugasa Y, Nakatani S, Sakamoto T, Iwakura K, Sozu T, Masuyama T: Effects of vitamin K antagonist on aortic valve degeneration in non-valvular atrial fibrillation patients: Prospective 4-year observational study, ELSEVIER, Thrombosis Research, 69-75pp, 31 Oct. 2017

A-3

是恒之宏：ワルファリンからリバロキサバンへ切り替えた NVAF 患者における治療満足度－SPAF-QOL。JCS 2017 レポート、第 81 回日本循環器学会学術集会記録集、2017 年 6 月 13 日

是恒之宏：国際的レジストリー研究 GARFIELD-AF：日本人集団からの知見。JCS 2017 レポート、第 81 回日本循環器学会学術集会記録集、Life Science Publishing、2017 年 6 月 13 日

A-4

是恒之宏：専門医に訊く 診療のキーポイント。脳梗塞と心房細動、第 4 卷第 2 号、2017 年 5 月 1 日発行

是恒之宏：論説 高齢者診療と EBM。大阪府病院協会ニュース No.561、10-11、2017 年 7 月 1 日発行

安部晴彦、是恒之宏：TODAY'S THERAPY 2018 今日の治療指針 私はこう治療している 循環器疾患 同種薬の特徴と使い分け。抗血栓薬、医学書院、335-336、2018 年 1 月 1 日

安部晴彦、是恒之宏：循環器疾患最新の治療 2018-2019、南江堂、26-30、2018 年 1 月 15 日

是恒之宏：ワルファリン療法における出血リスクマネジメントとケイセントラの位置づけ、日経メディカル、74-76、2018 年 3 月 10 日

A-6

是恒之宏, P.A.Noseworthy, 赤塚昌治 : (座談会) AF 治療の「実臨床」を専門家 3 氏が解説～日本 vs. 世界の抗凝固療法～。学会レポート、㈱メディカルトリビューン、2017 年 4 月 6 日

是恒之宏、室原豊明、相庭武司 : (座談会) リアルワールドデータで検証するアピキサバンの有用性、㈱メディカルトリビューン、2017 年 4 月 20 日

是恒之宏 : 「正しく、品よく、心をこめて」の理念の下によりよい医療サービス、医療人の育成、臨床研究を。ドクターズアテンション、2017 年 7 月

是恒之宏 : 健康寿命を延ばすコツ 外出をするきっかけを。毎日新聞朝刊 ご近所のお医者さん 425、2017 年 8 月 22 日

是恒之宏 : 脳梗塞の予防－心臓と脳は繋がっている－。日医ニュース No.490、2017 年 10 月 5 日

B-1

Koretsune Y: Japan date showcase. The Thrombosis Research Institute at ESC Congress 2017, Barcelona, Spain, 2017 年 8 月 27 日

Koretsune Y, Jitendra PS Sawhney: Stroke prevention in patients with atrial fibrillation and comorbidities. Tea-Time Seminar 1, APHRS 2017, Yokohama, 2017 年 9 月 14 日

Koretsune Y: DOCA in Asian AF Patients, Ethnic Difference in Efficacy and Safety of DOAC. Invited Symposium 82(Pharmacological Therapy 8), APHRS 2017, Yokohama, 2017 年 9 月 17 日

B-2

Shinouchi K, Iida Y, Toriyama C, Nishida H, Yasumura K, Yorifuji H, Kato T, Idemoto A, Mishima T, Yokoi K, Abe H, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Impact of preexisting chronic total occlusions of the coronary artery on the outcome of out-of-hospital sudden cardiac arrest patients with acute coronary syndrome, ESC Congress 2017 - European Society of Cardiology, Barcelona, Spain, 2017 年 8 月 27 日

B-3

是恒之宏 : 抗凝固療法 up date ~循環器内科医の立場から~、抗凝固療法の表と裏~臨床における抗凝固療法の意義と問題点について。第 31 回日本臨床内科医学会、大阪、2017 年 10 月 9 日

是恒之宏 : GARFIELD-AF –国際レジストリーからみたアジア、日本の特徴–。日本循環器病学会学術集会ランチョンセミナー36、大阪、2018 年 3 月 24 日

B-4

飯田吉則、三嶋 剛、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：心室性期外収縮2段脈による失神を認めるβ遮断薬が著効した一例。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

加藤大志、三嶋 剛、鳥山智恵子、飯田吉則、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：生体弁による三尖弁置換術後患者に経静脈的に右室リード挿入し両心室ペーシングを行った一例。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

三嶋 剛、鳥山智恵子、飯田吉則、依藤弘紀、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、篠内和也、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：心房細動アブレーション中に左房天蓋静脈損傷による縦隔血腫を生じた一例。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

井手本明子、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、安村かおり、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：救急外来受診時にDダイマー上昇を認めなかった急性大動脈解離の一例。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、西田博毅、安村かおり、依藤弘紀、加藤大志、井手本明子、三嶋 剛、横井研介、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性冠症候群による心停止患者の動脈血pHと予後との関連。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

西田博毅、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘樹、安村かおり、加藤大志、井出本明子、篠内和也、三嶋 �剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正郎、是恒之宏：比較的速い狭窄の進行を認めた重症大動脈弁狭窄症の一例。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

安村かおり、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、依藤弘紀、西田博毅、加藤大志、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、横井研介、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：腹部大動脈壁在血栓から下肢動脈塞栓をきたした担癌患者の一例。第123回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2017年6月24日

是恒之宏、池田隆徳、上妻謙、平野照之、来田信人、茶珍元彦：日本人非弁膜症心房細動患者におけるワルファリンからアピキサバンへの切り替え後の患者満足度の改善について。第65回日本心臓病学会学術集会、大阪、2017年10月1日、

B-5

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。高齢者の抗血栓療法を考える会、鹿児島、2017年4月20日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。第8回星の心北河内不整脈セミナー、守口、2017年5月11日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。Edoxaban Expert Meeting、大阪、2017年6月3日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。Stroke Prevention in Atrial Fibrillation Forum in OSAKA、大阪、2017年7月1日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。第3回大阪東血栓治療研究会、大阪、2017年7月22日

是恒之宏：NVAF患者におけるDOACの重要性。Master Class埼玉エリア、埼玉、2017年8月4日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。超高齢社会における抗凝固療法～総合診療医における1次予防・2次予防～、吉祥寺、2017年9月8日

是恒之宏：NVAF患者におけるDOACの重要性。MASTER CLASS in TOCHIGI、宇都宮、2017年9月23日

是恒之宏：心房細動抗凝固療法の最前線。奈良地区Core Member Meeting、奈良、2017年10月3日

是恒之宏：NVAF患者におけるDOACの重要性。Master Class in Osaka、大阪、2017年10月20日

是恒之宏：NVAF患者におけるDOACの重要性。Master Class in Hiroshima、広島、2017年10月21日

是恒之宏：DOACの知識/情報を整理する。不整脈エキスパートラウンドテーブル、大阪、2017年10月26日

是恒之宏：心房細動治療における最新の知見とアドヒアランスENGAGE AF-TIMI 48 Update。Thrombosis Expert Meeting for Pharmacists、東京、2017年10月29日

是恒之宏：臨床現場に活かすためのRWDの読み方。Expert Seminar in Sapporo～超高齢化社会における抗凝固療法を考える～、札幌、2017年11月4日

是恒之宏：なるほどザリアルワールドデータ-GARFIELD-AF Registry-～補完されていくRWDから何が見えるのか？～。エリキュースインターネット講演会、大阪、2017年11月13日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。脳と神経を考える会 2017、大阪、2017年 11月 17 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。脳卒中リハビリカンファレンス、京都、2017年 11月 18 日

是恒之宏：「被験者保護のあり方を今改めて考える」研究と治療：研究者、医療者、二つの想い。第 38 回日本臨床薬理学会学術集会、横浜、2017 年 12 月 8 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。Osaka Kita Primary Care Meeting、大阪、2018 年 1 月 24 日

是恒之宏：心房細動抗凝固療法における最新の知見とアドヒアランス。近畿薬剤師合同学術大会 2018、京都、2018 年 2 月 4 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。Cardiology ON-SITE～エキスパートの治療現場から～、神戸、2018 年 3 月 1 日

B-8

是恒之宏：NOAC 導入後の国内外における抗凝固治療の変遷（GARFIELD registry から）、実臨床から考える NOAC の適した患者像。日経メディカルオンライン座談会、大阪、2017 年 9 月 29 日

是恒之宏：世界における NOAC 使用状況の変遷（GARFIELD registry から）。Medical Tribune エリキュース座談会、東京、2018 年 2 月 25 日

II. 研究助成一覧

平成29年度 研究助成一覧

	研究課題名 (採択番号があれば採択番号も記載)	研究者名	研究事業名 (依頼業者名)	主任 又は 分担	新規 又は 継続	研究種別	研究費獲得額(単位:万円)			
							主任研究者 直接経費金額	分担研究者 直接経費金額	間接経費金額	合計
①文部科学省 科学研究費	成人低悪性度グリオーマ関連ドライバー遺伝子変異とグリオーマ幹細胞発生の関連性検証 15K15534	金村 米博	挑戦的萌芽研究	主任	継続	補助金(研究費)	70 万円	万円	24 万円	94 万円
①文部科学省 科学研究費	プロテアソームとオートファジーのクロストークによる癌幹細胞維持機構と治療抵抗性 15K10140	植村 守	基盤研究(C)	主任	継続	補助金(研究費)	90 万円	万円	27 万円	117 万円
①文部科学省 科学研究費	複数画像の統合的統計解析による神経膠腫の生物学的特徴の画像化技術の開発 16K20033	沖田 典子	若手研究(B)	主任	新規	補助金(研究費)	150 万円	万円	45 万円	195 万円
①文部科学省 科学研究費	成人低悪性度グリオーマ関連ドライバー遺伝子変異とグリオーマ幹細胞発生の関連性検証 15K15535	正札 智子	挑戦的萌芽研究	分担	継続	補助金(研究費)	万円	10 万円	万円	10 万円
①文部科学省 科学研究費	ヒトiPS細胞由来ドーバーバン神経細胞がパーキンソン病に耐性であるメカニズムの解明 17K16136	福角 勇人	若手研究(B)	主任	新規	補助金(研究費)	100 万円	万円	30 万円	130 万円
①文部科学省 科学研究費	臨床研究コーディネーターの熟達化を促進する現任教員 16K11999	森下 典子	基盤研究(C)	分担	新規	補助金(研究費)	万円	10 万円	3 万円	13 万円
①文部科学省 科学研究費	正確な小線源治療を担保するリアルタイムIn vivo dosimetryの開発 17K10496	田中 英一	基盤研究(C)	分担	新規	補助金(研究費)	万円	5 万円	2 万円	7 万円
①文部科学省 科学研究費	正確な小線源治療を担保するリアルタイムIn vivo dosimetryの開発 17K10496	古妻 理之	基盤研究(C)	分担	新規	補助金(研究費)	万円	5 万円	2 万円	7 万円
①文部科学省 科学研究費	正確な小線源治療を担保するリアルタイムIn vivo dosimetryの開発 17K10496	辻本 豊	基盤研究(C)	分担	新規	補助金(研究費)	万円	5 万円	2 万円	7 万円
①文部科学省 科学研究費	脳動脈瘤・壁動態と瘤内血流の統合解析による脳動脈瘤壁脆弱性予測に関する研究 15K09889	藤中 俊之	基盤研究(C)	分担	継続	補助金(研究費)	万円	5 万円	2 万円	7 万円
①文部科学省 科学研究費	中間群および低悪性度に分類される原発性骨腫瘍の臨床病理学的解析 17K08747	眞能 正幸	基盤研究(C)	分担	新規	補助金(研究費)	万円	10 万円	3 万円	13 万円
①文部科学省 科学研究費	子宮頸部癌画像誘導小線源治療における最適な組織内照射併用方法の開発 17K10488	古妻 理之	基盤研究(C)	分担	継続	補助金(研究費)	万円	5 万円	2 万円	7 万円
①文部科学省 科学研究費	レジリエンス・エンジニアリング理論の医療の質・安全における実用化に関する研究 26293157	中島 伸	基盤研究(B)	分担	継続	補助金(研究費)	万円	5 万円	2 万円	7 万円
①文部科学省 科学研究費	遺伝子/画像統合解析(radiogenomics)による神経膠腫の画像分子診断 16K10779	金村 米博	基盤研究(C)	分担	新規	補助金(研究費)	万円	10 万円	3 万円	13 万円
⑤厚生労働科 学研究費	効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究 H27-医薬A-一般-006	白阪 琢磨	厚生労働省医薬品・医療機器等レギュラトリーエンス総合研究事業	主任	継続	補助金(研究費)	160 万円	万円	10 万円	170 万円
⑤厚生労働科 学研究費	HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究 H27-エイズ-指定-004	白阪 琢磨	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	主任	継続	補助金(研究費)	3735 万円	万円	490 万円	4225 万円
⑤厚生労働科 学研究費	HIV検査受検勧奨に関する研究 H28-エイズ-一般-001	白阪 琢磨	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	継続	補助金(研究費)	万円	425 万円	60 万円	485 万円
⑤厚生労働科 学研究費	非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染被害者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究 H27-エイズ-指定-002	三田 英治	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	新規	補助金(研究費)	万円	100 万円	万円	100 万円
⑤厚生労働科 学研究費	HIV検査受検勧奨に関する研究 H28-エイズ-一般-001	上平 朝子	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	新規	補助金(研究費)	万円	90 万円	万円	90 万円
⑤厚生労働科 学研究費	特発性大腿骨頭壞死症の医療水準及び患者のQOL向上に関する大規模多施設研究 H29-難治等(難)-一般-053	三木 秀宣	厚生労働省難治性疾患政策事業	分担	継続	補助金(研究費)	万円	10 万円	万円	10 万円
⑤厚生労働科 学研究費	HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究 H27-エイズ-指定-004	安尾 利彦	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	継続	補助金(研究費)	万円	80 万円	万円	80 万円
⑤厚生労働科 学研究費	HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究 H27-エイズ-指定-004	下司 有加	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	継続	補助金(研究費)	万円	100 万円	万円	100 万円
⑤厚生労働科 学研究費	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究 H29-エイズ-指定-001	渡邊 大	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	継続	補助金(研究費)	万円	600 万円	万円	600 万円

	研究課題名 (採択番号があれば採択番号も記載)	研究者名	研究事業名 (依頼業者名)	主任 又は 分担	新規 又は 継続	研究種別	研究費獲得額(単位:万円)			
							主任研究者 直接経費金額	分担研究者 直接経費金額	間接経費金額	合計
⑤厚生労働科学研究費	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者の肝移植適応に関する研究 H27-エイズ-指定-003	上平 朝子	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	継続	補助金(研究費)	万円	50 万円	万円	50 万円
⑤厚生労働科学研究費	職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなHIV検査手法開発研究 H29-エイズ-一般-007	渡邊 大	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	継続	補助金(研究費)	万円	50 万円	万円	50 万円
⑥国立高度専門医療センター等研究費	乳がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究 26-A-3	増田 慎三	国立がん研究センター	分担	継続	共同研究費	万円	30 万円	万円	30 万円
⑦日本医療研究開発機構研究費	服薬アドヒアラランス向上に関する研究 17fk0410307h0003	白阪 琢磨	AMED感染症実用化研究事業エイズ対策研究事業	分担	継続	委託研究費	250 万円	万円	75 万円	325 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	カボジ肉腫関連疾患の発症機構の解明と予防および治療法に関する研究 17fk0410207h0402	渡邊 大	AMED感染症実用化研究事業エイズ対策研究事業	分担	新規	委託研究費	万円	97 万円	28 万円	125 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	国内で流行するHIVとその薬剤耐性株の動向把握に関する研究 17fk0410205h1302	渡邊 大	AMED感染症実用化研究事業エイズ対策研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	439 万円	131 万円	570 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	iPS細胞由来神経前駆細胞を用いた脊髄損傷・脳梗塞の再生医療 17bm0204001h0105	金村 米博	AMED再生医療実現拠点ネットワークプログラム	分担	継続	委託研究費	万円	7000 万円	2100 万円	9100 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	ヒトiPS分化細胞技術を活用した医薬品の次世代毒性・安全性評価試験系の開発と国際標準化に関する研究 17mk0104027h0803	金村 米博	AMED医薬品等規制緩和評価研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	200 万円	60 万円	260 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	病理学的Stage II/IIIで“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第III相試験 17ck0106242h0002	平尾 素宏	AMED革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	15 万円	5 万円	20 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	中性脂肪蓄積心筋血管症に対する中鎖脂肪酸を含有する医薬品の開発 17ek0109092s1203	東 将浩	AMED難治性疾患実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	8 万円	2 万円	10 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	亜急性期脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療 17bk0104050h00002	金村 米博	AMED再生医療実現化研究事業	分担	新規	委託研究費	万円	1538 万円	462 万円	2000 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	肝硬変患者の予後を含めた実態を把握するための研究 17fk0210103h0001	三田 英治	AMED感染症実用化研究事業肝炎等克服実用化研究事業	分担	新規	委託研究費	万円	45 万円	9 万円	54 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発 17ck0106330h0003	金村 米博	AMED革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	231 万円	69 万円	300 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	がん領域Clinical Innovation Network事業による超希少がんの臨床開発と基盤整備を行う総合研究 17lk0201044h0002	上田 孝文	AMED臨床研究治験推進事業	分担	継続	委託研究費	万円	77 万円	23 万円	100 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	タンパク質・ペプチド修飾解析による早期がん・リスク疾患診断のための血液バイオマーカー 17cm0106403h0002	中森 正二	AMED次世代がん医療創生研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	150 万円	45 万円	195 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	切除不能または再発食道癌に対するCF(シスプラチン+5-FU)療法とDCF(biweeklyドセタキセル+CF)療法のランダム化第III相比較試験 17ck0106309h0002	平尾 素宏	AMED革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	77 万円	23 万円	100 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	産学連携全国がんゲノムスクリーニング事業SCRUM-Japanで組織した遺伝子スクリーニング基盤を利用した、多施設多職種専門家から構成されたExpert Panelによる全国共通遺伝子解析・診断システムの構築および研修プログラムの開発 17ck0106154h0003	加藤 健志	AMED革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	69 万円	21 万円	90 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	Borderline resectable膀胱癌の集学的治療法確立に関する多施設共同研究 17ck0106154h0003	中森 正二	AMED革新的がん医療創生研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	19 万円	6 万円	25 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	治験の実施に関する研究「5ALA」 CCT-C-2936	西川 和宏	AMED臨床研究治験推進事業	分担	継続	委託研究費	万円	54 万円	16 万円	70 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	創薬のためのインビトロ脳機能評価法の確立と標準化ヒト神経細胞の開発 17bk0104077s0201	金村 米博	AMED再生医療実現化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	150 万円	45 万円	195 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	「バイオバンク」の構築と臨床情報のデータベース化」(DNAサンプル及び臨床情報の収集) 17km0305001h00005	是恒 之宏	AMEDオーダーメイド医療の実現プログラム	分担	継続	委託研究費	万円	1445 万円	145 万円	1590 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	大腸癌転移切除例に適した新規抗がん剤を用いた術後補助化学療法の研究 17ck0106308h0001	関本 貢嗣	AMED革新的がん医療実用化研究事業	分担	新規	委託研究費	万円	15 万円	5 万円	20 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	臨床研究中核病院を活用した国際標準の臨床研究の推進と新規医薬品・医療機器の開発に関する研究 16lk0103013h0004	上松 正朗	AMED早期探索の国際水準臨床研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	100 万円	30 万円	130 万円

	研究課題名 (採択番号があれば採択番号も記載)	研究者名	研究事業名 (依頼業者名)	主任 又は 分担	新規 又は 継続	研究種別	研究費獲得額(単位:万円)			
							主任研究者 直接経費金額	分担研究者 直接経費金額	間接経費金額	合計
⑧日本医療研究開発機構研究費	産学連携全国がんゲノムスクリーニング(SCRUM-Japan)患者レジストリを活用したHER2陽性の切除不能・再発大腸がんを対象にした医師主導治験17lk0201054h0002	加藤 健志	AMED臨床研究治験推進事業	分担	継続	委託研究費	万円	100 万円	30 万円	130 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	細胞一基質間の力を基盤とした細胞移動と神経回路形成機構の解明およびその破綻による病態の解析17gm0810011s0101	金村 米博	AMED革新的先端研究開発支援事業	分担	新規	委託研究費	万円	77 万円	23 万円	100 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	認定臨床研究審査委員会に関する整備事業17lk1803024j0001	上松 正朗	AMED中央治験審査委員会中央倫理審査委員会整備事業	主任	新規	委託研究費	385 万円	万円	115 万円	500 万円
⑨その他財団等からの研究費	JBCRG-SOLE SOLE「ホルモン受容体陽性リバ節転移陽性初期乳がんの閉経後女性における4~6年のアジュバンド内分泌療法後のレトロゾールの継続投与と間欠投与の投割を比較評価する第Ⅲ相試験」	増田 慎三	JBCRG-SOLE	分担	継続	補助金(研究費)	万円	107 万円	万円	107 万円
⑨その他財団等からの研究費	JBCRG-14TR「ホルモン感受性の進行乳癌(65歳以上)におけるLetrozole,CyclophosphamideおよびCapecitabine併用療法(LCX)の第Ⅱ相試験」バイオマーカー解析	増田 慎三	JBCRG-14TR	分担	継続	補助金(研究費)	万円	2 万円	万円	2 万円
⑨その他財団等からの研究費	JBCRG-11-TC TR「閉経後・ホルモン感受性乳癌における術前Exemestane(EXE)療法とEXE療法効果不十分例に対するEXE+TC療法併用療法有効性確認試験附随研究」	増田 慎三	JBCRG-11TC	分担	継続	補助金(研究費)	万円	14 万円	万円	14 万円
⑨その他財団等からの研究費	JBCRG-07TR「閉経後・ホルモン感受性乳癌における術前Letrozoleと低用量Metronomic Cyclophosphamide併用療法の第Ⅱ相試験トランクショナルリサーチ	増田 慎三	JBCRG-07TR	分担	継続	補助金(研究費)	万円	7 万円	万円	7 万円
⑨その他財団等からの研究費	JBCRG-11-CPA TR「閉経後・ホルモン感受性乳癌における術前Exemestane(EXE)療法とEXE療法効果不十分例に対するEXE+低用量CPA併用療法 有用性確認試験 附隨研究」	増田 慎三	JBCRG-11CPA	分担	継続	補助金(研究費)	万円	9 万円	万円	9 万円
⑨その他財団等からの研究費	エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究	白阪 琢磨	友愛福祉財団委託事業研究	主任	継続	補助金(研究費)	1030 万円	万円	万円	1030 万円
⑩民間セクターからの寄附金	再弁置換手術成績の検討	榎 雅之	エドワーズライフサイエンス(株)	主任	新規	補助金(研究費)	40 万円	万円	万円	40 万円
⑩民間セクターからの寄附金	電解水透析がもたらす影響の検討	岩谷 博次	大塚製薬(株)	主任	新規	補助金(研究費)	30 万円	万円	万円	30 万円
⑩民間セクターからの寄附金	NBI拡大内視鏡観察を用いた炎症性腸疾患におけるバイエル板の形態学的変化と機能解析	三田 英治	エーザイ(株)	主任	新規	補助金(研究費)	50 万円	万円	万円	50 万円
⑩民間セクターからの寄附金	DES(Xience)留置後のDES Failure予防のために強化スタチン療法が有効か検討する単施設無作為化試験研究	上田 恭敬	アボットバスキュラージャパン(株)	主任	新規	補助金(研究費)	300 万円	万円	万円	300 万円

III. 全研究業績の区分分類と 業績件数の総括表

診療科の研究業績

診療科名	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	
総合診療部	23				1			12		1		1		4		4		
腎臓内科	39	3		3		1					3	5	1	6		17		
糖尿病内科	32	4			1			2		1		4		6		14		
血液内科	1	1																
呼吸器内科	3												1		2			
脳卒中内科	8			1	1							2				4		
感染症内科	151	7		2	3	7	10	8		1	5	27	1	2	1	71	6	
精神科	18				1			4			1	1		1	2	7	1	
消化器内科	73	13			1	1				1	6	9	12	8	4		18	
循環器内科	111	12			2	9			3	5	6	23	2	22			27	
小児科	0																	
外科	406	57	7	2	12	4		4	7	56	33	143	43	27	6	4	1	
形成外科	3											1		1		1		
整形外科	98	11			1	4				17	3	33	10	17		2		
脳神経外科	122	24		3	2	4		12	2	8	17	32	4	6		8		
心臓血管外科	9	1										3		3		2		
皮膚科	21	1			3	4					2			4		7		
泌尿器科	19	1			1	4						8		4		1		
産科・婦人科	29	1			1	9				1		10	6	1				
眼科	29	1	6	2						2	2	6	4	2		4		
耳鼻咽喉科	4											4						
放射線診断科・放射線治療科	48	14		1		2				5	7	7	7	2		3		
口腔外科	4										3		1					
救命救急センター	57	6	3		3	2	1	1			10	11	1	2		17		
麻酔科	8										1	4		3				
臨床検査科	35	5			2					1	5	18		4				
リハビリテーション科	0																	
臨床腫瘍科	29	1		1						3	1	10	1	12				
薬剤部	52	3			2			5			1	17	1	4	1	17	1	
看護部	14				4						3	1	6					
栄養管理部	8										1	1	3		3			
がんサポートチーム	47	1			4					1	1	9			31			
臨床心理室	49		2		1	2				2	4				38			
メンタルヘルスチーム「なのはな」	8							1								7		
臨床工学室	9	1									4	2	1			1		
院長室	65	16			2	5		5	3	1	2	8	21			2		
小計	1,632	184	16	29	57	35	13	54	16	109	116	413	113	148	10	310	9	

臨床研究センターの研究業績

研究室名	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
臨床研究センター	51	21								2		13	1	12		2	
幹細胞医療研究室	23	5								5	4	9					
再生医療研究室	68	16		1		2				7	10	25		5		2	
分子医療研究室	0																
エイズ先端医療開発室	235	8		2	3	7	15	10		1	8	33	2	2	2	135	7
HIV感染制御研究室	34	4			1		2			1	2	13		2	1	8	
臨床疫学研究室	45	5		1		2				4	4	10	8	4		9	
がん療法研究開発室	326	52	3	1	15	7		2	6	44	36	103	39	7	6	4	1
高度医療技術開発室	45	1		1	1				1	3		17		17		4	
医療情報研究室	12			1	6							3	2				
災害医療研究室	13				1		1				2					9	
臨床研究推進室	32	1	2								3	3			10	13	
レギュラトリーサイエンス研究室	65	16			2	5		5	3	1	2	8	21			2	
小計	949	129	5	7	29	21	18	17	10	68	71	237	73	49	19	188	8

全研究業績

分類	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
合計	2,581	313	21	36	86	56	31	71	26	177	187	650	186	197	29	498	17

研究業績の分類基準と記号

著述発表業績区分						口演発表業績区分									
A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	シンポジウム 特別講演等 (ボスター)	シンポジウム 特別講演等 (ボスター)	シンポジウム 一般演題 (ボスター)	シンポジウム 一般演題 (ボスター)	TV出演 ラジオ 放送出演
単独執筆 編集者 監修者	共同執筆 (含連名)	原著	総説												
英文 著述		邦文著述 (学会誌・学術専門誌)	学術医学研究班報告書 講演発表論文	その他	国際学会	国内学会の全国年次学会 及び分科会研究会	国内学会の地方会 及研究会発表	文化調査 教育講演等							

Research Vol.37 (2017)

**独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター
臨床研究業績年報**

発行者 独立行政法人国立病院機構
大阪医療センター 院長 是恒之宏

編 集 臨床研究センター
〒540-0006 大阪市中央区法円坂2丁目1番14号
電話 (06) 6942-1331

印刷所 株式会社 中島弘文堂印刷所
〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
電話 (06) 6976-8761

